



SAS® Studio 3.3

ユーザーガイド

The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2015. *SAS® Studio 3.3:ユーザーガイド*. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS® Studio 3.3:ユーザーガイド

Copyright © 2015, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hard-copy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

February 2015

SAS provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS® software to its fullest potential. For more information about our offerings, visit support.sas.com/bookstore or call 1-800-727-3228.

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are trademarks of their respective companies.

目次

本書の利用について	<i>vii</i>
SAS Studio 3.3 の新機能	<i>ix</i>
ユーザー補助	<i>xv</i>
1 章 · SAS Studio の概要	1
SAS Studio について	1
SAS Studio の使用	3
2 章 · プログラムの操作	19
コードエディタについて	20
プログラムの読み込みと作成	20
コードスニペットの操作	33
コードエディタのカスタマイズ	41
3 章 · クエリの操作	43
クエリとは	44
クエリの作成	44
結合について	45
データの選択	50
データのフィルタリング	55
出力の管理	58
4 章 · プロセスフローの操作	65
プロセスフローについて	66
プロセスフローへの SAS プログラムの追加	71
プロセスフローへのクエリの追加	77
プロセスフローへのタスクの追加	79
サブフローについて	81
プロセスフローでのノードのリンク	84
プロセスフローの実行	85
プロセスフローの保存	86

5 章・データの操作	87
テーブルビューアについて	87
データの読み込みと表示	90
テーブルの作成に使用したクエリコードの表示	90
データのフィルタリングと並べ替え	91
データのエクスポート	93
6 章・結果の操作	95
結果の表示	95
別のユーザーへの結果の送信	96
SAS Output Delivery System について	98
SAS ODS Statistical Graphics について	98
結果のスタイルの指定	103
7 章・SAS Studio のタスクについて	105
タスクとは	105
タスクの実行方法	106
タスクおよびオプション設定の保存	108
定義済みタスクの編集	109
新しいタスクの作成	110
ワークスペースでのタスクコードとタスクレイアウトのカスタマイズ	112
8 章・データタスク	115
データの特性分析タスク	116
組み合わせタスク	121
リストタスク	123
順列タスク	128
データのランクタスク	130
ランダムサンプルタスク	137
データの並べ替えタスク	142
テーブル属性タスク	145
データの転置タスク	148
9 章・計量経済分析タスク	151
カウントデータ回帰分析タスク	152
Heckman 選択モデルタスク	158

パネルデータ:カウントデータ回帰分析タスク	162
パネルデータ:線形回帰分析	166
バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスク	172
10 章・グラフタスク	179
棒グラフタスク	181
棒-折れ線グラフタスク	186
箱ひげ図タスク	191
バブルプロットタスク	195
ヒストグラムタスク	199
折れ線グラフタスク	202
円グラフタスク	207
散布図タスク	210
時系列プロットタスク	215
単純横棒グラフタスク	218
11 章・ハイパフォーマンス統計タスク	223
ハイパフォーマンスタスクについて	224
連続データの bin 化タスク	224
ハイパフォーマンス相関分析タスク	229
一般化線形モデル	232
欠損値の置き換えタスク	242
ランダムサンプルタスク	243
12 章・組み合わせと確率タスク	247
誕生日が同じ確率タスク	247
コイン投げシミュレーションタスク	250
サイコロ転がしシミュレーションタスク	252
ポーカーの持ち札の確率タスク	254
13 章・統計タスク	257
データ探索タスク	260
要約統計量タスク	265
分布分析タスク	271
一元度数表タスク	278
相関分析タスク	282

分割表分析タスク	287
t 検定タスク: 1 標本 t 検定	293
t 検定タスク: 対応のある t 検定	297
t 検定タスク: 2 標本 t 検定	303
一元配置分散分析タスク	308
ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスク	314
N 元配置分散分析タスク	319
共分散の分析タスク	323
線形回帰分析タスク	328
バイナリロジスティック回帰分析タスク	342
予測回帰モデル	357
一般化線形モデル	370
付録 1・タスク用入力データセットの例	381
タスクのデータセットについて	381
FITNESS データセット	382
GETSTARTED データセット	383
GREENE データセット	385
IN データセット	385
LONG97DATA データセット	386
MROZ データセット	406
付録 2・参照資料	423
推奨資料	425
キーワード	427

本書の利用について

利用者

本書は、SAS Studio のすべてのユーザーを対象としています。SAS Studio の初期リリースは、SAS 9.4 のメンテナنسリリース 1とともにリリースされました。最新のリリースは SAS Studio 3.3 です。

viii 本書の利用について

新機能

SAS Studio 3.3 の新機能

概要

SAS Studio 3.3 には、次のような新機能および強化機能が追加されました。

- SAS Studio Basic の Windows 動作環境への対応
- プロセスフローを作成できる、新しい Visual Programming パースペクティブ
- クエリを作成するための新しいツール
- 新しいタスクと強化されたタスク
- 新しい変数名およびエンコーディングのオプション

SAS Studio Basic の Windows 動作環境への対応

SAS Studio Basic が、Windows と UNIX の両方の動作環境でサポートされるようになりました。詳細については、*SAS Studio: Administrator's Guide* を参照してください。

新しい Visual Programming パースペクティブ

この新しいパースペクティブを使用すると、プロセスフローを作成できます。プロセスフローは 1 つ以上のオブジェクトで構成されています。各オブジェクトはプロセスフローのノードで表されます。プロセスフローには、SAS プログラム、タスク、クエリなどの 2 つ以上のオブジェクト間の関係が示されます。詳細については、[4 章、"プロセスフローの操作" \(65 ページ\)](#)を参照してください。

新しいクエリ機能

クエリ機能を使用すると、指定した基準に従って 1 つ以上のテーブルからデータを抽出できます。1 つのテーブルにのみ基づくクエリを作成することも、テーブルを結合することもできます。クエリを作成したら、出力に追加する列を指定します。また、データの値に基づいて、すでに追加されている行にフィルタを適用できます。さらに、作成したデータの列に対して要約関数を実行し、データを 1 つ以上の列を基準にして並べ替えることもできます。詳細については、[3 章、"クエリの操作" \(43 ページ\)](#)を参照してください。

SAS Studio のタスク

新しいタスク

- 新しい共分散の分析タスクでは、モデルでの誤差項の分散を低減するために、量的変数を使用することにより分散モデルの分析を強化できます。詳細については、["共分散の分析タスク" \(323 ページ\)](#)を参照してください。
- 新しいバブルプロットタスクを使用すると、3 つ以上の変数間の関係を調査できます。バブルプロットでは、2 つの変数によってバブルの中心の位置が決まり、3 つ目の変数により、

各バブルのサイズが決まります。詳細については、“[バブルプロットタスク](#)”(195 ページ)を参照してください。

- 次の 6 つの新しい組み合わせ論と確率タスクが追加されました。
 - 新しい組み合わせタスクでは、各集合に特定の数のオブジェクトを指定して、全数のオブジェクトをいくつかの集合に分ける場合に可能な組み合わせの数を計算します。詳細については、“[組み合わせタスク](#)”(121 ページ)を参照してください。
 - 誕生日が同じ確率タスクでは、室内の 2 人以上の誕生日が同じである確率を計算します。詳細については、“[誕生日が同じ確率タスク](#)”(247 ページ)を参照してください。
 - コイン投げシミュレーションタスクでは、10 枚のコインを投げるシミュレーションを実行して、起こりうる結果の確率を計算します。詳細については、“[コイン投げシミュレーションタスク](#)”(250 ページ)を参照してください。
 - さいころ転がしシミュレーションタスクでは、2 個のさいころを投げるシミュレーションを実行して、起こりうる結果の確率を計算します。詳細については、“[サイコロ転がしシミュレーションタスク](#)”(252 ページ)を参照してください。
 - ポーカーの持ち札の確率タスクでは、ポーカーの持ち札の度数と確率を計算します。詳細については、“[ポーカーの持ち札の確率タスク](#)”(254 ページ)を参照してください。
 - 新しい順列タスクでは、特定の数のオブジェクトについて想定し得る順列を計算します。詳細については、“[順列タスク](#)”(128 ページ)を参照してください。
- 新しい一般化線形モデルタスクを使用すると、誤差が正規性を持つ古典的線形モデル、バリナリデータに対するロジスティックおよびプロビットモデル、多項データに対する対数線形モデルを作成できます。詳細については、“[一般化線形モデル](#)”(370 ページ)を参照してください。
- 新しい N 元配置分散分析タスクでは、分散の N 元配置分析を実行できます。詳細については、“[N 元配置分散分析タスク](#)”(319 ページ)を参照してください。
- 1 標本 t 検定、対応のある t 検定または 2 標本 t 検定を実行するには、新しい t 検定タスクを使用します。詳細については、“[t 検定タスク: 1 標本 t 検定](#)”(293 ページ)、“[t 検定タスク: 対応のある t 検定](#)”(297 ページ)および“[t 検定タスク: 2 標本 t 検定](#)”(303 ページ)を参照してください。

強化されたタスク

- ハイパフォーマンスの一般化線形モデルタスクでは、線形予測子に対するオフセットとして使用するオフセット変数を指定できるようになりました。新しい **Dispersion parameter** オプションを使用すると、分散パラメータを持つ分布に対して固定の分散パラメータを指定できます。詳細については、“[一般化線形モデル](#)”(232 ページ)を参照してください。
- 一元配置分散分析タスクに、比較手法として Dunnett 両側、Dunnett 左側および Dunnett 右側が追加されました。詳細については、“[一元配置分散分析タスク](#)”(308 ページ)を参照してください。

カスタムタスクモデルの変更点

サイトでカスタムタスクを作成する場合、共通タスクモデル(CTM) 3.3 に次の変更点があります。

- 新しい `dualselector` 入力方式により、オプション用のデフォルト値のリストを表示するコントロールが作成されます。ただし、ユーザーはこの値のリストを、別個のウィンドウに表示される値のリストから選択することによって変更できます。この `dualselector` 入力方式では、ユーザーインターフェイスの `OptionChoice` 要素を使用できます。
- 新しい `outputdata` 入力方式により、タスクによって作成された出力データセットの名前をユーザーが指定できるテキストボックスが作成されます。
- `required` 属性を `combobox`、`distinct`、`color`、`numstepper` の入力方式で使用できるようになりました。これらの入力方式では、タスクの実行にオプションが必要であるかどうかを指定できるようになりました。
- `combobox` および `distinct` 入力方式の新しい `selectMessage` 属性を使用すると、コンボボックスコントロールに値が必要であり、かつ、デフォルト値が設定されていない場合に表示するメッセージを指定できます。デフォルトのメッセージは、Select a value です。
- `multientry` 入力方式の新しい `reorderable` 属性を使用すると、ユーザーによるリストの値の並べ替えを可能にするかどうかを指定できます。

詳細については、*SAS Studio: Developer's Guide* を参照してください。

新しい変数名およびエンコーディングのオプション

新しい **SAS variable name policy** オプションを使用すると、SAS 変数名に使用するルールセットを指定できます。**Default text encoding** オプションでは、テキストファイルの読み込みまたは書き込み時に使用される文字セットエンコーディングを指定します。詳細については、“[全般プリファレンスの設定](#)” (14 ページ)を参照してください。

ユーザー補助

この製品のユーザー補助の詳細については、SAS Studio 3.3 のアクセシビリティ機能を参照してください。

1

SAS Studio の概要

SAS Studio /について	1
SAS Studio の使用	3
SAS Studio の使用について	3
ナビゲーションペインの使用	4
ワークエリアの使用	10
ワークエリアでのタブの位置の変更	12
SAS Studio での検索	13
全般プリファレンスの設定	14
パースペクティブについて	16
Autoexec ファイルの編集	17
SAS Workspace Server の変更	18

SAS Studio について

SAS Studio は、Web ブラウザ経由でアクセスする SAS 用開発アプリケーションです。SAS Studio を使用すると、データファイル、ライブラリおよび既存のプログラムにアクセスして、新しいプログラムを作成できます。また、SAS Studio では、定義済みのタスクを使用して、SAS コードを生成できます。SAS Studio でプログラムまたはタスクを実行すると、自動的に SAS Server に接続され、SAS コードが処理されます。SAS Server には、クラウド環境のホストサーバー、ローカル環境のサーバー、お使いのローカルマシンにインストールした SAS ソフトウェアを使用できます。コードの処理が終了したら、結果が SAS Studio に返されます。



SAS Studio では、Microsoft Internet Explorer、Apple Safari、Mozilla Firefox、Google Chrome などの複数の Web ブラウザがサポートされています。

独自の SAS プログラムを作成して実行するだけでなく、SAS Studio にあらかじめ用意されている定義済みのタスクを使用してデータを分析することもできます。タスクは SAS System のプロシージャに基づいており、最もよく使用されるグラフや分析のプロシージャを利用できます。また、デフォルトのタスクテンプレートを使用して独自のタスクを作成することもできます。

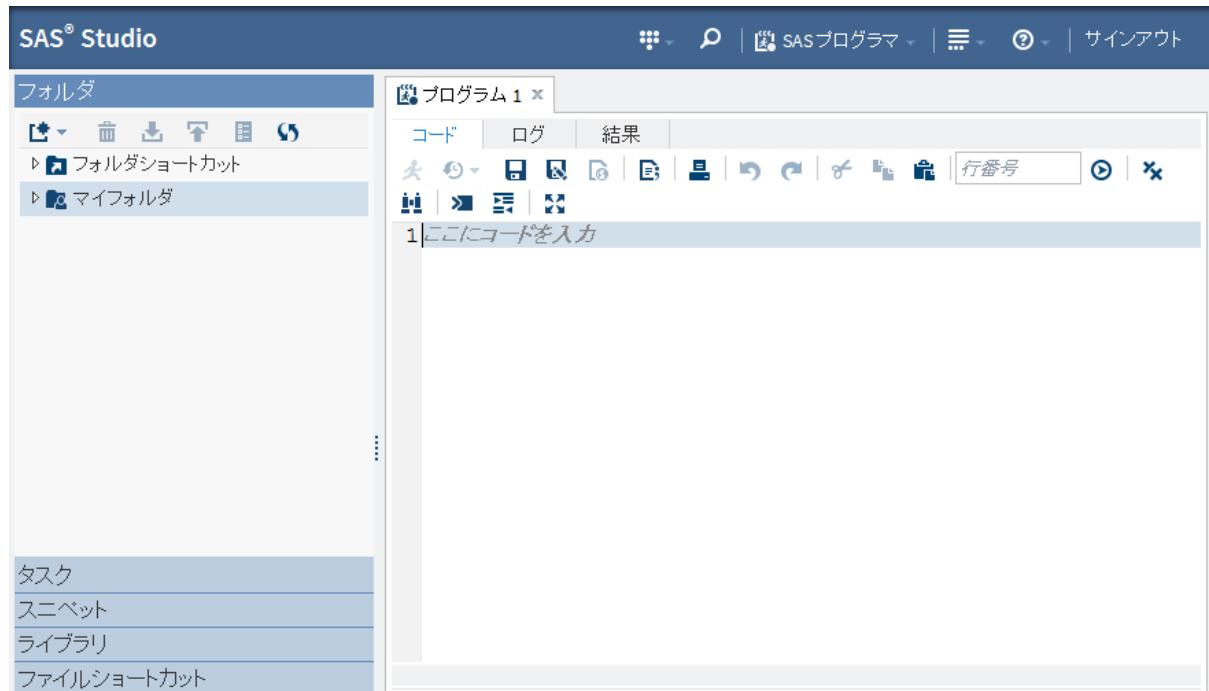
SAS Studio には、2 つの異なるパースペクティブ(SAS プログラマパースペクティブと Visual プログラマパースペクティブ)が用意されています。パースペクティブとは、特定のユーザータイプのニーズに合わせてカスタマイズされた既定の機能セットです。特定のパースペクティブを選択すると、インターフェイスで選択できる機能が、日常的に使用する機能に絞り込まれます。デフォルトでは、SAS Studio を開くと、SAS プログラマパースペクティブが選択されます。SAS Studio を起動した後に、ツールバーにあるパースペクティブのメニューを使用してパースペクティブを変更することもできます。詳細については、“パースペクティブについて”(16 ページ)を参照してください。

SAS Studio の使用

SAS Studio の使用について

SAS Studio にサインオンすると、SAS Studio のメインウィンドウに空白のプログラムウィンドウが表示され、すぐにプログラミングを開始できます。ナビゲーションペインの 5 つのセクションにもすべてアクセスできます。

注: SAS Studio からサインアウトするには、ツールバーのサインアウトボタンをクリックします。Web ブラウザの戻るボタンを使用しないでください。



SAS Studio のメインウィンドウは、左側のナビゲーションペインと右側のワークエリアで構成されます。ナビゲーションペインでは、フォルダショートカットとフォルダ、タスクとスニペット、アクセス可能なライブラリ、ファイルショートカットにアクセスできます。デフォルトでは、フォルダセクションが表示されます。

ワークエリアは、データ、コード、タスク、ログ、結果を表示するために使用されます。これらのアイテムを開くと、タブ形式のインターフェイスのウインドウとしてワークエリアに追加されます。

ナビゲーションペインの使用

ナビゲーションペインの使用について

ナビゲーションペインで参照するセクションをクリックすると、セクションが展開されます。

フォルダの操作

ナビゲーションペインのフォルダセクションでは、次の場所のファイルやフォルダにアクセスすることができます。

- 使用している SAS Server
- アカウントを持っているリモート FTP サーバー

注: SAS Studio では、UNIX 形式のディレクトリリストイングを使用している FTP サーバーのみをサポートしています。FTP サーバー上のアジア言語のファイル名はサポートされていません。

フォルダセクションからアクセスできるフォルダとファイル、および、ライブラリを割り当てられる場所は、お使いの SAS Studio のデプロイメントタイプによって異なります。

- SAS Studio Mid-Tier (エンタープライズ版) デプロイメントを実行している場合、**マイフォルダ** の場所はリモート SAS Server 上のホームディレクトリになります。
- SAS Studio Basic デプロイメントを実行している場合、**マイフォルダ** の場所はリモート SAS Server のホームディレクトリになります。フォルダリストには、リモート SAS Server 上の UNIX ファイルシステムのルートフォルダも含まれます。
- SAS Studio Single-User デプロイメントを実行している場合は、使用している SAS Server がローカルマシンになります。**マイフォルダ** の場所は、お使いのローカルマシンのホームディレクトリです。フォルダリストには、デスクトップ、ドキュメントフォルダ、および現在マッピングされているすべてのドライブも含まれます。

詳細については、*SAS Studio: Administrator's Guide* を参照してください。

SAS Server または FTP サーバーに保存されている、SAS プログラムファイルやプログラム パッケージファイルなどのファイルを開くことができます。SAS Server に保存されている SAS テーブルも開くことができます。

注: リモート FTP サーバーの SAS テーブルを開くことはできません。

フォルダセクションを使用して、フォルダとフォルダショートカットの作成、ファイルのダウンロードおよびアップロード、新しい SAS プログラムの作成を行うことができます。フォルダツリーからは、フォルダの展開と折りたたみを行うことができます。また、フォルダ内のアイテムをダブルクリックまたはワークエリアにドラッグすることで開くことができます。

注: FTP サーバーに保存され、FTP ショートカットを使用してアクセスするファイルの名前には、次の文字を含めないでください。

{ } [] , : ; " ` / \ | + < > ? @ # \$ % ^ & () + !

SAS Studio では、FTP サーバー上にあり、名前に無効な文字が含まれているフォルダまたはファイルに対して、アクセス、移動、名前変更、削除を行うことはできません。

新規フォルダショートカットを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**フォルダ**をクリックします。次に、 をクリックし、**フォルダショートカット**を選択します。新規フォルダショートカットウィンドウが開きます。
- 2 名前ボックスに、フォルダの名前を入力します。
- 3 **フォルダの種類**ドロップダウンリストから、ショートカットが SAS Server フォルダを参照するのか、FTP フォルダを参照するのかを指定します。
- 4 SAS Server フォルダへのショートカットを作成している場合は、**ディレクトリ**ボックスにディレクトリへの物理パスを入力します。
FTP フォルダへのショートカットを作成している場合は、**ホスト名**ボックスに FTP ホストのネットワークアドレスを入力し、ユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトでは、ディレクトリは FTP ユーザーのホームディレクトリになります。ディレクトリボックスを使用して、ホームディレクトリからの相対パスで別のディレクトリを指定できます。たとえば、FTP ユーザーのホームディレクトリが c:\homedir であり、ディレクトリボックスに data と指定した場合、ショートカットのルートディレクトリは FTP サーバーの c:\homedir\data になります。**Test**をクリックすると、FTP サーバーへの接続を検証できます。

6 1 章 / SAS Studio の概要

注: Mid-Tier と FTP サーバーが異なるオペレーティングシステムを実行している場合は、ホスト名ボックスの FTP ホストの名前を完全修飾名にする必要があります。この名前が完全修飾でない場合、接続は失敗する可能性があります。



5 保存をクリックして、フォルダショートカットを作成します。新しいショートカットが、フォルダショートカットのリストに追加されます。

新しいフォルダを作成するには、フォルダセクションで、新しいフォルダを作成するフォルダを選択します。 をクリックし、フォルダを選択します。新規フォルダウィンドウが開きます。新しいフォルダの名前を入力します。新しいフォルダがフォルダリストに追加されます。

ファイルをダウンロードするには、対象のファイルを選択し、 をクリックします。ファイルをデフォルトのアプリケーションで開くか、ローカルのコンピュータに保存するためのプロンプトが表示されます。

ローカルのコンピュータから 1 つ以上のファイルをアップロードするには、ファイルをアップロードするフォルダを選択し、 をクリックします。ファイルのアップロードウィンドウが開きます。ファイルの選択をクリックし、アップロードするファイルを参照します。

タスクの操作

ナビゲーションペインのタスクセクションでは、SAS Studio のタスクにアクセスできます。タスクは、SAS プロシージャに基づいており、SAS コードと、出力形式を適用した結果を生成します。SAS Studio には、すぐに実行できるいくつかの定義済みタスクが付属しています。これらの定義済みタスクのコピーを編集して、独自のタスクを新しく作成することもできます。

新しいタスクを作成するには、 をクリックします。SAS Studio によって、サイトのカスタムタスクの作成に使用できるテンプレートがワークエリアに作成されます。作成したカスタムタスクには、マイタスクフォルダからアクセスできます。詳細については、[7 章、"SAS Studio のタスクについて" \(105 ページ\)](#)を参照してください。

作成したタスクを編集するには、マイタスクフォルダからタスクを選択し、 をクリックします。タスクの作成に使用した XML コードがワークエリアに読み込まれます。定義済みのタスクを編集する場合は、まずそのタスクを右クリックしてマイタスクに追加を選択します。詳細については、["定義済みタスクの編集" \(109 ページ\)](#)を参照してください。

注: 編集できるのは、マイタスクフォルダに表示されるタスクのみです。

スニペットの操作

ナビゲーションペインのスニペットセクションでは、コードスニペットにアクセスできます。コードスニペットとは、一般的に使用されている SAS コードのサンプルであり、作成する SAS プログラムに挿入できます。SAS Studio には、すぐに使用できるいくつかの定義済みコードスニペットが付属しています。これらのスニペットのコピーを編集して、独自のカスタムスニペットを作成することもできます。カスタムスニペットには、マイスニペットフォルダからアクセスできます。詳細については、[2 章、"プログラムの操作" \(19 ページ\)](#)を参照してください。

作成したスニペットを編集するには、マイスニペットフォルダからスニペットを選択し、 をクリックします。定義済みのスニペットを編集する場合は、まずそのスニペットを右クリックして、マイスニペットに追加を選択します。

注: 編集できるのは、マイスニペットフォルダに表示されるスニペットのみです。

ライブラリの操作

ナビゲーションペインのライブラリセクションでは、SAS ライブラリにアクセスできます。SAS ライブラリには、SAS テーブルが格納されています。ライブラリセクションから SAS テーブルを開き、これをプログラムに追加することができます。ライブラリセクションを使用して、テーブル

を展開し、テーブル内部の列を参照できます。列名の前にあるアイコンは、タイプを示しています。

列のタイプを示す一般的なアイコンの例を次に示します。

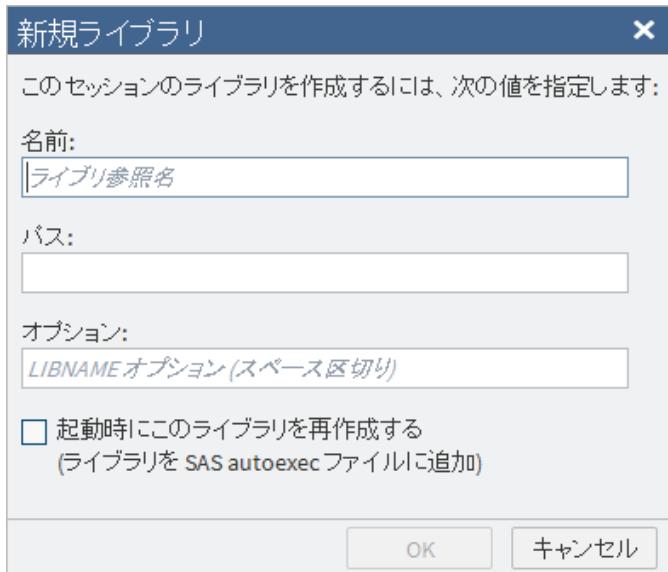
アイコン	列のタイプ
	文字
	数値
	日付
	日時

テーブルや列をライブラリからプログラムにドラッグすると、ドラッグされたアイテムのコードが SAS Studio によってプログラムに追加されます。詳細については、“[プログラムの読み込みと作成](#)”(20 ページ)を参照してください。

新しいライブラリを作成したり、既存のライブラリを割り当てたりすることもできます。

新しいライブラリを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ナビゲーションペインでライブラリをクリックし、をクリックします。新規ライブラリウィンドウが表示されます。



- 2 名前ボックスに、ライブラリの参照名を入力します。ライブラリ参照名は、8 文字以下である必要があります。
- 3 パスボックスに、ライブラリが常駐している場所の物理パスを入力します。
- 4 オプションボックスに、必要な構成オプションを指定します。適切なオプションについては、お使いの動作環境用のドキュメントを参照してください。
- 5 SAS Studio を使用する際、このライブラリに毎回アクセスする場合は、**起動時にこのライブラリを再作成する**を選択します。
- 6 **OK** をクリックして、ライブラリを作成します。新しいライブラリがナビゲーションペインのライブラリのリストに追加されます。

未割り当てのライブラリを割り当てるには、 をクリックします。SAS Studio を使用する際、選択したライブラリに毎回アクセスする場合は、**起動時に選択したライブラリを割り当てる**を選択します。ライブラリが割り当てられていない場合、そのライブラリのテーブルにはアクセスできません。

ファイルショートカットの使用

ファイルショートカットを使用すると、指定したファイルに素早くアクセスできます。お使いの SAS Server 上(URL を介して)または FTP サーバー上にあるファイルへのショートカットを作成できます。

注: FTP サーバー上にあるファイルへのショートカットは、FTP フォルダへのフォルダショートカットを作成している場合にのみ作成できます。

新しいファイルショートカットを作成するには、をクリックします。ショートカットは、完全なパスとファイル名を指定するか、URL を指定して定義します。次回 SAS Studio を使用する際にも、このショートカットを利用できるようにする場合は、起動時にこのファイルショートカットを再作成するを選択します。

ファイルショートカットからファイルを開くには、ショートカットをダブルクリックするか、ワークエリアにドラッグします。

ナビゲーションペインのカスタマイズ

デフォルトでは、SAS Studio を起動すると、ナビゲーションペインの 5 つのセクションがすべて表示されます。表示対象のセクションを変更するには、をクリックし、View を選択します。追加または削除するセクションを選択またはクリアします。ナビゲーションペインが即座に更新されます。

ワークエリアの使用

ワークエリアの使用について

ワークエリアは、プログラムやタスクへのアクセスおよびデータの表示に使用する、SAS Studio アプリケーションの主要な要素です。ワークエリアは常時表示されており、最小化できません。プログラム、タスクまたはテーブルを開くと、ワークエリアの新しいタブとしてウィンドウが開きます。プログラムおよびタスクに関連付けられているコード、ログおよび結果は、そのプログラムまたはタスクのメインタブにまとめて表示されます。

The screenshot shows the SAS Studio interface with the following components:

- Top Bar:** Contains tabs for "プログラム 1", "SASHelp.CARS", "リスト", and "*棒グラフ".
- Left Panel (Program Editor):**
 - Setting Tab:** Shows tabs for "データ", "オプション", and "情報".
 - Data Selection:** Set to "SASHelp.CLASS".
 - Where Clause:** Set to "Age".
 - Role Selection:** Set to "Height".
 - Group Selection:** Set to "Age".
 - URL Selection:** Set to "列".
 - BY Selection:** Set to "列".
 - Orientation:** Set to "方向".
 - Group Layout:** Set to "グループプレイアウト".
 - Statistics:** Set to "統計量".
- Right Panel (Results Pane):**
 - Code Tab:** Shows the SAS code for generating a bar chart.
 - Log Tab:** Shows the log output.
 - Results Tab:** Shows the generated bar chart.
 - Toolbar:** Includes icons for Run, Stop, Refresh, and Help.
 - Code View:** Displays the SAS code with syntax highlighting.

```

12  /*
13  */
14
15 /**--Set output size--*/
16 ods graphics / reset imagemap;
17
18 /**--SGPLOT proc statement--*/
19 proc sgplot data=SASHelp.CLASS;
20   /*--TITLE and FOOTNOTE--*/
21   title "Class Bar Chart";
22
23 /**--Bar chart settings--*/
24 vbar Age / response=Height group=
25   stat=Mean name='Bar';
26
27 /**--Category Axis--*/
28 xaxis discreteorder=data reverse;
29
30 /**--Response Axis--*/
31 yaxis grid;
32
33 /**--Legend Settings--*/
34 keylegend / location=Inside across;
35 run;
36
37 ods graphics / reset;
38

```

ワークエリアのカスタマイズ

デフォルトでは、ワークエリアはナビゲーションペインの横に表示されますが、ワークエリアを最大化し、ナビゲーションペインを非表示にすることができます。ワークエリアのすべてのタブを一度に閉じることもできます。

ワークエリアを最大化するには、をクリックし、**ビューの最大化**を選択します。

注: ナビゲーションペインを再度表示するには、をクリックし、**最大化ビューの終了**を選択します。

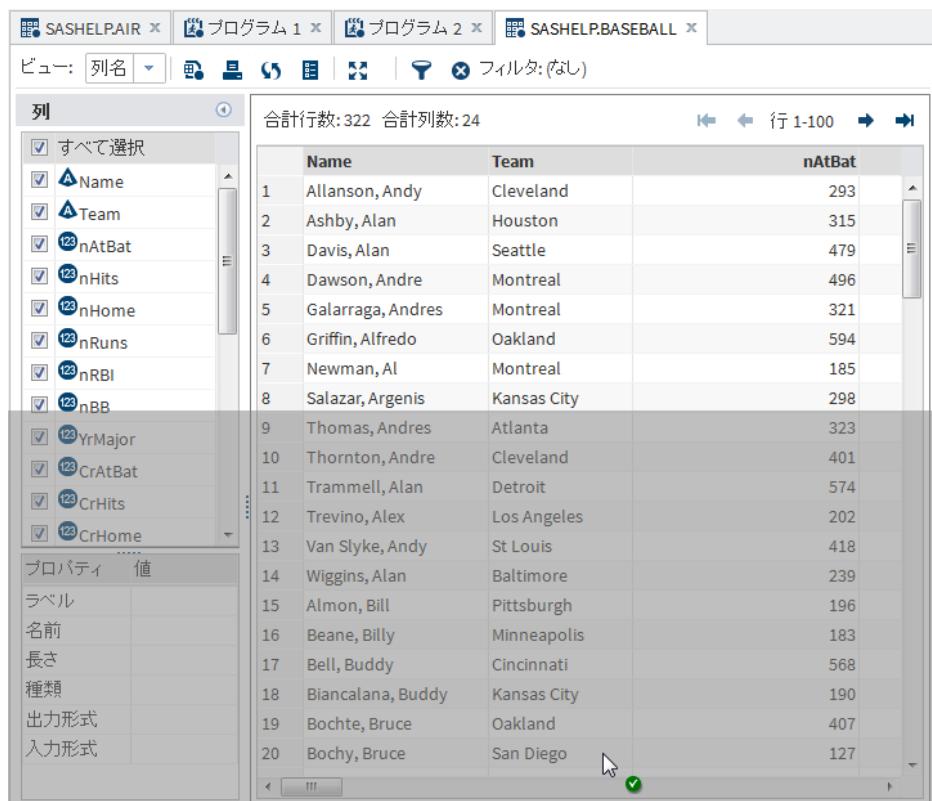
ワークエリアで開いているタブをすべて閉じるには、をクリックし、すべてのタブを閉じるを選択します。保存していないプログラムまたはタスクを保存するためのプロンプトが表示されます。

ワークエリアでのタブの位置の変更

ワークエリアでは、ドラッグアンドドロップ操作によってタブを左右に移動し、タブの位置を変更できます。また、ワークエリアの右側または下部にタブをドッキングすることで、一度に複数のタブを表示できます。

タブの配置を変更するには、次の操作を実行します。

- 1 移動するタブを選択します。
- 2 そのタブアイコンを、コンテンツを表示する位置まで移動します。アイコンによって有効な位置が示されます。



SAS Studio のワークエリアを示すスクリーンショットです。タブバーには「SASHelpPAIR」、「プログラム 1」、「プログラム 2」と「SASHelp.BASEBALL」があります。現在アクティブなタブは「SASHelp.BASEBALL」です。画面の左側には「列」セクションがあり、データを表示するためのチェックボックスがあります。データ表示部分には「合計行数: 322 合計列数: 24」と表示され、20 行分のデータが表示されています。データ表の列名は「Name」、「Team」、「nAtBat」です。

	Name	Team	nAtBat
1	Allanson, Andy	Cleveland	293
2	Ashby, Alan	Houston	315
3	Davis, Alan	Seattle	479
4	Dawson, Andre	Montreal	496
5	Galarraga, Andres	Montreal	321
6	Griffin, Alfredo	Oakland	594
7	Newman, Al	Montreal	185
8	Salazar, Argenis	Kansas City	298
9	Thomas, Andres	Atlanta	323
10	Thornton, Andre	Cleveland	401
11	Trammell, Alan	Detroit	574
12	Trevino, Alex	Los Angeles	202
13	Van Slyke, Andy	St Louis	418
14	Wiggins, Alan	Baltimore	239
15	Almon, Bill	Pittsburgh	196
16	Beane, Billy	Minneapolis	183
17	Bell, Buddy	Cincinnati	568
18	Biancalana, Buddy	Kansas City	190
19	Bochte, Bruce	Oakland	407
20	Bochy, Bruce	San Diego	127

The screenshot shows the SAS Studio interface with two programs and their results.

Program 1:

```
1proc print data=sashelp.class;
2run;
```

Program 2 (Results):

OBS	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	アルフレッド	男子	14	69.0	112.5
2	アリス	女子	13	66.5	84.0
3	バーバラ	女子	13	65.3	98.0
4	キャロル	女子	14	62.8	102.5
5	ヘンリー	男子	14	63.5	102.5
6	ジェームズ	男子	12	57.3	83.0
7	ジェーン	女子	12	59.8	84.5

SASHHELP.BASEBALL:

ビュー: 列名 フィルタ: (なし)

列

	Name	Team	nAtBat
1	Allanson, Andy	Cleveland	293
2	Ashby, Alan	Houston	315
3	Davis, Alan	Seattle	479
4	Dawson, Andre	Montreal	496
5	Galarraga, Andres	Montreal	321
6	Griffin, Alfredo	Oakland	594
7	Newman, Al	Montreal	185
8	Salazar, Argenis	Kansas City	298
9	Thomas, Andres	Atlanta	323

注: また、Program 2 の結果タブが、プログラムタブの右側に移動されました。

SAS Studio での検索

検索機能を使用して、ナビゲーションペインのすべてのセクションを検索できます。検索できるアイテムの種類は、ナビゲーションペインで何を選択しているかによって異なります。たとえば、フォルダセクションでフォルダまたはフォルダショートカットが選択されている場合は、フォルダとフォルダショートカットを検索でき、検索にサブフォルダを含めるかどうかを選択できます。タスクセクションのタスクカテゴリが選択されている場合は、タスク名、関連付けられているSASプロシージャ、およびタスクの説明を検索できます。

検索機能にアクセスするには、 をクリックします。検索ボックスが開き、検索するテキストを入力できます。

絞り込み基準オプションを選択または選択解除することで、検索の範囲を限定できます。これらのオプションは、ナビゲーションペインで何を選択しているかによって異なります。デフォルトでは、検索では大文字と小文字が区別されます。大文字と小文字の両方のテキストを検索する場合は、**大文字と小文字を区別する**チェックボックスの選択を解除します。

次の例では、Sashelp ライブラリで"class"を検索しています。この検索では、Sashelp ライブラリのすべてのテーブルと列が含まれています。また、大文字と小文字が区別されていません。

The screenshot shows the SAS Studio search interface. The search term 'class' is entered in the search bar. The search results table has three columns: ライブラリ (Library), テーブル (Table), and 列 (Column). The results are as follows:

ライブラリ	テーブル	列
SASHelp	CLASS	説明: 学生データ
SASHelp	CLASSFIT	説明: Predicted Weights with Confidence Limits
SASHelp	ITMS_RMMKSTG_DTIPS_CLASSCOLUMNS	
SASHelp	JUNKMAIL	説明: Classifying Email as Junk or Not
SASHelp	ASSOCWA	PREDCLAS ラベル: Predecessor Object Class
SASHelp	ASSOCWA	SUCCCLAS ラベル: Successor Object Class
SASHelp	BDVITEM	CLASS\$
SASHelp	BDVLD3	CLASS\$
SASHelp	BDVMETH	CLASS\$
SASHelp	DMTOOLS	CLASS\$
SASHelp	EMTOOL	class

結果をダブルクリックすると、アイテムを開くことができます。検索結果のリストに戻るには、を再度クリックします。

検索結果をクリアするには、をクリックします。

全般プリファレンスの設定

Preferences ウィンドウでは、SAS Studio に影響するいくつかのオプションを変更できます。

全般オプションにアクセスするには、をクリックし、**Preferences** を選択します。全般をクリックします。

オプション	説明
SAS ログに生成コードを表示する	SAS により自動的に生成された ODS ステートメント、%LET ステートメントおよびその他のコードをログファイルに表示します。このオプションは、SAS タスクおよび SAS プログラムファイルの両方に適用されます。
Include a Show Details button in error messages	SAS Studio によって生成されたエラーメッセージに詳細の表示ボタンを追加します。
新しいプログラムを対話型モードで開始する	新しいプログラムを対話型モードをオンにして開きます。このオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 が稼動している場合にのみ利用できます。詳細については、“ 対話型モードでの操作 ”(31 ページ)を参照してください。
タイムアウト間隔:(時間)	SAS Studio で操作を行うことなくログオン状態を維持できる時間を指定します。デフォルトの値は 1 時間です。
SAS variable name policy	<p>SAS 変数名に適用するルールセットを次のの中から 1 つ指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ANY — 変数名が、空白を含む任意の文字から始まるか、任意の文字を含むことができ、少なくとも 1 文字は指定する必要があり、null バイトを含めることができないことを指定します。変数名には、大文字と小文字、特殊文字、マルチバイト文字を含めることができます。名前の長さは 32 バイト以内です。デフォルトでは、このオプションが選択されています。先頭の空白は保持されますが、末尾の空白は無視されます。 ■ V7 — 変数名がラテンアルファベット(A から Z、a から z)またはアンダスコア文字で始まる必要がありますことを指定します。これらの変数名には、空白も、アンダスコア以外の特殊文字も含めることはできず、特殊な SAS 自動変数の名前および変数リスト名を割り当てることはできません。変数名には、大文字と小文字を含めることができ、長さは 32 バイト以内です。

オプション	説明
Default text encoding	<p>テキストファイルの読み込みまたは書き込み時に使用される文字セットエンコーディングを指定します。デフォルト値は UTF-8 です。このオプションは、SAS Server が z/OS で実行されている場合には使用できません。</p> <p>注: また、Alt キーを押したまま 1 つのファイルをダブルクリックして開くときに、テキストエンコーディングを指定することもできます。Choose Text Encoding ウィンドウが開き、エンコーディングを選択できます。このオプションは SAS プログラムファイル(*.SAS)、テキストファイル(*.txt)、カンマ区切り値ファイル(*.csv)、ログ(*.log)のファイルタイプに適用されます。</p>

パースペクティブについて

SAS Studio は、組織内のさまざまなユーザーおよびグループが使用できるように設計されています。各自に必要な特定の機能のサブセット(パースペクティブ)を表示するように設定できます。パースペクティブとは、さまざまなユーザー・タイプのニーズに合わせてカスタマイズされた機能セットです。SAS Studio には 2 つのパースペクティブがあります。それは、SAS プログラマパースペクティブと Visual プログラマパースペクティブです。

SAS プログラマは、主に SAS プログラムの作成と編集を目的として SAS Studio を使用するユーザー向けのパースペクティブです。デフォルトでは、SAS プログラマパースペクティブは新しいプログラムウィンドウで開き、すべてのプログラムファイルおよびコードスニペットを簡単に管理できるように、ナビゲーションペインには 5 つのセクションがすべて含まれています。

Visual プログラマパースペクティブは、プロジェクトベースの環境でプロセスフローを操作するユーザー向けに設計されています。Visual プログラマパースペクティブでプロセスフローを使用して、個々のプロセスを 1 つの繰り返し可能なプロセスフローに結合し、保存、再利用および他のユーザーと共有できます。デフォルトでは、Visual プログラマパースペクティブは新しいプロセスフローウィンドウで開き、ナビゲーションペインには、フォルダ、タスク、スニペット、ライブラリの 4 つのセクションが含まれています。

注: SAS プログラマパースペクティブを使用しているときにプロセスフローを開くと、Visual プログラマパースペクティブに切り替えるためのプロンプトが表示されます。

どちらのパースペクティブでも、SAS Studio に付属している定義済みタスクの実行やタスクの作成および編集を行うことができます。また両方のパースペクティブで、SAS プログラムやクエリを作成および実行できます。

パースペクティブの相違点を次の表に示します。

SAS Studio の要素	SAS プログラマで使用可能かどうか	Visual プログラマで使用可能かどうか
ナビゲーションペインのセクション		
■ Folders	可能	あり
■ Tasks	可能	あり
■ Snippets	可能	あり
■ Libraries	可能	あり
■ ファイルショートカット	可能	可能、ただしデフォルトでは非表示
SAS プログラム	可能	あり
クエリ	可能	あり
プロセスフロー	不可	可能

SAS Studio を起動してパースペクティブを選択した後に、使用しているパースペクティブを変更できます。これを行うには、ツールバーにあるパースペクティブのメニューをクリックして、使用するパースペクティブを選択します。

SAS Studio に表示するナビゲーションペインのセクションを指定できます。これを行うには、 をクリックし、View を選択します。

Autoexec ファイルの編集

autoexec.sas ファイルには、SAS Studio を起動して SAS Server に接続するたびに実行される SAS ステートメントが含まれています。たとえば、SAS Studio を対話型または非対話型

で使用するたびに毎回利用したいライブラリを、autoexec.sas を使用して割り当てることができます。

注: 新規ライブラリウィンドウを使用して新しいライブラリを作成した場合は、起動時にこのライブラリを再作成するオプションを選択して、LIBNAME ステートメントを autoexec.sas ファイルに自動的に追加します。詳細については、“[ライブラリの操作](#)”(7 ページ)を参照してください。

autoexec.sas ファイルを編集するには、次の操作を実行します。

- 1 をクリックし、**Autoexec** ファイルの編集を選択します。
- 2 autoexec.sas ファイルに含めるコードを入力します。
- 3 構文を検証するには、**実行**をクリックします。**Log** タブが開き、ログが表示されます。
- 4 **保存**をクリックし、autoexec ファイルを保存して閉じます。

SAS Workspace Server の変更

複数の SAS Workspace Server へのアクセス権がある場合は、SAS Studio を接続するサーバーを変更できます。サーバーを変更するには、をクリックし、**SAS Workspace Server の変更**を選択します。使用するサーバーを選択します。サーバーを変更すると、作成したライブラリやファイルショートカットは削除されます。詳細については、*SAS Studio: Administrator's Guide* を参照してください。

2

プログラムの操作

コードエディタについて	20
プログラムの読み込みと作成	20
プログラムの読み込み	20
新しいプログラムの作成	20
プログラムの実行	21
オートコンプリート機能の使用	22
構文ヘルプの使用	25
テーブル名と列名の追加	27
タスクからのコードの編集	27
SAS プロパティパッケージの作成	28
プログラム要約の作成	29
マクロ変数の使用	29
サブミット履歴の使用	30
SAS コードの自動フォーマット	30
対話型モードでの操作	31
コードスニペットの操作	33
コードスニペットを使用する理由	33
コードスニペットの作成	40
コードスニペットの挿入方法	40
コードエディタのカスタマイズ	41

コードエディタについて

SAS Studio には、新規または既存の SAS プログラムの編集に使用できる、コードの色分けと構文チェックが可能なエディタが含まれています。SAS カタログの SOURCE エントリを編集することもできます。このエディタは、自動入力、自動フォーマットおよびポップアップ構文ヘルプなど多彩な機能を備えています。このコードエディタを使用すると、SAS プログラムを作成、実行および保存できます。また、タスクの実行時に自動生成されたコードの変更と保存もできます。

さらに、SAS Studio にはコードスニペットのサンプルがいくつか用意されており、これを使用すると一般的なタスクを簡単にプログラミングできます。

プログラムの読み込みと作成

プログラムの読み込み

ナビゲーションペインのフォルダセクションから、SAS プログラムを読み込むことができます。プログラムを読み込むには、適切なフォルダを展開し、対象のプログラムをダブルクリックするか、ワークエリアにドラッグします。プログラムがワークエリアの新しいタブに読み込まれます。

新しいプログラムの作成

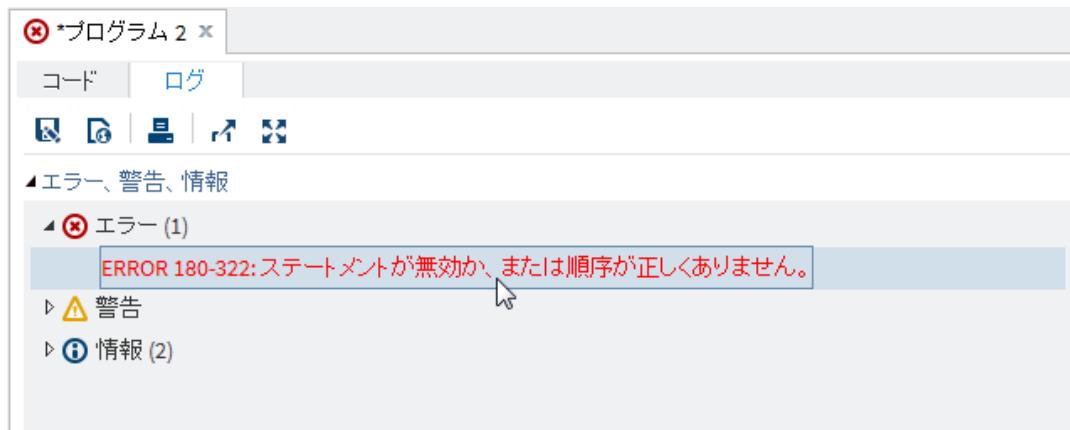
ナビゲーションペインのフォルダセクションから新しいプログラムを作成できます。新しいプログラムを作成するには、 をクリックし、SAS プログラムを選択します。ワークエリアの新しいタブにプログラムウィンドウが表示されます。

注: メインアプリケーションツールバーで  をクリックし、新規 SAS プログラムを選択することもできます。

プログラムの実行

プログラムを作成したら、をクリックして実行します。

エラーがなければ、結果が自動的に表示されます。エラーがある場合は、デフォルトで Log タブが表示されます。メッセージを表示するには、エラー、警告、情報セクションを展開します。メッセージをクリックすると、ログ上の該当箇所が強調表示されるため、位置を特定できます。



```

1      OPTIONS NONOTES NOSTIMER NOSOURCE NOSYNTAXCHECK;
57
58      proc print data=sashelp.class;
59      error;

180
ERROR 180-322: ステートメントが無効か、または順序が正しくありません。
60      run;

NOTE: エラーが発生したため、このステップの処理を中止しました。
NOTE: PROCEDURE PRINT処理(合計処理時間):
      処理時間          0.36 秒
      CPU時間          0.07 秒

```

注: サーバー環境で作業しているため、SAS プログラムに ENDSAS ステートメントを含めないでください。ENDSAS が含まれるプログラムを実行した場合は、をクリックし、SAS セッションのリセットを選択して、SAS セッションをリセットしてください。

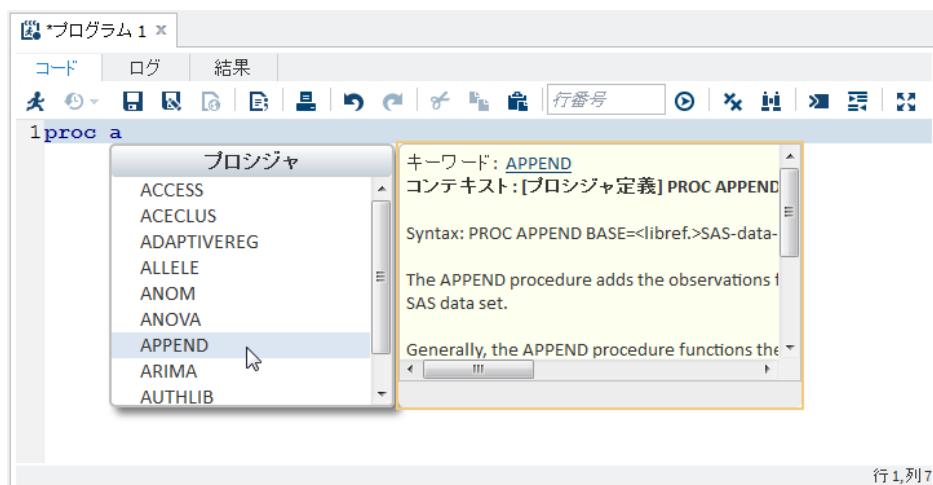
オートコンプリート機能の使用

オートコンプリート機能について

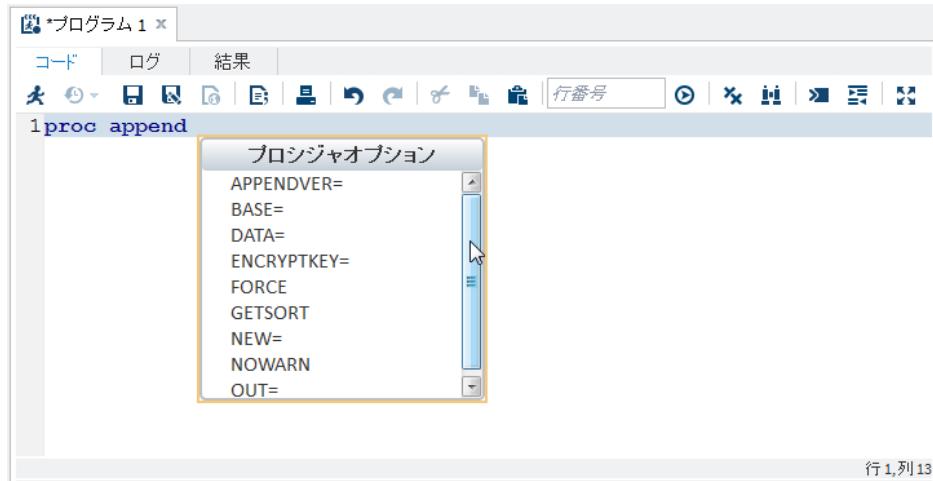
コードエディタのオートコンプリート、すなわちコード補完機能は、ユーザーが次に入力する単語をその入力が実際に完了する前に予測します。オートコンプリート機能は、SAS プロシージャ、ステートメント、マクロ、関数、CALL ルーチン、出力形式、入力形式、マクロ変数、SAS カラー、スタイル要素、スタイル属性、統計量キーワード、さまざまな SAS ステートメント、プロシージャオプションに関連付けられているキーワードを補完します。

注: オートコンプリート機能は、SAS プログラムの編集のみに利用できます。

この例は、コードエディタに proc a を入力したときに表示されるキーワードとヘルプを示しています。



この例では、プロシージャのリストから APPEND を選択しているので、コードエディタに proc append が表示されています。スペースを入力すると、コードエディタには APPEND プロシージャのオプションのリストが表示されます。



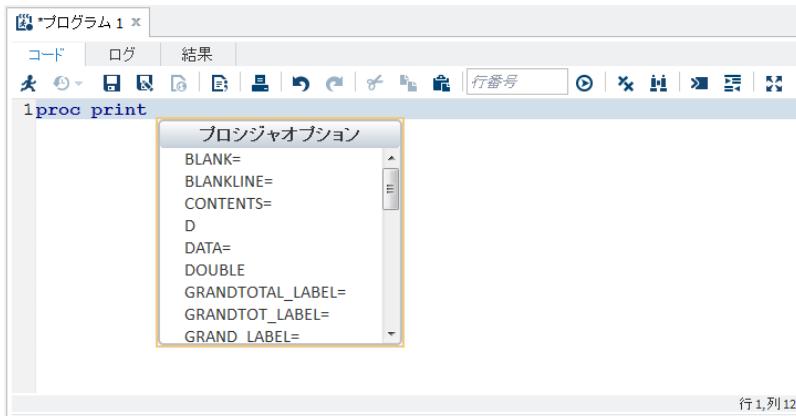
オートコンプリート機能の使用方法

オートコンプリート機能を使用するには、次の手順を実行します。

1 オートコンプリートリストの表示方法は、追加するキーワードによって異なります。

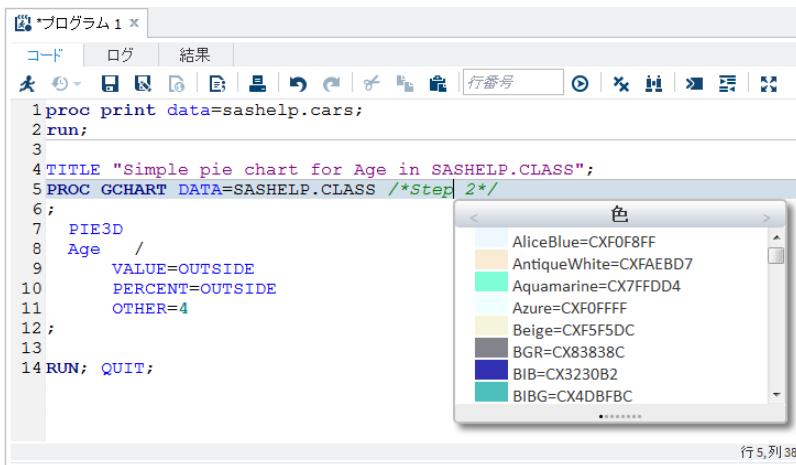
- グローバルステートメント、DATA ステップステートメント、CALL ルーチン、プロシージャ、マクロステートメント、自動マクロ変数のいずれかを追加する場合は、使用するキーワードの最初の 1 文字以上を入力します。

ウィンドウが開いて、先頭にこれらの文字を使用するキーワード候補のリストが示されます。



- 色、出力形式、入力形式、マクロ関数、SAS 関数、統計量キーワード、スタイル要素、スタイル属性のいずれかを指定する場合は、コメントにマウスポインタを置いて、Ctrl キーを押しながら Space キーを押します。オプションのリストを逆方向にナビゲートするには、Ctrl キーを押しながら、Shift キーと Space キーを押します。

注: これらのショートカットは、**Preferences** ウィンドウでオートコンプリートを使用するオプションの選択を解除しても機能します。詳細については、“[コードエディタのカスタマイズ](#)”(41 ページ)を参照してください。



2 使用するキーワードには次の方法で移動できます。

- 正しいキーワードが選択されるまで入力を続けます(入力するにつれて一致度が上がるため)。

- 上矢印キーと下矢印キー、Page Up キーと Page Down キーまたはマウスを使用してリスト内をスクロールします。
- 3 キーワードは、選択してダブルクリックするか、Enter キーを押すことにより、プログラムに追加できます。

構文ヘルプの使用

コードエディタでプログラムを作成および編集する際に、SAS 構文の簡単なドキュメントが表示されます。ヘルプを表示するには、次の方法があります。

- プログラム内のキーワードを右クリックし、**構文ヘルプ**を選択します。
- 有効な SAS キーワードの入力を開始し、オートコンプリートウィンドウで提案されたキーワードをクリックします。
- プログラム内の有効な SAS キーワードにマウスポインタを置きます。この操作は、エディタの Preference でヒントを有効にするオプションが選択されている場合にのみ機能します。詳細については、“[コードエディタのカスタマイズ](#)”(41 ページ)を参照してください。

SAS 製品ドキュメントでは、SAS 言語の使用方法に関するより包括的な情報を提供していますが、コードエディタの構文ヘルプは、構文作成のヒントやキーワードの簡単な説明が記載されたガイドです。次のように構文ヘルプウィンドウ内のリンクをクリックして、追加のヘルプを表示することもできます。

- ウィンドウの上部にあるキーワードリンクをクリックして、support.sas.com Web サイトでのキーワードを検索します。

The screenshot shows the SAS Studio interface with a code editor window titled "プログラム 1". The code editor has tabs for "コード", "ログ", and "結果". The "コード" tab is active, displaying the following SAS code:

```
26 /* the output in an output data set */
27 proc means data=&data &stat noprint;
28
29
30
31 run;
32
33 /* st
34 /* th
35 /* la
36 proc;
37 selec
38 from
39 selec
40 quit;
41
42
43
```

A tooltip or help window is overlaid on the screen, centered over the word "MEANS". The tooltip contains the following information:

キーワード: MEANS
コンテキスト:[プロシージャ定義] PROC MEANS
Syntax: PROC MEANS <option(s)><statistic-keyword(s)>;
BY <DESCENDING> variable-1 <... <DESCENDING> variable-n><NOTSOR>
CLASS variable(s) </ option(s)>;
FREQ variable;
ID variable(s);
OUTPUT <OUT=SAS-data-set><output-statistic-specification(s)><id-gr>
<minimum-id-specification(s)></ option(s)>;
TYPES request(s);
VAR variable(s) </ WEIGHT=weight-variable>;
WAYS list;
WEIGHT variable.

The status bar at the bottom right of the code editor displays "行 27,列 7".

- ウィンドウの下部にあるリンクをクリックし、SAS 製品ドキュメント、サンプルと SAS Notes、SAS テクニカルペーパーでキーワードを検索します。

The screenshot shows the SAS Studio interface with a code editor window titled "Program 1". The code editor displays the following SAS code:

```

26 /* the output in an output data set */
27 proc means data=&data &stat noprint;
28
29
30
31 run;
32
33 /* st */
34 /* th */
35 /* la */
36 proc;
37 selec
38 from
39 selec
40 quit;
41
42
43

```

A tooltip is displayed over the line "proc means data=&data &stat noprint;" containing the following text:

The MEANS procedure provides data summarization tools to compute descriptive statistics for variables across all observations and within groups of observations. For example:

- o calculates descriptive statistics based on moments
- o estimates quantiles, which includes the median
- o calculates confidence limits for the mean
- o identifies extreme values
- o performs a t test.

Below the tooltip, the text "By default, PROC MEANS displays output. You can also use the OUTPUT statement to save statistics in a SAS data set. PROC MEANS and PROC SUMMARY are very similar;" is visible. At the bottom of the tooltip, there is a search bar with the placeholder "検索: 製品ドキュメント サンプルと SAS Notes 資料" and a status bar indicating "行 27, 列 7".

テーブル名と列名の追加

ナビゲーションペインのライブラリセクションから、ドラッグアンドドロップ操作を使用してテーブル名および列名を SAS コードに移動できます。たとえば、PRINT プロシージャの DATA オプションに、Sashelp.Cars テーブルを移動できます。マウスを離すと、そのテーブルの完全修飾名がコードに表示されます。

The screenshot shows the SAS Studio interface with a code editor window titled "Program 1". The code editor displays the following SAS code:

```

1 proc print data=SASHHELP.CARS

```

タスクからのコードの編集

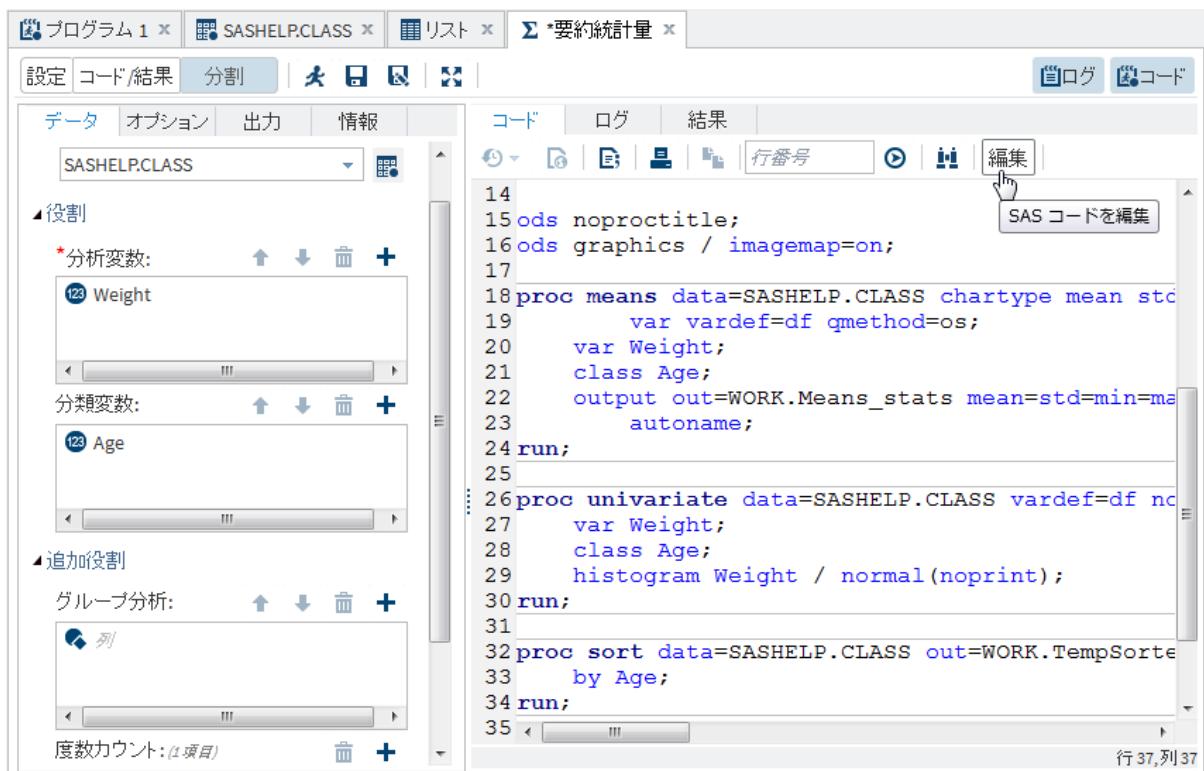
タスクの実行時に自動的に生成されたコードを編集し、変更を加えたコードを実行できます。コードを編集すると、SAS Studio によって別のプログラムウィンドウが表示されます。コードの元のタスクへの関連付けはなくなります。

タスクによって生成されたプログラムを編集するには、次の操作を実行します。

- 1 ワークエリアの適切なタスクのタブで、**Code** をクリックし、そのタスクに関連付けられているコードを表示します。

注: タスクに関連付けられているコードを編集するには、まずそのタスクを使用してコードを表示する必要があります。タスクコードが表示されない場合は、をクリックし、**プリファレンス**を選択します。タスクをクリックしてから、**タスクコードを表示する**を選択します。

- 2 ツールバーで、**Edit** をクリックします。コードが新しいプログラムウィンドウに表示されます。



SAS プロパティパッケージの作成

SAS プログラムパッケージは、SAS プログラムのスナップショットとそのログ、および HTML の結果が含まれるファイルです。プログラムパッケージは、記述したコードから作成することも、タスクの実行時に自動的に作成されるコードから作成することもできます。SAS Studio で

プログラムパッケージを開くと、プログラムを再度実行しなくても、コード、ログ、および結果にアクセスできます。コードを変更して返しても、パッケージは自動的に更新されません。変更を保持するには、パッケージを再度保存する必要があります。

注: プログラムパッケージには、PDF または RTF の結果が含まれていません。プログラムを対話型モードで実行している場合は、プログラムパッケージを作成することができません。

プログラムパッケージファイルを作成するには、使用するコードを開き、 をクリックします。ファイルの場所と名前を指定し、次の種類で保存オプションとして SAS プログラムパッケージを選択します。

注: プログラムまたはログを個別に保存する場合、または、結果を HTML、PDF、または RTF ファイル形式でダウンロードする場合は、プログラムパッケージファイルを開いた後にプログラムを再度サブミットする必要があります。

プログラム要約の作成

要約ページは、記述したコードから作成することも、タスクの実行時に自動的に作成されるコードから作成することもできます。プログラムの要約ページは、別のブラウザタブで開く HTML ファイルであり、プログラムの実行に関する情報、全 SAS ソースコード、全 SAS ログ、および結果が含まれています。プログラムのプログラム要約ページを表示するには、 をクリックします。

注: プログラム要約は、プログラムを実行した後にのみ使用できます。

また、 をクリックし、次の種類で保存オプションとして SAS プログラム要約を選択すると、指定したフォルダにプログラム要約ファイルを保存することもできます。プログラム要約は HTML ファイルとして保存されます。

マクロ変数の使用

マクロ変数は、プログラムまたはタスクの実行時に取得される情報(アプリケーションの名前やバージョンなど)を追加するために使用できます。前に"&"を付けることで、これらのアイテムをコード、タイトル、フットノートで参照できます。

たとえば、次のようにフットノートでマクロを使用できます。

```
Generated with &_CLIENTAPP &_CLIENTAPPVERSION
```

注: 次に示すマクロ変数の他に、コードでは SAS マクロ関数および変数を使用することができます。SAS マクロ関数および変数の詳細については、*SAS Macro Language Reference* を参照してください。

マクロ変数	説明
_CLIENTAPP	アプリケーションの名前。
_CLIENTAPPVERSION	アプリケーションのバージョン番号。
_SASPROGRAMFILE	現在実行されている SAS プログラムのフルパスとファイル名。このマクロ変数は、SAS Studio のコードが実行されているのと同じサーバーに保存されている SAS プログラムファイルでのみ使用できます。

サブミット履歴の使用

SAS Studio には、プログラムまたはタスクの実行時ごとのエントリを記録したログが保持されています。このログ、すなわちサブミット履歴を使用して、サブミット済みの以前のバージョンのコードにアクセスできます。サブミット履歴を表示するには、プログラムウィンドウまたはタスク ウィンドウで **Code** タブをクリックします。ツールバーで、 をクリックし、表示するバージョンのコードを選択します。この以前のバージョンのコードが新しいウィンドウに表示されます。コードは、必要に応じてコピーアンドペーストできます。

注: サブミット履歴は、SAS Studio からのサインオフ時にクリアされます。

SAS コードの自動フォーマット

コードエディタを使用して、コードを自動的にフォーマットし、プログラムの可読性を高めることができます。コードを自動フォーマットすると、改行が追加され、ネストレベルに従って行が適切にインデントされます。コードエディタでコードをフォーマットするには、 をクリックします。たとえば、次のコードはインデントや論理的な改行がなく、読みやすくありません。

```
data topn;
length rank 8; label rank="Rank";
set topn; by &category descending &measure;
if first.&category then rank=0; rank+1;
if rank le &n then output;
run;
```

コードを自動フォーマットすると、プログラムは次のように表示されます。

```
data topn;
length rank 8;
label rank="Rank";
set topn;
by &category descending &measure;

if first.&category then
    rank=0;
rank+1;

if rank le &n then
    output;
run;
```

対話型モードでの操作

SAS プロシージャの中には対話型のものがあります。つまり、それらのプロシージャは、QUIT ステートメントをサブミットするまでアクティブ状態を維持します。SAS Studio では、コードエディタを使用してこのようなプロシージャを他の SAS プロシージャとともに対話型モードで実行できます。

対話型モードを使用することで、作成中の SAS プログラムからいくつかの行を選択して実行し、その結果を使用して次の手順を決めることができます。たとえば、SAS/OR の OPTMODEL プロシージャでは、数学的プログラミングモデルをモデリングし、解を求めることができます。このプロシージャを対話的に実行することにより、プログラムの各部分の結果を迅速に確認し、プログラム全体を実行することなく、何らかの修正が必要であるかどうかを判断できます。

注: 対話型モードは、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 が稼動している場合にのみ利用できます。

注: 対話型モードを使用する場合、デフォルトの出力ライブラリは Webwork になります。対話型モードで出力データを作成するプログラムを実行する場合は、ナビゲーションペインのライブラリセクションを更新して新しいデータを表示する必要があります。

プログラムを対話型モードで実行するには、ツールバーでをクリックします。対話型モードをオフにするには、を再度クリックします。プログラムの表示中にモードを変更すると、そのプログラムのログおよび結果はクリアされます。また、適切なツールバーでをクリックすると、ログと結果を手動でクリアできます。

注: 対話型モードで新規ライブラリを作成した場合、このライブラリは対話型モードをオフにすると使用できなくなります。ライブラリを対話型と非対話型の両方のモードで使用する場合は、ライブラリを非対話型モードで再度割り当てるか、autoexec.sas ファイルにライブラリの割り当てを追加します。詳細については、“[Autoexec ファイルの編集](#)”(17 ページ)を参照してください。

プログラムを対話型モードで実行すると、そのプログラムには、ODS ステートメントや%LET ステートメントなど SAS Studio によって自動的に生成されたコードは追加されません。また、結果は HTML でのみ生成されます。対話型モードでは、ログおよび結果は、既存のログおよび結果に追加されます。以前は、サブミットされたコードは、ユーザーがそのコードを終了するまでアクティブ状態でした。

たとえば、次のようなプログラムがあるとします。

```
proc sql;
  select * from sashelp.cars;

  select * from sashelp.class;
quit;
```

非対話型モードでこのコードの最初の 2 つの行を選択してサブミットすると、コードは正常に実行されます。次にこのコードの最後の 2 つの行を選択してサブミットすると、PROC SQL ステートメントが欠如しているためにコードの実行は失敗します。

対話型モードに切り替えて同じ手順を実行すると、最後の 2 つの行は正常に実行されます。これは、PROC SQL ステートメントが依然としてアクティブであるためです。

注: 特定のプロシージャに関するドキュメントについては、support.sas.com の SAS Programmer's Bookshelf をご覧ください。

コードスニペットの操作

コードスニペットを使用する理由

コードスニペットを使用すると、作成中のコードに SAS コードをすばやく挿入し、ニーズに合わせてそのコードをカスタマイズできます。SAS Studio には、いくつかのコードスニペットが付属しています。また、独自のスニペットを作成して、お気に入りのリストに追加することもできます。

スニペット名	説明
カタログ	
SOURCE エントリの編集	カタログに SOURCE エントリタイプのコンテンツを指定できます。SOURCE エントリには、SAS プログラムと同じコードを含めることができます。
カタログのリスト	指定したライブラリにあるすべてのカタログを SAS テーブルにリストします。デフォルトでは、このテーブルは同じファイル名のカタログとともに Work ライブラリに保存されています。
カタログエントリのリスト	指定したカタログに含まれるすべてのカタログタイプをリストします。
GRSEG エントリの表示	SAS Output Delivery System(ODS 出力)で指定されたオープンな宛先に GRSEG エントリを印刷します。
データ	

スニペット名	説明
DS2 コード	DS2 プログラムのテンプレートを提供します。DS2 は、高度なデータ操作に適した SAS プログラミング言語です。DS2 は、Base SAS に組み込まれており、基本的な機能を SAS DATA ステップと共有しています。DS2 には、変数のスコープ、ユーザ一定義のメソッド、ANSI SQL データ型、ユーザ一定義のパッケージが DATA ステップよりも多く含まれています。DS2 SET ステートメントでは、埋め込み FedSQL 構文を使用できます。実行時生成クエリでは、DS2 とサポートされているすべてのデータベースとの間で対話的にデータを交換できます。この機能によって、入力テーブルの SQL 前処理が可能になり、2 つの言語の力を効果的に結合できるようになります。詳細については、 <i>SAS DS2 Language Reference</i> を参照してください。
DS2 パッケージ	DS2 パッケージのテンプレートを提供します。パッケージは、DS2 プログラムに似ています。パッケージ本体は、一連のグローバル宣言とメソッドのリストにより構成されます。主な構文上の相違点は、PACKAGE ステートメントとENDPACKAGE ステートメントです。これらのステートメントでは、グローバルスコープでブロックを定義します。詳細については、 <i>SAS DS2 Language Reference</i> を参照してください。
DS2 スレッド	DS2 スレッドプログラムのテンプレートを提供します。通常、DS2 コードは順番に実行されます。つまり、1 つの処理の実行が完了してから、次の処理が開始されます。スレッド処理を使用することで、複数の処理を同時に実行することが可能になります。スレッド処理では、コードの各同時実行部分は、スレッド単位で実行されます。詳細については、 <i>SAS DS2 Language Reference</i> を参照してください。
CSV ファイルの生成	SAS データをカンマ区切りのテキストファイルとしてエクスポートできます。
PowerPoint スライドの生成	Microsoft PowerPoint の出力をお使いの Web ブラウザにストリーミングできます。
XML ファイルの生成	SAS データを、Web ブラウザに表示可能な XML ファイルとしてエクスポートできます。
CSV ファイルのインポート	カンマ区切りのファイルをインポートし、出力を SAS データセットに書き込むことができます。
XLSX ファイルのインポート	Microsoft XLSX ファイルをインポートして、出力を SAS データセットに書き込むことができます。

スニペット名	説明
線形回帰分析データのシミュレーション	線形回帰分析に使用できる入力データソースを作成できます。線形回帰分析では、最小二乗法を使用してデータに線形関数を割り当てます。
一元配置分散分析データのシミュレーション	3つの処理水準(条件群)を使用して因子(要因)を考慮するための入力データソースを作成できます。一元配置分散分析(One-Way ANOVA)タスクを使用してこのデータを分析する場合、その目的は、水準間の平均の差を求め、その差を数値化することにあります。
記述	
カスタム ODS 出力	SAS Output Delivery System を使用して、HTML、PDF、および RTF 出力を作成するためのテンプレートを提供します。詳細については、 <i>SAS Output Delivery System: ユーザーガイド</i> を参照してください。
PROC SQL	SQL クエリを記述するためのテンプレートを提供します。詳細については、 <i>SAS SQL プロジェクタユーザーガイド</i> を参照してください。
グラフ	
注: SGLOT、SGPANEL および SGSCATTER プロジェクタの詳細については、 <i>SAS ODS Graphics: プロジェクタガイド</i> を参照してください。	
バーパネル	SGPANEL プロジェクタの VBAR ステートメントを使用して複数の棒グラフを作成します。
箱パネル	SGPANEL プロジェクタの VBOX ステートメントを使用して複数の箱ひげ図を作成します。
比較散布図	SGSCATTER プロジェクタの COMPARE ステートメントを使用します。このコードスニペットを使用すると、共有の軸を持つ散布図の比較パネルを作成できます。
点線プロット	SGLOT プロジェクタの DOT ステートメントを使用します。点線プロットによって、カテゴリ変数の値が横方向に集計されます。デフォルトでは、各ドットは、カテゴリ変数の各値の頻度を表します。

スニペット名	説明
当てはめプロット	SGPLOT プロシージャの REG ステートメントを使用します。このコードスニペットにより、二次関数近似による回帰プロットが生成され、信頼限界が含まれます。
横棒プロット	SGPLOT プロシージャの HBAR ステートメントを使用します。このコードスニペットにより、カテゴリ変数の値を示す集計した棒グラフが作成されます。
高値-安値プロット	SGPLOT プロシージャの HIGHLOW ステートメントを使用します。高値-安値チャートは、1つの変数の複数の値が別の変数の1つの値にどのように関連しているかを示します。通常、横軸の各変数には縦軸上に複数の対応する値があります。
ヒストグラムプロット	SGPLOT プロシージャの HISTOGRAM ステートメントを使用します。このコードスニペットは、2つの密度プロットを使用してヒストグラムを生成します。このスニペットでは、一方の密度プロットで正規密度推定を使用し、他方の密度プロットで核密度推定を使用します。
散布図行列	SGSCATTER プロシージャの MATRIX ステートメントを使用します。このコードスニペットは、散布図行列を作成します。
縦箱ひげ図	SGPLOT プロシージャの VBOX ステートメントを使用します。箱ひげ図は、データを集計し、中央値、上四分位値、下四分位値、最小値、最大値を示した図です。この図は、中央値、分布、範囲、外れ値を簡単に示す概要図です。SGPLOT プロシージャと SG PANEL プロシージャには、横方向および縦方向の箱ひげ図を作成するための別個のステートメントがあります。

マクロ

注: SAS マクロの詳細については、SAS マクロ言語: リファレンスを参照してください。

スニペット名	説明
SAS マクロの文字関数	<p>文字値を操作する SAS マクロの例をいくつか示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ %EVAL 関数は、整数演算を使用して演算式と論理式を評価します。この関数は、引数を文字列値から数値または論理式変換することで動作します。式が評価された後、結果は変換されて文字値に戻ります。 ■ SAS マクロファシリティは基本的にテキストジェネレータであるため、この関数が役に立ちます。結果として、演算式は最初に数値式に変換されます。この数値式は評価された後、演算式に戻ります。 ■ %INDEX 関数は、文字列の最初の文字の位置を返します。 ■ %LENGTH 関数は、文字列の長さを返します。 ■ %SCAN 関数は、文字列内のその位置で指定される単語を検索します。 ■ %SUBSTR 関数は、文字列のサブ文字列を生成します。 ■ %UPCASE 関数は、値を大文字に変換します。
SAS マクロの Do ステートメント	<p>マクロ定義のセクションの開始位置を指定します。これは、一致する%END ステートメントが検出されるまではユニットとして扱われます。マクロセクションは%DO グループと呼ばれます。</p> <p>簡単な%DO ステートメントは、多くの場合%IF-%THEN-%ELSE ステートメントとともに出現し、%IF 条件が true であるか false であるかに従って、処理するマクロのセクションを指定します。</p> <p>注: SAS ではまた、このスニペットで生成されるコードとは異なる%DO 反復ステートメントを使用できます。詳細については、SAS マクロ言語: リファレンスを参照してください。</p>
SAS マクロの If ステートメント	<p>条件に従ってマクロの一部を処理します。%IF-%THEN-%ELSE ステートメントの条件式には、定数テキストまたはテキストを生成するテキスト式であるオペランドのみを含めることができます。</p>
SAS マクロのパラメータ	<p>マクロの実行時に値を指定する 1 つ以上のローカルマクロ変数の名前を指定します。マクロ変数には、位置とキーワードの 2 つのタイプがあります。パラメータは、これを定義するマクロに対してローカルです。各パラメータ名を指定する必要があります。テキスト式を使用して生成することはできません。パラメタリストには、カンマで区切ったマクロパラメータをいくつでも含めることができます。パラメタリストのマクロ変数は通常、マクロで参照されます。</p>

スニペット名	説明
SAS マクロ	<p>SAS マクロで使用する基本テンプレートを提供します。マクロを使用すると、プログラムでテキストを代入するなど、多くのタスクを実行できます。SAS プログラムには、マクロをいくつでも含めることができ、1つのプログラムから複数回呼び出すことができます。詳細については、SAS マクロ言語: リファレンスを参照してください。</p>
SAS マクロの引用符	<p>マクロプロセッサに特殊文字と二モニックをマクロ言語の一部ではなくテキストとして解釈するよう指示するマクロ関数の例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> %STR 関数は、マクロのコンパイル時に特殊文字と二モニック演算子を定数テキストにマスクします。この関数は、次の特殊文字と二モニック演算子をマスクします。 <pre>+ - * / < > = ~ ^ ~ ; , # blank AND OR NOT EQ NE LE LT GE GT IN</pre> <p>この関数は、次の文字がペアで出現した場合もマスクします。また、ペアの一一致がなくても前に%のマーク付けがある場合はマスクします。</p> <pre>' " ()</pre> %NRSTR 関数は、マクロのコンパイル時に特殊文字と二モニック演算子を定数テキストにマスクします。この関数は、%STR 関数にリストしたすべての特殊文字と二モニック演算子をマスクします。さらに、%NRSTR 関数は次の文字もマスクします。 <pre>& %</pre> %BQUOTE 関数は、マクロの実行時に特殊文字と二モニック演算子を解決される値にマスクします。この関数は、次の特殊文字と二モニック演算子をマスクします。 <pre>' " () + - * / < > = ~ ^ ~ ; , # blank AND OR NOT EQ NE LE LT GE GT IN</pre>

スニペット名	説明
SAS マクロの引用符 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> %SUPERQ 関数は、マクロの実行時に特殊文字と二モニック演算子をマスクしますが、それ以上の値の解決は行いません。この関数は、次の特殊文字と二モニック演算子をマスクします。 <pre>& % ! " () + - * / < > = ~ ^ ~ ; , # blank AND OR NOT EQ NE LE LT GE GT IN</pre> %QSCAN 関数は、単語を検索し、特殊文字と二モニック演算子をマスクします。 %QSUBSTR 関数は、サブ文字列を生成し、特殊文字と二モニック演算子をマスクします。 %QUPCASE 関数は、値を大文字に変換し、特殊文字と二モニック演算子をマスクした結果を返します。 %UNQUOTE 関数はマクロ実行中に値のマスクを解除して、特殊文字と二モニック演算子がテキストではなくマクロ言語要素として解釈されるようにします。 <p>マクロのコンパイルとマクロの実行の詳細については、SAS マクロ言語: リファレンスを参照してください。</p>
SAS マクロの変数	<p>ユーザー定義のグローバルマクロ変数およびローカルマクロ変数の作成方法の例を示します。マクロ変数は、シンボリック置換を使用して SAS プログラムのテキストを直接変更できるツールです。大量または少量のテキストをマクロ変数に割り当てることができます。その変数を参照するだけで、そこに含まれるテキストを使用できます。</p> <p>マクロプログラマによって定義されたマクロ変数は、ユーザー定義マクロ変数と呼ばれます。マクロプロセッサによって定義されたマクロ変数は、自動マクロ変数と呼ばれます。マクロ変数は、データ行以外であれば、SAS プログラムのどの場所でも定義および使用することができます。</p>
IML	
注: これらのスニペットは、SAS/IML ライセンスを保有しているサイトでのみ使用できます。	
Find Roots of Nonlinear Equation	1 つの変数の関数の根を求めます。関数の根(ゼロ)を求めることで、非線形方程式の解を求めることができます。
関数の統合	SAS/IML ソフトウェアで QUAD サブルーチンを使用して一次元関数を数値的に統合できます。QUAD サブルーチンを使用して、有限領域、半無限領域、無限領域の関数の定積分を求めます。

スニペット名	説明
ブートストラップ分布の生成	IML プロシージャを使用して、サンプルの平均のブートストラップ分布を作成して分析します。
最尤法を使用した当てはめ	最尤法を使用して、正規密度推定のパラメータを推定します。
多変量正規データのシミュレート	指定された平均および共分散を使用して多変量正規分布のデータのシミュレーションを実行します。

コードスニペットの作成

独自のスニペットを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 SAS Studio で.sas ファイルを開き、スニペットとして保存するコードを選択します。
- 2 コードタブで、 をクリックします。マイスニペットに追加ダイアログボックスが表示されます。
- 3 スニペットの名前を入力し、Save をクリックします。

このスニペットをマイスニペットフォルダから利用できるようになりました。

コードスニペットの挿入方法

コードスニippetをプログラムに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 作成中のプログラムで、スニペットを挿入する場所をクリックします。
- 2 ナビゲーションペインで、スニペットセクションを開きます。
- 3 スニペットをプログラムに追加するには、次の方法があります。
 - ドラッグアンドドロップ操作によってスニペットを移動します。
 - スニペットの名前をダブルクリックします。

- スニペットの名前を右クリックし、**挿入**を選択します。複数のスニペットを選択するには、Ctrl キーを使用します。次に右クリックし、**挿入**を選択します。

次に示す例では、XLSX ファイルのインポートスニペットがプログラムに挿入されています。

コードエディタのカスタマイズ

プリファレンスウィンドウでは、オートコンプリートやコードの色分けなど、コードエディタの機能に影響するいくつかのオプションを変更できます。

エディタのオプションにアクセスするには、をクリックし、**Preferences**を選択します。エディタを選択します。

オプション	説明
オートコンプリートを使用する	コードエディタのオートコンプリート機能を有効にします。この機能は、ユーザーが次に入力するキーワードをその入力が実際に完了する前に予測する機能です。詳細については、“ オートコンプリート機能の使用 ”(22 ページ)を参照してください。

オプション	説明
ヒントを有効にする	<p>作成中のプログラムで有効な SAS キーワードの上にマウスポインタを置くと、構文ヘルプウィンドウを表示されます。このオプションが選択されていない場合に構文ヘルプを表示するには、キーワードを右クリックして構文ヘルプを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。</p>
タブ幅	<p>タブ文字を挿入した場合にテキストに挿入されるスペースの数を表示します。デフォルトでは、タブ文字ごとに 4 つのスペースが挿入されます。</p> <p>注: Microsoft Internet Explorer および Apple Safari では、タブ文字の代わりにスペースが使用されています。これらのブラウザを使用している場合、タブ幅の値を使用するには、タブをスペースに置き換えるチェックボックスを選択する必要があります。</p>
タブをスペースに置き換える	<p>単一のタブ文字のかわりにタブ幅ボックスにリストされている数のスペースを挿入します。このオプションは、コードエディタで入力するテキストとコードエディタにペーストするテキストの両方に適用されます。</p>
コードの色分けを有効にする	<p>構文の異なる要素を識別しやすいように、コードエディタのテキストを異なる色で表示します。</p>
行番号を表示する	<p>プログラムの左端の列およびログウィンドウに行番号を表示します。</p>
フォントサイズ	<p>コードエディタおよびログウィンドウのテキストのフォントサイズを指定します。</p>
自動保存を有効にする	<p>以前編集して保存された各プログラムファイルの自動保存コピーを自動的に作成し、ブラウザが意図せずに閉じた場合にファイルを復旧できるようになります。新しいプログラムは、1 回保存するまでは自動保存されません。ファイルは自動保存の間隔オプションで指定された間隔で保存されます。デフォルト値は 30 秒です。</p>

3

クエリの操作

クエリとは	44
クエリの作成	44
新しいクエリの作成	44
クエリへのテーブルの追加	45
結合について	45
テーブルの結合	45
結合の作成	45
結合のタイプについて	48
既存の結合の変更	49
データの選択	50
出力での列の指定	50
要約関数の使用	52
データのフィルタリング	55
フィルタの作成	55
フィルタ間の関係の変更	57
出力の管理	58
出力の並べ替え	58
出力での重複行の排除	59
出力のグループ化	60
結果の保存	63
クエリの実行	64

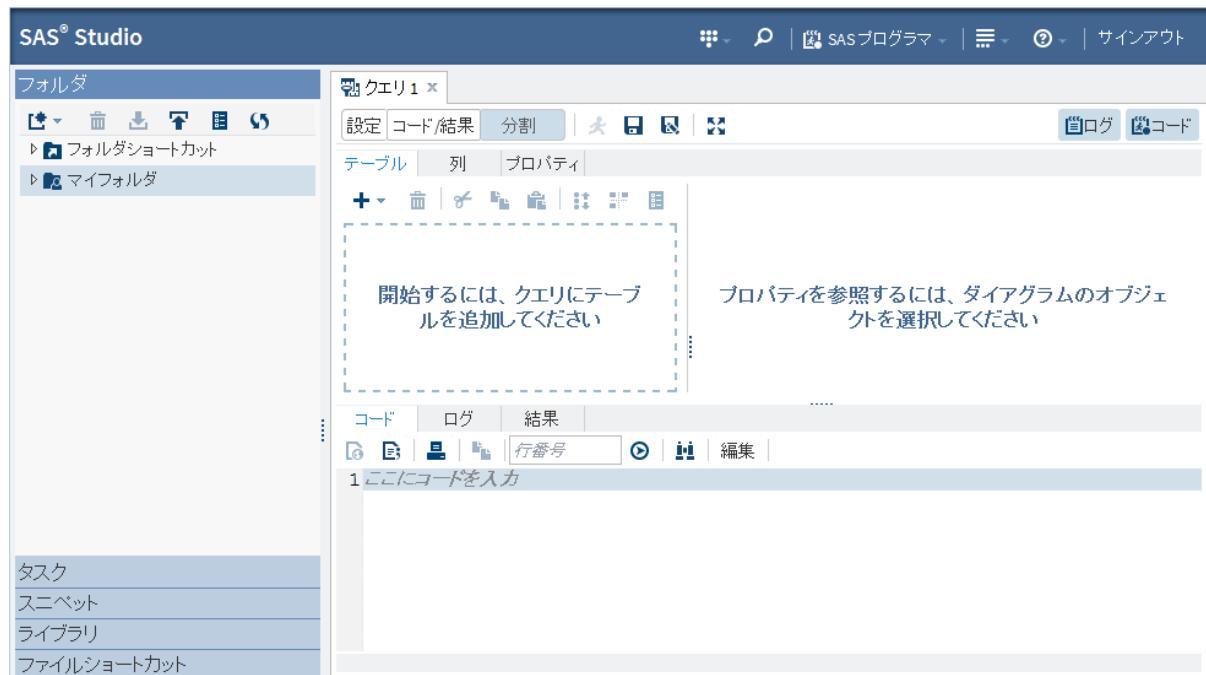
クエリとは

クエリを使用すると、指定した基準に従って1つ以上のテーブルからデータを抽出できます。1つのテーブルにのみ基づくクエリを作成することも、テーブルを結合することもできます。クエリを作成すると、SAS Studioで構造化照会言語(SQL)コードが生成され、このコードを表示することができます。クエリはSASプログラマパースペクティブとVisualプログラマパースペクティブの両方で作成できます。

クエリの作成

新しいクエリの作成

SAS Studioのメインツールバーで、をクリックし、新規クエリを選択します。ワークエリアの新しいタブにクエリウィンドウが表示されます。



クエリへのテーブルの追加

クエリウィンドウのテーブルタブで、**+**をクリックし、テーブルを選択します。テーブルの選択ウィンドウから、適切なライブラリを展開し、使用するテーブルを選択します。テーブルがクエリに追加されます。

注: ナビゲーションペインのライブラリセクションを使用してクエリにテーブルを追加することもできます。ライブラリをクリックし、適切なライブラリを展開します。使用するテーブルをクエリウィンドウのテーブルタブにドラッグします。

結合について

テーブルの結合

クエリを作成するときに、複数のテーブルを結合することができます。SAS Studio でテーブルを自動的に結合することも、手動で結合を作成することもできます。SAS Studio では、名前とタイプが同じ列を基準にしてテーブルを結合しようとなります。列の名前とタイプの一一致が見つからない場合は、結合基準を指定できます。

注: クエリに複数のテーブルが含まれている場合に、結合基準を指定しないと、出力データにデータ値のデカルト積、つまり可能なすべての組み合わせが含められます。

結合の作成

テーブルを追加し、結合を自動的に作成するには、次の操作を実行します。

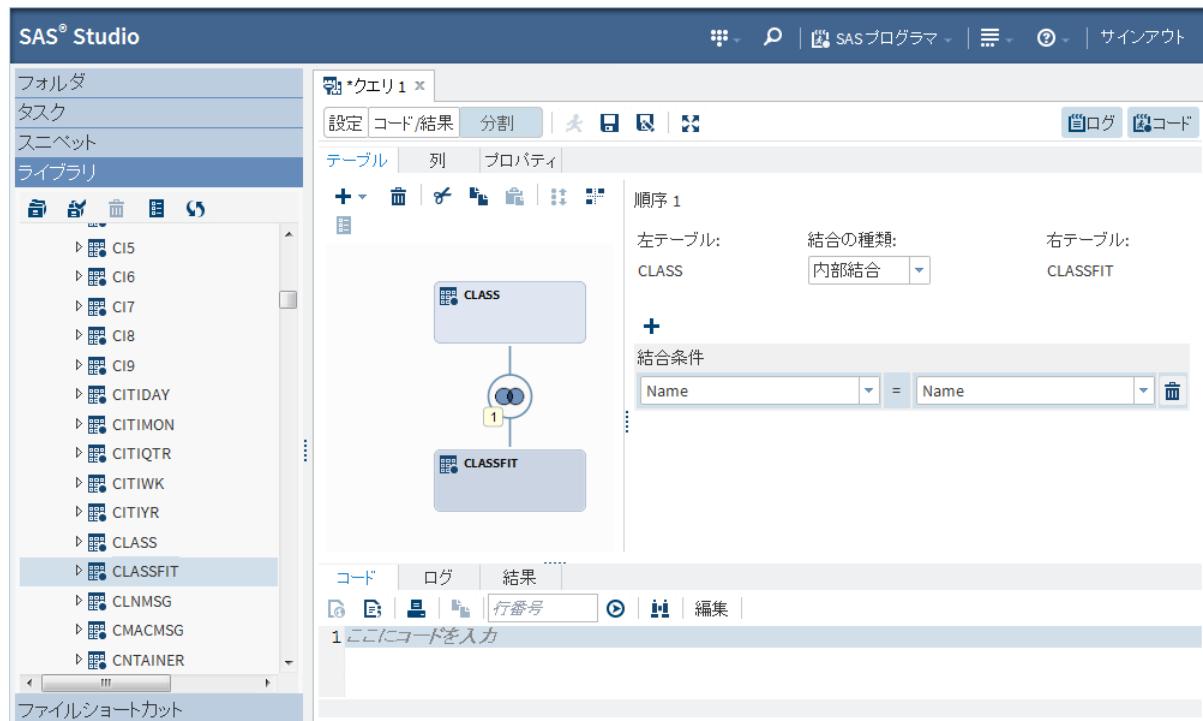
ナビゲーションペインのライブラリセクションから、追加するテーブルをテーブルタブのクエリにドラッグします。次に、クエリ内の 1 つ目のテーブルの上にそのテーブルをドロップして 2 つのテーブルを結合します。

The screenshot shows the SAS Studio interface with the 'Query Editor' window open. The left sidebar displays a file tree with various datasets like CITIQR, CITIWK, CITIYR, CLASS, etc. The 'CLASS' dataset is selected. The main area shows a 'CLASS' icon with a join symbol, indicating it's part of a query. To the right is a table definition for the 'CLASS' dataset:

名前	種類	長さ	出力形式	入力形式
Name	Char	12		
Sex	Char	4		
Age	Numeric	8		
Height	Numeric	8		
Weight	Numeric	8		

Below the table, there are tabs for 'コード', 'ログ', and '結果'. A code editor area contains the instruction: '1 ここにコードを入力'.

結合ウィンドウには、結合基準が表示されます。次の例では、Classfit テーブルが Class テーブルに対して、両方のテーブルの Name 列を使用して自動的に結合されています。



結合を自動的に作成できない場合は、結合条件を手動で指定できます。

結合を手動で作成するには、次の操作を実行します。

1 クエリウィンドウのテーブルタブで、結合するテーブルを表示できることを確認します。

2 ツールバーの+をクリックし、結合を選択します。新規結合ウィンドウが開きます。

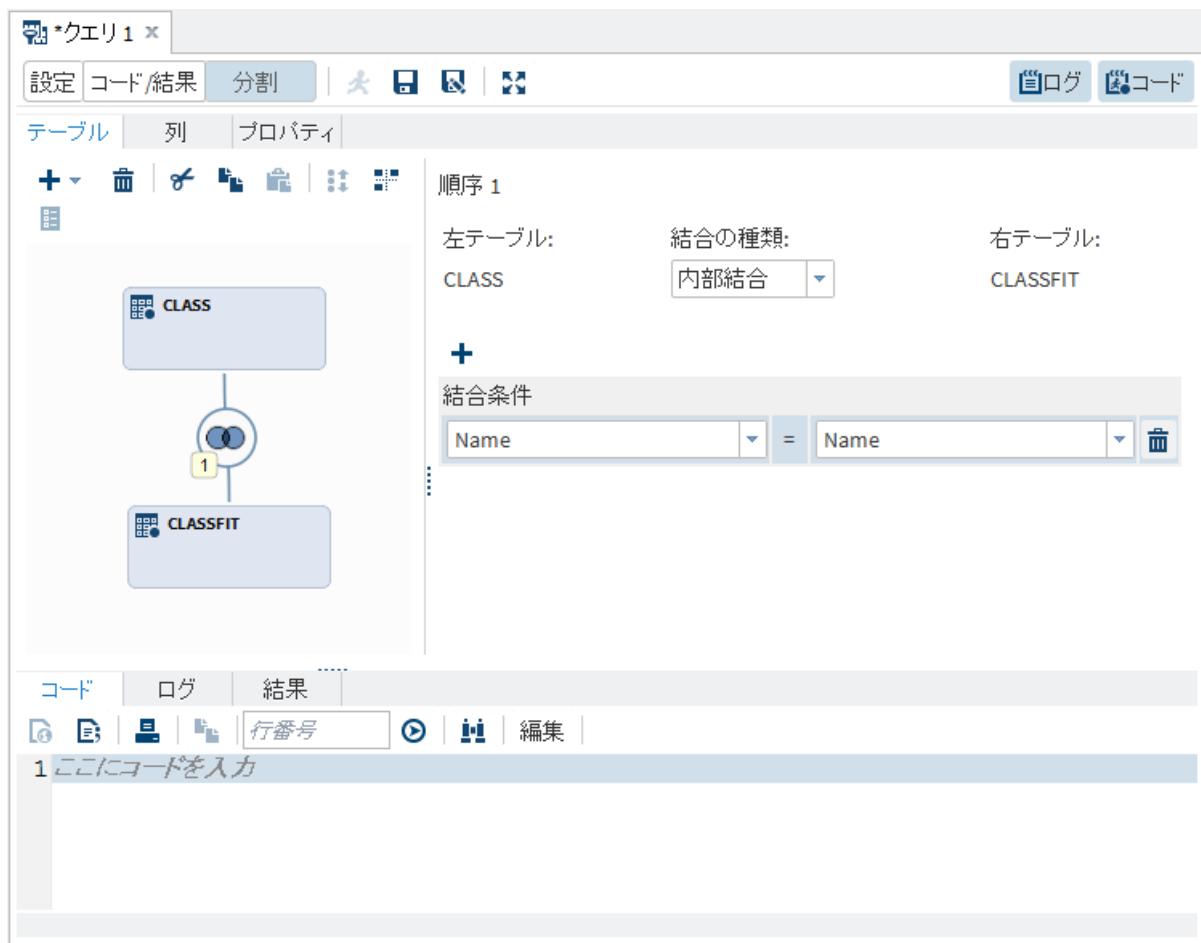


3 左テーブルドロップダウンリストから、結合の左側となるテーブルを選択します。

4 結合の種類ドロップダウンリストから、使用する結合のタイプを選択します。デフォルトの結合タイプは Inner join です。

5 右テーブルドロップダウンリストから、結合の右側となるテーブルを選択します。

- 6 保存をクリックします。テーブル間の結合が作成されます。テーブルに名前とデータタイプが一致する列が含まれている場合、結合条件が自動的に作成されます。テーブルに名前とデータタイプが一致する列が含まれていない場合は、列ドロップダウンリストから結合条件のための列を選択できます。



- 7 別の結合条件を結合に追加するには、**+**をクリックし、列ドロップダウンリストから使用する列を選択します。

結合のタイプについて

SAS Studio は 4 つの異なるタイプの結合をサポートします。既存の結合を変更して、必要な結合のタイプを選択できます。

使用する結合オプションを結合ウィンドウで選択できます。

SAS Studio の結合タイプ	結合のアイコン	説明
内部結合		出力行には、1つ目のテーブルの列が2つ目のテーブルの列の結合基準と一致する行が含まれます。結合のデフォルトは内部結合です。
左外部結合		出力行には、1つ目のテーブルのすべての行と、2つ目のテーブルの結合条件を満たす行が含まれます。
右外部結合		出力行には、2つ目のテーブルのすべての行と、1つ目のテーブルの結合条件を満たす行が含まれます。
完全結合		出力行には、両方のテーブルの一一致する行と一致しない行がすべて含まれます。

既存の結合の変更

既存の結合を変更するには、異なる結合タイプを選択するか、結合条件で使用される列を変更します。結合条件を追加および削除することも、結合全体を削除することもできます。

結合を変更するには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウィンドウのテーブルタブで、変更する結合インジケータをクリックします。結合が結合エリアに表示されます。
- 2 結合のタイプを変更するには、結合の種類ドロップダウンリストから新しいタイプを選択します。
- 3 新しい結合条件を追加するには、**+**をクリックし、結合に使用する列を指定します。結合条件を削除するには、該当する条件の横にあるxをクリックします。

結合全体を削除するには、結合インジケータを右クリックし、削除を選択します。

データの選択

出力での列の指定

デフォルトでは、列は出力に含まれません。出力テーブルに表示する列を指定する必要があります。また、出力テーブルの列名のかわりに使用する別名を指定することもできます。

選択タブでの列のリスト順序は、列が出力テーブルに表示される順序です。

出力テーブル用の列を選択するには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウィンドウで、列タブをクリックしてクエリのテーブルからの列のリストを表示します。
- 2 1つ以上の列を出力データに追加するには、それらの列を列リストから選択タブにドラッグします。また、選択タブのツールバーで $+$ をクリックし、列の選択ウィンドウから1つ以上の列を選択することもできます。

ビュー: 列名

テーブル	ソース列	列名	要約
CLASS	▲ Name	Name	
CLASS	⑫ Age	Age	
CLASSFIT	⑫ predict	predict	

```

9 FROM SASHELP.CLASS CLASS
10 INNER JOIN SASHELP.CLASSFIT CLASSFIT
11 ON
12   ( CLASS.Name = CLASSFIT.Name ) ;
13 QUIT;
14
15 %web_open_table(WORK.QUERY);

```

行 15, 列 29

列の別名を指定するには、次の操作を実行します。

- 選択タブで、各列に使用する別名を入力します。別名は、出力データの列ヘッダーとして使用されます。

選択 フィルタ 並べ替え グループ

重複しない行のみ選択する

テーブル	ソース列	列名	要約
CLASS	▲ Name	Student Name	
CLASS	⑫ Age	Age	
CLASSFIT	⑫ predict	predict	

コード ログ 結果 行番号 編集

```

10 FROM SASHELP.CLASS CLASS
11 INNER JOIN SASHELP.CLASSFIT CLASSFIT
12 ON
13 ( CLASS.Name = CLASSFIT.Name ) ;
14 QUIT;
15
16 %web_open_table(WORK.QUERY);

```

行 16, 列 29

要約関数の使用

クエリ内の任意の列に対して要約関数を実行できます。要約関数を実行するには、要約関数を実行する列を選択します。要約列のドロップダウンリストから、使用する関数を選択します。デフォルトでは、クエリで出力データセットが生成されます。次の例は、すべての生徒を対象に平均年齢を見付ける方法を示しています。

* クエリ 1 x

設定 コード/結果 分割 ログ コード

テーブル 列 プロパティ

ビュー: 列名

CLASS

- Name
- Sex
- Age**
- Height
- Weight

CLASSFIT

- Name
- Sex
- Age**
- Height

選択 フィルタ 並べ替え グループ

+ | ↑ ↓ 重複しない行のみ選択する

テーブル	ソース列	列名	要約
CLASS	Age	Age	AVG

コード ログ 結果

SQL CSV XLSX PDF RTF

デフォルトでは、クエリによって次の結果を含む出力テーブルが生成されます。

The screenshot shows the Power Query Editor interface with the following details:

- Top Bar:** Displays two tabs: "クエリ 1" and "WORK.QUERY".
- View Selection:** Shows "列名" (Column Name) selected.
- Toolbar:** Includes icons for Refresh, Stop, Run, and Filter, followed by a "フィルタ: なし" (Filter: None) button.
- Left Panel - Columns:** A list of columns:
 - すべて選択 (Select All)
 - 123 Age
- Table View:** Displays the query results with the following information:
 - 合計行数: 1 合計列数: 1
 - 行 1-1
 - Age
 - 1 13.315789474
- Bottom Panel - Properties:** A table showing properties and their values:

プロパティ	値
ラベル	
名前	
長さ	
種類	
出力形式	
入力形式	

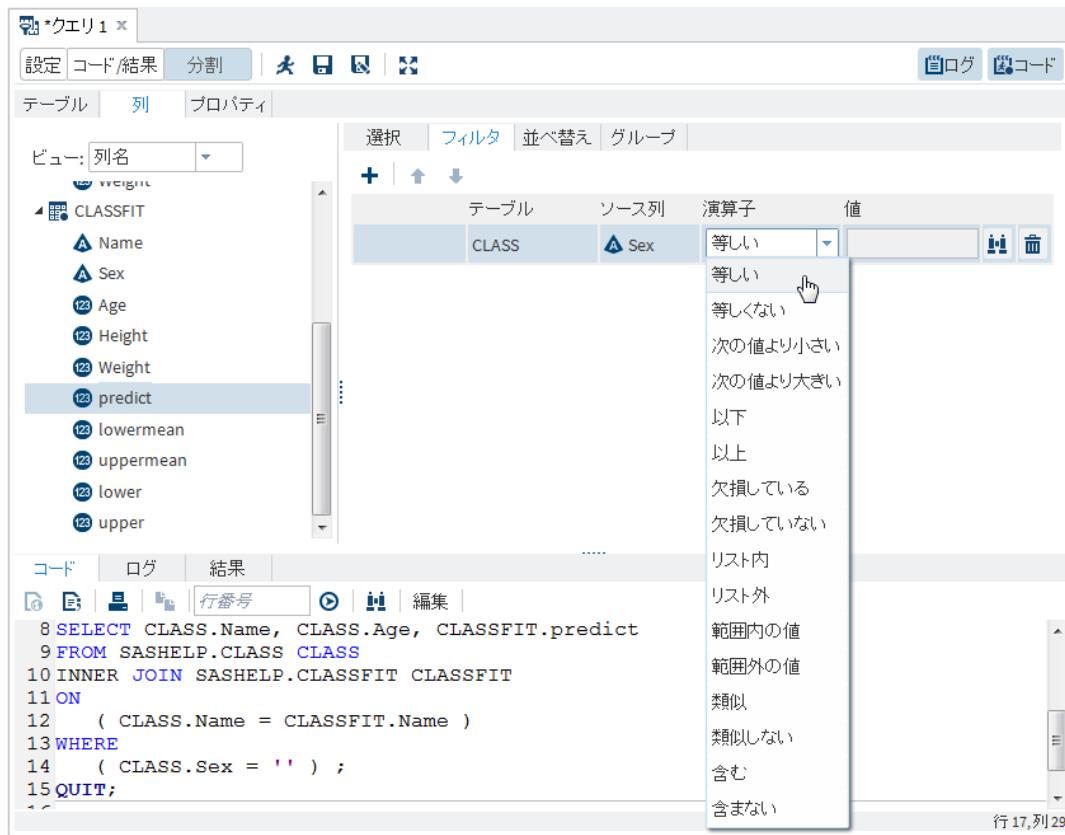
デフォルトでは、1つの列を要約するとき、出力は要約を行わないすべての列によってグループ化されます。詳細については、“[出力のグループ化](#)”(60 ページ)を参照してください。

データのフィルタリング

フィルタの作成

データのクエリを実行する場合、データの列の値に基づいて、特定の条件を満たす行のみを取得できます。取得する行を SAS Studio に知らせるプロセスをフィルタの設定と呼び、Filter タブで設定します。これは、SQL クエリで WHERE 句を使用することに相当します。

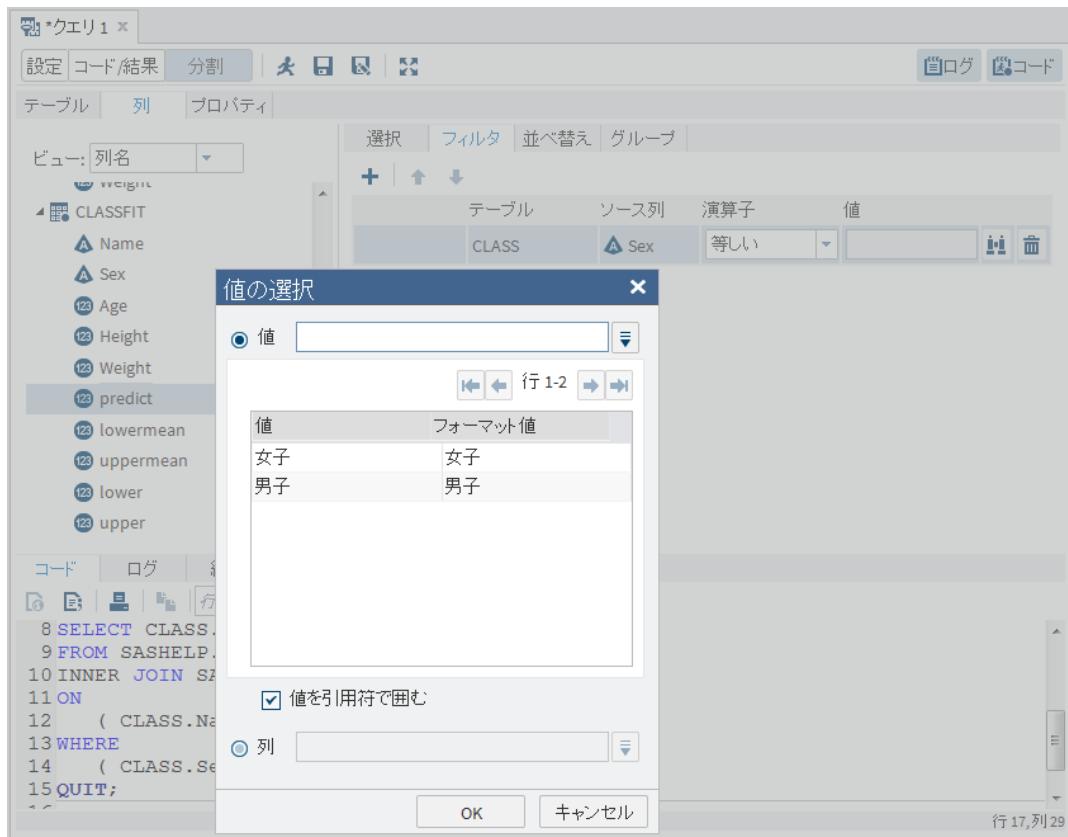
- 1 クエリウィンドウで、列タブをクリックしてクエリのテーブルからの列のリストを表示します。
- 2 1 つ以上の列をフィルタに追加するには、それらの列を列リストから Filter タブにドラッグします。また、Filter タブのツールバーで をクリックし、列の選択ウィンドウから 1 つ以上の列を選択することもできます。
- 3 演算子ドロップダウンリストから比較演算子を選択します。デフォルト値は Equals です。



- 4 選択した演算子に値が必要な場合は、をクリックして値の選択ウィンドウで値を入力するか選択します。値のリストから値を選択するには、をクリックし、値リストを展開します。使用する値を選択し、追加をクリックします。

注: 文字の列の値を選択するときに値を一重引用符で囲む場合は、**Enclose values in quotes** オプションを選択します。デフォルトで、このオプションは選択されています。フィルタ実行時に評価されるマクロ変数またはその他の値を使用する場合は、このオプションをクリアしてください。

列のリストから列を選択する場合は、をクリックし、**Column** リストを展開します。使用する列を選択し、追加をクリックします。



5 OK をクリックして、値をフィルタに追加します。

フィルタ間の関係の変更

フィルタで列を 1 つだけ使用することも、複数の列を使用して複数の比較式を作成することもできます。フィルタで複数の比較式を作成すると、これらのフィルタ要素間のデフォルトの関係は AND になります。フィルタ要素間の関係は AND から OR へ変更でき、要素はグループ化できます。

フィルタ間の関係を変更するには、次の操作を実行します。

- Filter タブで、関係の値をクリックし、新しい値を選択します。

選択 フィルタ 並べ替え グループ

テーブル	ソース列	演算子	値
CLASS	Sex	等しい	男子
CLASS	Age	次の値より大きい	12

```

10 INNER JOIN SASHELP.CLASSFIT CLASSFIT
11 ON
12   ( CLASS.Name = CLASSFIT.Name )
13 WHERE
14   (
15     ( CLASS.Sex = '男子' ) AND
16     ( CLASS.Age > 12 )
17   );

```

行 20, 列 29

出力の管理

出力の並べ替え

クエリで使用されるテーブルの 1 つ以上の列を基準にして、クエリからの出力を並べ替えることができます。

注: 出力対象として選択されていない列で出力テーブルを並べ替えることができます。

出力を並べ替えるには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウィンドウで、**並べ替え**タブをクリックします。

- 2 並べ替えタブに 1 つ以上の列を追加するには、それらの列を列リストから並べ替えタブにドラッグします。また、並べ替えタブのツールバーで **+** をクリックし、列の選択ウィンドウから 1 つ以上の列を選択することもできます。
- 3 データを並べ替える列の **並べ替えボックス**をクリックします。ドロップダウンリストから、昇順または降順を選択します。デフォルトの並べ替え方向は昇順です。

The screenshot shows the SAS Studio interface with the following details:

- Top Bar:** 星印 クエリ 1 ×, 設定, コード/結果, 分割, フィルタ, 並べ替え, グループ, ログ, コード.
- Left Panel:** テーブル, 列, プロパティ. ビュー: 列名.
- Table View:** CLASS table with columns: Name, Sex, Age, Height, Weight. CLASSFIT table with columns: Name, Sex, Age.
- Toolbar:** 並べ替え (highlighted), フィルタ, グループ, ログ, コード.
- Context Menu (Open):** 選択, フィルタ, 並べ替え, グループ. The '並べ替え' dropdown is open, showing options: 昇順 (selected), 昇順, 降順.
- Code View:** 行番号, 編集. The code is as follows:

```

15      ( CLASS.Name = CLASSFIT.Name )
16 WHERE
17  (
18      ( CLASS.Age > 12 ) AND
19      ( CLASS.Sex = '男子' )
20  )
21 )
22 ORDER BY Age ASC;
23 QUIT;

```
- Status Bar:** 行 23, 列 6

- 4 複数の列で並べ替える場合、まず出力テーブルは、1 番目にリストされている列で並べ替えられます。1 番目の列の各レベル内で、行がリストの 2 番目の列で並べ替えられ、以降も同様に処理されます。並べ替え順序を変更するには、列を選択し、**↑**と**↓**をクリックしてリスト内で列を上下に移動します。

出力での重複行の排除

クエリのタイプによっては、同じ行が複数出力される場合があります。通常、これらの重複行は使用しないため、SAS Studio を使用して同じ行を 1 つだけ保持し、重複を排除できます。

重複行を排除するには、Select タブをクリックし、**Select distinct rows only** チェックボックスを選択します。

出力のグループ化

要約列を作成した場合、1つの列の値に基づいてデータをグループに分類するよう選択できます。これは、SQL クエリで GROUP BY 句を使用することに相当します。たとえば、生徒のグループの平均身長を計算している場合、結果を年齢別にグループ化して、各年齢グループの平均身長を確認できるようにします。

デフォルトでは、1つの列に対して要約関数を実行するとき、クエリは要約を行わないすべての列によってグループ化されます。クエリをグループ化する基準となる列のリストを編集できます。

出力をグループ化するには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウインドウで、グループタブをクリックします。
- 2 グループタブに 1 つ以上の列を追加するには、それらの列を列リストからグループタブにドラッグします。また、グループタブのツールバーで をクリックし、列の選択ウインドウから 1 つ以上の列を選択することもできます。

```

14 (
15 ( CLASS.Age > 12 ) AND
16 ( CLASS.Sex = '男子' )
17 )
18 GROUP BY CLASS.Age;
19 QUIT;

```

行 19, 列 6

- 3 データのグループ化における列の使用順序を変更するには、移動する列を選択し、**↑**と**↓**をクリックします。

次の例は、各年齢グループで生徒の平均体重を見付ける方法を示しています。最初に、Age 列と Weight 列を Select タブに追加し、Weight 列で AVG 要約関数を選択します。

62 3章 / クエリの操作

The screenshot shows the Oracle SQL Developer Query Builder window titled "クエリ 1". The top navigation bar includes tabs for "設定", "コード/結果", "分割", and "列". On the right, there are "ログ" and "コード" buttons. The main area has tabs for "テーブル", "列", and "プロパティ", with "列" selected. A left sidebar lists tables: "CLASS" (Name, Sex, Age, Height, Weight) and "CLASSFIT" (Name, Sex, Age). The main panel displays a "選択" (Select) grid with two rows:

テーブル	ソース列	列名	要約
CLASS	Age	Age	
CLASS	Weight	Weight	AVG

An unchecked checkbox "重複しない行のみ選択する" (Select only unique rows) is visible above the grid.

生徒の平均体重を年齢別に表示するため、Age 列でグループ化します。結果には、次のように平均体重が年齢グループごとに示されます。

ビュー: 列名

選択 フィルタ 並べ替え グループ

+ | ↑ | ↓

テーブル	ソース列
CLASS	123 Age

コード ログ 結果

Age	Weight
11	67.75
12	94.4
13	88.888867
14	101.875
15	117.375
16	150

注: デフォルトでは、クエリによって結果のテーブルが生成されます。結果のレポート(結果タブに表示される)を生成するには、クエリの出力タイプとしてレポートを指定する必要があります。詳細については、“[結果の保存](#)”(63 ページ)を参照してください。

結果の保存

結果は、データテーブル、データビューまたはレポートの 3 つのいずれかの形式で生成できます。

結果をデータテーブルまたはデータビューとして保存する場合は、使用するライブラリとファイル名を指定できます。ライブラリとファイル名を指定しない場合、結果は Work ライブラリに保存されます。

結果の形式を指定するには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウィンドウで、**設定タブ**をクリックします。
- 2 プロパティタブをクリックします。結果エリアで、出力の種類ドロップダウンリストから使用する形式を選択します。

Report

HTML、PDF または RTF ファイル形式でダウンロードできるレポートとしてクエリ結果を保存します。この形式のクエリ結果は、クエリを再実行するまで更新されません。この形式のクエリ結果に対して SAS タスクを実行できません。

Table

SAS タスクの実行対象にできる、静的データテーブルとしてクエリ結果を保存します。この形式のクエリ結果は、クエリを再実行するまで更新されません。デフォルトでは、データテーブルは Work ライブラリに保存されます。

View

SAS タスクの実行対象にできる、動的データビューとしてクエリ結果を保存します。データビュー形式でクエリ結果を開いたびに、クエリで使用されているデータへの変更を反映して結果が更新されます。デフォルトでは、データビューは Work ライブラリに保存されます。

結果を特定の場所に保存するには、次の操作を実行します。

- 1 クエリウィンドウで、**設定タブ**をクリックします。
- 2 プロパティタブをクリックします。結果エリアで、結果を保存するライブラリの名前を出力の場所ボックスに入力します。
- 3 結果の名前を指定するには、使用する名前を出力名ボックスに入力します。

クエリの実行

クエリのすべての基準を指定した後に、クエリウィンドウのツールバーで  をクリックして結果を生成できます。出力データはワークスペースの別のタブに表示されます。

4

プロセスフローの操作

プロセスフローについて	66
プロセスフローとは	66
プロセスフローの作成	67
ポートとは	67
各ノードのステータスについて	69
プロセスフローのカスタマイズ	70
プロセスフローのプロパティの表示	70
プロセスフローへの SAS プログラムの追加	71
新規 SAS プログラムの作成	71
既存の SAS プログラムの追加	73
スニペットの追加	73
プロセスフローへのクエリの追加	77
新しいクエリの作成	77
プロセスフローへの既存のクエリの追加	78
プロセスフローへのタスクの追加	79
サブフローについて	81
サブフローとは	81
新しいサブフローの作成	82
既存のプロセスフローからのサブフローの作成	83
プロセスフローでのノードのリンク	84
プロセスフローの実行	85

プロセスフローについて

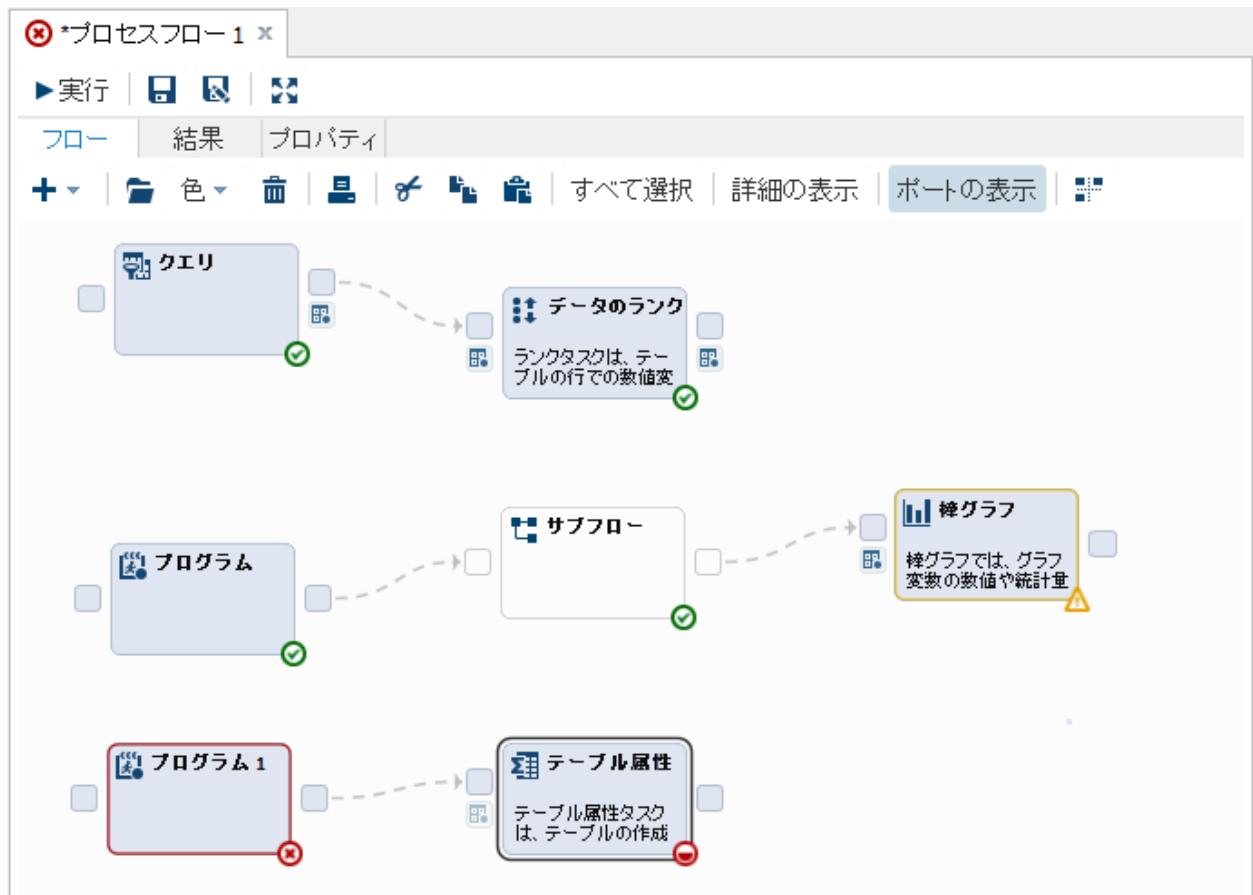
プロセスフローとは

プロセスフローを操作するには Visual Programming パースペクティブで作業する必要があります。Visual Programming パースペクティブの詳細については、“[パースペクティブについて](#)”(16 ページ)を参照してください。

プロセスフローは 1 つ以上のオブジェクトで構成されています。各オブジェクトはプロセスフローのノードで表されます。プロセスフローには、SAS プログラム、タスク、クエリなどの 2 つ以上のオブジェクト間の関係が示されます。

このプロセスフローの例には、次の 3 つのブランチが含まれています。

- 最初のブランチでは、Sashelp.Classfit データセットに対してクエリが作成されます。このクエリの結果、Sex が M であるオブザベーションのみが出力データセット(Webwork.Query)に含まれます。データのランクタスクは、身長と体重の値を年齢別にランク付けします
- 2 つ目のブランチでは、出力データセットを生成する SAS プログラムを作成します。このプログラムの実行後、さらに多くのプログラムとタスクノードを含むサブフローが実行されます。最後に、SAS Studio は棒グラフノードの実行を試みます。しかし、このタスクでは警告が生成されます。
- 3 つ目のブランチでは、SAS プログラムでエラーが生成されます。テーブル属性ノードの情報が不完全です。SAS Studio は、必要なデータが指定されるまでプロセスフローを実行できません。



プロセスフローの作成

SAS Studio では、複数のプロセスフローを使用できます。これらのプロセスフローはそれぞれ別個に実行されます。新しいプロセスフローを作成するには、をクリックし、**New Process Flow** を選択します。新しいプロセスフロータブがインターフェイスに表示されます。

ポートとは

プロセスフローでは、次の 2 つのタイプのポートを使用できます。

制御ポート

プロセスフローで、これらのタイプのポートは□として表示されます。これらのポートを使用して、プロセスフローでノードが実行される順序を指定します。詳細については、“[プロセスフローでのノードのリンク](#)”(84 ページ)を参照してください。

データポート

プロセスフローで、これらのタイプのポートは■として表示されます。

タスクを実行するときに、入力データソースを指定する必要があります。タスクインターフェイスで入力データソースを指定します。プロセスフローから、入力データポートにマウスポインタを置くことにより、入力データソースの名前を確認できます。別のタブでデータソースを表示するには、Data Port アイコンをダブルクリックします。

この例では、データの並べ替えタスクの入力データソースは SASHELP.CLASSFIT です。



データの並べ替えタスクなど、データカテゴリのタスクには、出力データソースと入力データソースがあります。出力データポートを使用して出力データソースの名前を確認できます。別のタブでデータソースを表示するには、Data Port アイコンをダブルクリックします。

この例では、データの並べ替えタスクの出力データソースは WORK.SORT です。



デフォルトでは、ポートはプロセスフローに表示されます。ポートの表示をオフにするには、**Show Ports** をクリックします。

各ノードのステータスについて

プロセスフローを実行するときに、正常に実行されるノードと、実行されないノードがあります。各ノードのステータス、ノードの実行にかかった時間、および出力データが作成されたかどうかを確認するには、**結果タブ**をクリックします。

これは、前のプロセスフローの**結果タブ**の内容です。

名前	ステータス	経過時間	出力
クエリ	成功	0:0:0:0.711	WORK.QUERY
データのランク	成功	0:0:0:0.707	WORK.Rank
プログラム	成功	0:0:0:0.825	
サブフロー	成功		
棒グラフ	警告	0:0:0:1.419	
プログラム 1	成功	0:0:0:0.945	
テーブル属性	成功	0:0:0:1.214	WORK.TableAttributes

次のアイコンを使用して、プロセスフローの各ノードのステータスを確認できます。

アイコン	説明
	SAS Studio でノードを実行するにはさらに多くの情報が必要であることを示します。たとえば、このアイコンがタスクノードに表示された場合は、タスクに必須オプションの値を指定する必要があります。このアイコンは、SAS Studio が実行を試みた後で空のサブフローノードに表示される場合もあります。
	ノードが実行するキュー内にあることを示します。



ノードのコードがサブミットされたことを示します。



ノードのコードで警告が生成されたことを示します。詳細については、そのノードのログを確認してください。



ノードのコードでエラーが生成されたことを示します。詳細については、そのノードのログを確認してください。

プロセスフローのカスタマイズ

プロセスフローは次の方法でカスタマイズできます。

- ノードまたはノードのグループに対して色を指定するには、対象のノードを選択し、**Color**をクリックします。ドロップダウンリストから、使用する色を選択します。
- デフォルトでは、プロセスフローのオブジェクトを自由に配置できます。ただし、プロセスフローに多数のオブジェクトが含まれていると、わかりづらくなる可能性があります。SAS Studio の■をクリックすると、プロセスフローのオブジェクトを整列できます。ノードの整列時に、SAS Studio では依存関係と、ノードをプロセスフローに追加した順序考慮されます。

プロセスフローのプロパティの表示

現在のプロセスフローのプロパティを表示するには、**プロパティタブ**をクリックします。プロパティから、ノードの実行の優先順位を指定できます。プロセスフローは、ノードがプロセスフローに追加された順序でノードを実行します。ノード 1 が別のノード 2 に依存している場合、ノード 1 を実行する前にノード 2 を完全に実行する必要があります。またノードの並列実行を選択することもできます。この場合、複数の Workspace Server を使用してノードが実行されます。その結果、ノードは共通の Work ライブラリを共有しないため、SAS Studio は生成された出力を Webwork ライブラリに保存します。

プロセスフローへの SAS プログラムの追加

新規 SAS プログラムの作成

新しい SAS プログラムをプロセスフローに追加するには、次の操作を実行します。

- 1 + をクリックし、SAS プログラムを選択します。SAS プログラムのノードがプロセスフローに追加されます。
- 2 ノードを選択し、■ をクリックします(ノードを選択し、Enter キーを押すこともできます)。コードエディタが表示されます。
- 3 プログラムのコードを入力します。

The screenshot shows the SAS Studio interface with a process flow titled "プロセスフロー 1". A new program node has been added to the flow. The node's code editor is open, displaying the following SAS code:

```
1 proc print data=sashelp.classfit;
2 run;
```

- 4 プログラムに名前を付けてプログラムの簡単な説明を指定してメモを含めるには、ノードタブをクリックします。

プロセスフロー 1 > PROC PRINT

コード ログ 結果 ノード

▲ ID

ラベル:
PROC PRINT

説明:
SASHHELP.CLASSFIT データセットの印刷

作成: 2015/2/11 13:40:00
更新: 2015/2/11 13:43:29

▲ 情報

情報:
このプログラムを一日に一度のみ実行。

プロセスフローの SAS プログラムノードに、ノードタブで指定した名前と説明が含まれるようになりました。

プロセスフロー 1

▶ 実行 | フロー | 結果 | プロパティ

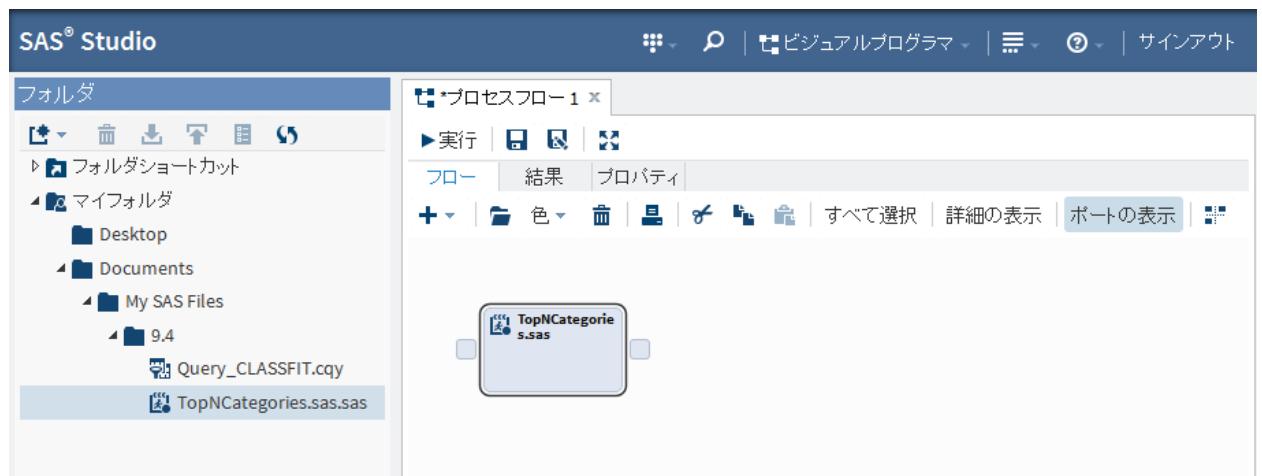
+ | 色 | 廃止 | 選択 | すべて選択 | 詳細の表示 | ポートの表示 |

PROC PRINT
SASHHELP.CLASSFIT データセットの印刷

既存の SAS プログラムの追加

プロセスフローに含める SAS プログラムをすでに作成しているとします。このプログラムを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**フォルダセクション**をクリックします。
 - 2 追加するプログラムが見つかるまで**フォルダセクション**内の**フォルダ**を展開します。
 - 3 追加するプログラムを選択し、プロセスフローにドラッグします(緑のチェックマークは、このファイルをプロセスフローに追加できることを示します)。
- この例では、既存の TopNCategories.sas ファイルを SAS Studio のプロセスフローに追加しています。



スニペットの追加

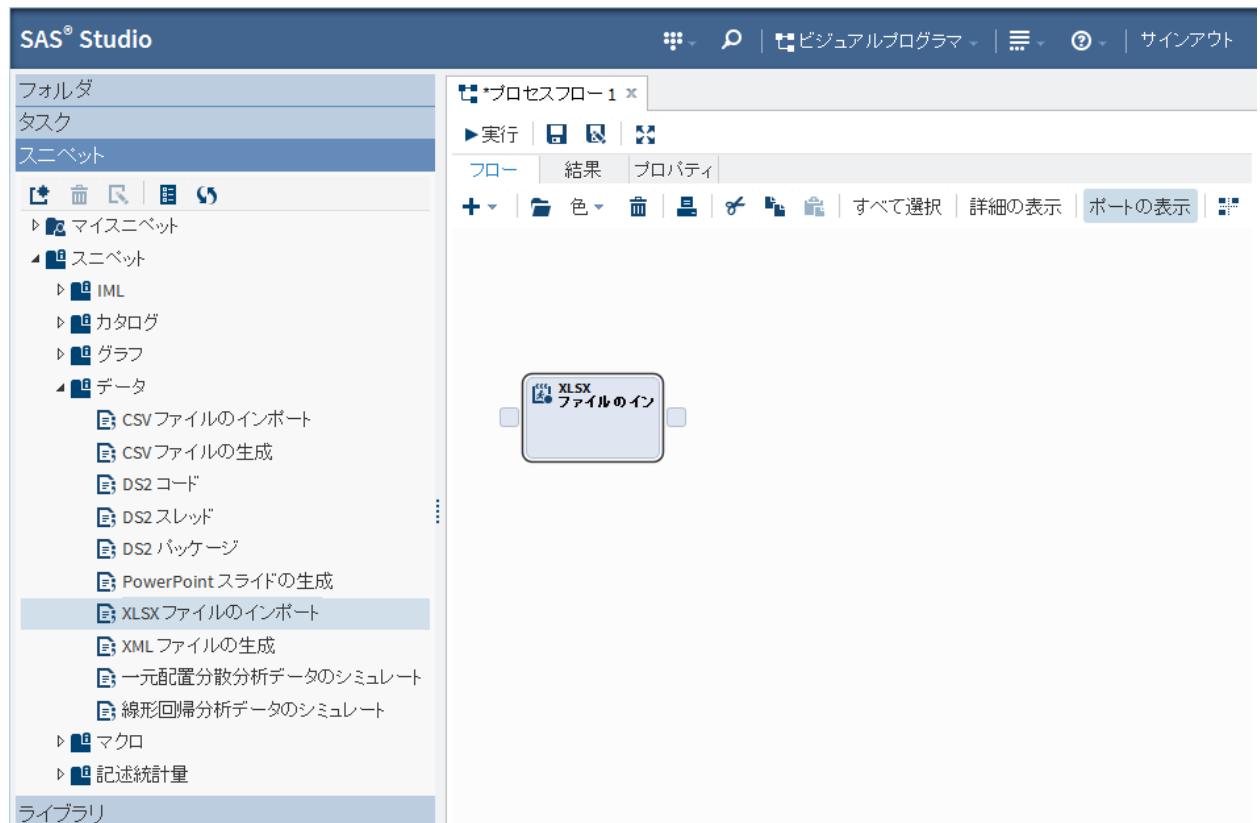
スニペットを SAS プログラムの開始点として使用できます。

スニペットをプロセスフローに追加するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**スニペット**を選択します。

2 スニペットセクションで、追加するスニペットを選択してから、プロセスフローにドラッグします。

この例では、Import XLSX File スニペットをプロセスフローに追加します。



3 スニペットのコードを表示するには、スニペットノードを選択し、**≡**をクリックします(ノードを選択し、Enter キーを押すこともできます)。必要に応じてコードを編集します。

次に示すのは、Import XLSX File スニペットのコードです。この例では、インポートする XLSX ファイルの場所をコードで指定しています。

The screenshot shows the SAS Process Flow interface. A window titled "プロセスフロー 1" is open, specifically the "コード" (Code) tab. The code editor displays the following SAS code:

```
1 /** Import an XLSX file. **/
2
3 PROC IMPORT DATAFILE=<Your XLSX File>
4           OUT=WORK.MYEXCEL
5           DBMS=XLSX
6           REPLACE;
7 RUN;
8
9 /** Print the results. **/
10
11 PROC PRINT DATA=WORK.MYEXCEL; RUN;
```

The code imports an XLSX file into a dataset named MYEXCEL in the WORK library, using the XLSX DBMS and replacing existing data. It then prints the results of the dataset.

- 4 作成したプログラムに名前を付けてプログラムの簡単な説明を指定してメモを含めるには、ノードタブをクリックします。

プロセスフロー 1 X

プロセスフロー 1 > XLSX ファイルのインポート

コード ログ 結果 ノード

▲ ID

ラベル:
XLSX ファイルのインポート

説明:
Sales.XLSX ファイルのインポート

作成: 2015/2/11 14:07:18
更新: 2015/2/11 14:13:42

▲ 情報

情報:

プロセスフローの Import XLSX File ノードに、指定した説明が含まれるようになりました。



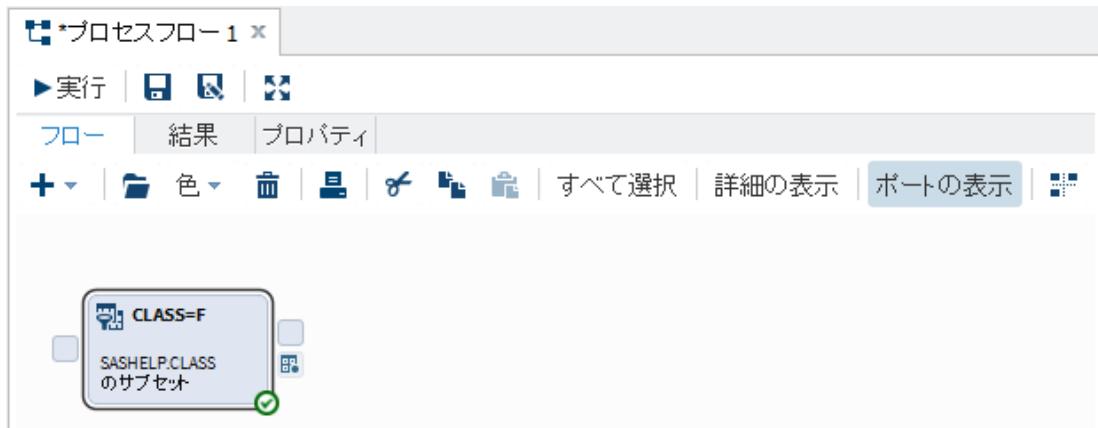
プロセスフローへのクエリの追加

新しいクエリの作成

新しいクエリを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 **+**をクリックし、クエリを選択します。クエリのノードがプロセスフローに追加されます。
- 2 ノードを選択し、**■**をクリックします。クエリビルダが表示されます。
- 3 クエリビルダを使用してクエリを定義します。詳細については、“[新しいクエリの作成](#)”(44 ページ)を参照してください。
- 4 クエリの結果のタイプを定義するには、プロパティタブを使用します。詳細については、“[結果の保存](#)”(63 ページ)を参照してください。
- 5 クエリノードに名前を付けてクエリの簡単な説明を指定してメモを含めるには、ノードタブをクリックします。

プロセスフローのビューに戻るには、ブレッドクラムでプロセスフローの名前を選択します。プロセスフローのクエリノードに、ノードタブで指定した名前と説明が含まれるようになりました。

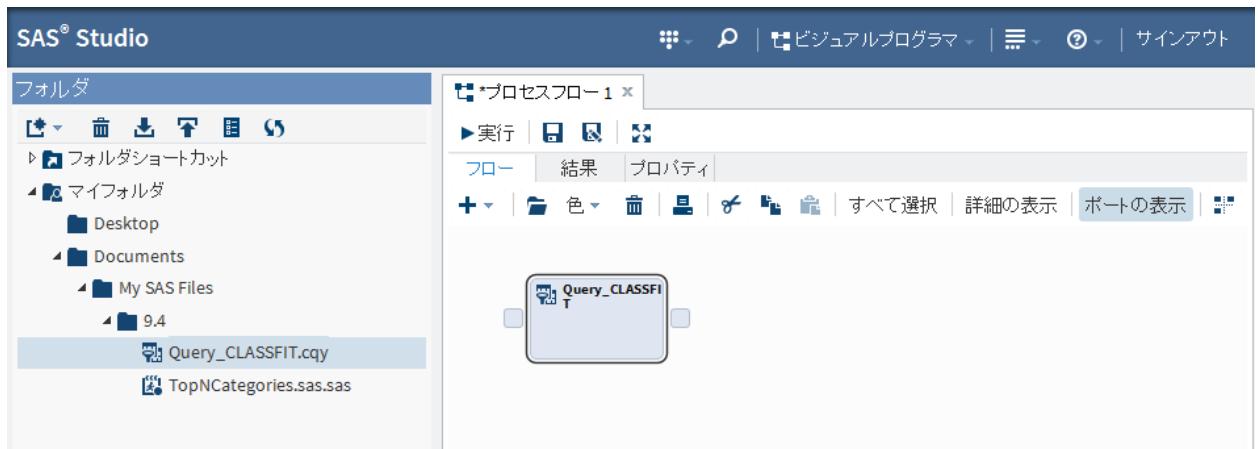


プロセスフローへの既存のクエリの追加

プロセスフローに含めるクエリをすでに作成しているとします。このクエリを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**フォルダセクション**をクリックします。
- 2 追加するプログラムが見つかるまで**フォルダセクション**内の**フォルダ**を展開します。
- 3 追加するクエリを選択し、プロセスフローにドラッグします(緑のチェックマークは、このファイルをプロセスフローに追加できることを示します)。

この例では、既存の Query_CLASSFIT ファイルを SAS Studio のプロセスフローに追加しています。

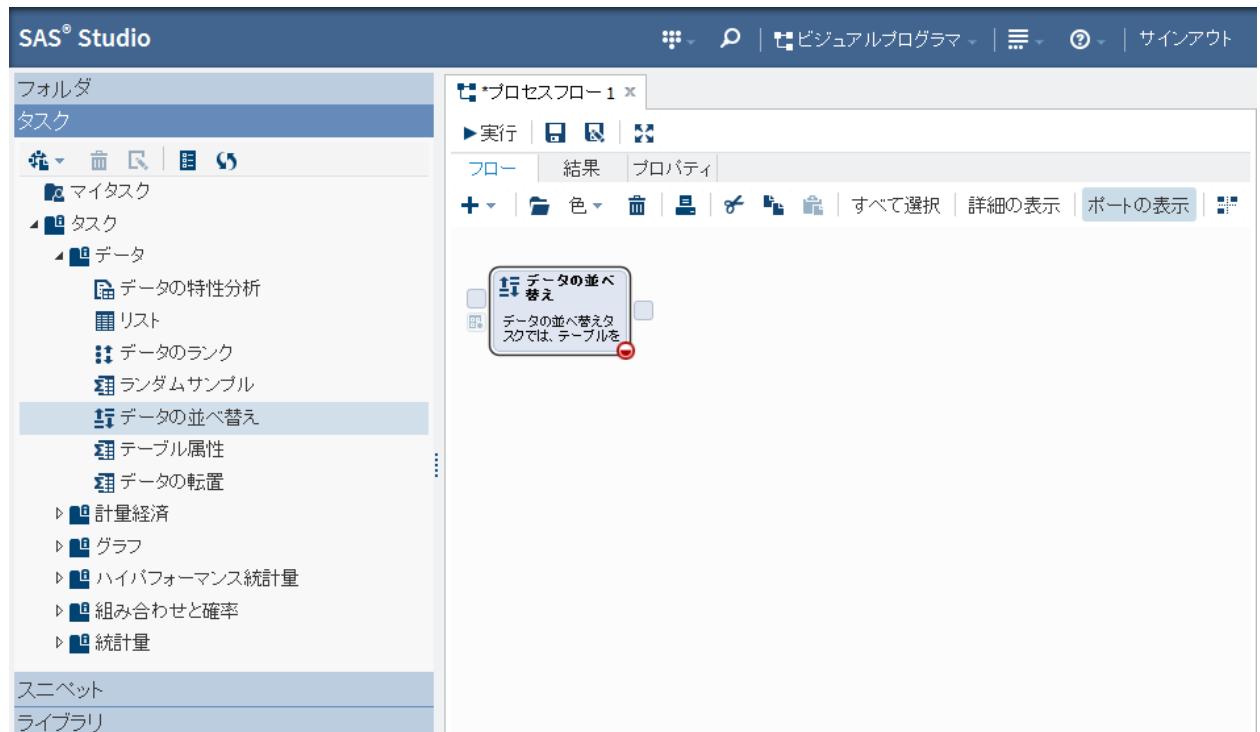


プロセスフローへのタスクの追加

カスタムタスクと SAS Studio に付属しているタスクをプロセスフローに追加できます。

- 1 ナビゲーションペインで、**タスクセクション**をクリックします。
- 2 追加するタスクを選択し、プロセスフローにドラッグします

これは、データの並べ替えタスクを含むプロセスフローの例です。



- 3 タスクノードを選択し、■をクリックします。タスクを実行するには、必須オプションの値を指定する必要があります。

これは、データの並べ替えタスクのユーザーインターフェイスです。

プロセスフロー 1 > データの並べ替え

設定 コード/結果 分割 | 大 | Q | X |

ログ コード

データ オプション 情報 |

データ
SASHHELP.CLASS

役割

*並べ替え: +

削除する変数: +

コード | ログ | 結果 |

行番号 |

```

1 /* 
2 *
3 * コードを生成できません。次の
4 * 役割が設定されていません:
5 *
6 *   1 並べ替え
7 *
8 *
9 */
10
11

```

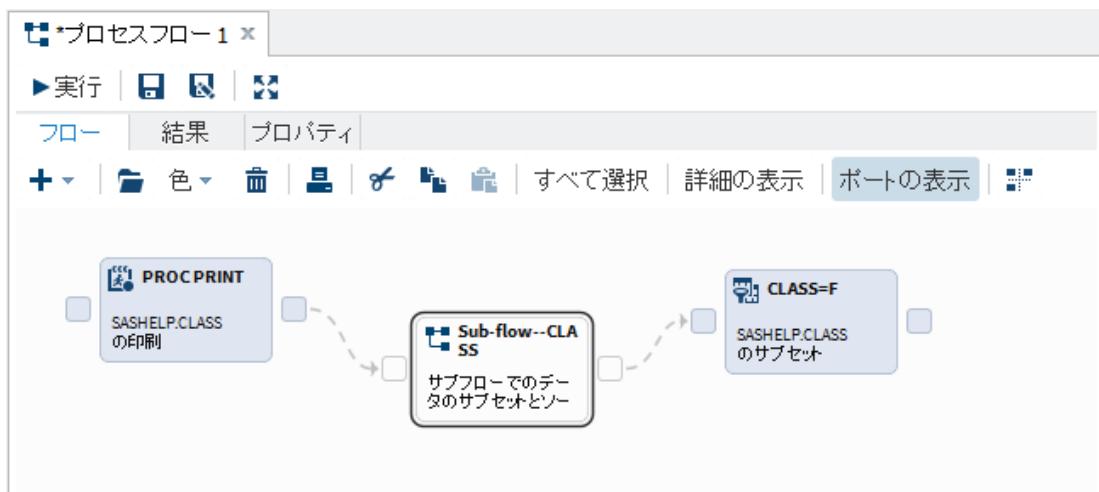
タスクを実行するときには、タスクのオプションで指定した値が使用されます。

サブフローについて

サブフローとは

プロセスフロー内には、サブフローを含めることができます。これらのサブフローには 1 つ以上のオブジェクトが含まれます。サブフローを作成すると、プロセスフロー全体を実行せずにサブフロー内でノードを簡単に実行できるというメリットがあります。サブフローがプロセスフロー全体の別のノードにリンクする場合、SAS Studio で後続のノードが実行される前にサブフローを実行して完了する必要があります。

この例では、PROC PRINT という名前のプログラミングノード、サブフローのノード、および CLASS=F という名前のクエリノードの 3 つのノードがあります。SAS Studio で CLASS=F ノードが実行される前に、サブフローノード内のすべてのノードが実行されなければなりません。デフォルトでは、サブフローのノードは白です。

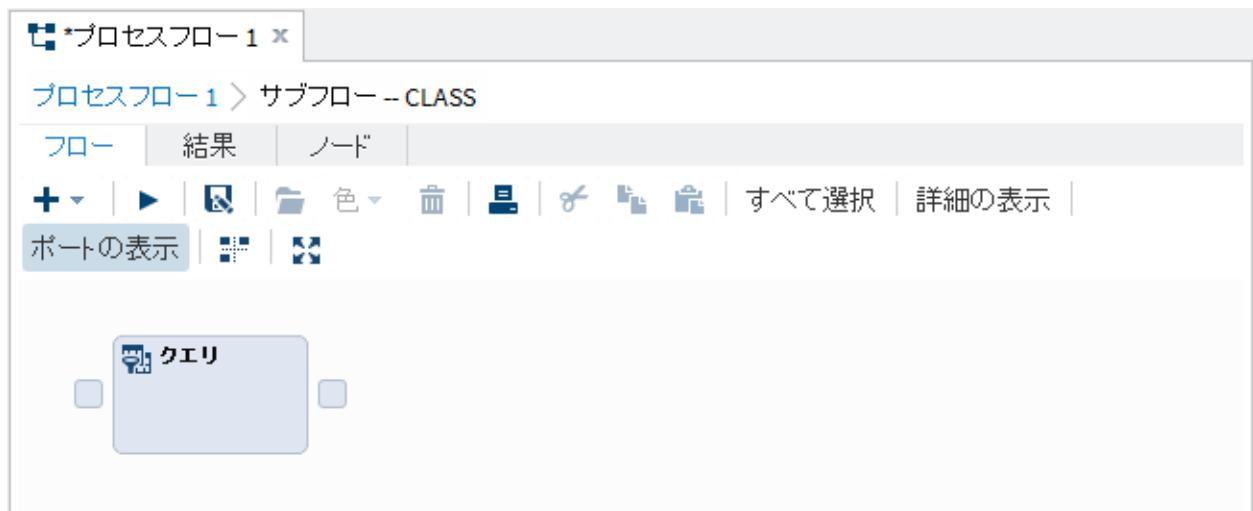


注: SAS Studio は、空のサブフローを含むプロセスフローを実行できません。この場合はエラーメッセージが表示されます。

新しいサブフローの作成

プロセスフローにサブフローを追加するには、次の操作を実行します。

- 1 **+**をクリックし、**Sub-Flow**を選択します。サブフローのノードがプロセスフローに表示されます。
- 2 サブフローノードを選択し、**■**をクリックします。ブレッドクラムを使用して、サブフローで作業していることを確認します。



- 3 サブフローの内容を追加します。サブフローには他のサブフローを含めることができます。
- 4 サブフローノードに名前を付けてサブフローの簡単な説明を指定してメモを含めるには、ノードタブをクリックします。
この情報を入力した後、プロセスフローのサブフローノードには、ノードタブで指定した名前と説明が含まれるようになります。

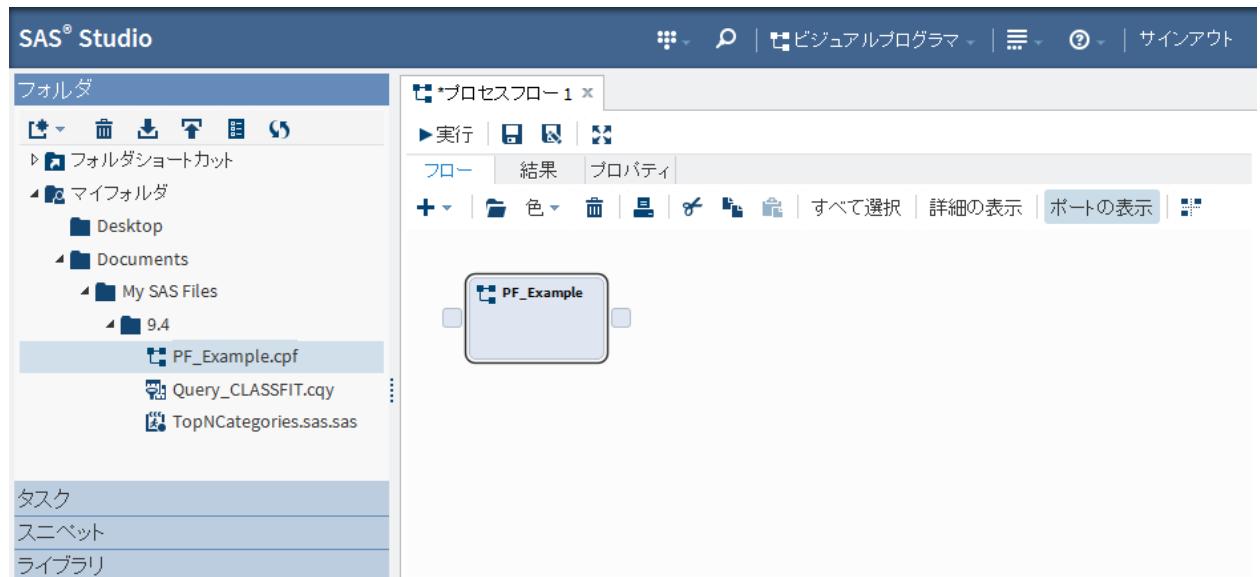
既存のプロセスフローからのサブフローの作成

既存のプロセスフローをサブフローとして別のプロセスフローに追加できます。

既存のプロセスフローをサブフローとして追加するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**フォルダセクション**をクリックします。
- 2 追加するプログラムが見つかるまで**フォルダセクション**内の**フォルダ**を展開します。
- 3 追加するプロセスを選択し、プロセスフローにドラッグします(緑のチェックマークは、このファイルをプロセスフローに追加できることを示します)。

この例では、既存の PF_Example.cpf ファイルを SAS Studio のプロセスフローに追加しています。

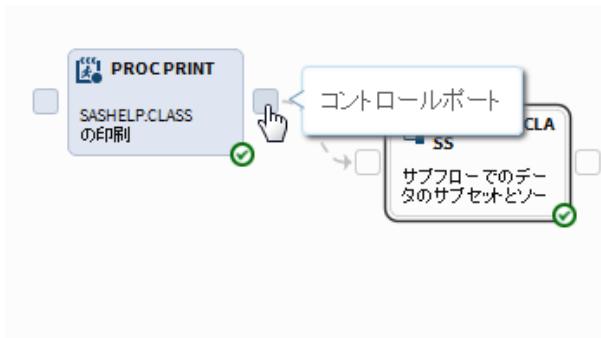


プロセスフローでのノードのリンク

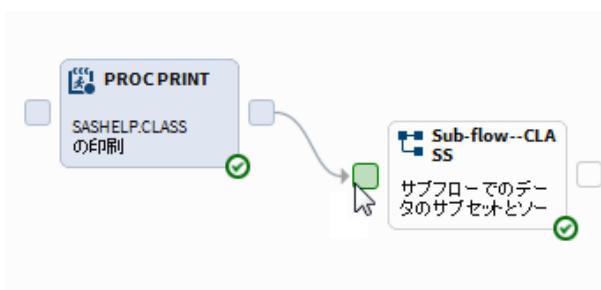
プロセスフローでは、各ノードが実行される順序を指定できます。一般的に、各ノードには、入力ポートと出力ポートがあります。プロセスフローでノードのポートを表示するには、**Show Ports** をクリックします。

プロセスフローでノードをリンクするには、次の操作を実行します。

- 1 リンクするノードの制御ポートを選択します。



2 1つのノードの制御ポートからリンク先ノードの制御ポートへ矢印を描きます。



2つのノード間のリンクが許可されると、プロセスフローで2つのノードが点線で結ばれます。

プロセスフローの実行

プロセスフローのすべてのノードを実行するには、▶実行をクリックします。

選択したノードのグループを実行するには、マウスを使用して、実行するノードを囲むボックスを描きます。選択対象を右クリックします。ポップアップメニューで、Run Selected を選択します。

プロセスフローの実行を停止するには、■Stop をクリックします。

プロセスフローの保存

現在のプロセスフローを保存するには、をクリックします。プロセスフローはフォルダショートカットまたはマイフォルダに CPF ファイルとして保存されます。

5

データの操作

テーブルビューアについて	87
データの読み込みと表示	90
テーブルの作成に使用したクエリコードの表示	90
データのフィルタリングと並べ替え	91
データのエクスポート	93

テーブルビューアについて

SAS Studio でテーブルを開くには、テーブルビューアを使用します。

SASHELP.CARS x

ビュー: 列名 フィルタ: (なし)

列

	Type	Origin	DriveTrain	MSRP	Invoice	EngineSize
1	SUV	Asia	All	\$36,945	\$33,337	3.5
2	Sedan	Asia	Front	\$23,820	\$21,761	2
3	Sedan	Asia	Front	\$26,990	\$24,647	2.4
4	Sedan	Asia	Front	\$33,195	\$30,299	3.2
5	Sedan	Asia	Front	\$43,755	\$39,014	3.5
6	Sedan	Asia	Front	\$46,100	\$41,100	3.5
7	Sports	Asia	Rear	\$89,765	\$79,978	3.2
8	Sedan	Europe	Front	\$25,940	\$23,508	1.8
9	Sedan	Europe	Front	\$35,940	\$32,506	1.8
10	Sedan	Europe	Front	\$31,840	\$28,846	3
11	Sedan	Europe	All	\$33,430	\$30,366	3
12	Sedan	Europe	All	\$34,480	\$31,388	3
13	Sedan	Europe	Front	\$36,640	\$33,129	3
14	Sedan	Europe	All	\$39,640	\$35,992	3
15	Sedan	Europe	Front	\$42,490	\$38,325	3
16	Sedan	Europe	All	\$44,240	\$40,075	3
17	Sedan	Europe	All	\$42,840	\$38,840	2.7
18	Sedan	Europe	All	\$49,690	\$44,936	4.2
19	Sedan	Europe	All	\$69,190	\$64,740	4.2
20	Sedan	Europe	All	\$48,040	\$43,556	4.2

合計行数: 428 合計列数: 15 行 1-100

列

すべて選択

Make Model Type Origin DriveTrain MSRP Invoice EngineSize

プロパティ 値

ラベル Model
名前 Model
長さ 40
種類 Char
出力形式
入力形式

注: テーブルビューアには、テーブルの先頭から 100 行までが表示されます。テーブルが開いているときにテーブルの構造やデータ値が変更された場合、変更を反映するにはテーブルビューアを更新する必要があります。テーブルの構造が変更された場合にテーブルを更新しないと、ナビゲーションペインのライブラリセクションにリストされる列が、テーブルビューアに表示されている列とは異なる可能性があります。

テーブルと列のプロパティを表示するには、テーブルビューアのツールバーで  をクリックします。



SAS テーブルのプロパティ					
全般	列	拡張属性	列の拡張属性		
列名	種類	長さ	出力形式	入力形式	ラベル
MAKE	文字	13			
MODEL	文字	40			
TYPE	文字	8			
ORIGIN	文字	6			
DRIVETRAIN	文字	5			
MSRP	数値	8	DOLLAR8.		
INVOICE	数値	8	DOLLAR8.		
ENGINESIZE	数値	8			Engine Size (L)
CYLINDERS	数値	8			
HORSEPOWER	数値	8			
MDG_CITY	数値	9			MPG (City)

A '閉じる' (Close) button is located at the bottom right.

拡張属性タブを使用すると、追加のユーザー定義特性をテーブル内のテーブルと列に関連付けることができます。たとえば、URL と、テーブルに関する情報、または列を作成するために使用した式に関する情報を含む拡張属性を作成できます。拡張属性の作成の詳細については、*Base SAS 9.4 Procedures Guide* を参照してください。

注: SAS 9.4 以降のサーバー上で作成された SAS テーブルにのみ拡張属性を追加できます。

データの読み込みと表示

ファイルを SAS Studio で開くには次のいくつかの方法があります。

- フォルダおよびライブラリセクションでファイルをダブルクリックします。
- フォルダおよびライブラリセクションからワークエリアにファイルをドラッグします。
- ファイルを検索して検索結果から開きます。ファイルを開くには、ダブルクリックするか、ワークエリアにドラッグします。
- ファイルは、ファイルショートカットセクションでファイルへのショートカットを使用して開くことができます。ファイルを開くには、ダブルクリックするか、ワークエリアにドラッグします。

テーブルを開くと、そのテーブルのすべての列が表示されます。Columns 領域を使用すると、テーブルビューアに表示する列を指定できます。デフォルトでは、列名が表示されていますが、表示ドロップダウンリストから列ラベルを選択して列ラベルを表示することもできます。

	Type	Origin	DriveTrain	MSRP	Invoice	EngineSize
1	SUV	Asia	All	\$36,945	\$33,337	3.5
2	Sedan	Asia	Front	\$23,820	\$21,761	2
3	Sedan	Asia	Front	\$26,990	\$24,647	2.4
4	Sedan	Asia	Front	\$33,195	\$30,299	3.2
5	Sedan	Asia	Front	\$43,755	\$39,014	3.5
6	Sedan	Asia	Front	\$46,100	\$41,100	3.5
7	Sports	Asia	Rear	\$89,765	\$79,978	3.2
8	Sedan	Europe	Front	\$25,940	\$23,508	1.8

テーブルの作成に使用したクエリコードの表示

オプションを選択してテーブルの表示をカスタマイズすると、使用可能な SAS コードが SAS Studio によって生成されます。クエリコードを表示するには、ツールバーで をクリックします。テーブルビューアの新しいプログラムウィンドウに、テーブルのビューの作成に使用された

コードが表示されます。このプログラムは、クエリコードのコピーであり、元のクエリとの関連付けはなくなります。このコードの編集がテーブルビューアに表示されているデータに影響したり、テーブルビューアの変更がこのコードの内容に影響することはありません。

データのフィルタリングと並べ替え

テーブルビューアで列の見出しを右クリックし、その列を使用してデータのフィルタリングおよび並べ替えを行います。

合計行数: 19 合計列数: 5				
	Name	Sex	Age	Height
1	アルフレッド	男子	14	69
2	アリス	女子	13	56.5
3	バーバラ	女子	13	65.3
4	キャロル	女子	14	62.8
5	ヘンリー	男子	14	63.5
6	ジェームズ	男子	12	57.3
7	ジェーン	女子	12	59.8
8	ジャネット	女子	15	62.5
9	ジェフリー	男子	13	62.5
10	ジョン	男子	12	59
11	ジョイス	女子	11	51.3

フィルタオプションは、選択した列のタイプによって変わります。数値列用の**フィルタの追加**ウィンドウでは、各列に対して 1 つまたは 2 つのフィルタ基準を指定できます。2 つめのフィルタ基準を追加するには、 をクリックします。

合計行数: 19 合計列数: 5 行 1-19

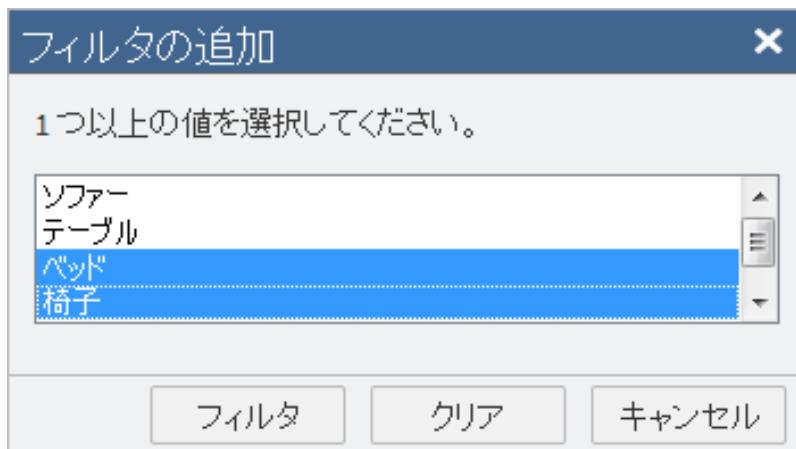
	Name	Sex	Age	Height
1	アルフレッド	男子	14	69
2	アリス			56.5
3	バーバラ			65.3
4	キャロル			62.8
5	ヘンリー			63.5
6	ジェームズ			57.3
7	ジェーン		12	59.8
8	ジャネット	女子	15	62.5
9	ジェフリー	男子	13	62.5
10	ジョン	男子	12	59
11	ジョイス	女子	11	51.3

「フィルタの追加」ダイアログが表示されています。"Height" の基準を指定してください。

操作可能な要素:

- 条件選択ボタン (gt, lt, eq, neq, geq, leq)
- 値入力欄 (60)
- 追加ボタン (+)
- 削除ボタン (-)
- 「フィルタ」ボタン
- 「キャンセル」ボタン

文字列用のフィルタの追加ウィンドウでは、列にある 1 つ以上の値を選択できます。



日付列用のフィルタの追加ウィンドウでは、ポップアップカレンダーウィンドウから日付の値を選択できます。



データでフィルタを作成すると、ワークスペースの上部にそのフィルタ基準が表示されます。フィルタを編集するには 、フィルタを削除するには をクリックします。

データのエクスポート

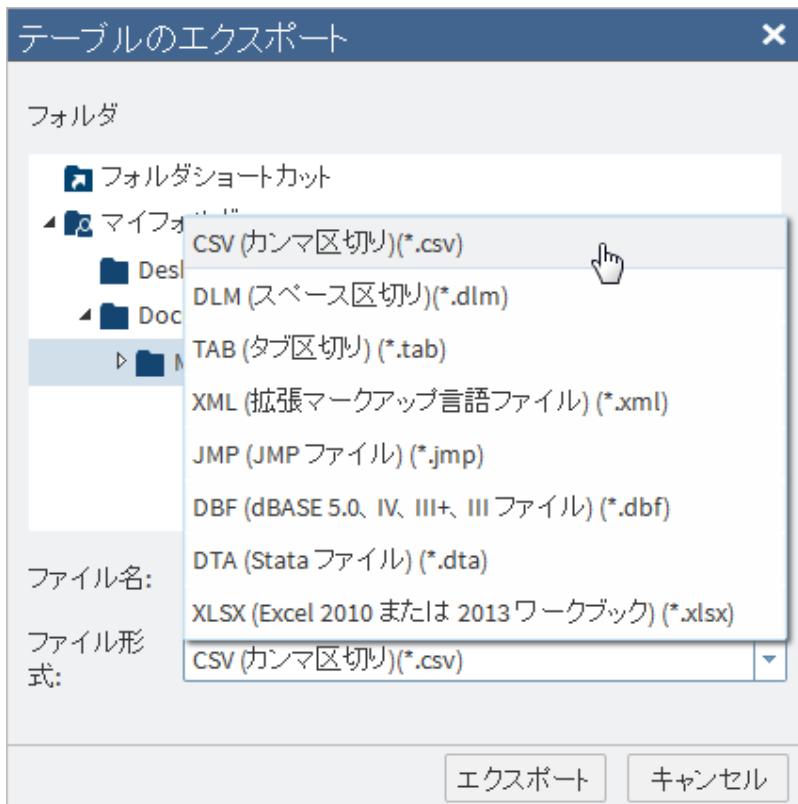
SAS Studio では、データを別の形式のファイルとして、指定するフォルダにエクスポートできます。

注: データを FTP フォルダにエクスポートすることはできません。

データをエクスポートするには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインでライブラリをクリックして、エクスポートするファイルを探します。

- 2 エクスポートするファイルを右クリックし、エクスポートを選択します。テーブルのエクスポートウィンドウが開きます。
- 3 エクスポート対象のファイルの保存先のフォルダを選択します。
- 4 ファイル名ボックスに、エクスポート対象のファイルの名前を入力します。
- 5 ファイル形式ドロップダウンリストから、エクスポート対象のファイルの形式を選択します。



- 6 エクスポートをクリックしてファイルをエクスポートします。

6

結果の操作

結果の表示	95
別のユーザーへの結果の送信	96
SAS Output Delivery System について	98
SAS ODS Statistical Graphics について	98
SAS ODS Statistical Graphics について	98
SAS ODS Graphics Designer	99
SAS ODS Graphics Editor	101
グラフ出力の編集方法	101
結果のスタイルの指定	103

結果の表示

SAS Studio でタスクまたはプログラムを実行すると、その結果がワークエリアに表示されます。この結果は、HTML、PDF または RTF ファイルとして保存できます。また、生成されたデータをダウンロードすることもできます。

Row number	Model	MSRP	MPG (City)
1	MDX	\$36,945	17
2	RSX Type S 2dr	\$23,820	24
3	TSX 4dr	\$26,390	22
4	TL 4dr	\$33,195	20
5	3.5 RL 4dr	\$43,755	18
6	3.5 RL w/Navigation 4dr	\$46,100	18
7	NSX coupe 2dr manual S	\$83,765	17

Row number	Model	MSRP	MPG (City)
8	A4 1.8T 4dr	\$25,940	22
9	A4 1.8T convertible 2dr	\$35,940	23
10	A4 3.0 4dr	\$31,840	20
11	A4 3.0 Quattro 4dr manual	\$33,430	17
12	A4 3.0 Quattro 4dr auto	\$34,480	18
13	A6 3.0 4dr	\$36,640	20
14	A6 3.0 Quattro 4dr	\$39,640	18
15	A4 3.0 convertible 2dr	\$42,490	20
16	A4 3.0 Quattro convertible 2dr	\$44,240	18
17	A6 2.7 Turbo Quattro 4dr	\$42,840	18
18	A6 4.2 Quattro 4dr	\$49,690	17
19	A8 L Quattro 4dr	\$69,190	17
20	S4 Quattro 4dr	\$48,040	14
21	RS 6 4dr	\$84,600	15
22	TT 1.8 convertible 2dr (coupe)	\$35,940	20

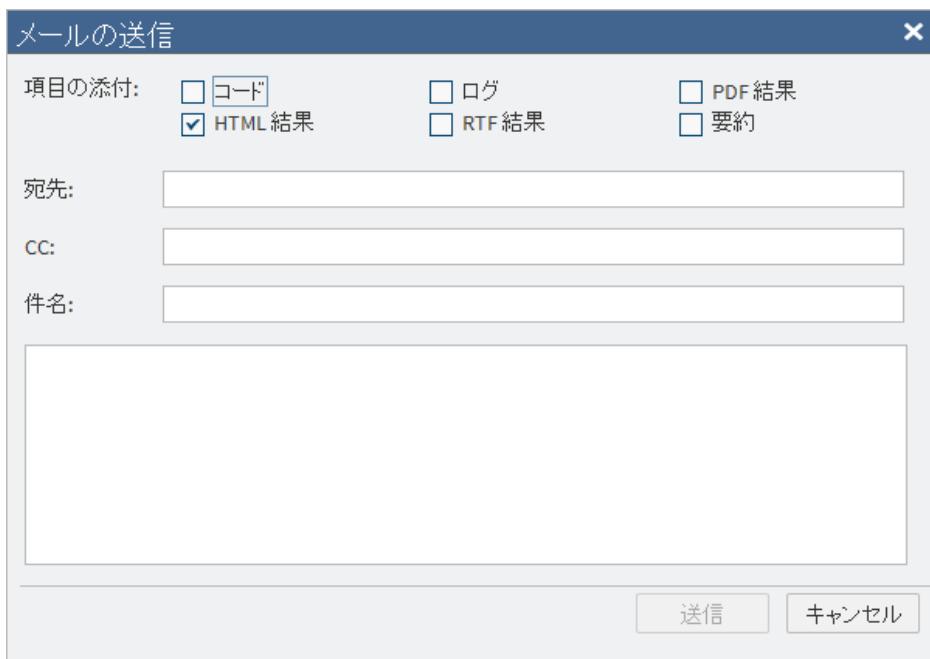
別のユーザーへの結果の送信

結果のコピーと、関連するコードおよびログファイルのコピーを、電子メールを使用して別のユーザーに送信できます。送信できるファイルは、HTML、RTF、およびPDF 形式の結果と、結果に関連付けられているコードとログファイルです。また、プログラム要約ファイルも送信できます。このファイルには、プログラムの実行に関する情報、SAS ソースコード全体、SAS ログ全体、および結果が含まれます。コード、ログ、およびプログラム要約ファイルは、HTML として送信されます。電子メールを使用してファイルを送信するには、SMTP サーバーに対するアクセス権が必要です。詳細については、サイト管理者に問い合わせてください。

注: SAS Studio 電子メールメッセージが迷惑メールとしてマークされている場合、構成ファイルの詳細については、*SAS Studio: Administrator's Guide* を参照してください。

結果を電子メールで送信するには、次の操作を実行します。

- 1 結果のツールバーで、✉をクリックします。メールの送信ウィンドウが開きます。



- 2 添付ファイルとして電子メールに含めるアイテムを選択します。デフォルトでは、HTML の結果が選択されています。
- 3 宛先ボックスに、ファイルの送信先の電子メールアドレスを入力します。アドレスが複数ある場合はセミコロンで区切ります。
- 4 別のアドレスに電子メールのコピーを送信する場合は、Cc ボックスにそのアドレスを入力します。
- 5 件名ボックスに、電子メールの件名を入力します。電子メールの本文にメッセージを追加して含めることもできます。
- 6 送信をクリックして、メッセージと添付ファイルを送信します。

SAS Output Delivery System について

SAS Output Delivery System(ODS)は、SAS プロシージャおよび DATA ステップの出力の生成、保存および再作成における柔軟性を向上し、幅広い出力形式オプションを提供します。ODS は、ODS を使わずに個々のプロシージャおよび DATA ステップを使用する場合には利用できないフォーマット機能を提供します。

SAS Studio では、出力が Web 環境で正しく表示されるように、非常に特殊な ODS オプションおよび GOPTIONS ステートメントを使用しています。コードで使用されているすべての

ODS オプションを表示するには、 をクリックし、**Preferences** を選択します。**Preferences** ウィンドウで全般をクリックし、**SAS ログに生成コードを表示する**オプションを選択します。

注：出力を正しく表示するために、生成されたコードの ODS オプションまたは GOPTIONS ステートメントの設定は変更しないでください。

SAS ODS Statistical Graphics について

SAS ODS Statistical Graphics について

SAS ODS Statistical Graphics(通称 SAS ODS Graphics)は、SAS Output Delivery System(ODS)の拡張機能です。ODS は、プロシージャによって生成されるすべての出力を管理し、HTML や PDF など、さまざまな形式での表示を可能にします。

多くの SAS 分析プロシージャでは ODS Graphics の機能が使用されており、テーブルが生成されるのと同様に自動的にグラフが生成されています。ODS Graphics では、多機能で柔軟性の高い Graph Template Language(GTL)構文を使用して、多数の複雑なグラフを作成しています。GTL は、統計グラフの定義に使用できる総合的な言語です。

SAS Studio では、ODS Graphics Designer を使用することで、GTL の知識がなくても統計グラフを定義できます。グラフの定義を作成したら、その定義を使用して SAS Studio で ODS 統計グラフを作成します。

SAS ODS Graphics Designer

SAS ODS Graphics Designer とは

SAS ODS Graphics Designer は、カスタムグラフの作成と設計に使用できる対話型グラフィックアプリケーションです。このアプリケーションは、SAS 分析プロシージャおよび SAS ODS Graphics プロシージャで使用されているのと同じ言語である Graph Template Language(GTL)に基づいてグラフを作成します。ODS Graphics Designer は、テンプレートや GTL に関する詳細な知識がなくても簡単にグラフを設計できるようにグラフィックユーザーインターフェイスを備えています。

ポイントアンドクリック方式の対話操作によって、単純または複雑なデータの分析用グラフ表示を作成できます。ODS Graphics Designer を使用すると、広範なプロットタイプを使用して高度なグラフを設計できます。マルチセルグラフ、分類パネルおよび散布図行列を設計できます。グラフには、タイトル、フトノート、凡例、その他のグラフ要素を追加できます。結果は、レポート用の画像として、または ODS Graphics Designer file(SGD)ファイルとして保存し、後で編集できます。

詳細については、次の URL で入手できる *SAS ODS Graphics Designer: ユーザーガイド* を参照してください(support.sas.com)。

SAS ODS Graphics Designer のインストール方法

お使いのマシンに SAS Foundation がインストールされている場合、SAS ODS Graphics Designer はすでに利用可能です。たとえば、SAS Studio のシングルユーザー版をお使いの場合、SAS Foundation と SAS Studio は同じマシンで稼動しているため、SAS ODS Graphics Designer はすでにインストールされています

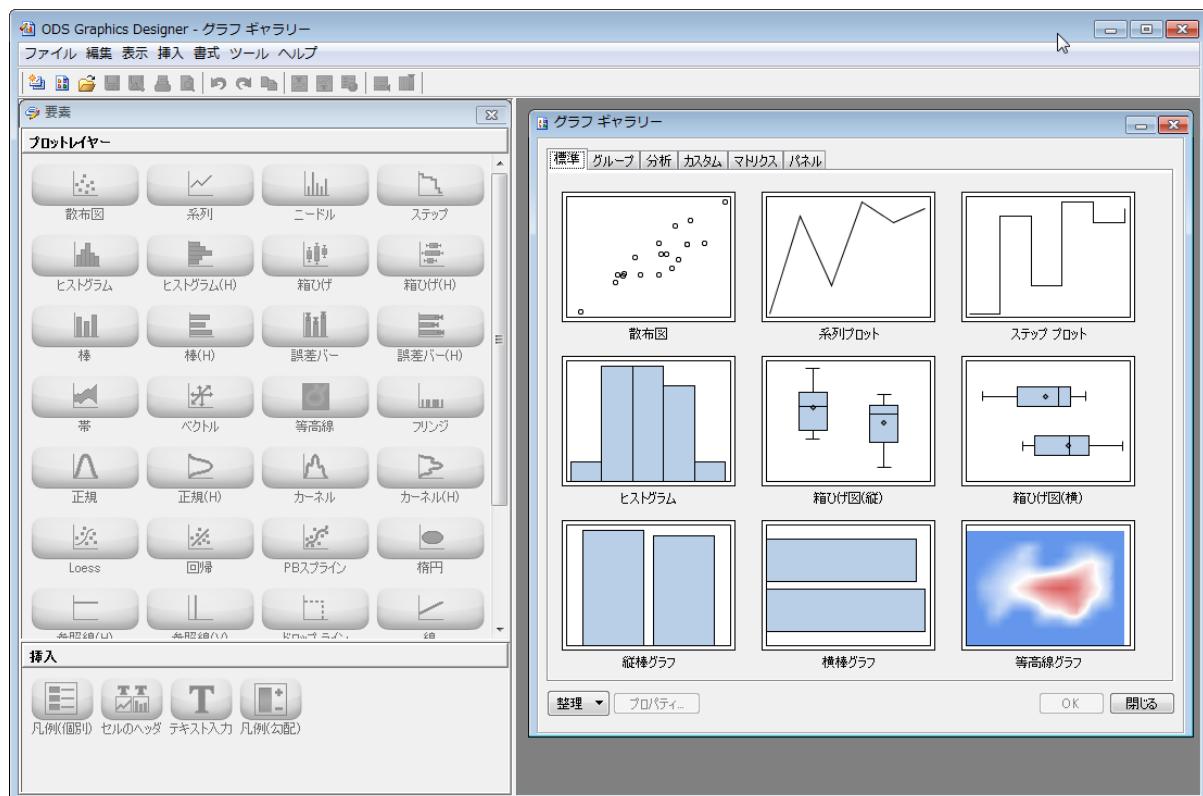
注: SAS Studio を実行する場合は、SAS ODS Graphics Designer の Windows バージョンのみがサポートされています。SAS ODS Graphics Designer は、SAS Studio にアクセスするするために使用するブラウザと同じマシンにインストールする必要があります(SAS Studio は異なるマシンにインストールされていてもかまいません)。SAS Studio に複数のユーザーがアクセスしており、これらのユーザーが異なるマシン上にある場合、SAS ODS Graphics Designer は各ユーザーのマシンにインストールされている必要があります。

SAS ODS Graphics Designer をインストールするには、次の操作を実行します。

- 1  をクリックします。Tools ▶ ODS Graphics Designer のインストールを選択します。
Base SAS Software のダウンロードとホットフィックスのページ(support.sas.com)が開きます。
- 2 SAS 9.4M2 の見出しの下で、SAS ODS Graphics Designer をクリックします。
- 3 ダウンロード一覧ページから、お使いの Windows 動作環境用の Request download をクリックし、インストールの手順に従って操作を実行します。

SAS ODS Graphics Designer の起動

SAS ODS Graphics Designer をインストールしたら、SAS Studio のメニュー項目を使用して起動します。SAS ODS Graphics Designer を起動するには、 をクリックし、Tools を選択します。次に、ODS Graphics Designer を選択します。



SAS ODS Graphics Editor

SAS ODS Graphics Editor とは

ODS Graphics Editor を使用すると、基になるデータは変更せずに、出力グラフのさまざまな要素を編集できます。また、テキスト、行、矢印、画像などの項目をグラフの上の層に挿入することにより、グラフに注釈を適用できます。カスタマイズした出力データは、ODS Graphics Editor(SGE)ファイルとして保存し、徐々に変更を加えていくことができます。さらに、結果を Portable Network Graphics(PNG)画像として保存し、他のドキュメントに組み込むことも可能です。

SAS ODS Graphics Editor の詳細については、次の URL で入手できる *SAS ODS Graphics Editor: ユーザーガイド*を参照してください(support.sas.com)。

SAS ODS Graphics Editor のインストール方法

SAS ODS Graphics Editor をインストールすると、SAS Studio によって自動的に~/Projects/ODSEditorFiles ディレクトリが作成されます。

注: SAS Studio のシングルユーザー版をお使いの場合、SAS ODS Graphics Editor はすでにインストールされています。

SAS ODS Graphics Editor をインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 をクリックします。Tools ▶ ODS Graphics Editor のインストールを選択します。
support.sas.com にある Base SAS Software のダウンロードとホットフィックスのページが開きます。
- 2 お使いの SAS リリースで、ODS Graphics Editor をクリックします(たとえば、SAS 9.4をお使いの場合は、SAS 9.4 の見出しの下で、ODS Graphics Editor を選択します)。
- 3 ダウンロード一覧ページから、お使いの Windows 動作環境用の Request download をクリックし、インストールの手順に従って操作を実行します。

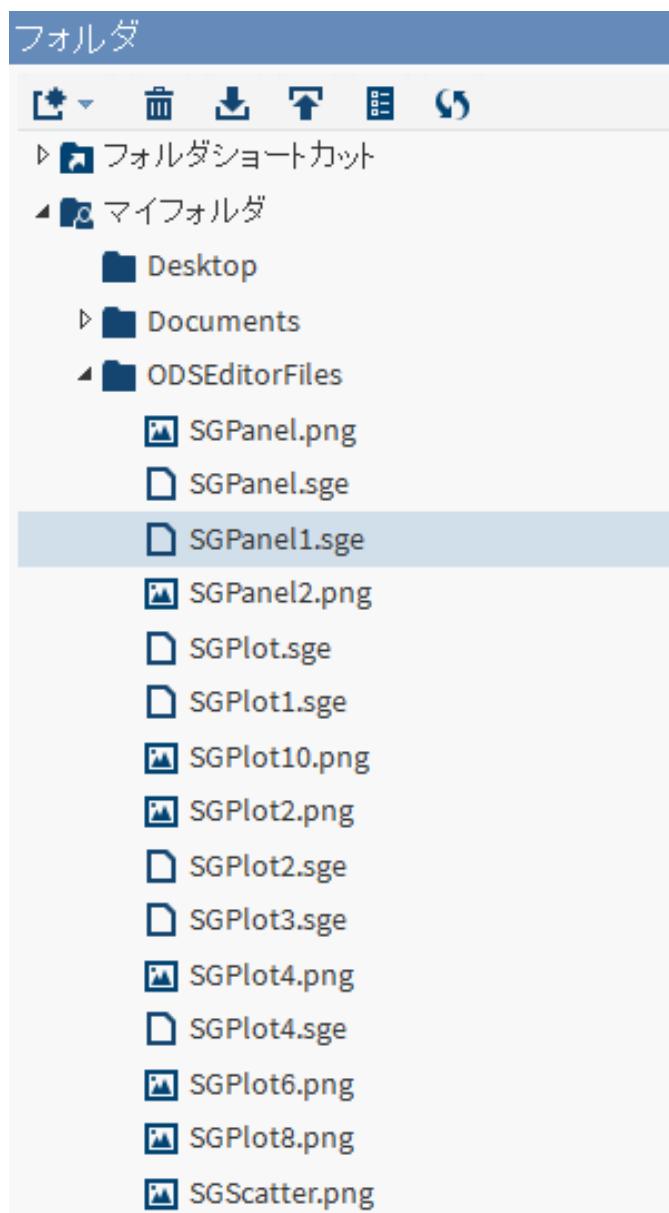
グラフ出力の編集方法

- 1 グラフ出力を編集するには、SAS コードに次のステートメントを追加してください。

```
ods listing sge=on gpath="{home}/Projects/ODSEditorFiles";
```

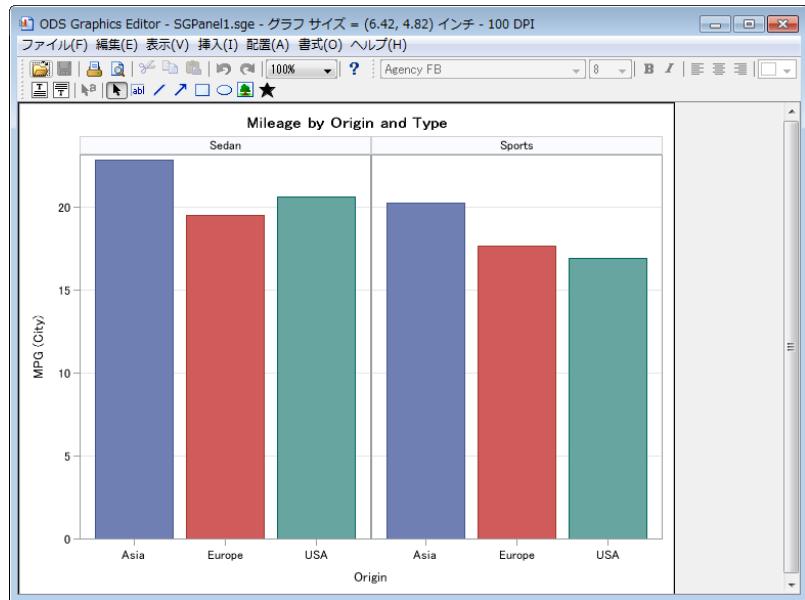
このプログラムを実行すると、グラフ出力は SGE ファイルとして~/Projects/ODSEditorFiles ディレクトリに保存されます。

- 2 ナビゲーションペインのフォルダセクションで、ODSEditorFiles フォルダを展開します。



- 3 ファイル名をダブルクリックして、SAS ODS Graphics Editor でグラフを開きます。

SAS ODS Graphics Editor に表示された SGPanel1.sge ファイルの例を次に示します。



注: ODSEditorFiles フォルダ内のデフォルトのファイルリストは、スニペットセクションのコードスニペットによって作成されます。詳細については、“[コードスニペットの操作](#)”(33 ページ)を参照してください。

結果のスタイルの指定

Preferences ウィンドウでは、結果の表示に影響するいくつかのオプションを変更できます。

エディタのオプションにアクセスするには、 をクリックし、**Preferences** を選択します。**Results** をクリックします。

オプション	説明
結果が次のサイズを超える場合に警告を表示する n MB	サイズが n メガバイト(MB)を超える結果ファイルを開こうとすると警告メッセージが表示されます。デフォルト値は、4 MB です。

オプション	説明
HTML 出力スタイル	HTML の結果に適用されるスタイルを表示します。結果に適用されているスタイルを変更するには、ドロップダウンリストから別のスタイルを選択します。
PDF 出力の作成	結果を PDF 形式で生成します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
PDF 出力スタイル	PDF の結果に適用されるスタイルを表示します。結果に適用されているスタイルを変更するには、ドロップダウンリストから別のスタイルを選択します。
デフォルトの目次を生成する	PDF ファイルの目次を自動的に作成します。
RTF 出力の作成	結果を RTF 形式で生成します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
RTF 出力スタイル	RTF の結果に適用されるスタイルを指定します。結果に適用されているスタイルを変更するには、ドロップダウンリストから別のスタイルを選択します。

7

SAS Studio のタスクについて

タスクとは	105
タスクの実行方法	106
タスクおよびオプション設定の保存	108
定義済みタスクの編集	109
新しいタスクの作成	110
ワークスペースでのタスクコードとタスクレイアウトのカスタマイズ	112

タスクとは

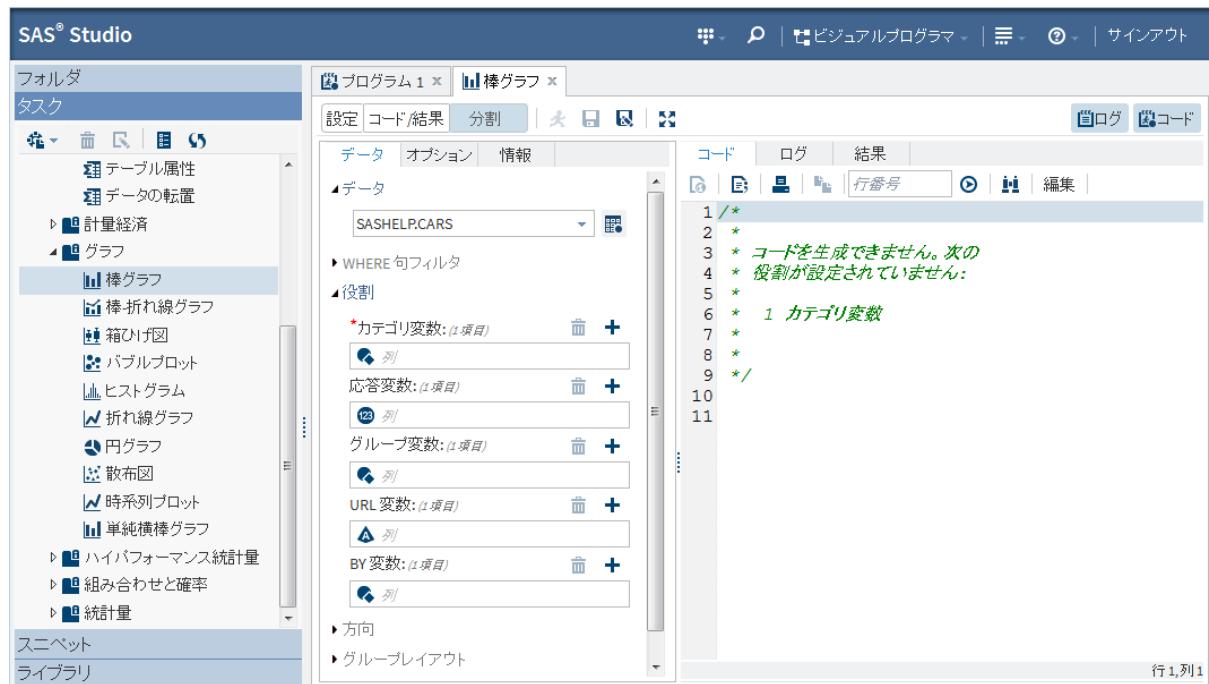
タスクとは、SAS コードを生成し、結果をフォーマットする XML および Apache Velocity コードファイルです。タスクには、単純なデータのリスト作成から複雑な分析プロシージャまで広範な SAS プロシージャが含まれます。SAS Studio には、いくつかの定義済みのタスクがあらかじめ用意されています。これらの定義済みタスクのコピーを編集することで、サイトに合わせてタスクをカスタマイズできます。独自のタスクを作成することもできます。

タスクの実行方法

定義済みのタスクを実行するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**タスクセクション**をクリックします。
- 2 タスクが保存されているフォルダを展開します。
- 3 タスクの名前を右クリックし、**開く**を選択します。または、タスクをダブルクリックして開きます。

タスクがワークエリアの右側に開きます。

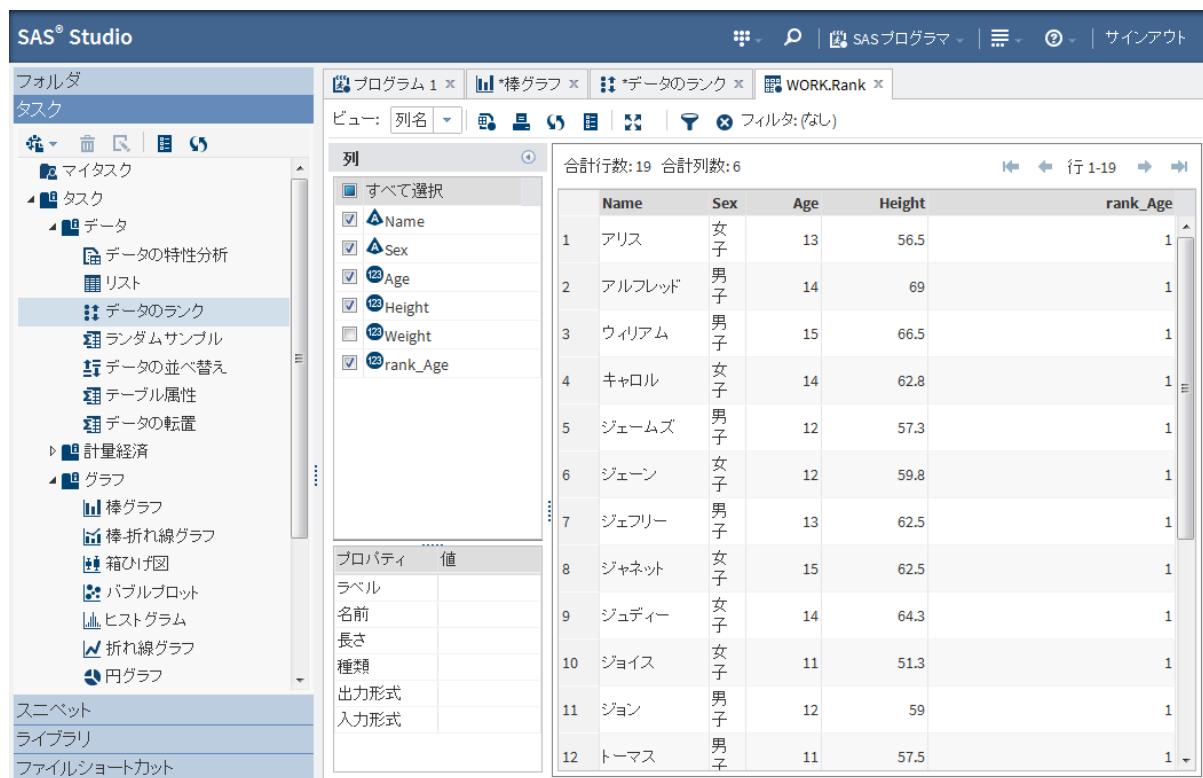


- 4 データタブが利用可能な場合は、入力データソースを指定し、そのデータソースの役割に対して列を選択します。役割とは、タスクの変数の目的についての記述です。役割に列を追加するには、**+** をクリックします。その役割に対して利用可能な列のリストが表示されます。その役割に対して割り当て可能な列が 1 つしかない場合、その列を選択すると、リスト

は消えます。複数の列を割り当てる能够する場合には、Ctrl キーまたは Shift キーを押すことでリストから複数の列を選択できます。**OK** をクリックします。

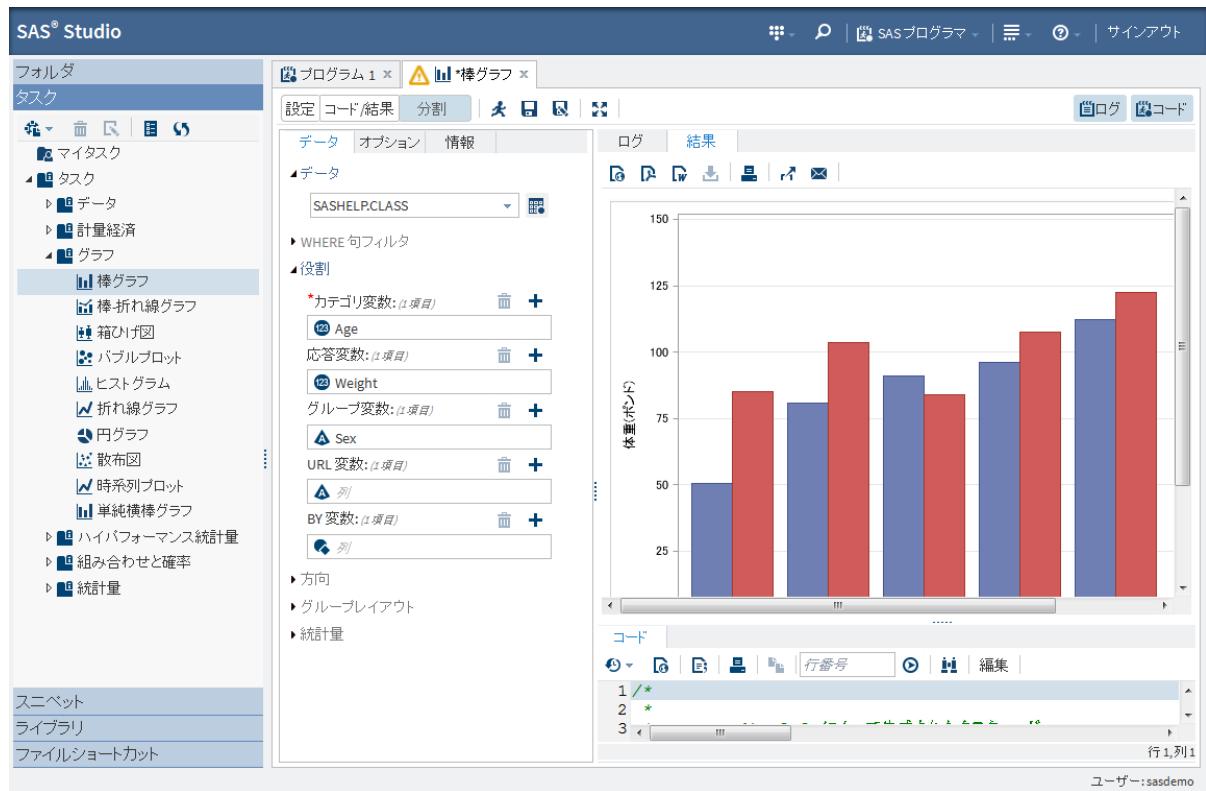
- 5 残りのタブでは、その他の必須オプションを指定してください。必須オプションには赤いアスタリスクマークが付けられています。タスクに値を割り当てるるとにつれ、関連する SAS コードが生成されます。
- 6 タスクを実行するには、 をクリックします。

タスクによって出力データが生成されると、ワークエリアにテーブルが表示されます。



	Name	Sex	Age	Height	rank_Age
1	アリス	女子	13	56.5	1
2	アルフレッド	男子	14	69	1
3	ウイリアム	男子	15	66.5	1
4	キャロル	女子	14	62.8	1
5	詹姆斯	男子	12	57.3	1
6	ジェーン	女子	12	59.8	1
7	ジェフリー	男子	13	62.5	1
8	ジャネット	女子	15	62.5	1
9	ジュディー	女子	14	64.3	1
10	ジョイス	女子	11	51.3	1
11	ジョン	男子	12	59	1
12	トーマス	男子	11	57.5	1

タスクによって結果が生成されると、その出力は現在のタスクのタブの下にある**結果**タブに表示されます。



タスクおよびオプション設定の保存

頻繁に使用するタスクがある場合は、入力データソースとオプション設定を指定した後に、そのタスクを保存しておくことをお勧めします。SAS Studio では、**フォルダ**ディレクトリに CTK ファイルとしてタスクを保存できます。次回そのタスクの実行が必要が必要となったときに、**フォルダ**ディレクトリでそのタスクをダブルクリックすると、前回と同様に設定されたタスクが表示されます。

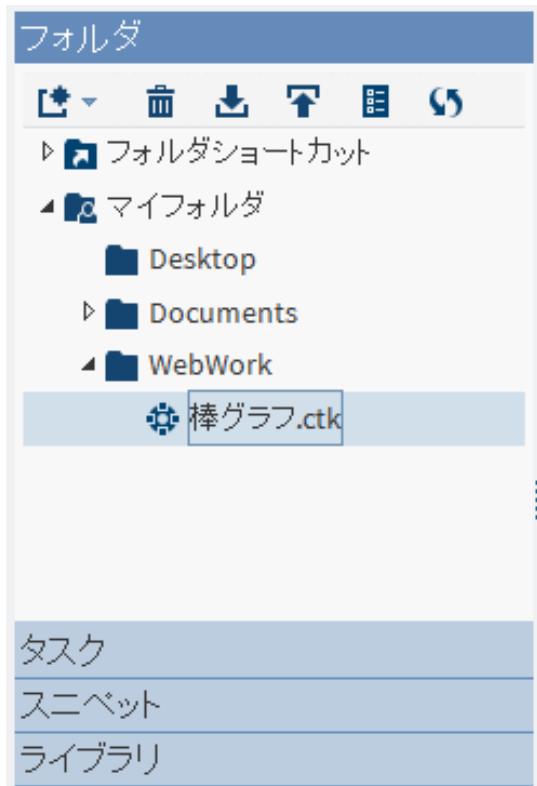
注: タスクを保存する前に、入力データセットとそのタスクを実行するための必須オプションをすべて指定しておく必要があります。

タスクを保存するには、次の操作を実行します。

- 1 をクリックします。名前を付けて保存ウィンドウが表示されます。

- 2 タスクファイルの保存先を選択します。このファイルをフォルダセクションまたはマイタスクフォルダに保存することができます。このファイルの名前を指定します。ファイルタイプには、**CTK ファイル (*.CTK)**を選択します。**保存**をクリックします。

この例では、フォルダセクションからタスクを利用できるようになりました。



注: タスクセクションでは、このタスクの操作が継続しています。タスクを再度保存すると、フォルダセクションの CTK ファイルが更新されます。

定義済みタスクの編集

サイトに合わせて定義済みタスクをカスタマイズするには、タスクの作成に使用された XML ファイルを編集します。

定義済みタスクを編集するには、次の操作を実行します。

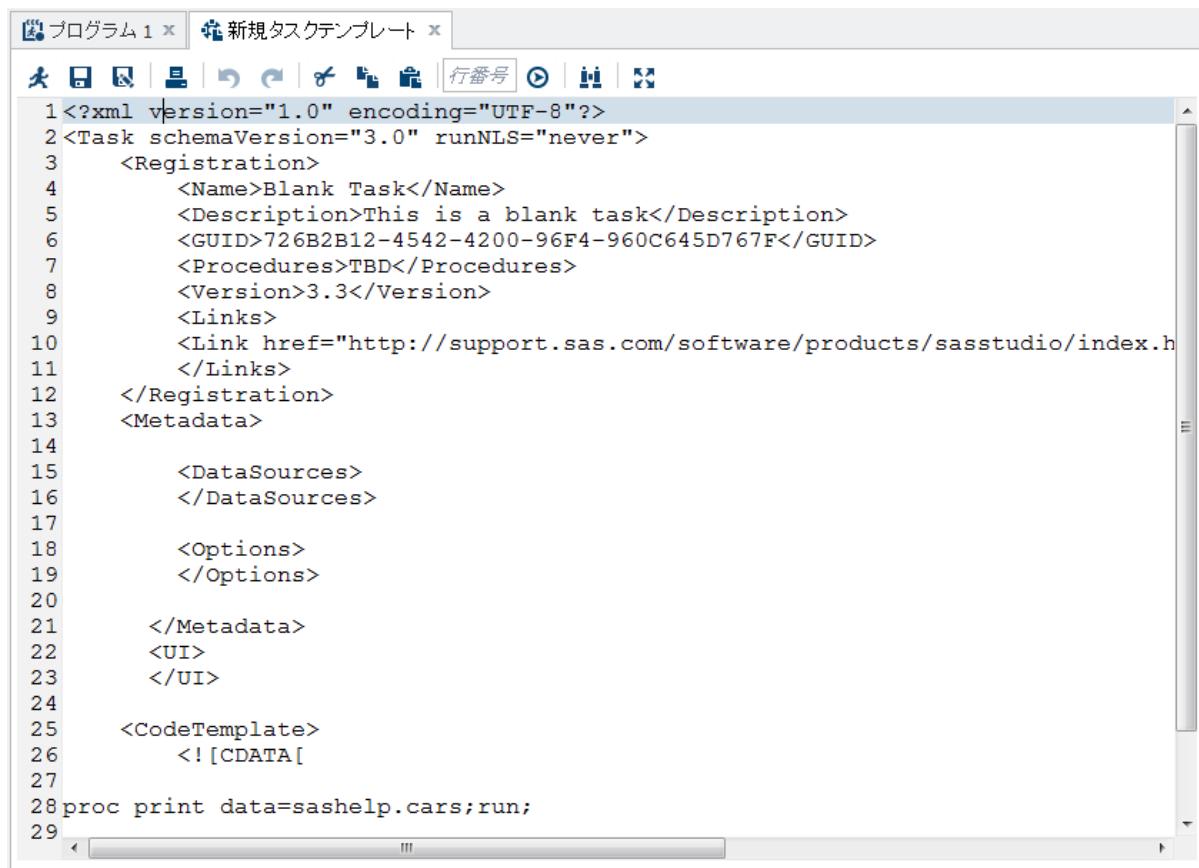
- 1 ナビゲーションペインで、**タスクセクション**を開きます。
- 2 タスクが保存されているフォルダを展開します。
- 3 編集するタスクの名前を右クリックし、**マイタスクに追加**を選択します。**マイタスクに追加** ウィンドウが開きます。
- 4 タスクの名前と説明を指定します。デフォルトでは、定義済みタスクの名前と説明が使用されます。カテゴリドロップダウンリストを使用して、マイタスクフォルダ内でこのタスクのコピーを保存する場所を指定することもできます。**(none)**を選択した場合、タスクはマイタスクフォルダの直下に追加されます。
追加をクリックします。
- 5 マイタスクフォルダを開き、コピーしたタスクを選択します。
- 6  をクリックします。タスクの XML ファイルが表示されます。
- 7 XML ファイルを編集し、変更を保存します。変更をプレビューするには、 をクリックします。

新しいタスクの作成

SAS Studio には、サイトに合わせたカスタムタスクの作成に使用できるテンプレートが用意されています。

カスタムタスクを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 ナビゲーションペインで、**タスクセクション**を開きます。
- 2  をクリックし、**Blank Task** を選択します。タスクテンプレートが開きます。



The screenshot shows a SAS Studio interface with a code editor window titled "新規タスクテンプレート". The code editor displays XML configuration for a new task. The XML includes sections for registration, metadata, options, and a code template. The code template contains a proc print statement.

```

1 <?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
2 <Task schemaVersion="3.0" runNLS="never">
3   <Registration>
4     <Name>Blank Task</Name>
5     <Description>This is a blank task</Description>
6     <GUID>726B2B12-4542-4200-96F4-960C645D767F</GUID>
7     <Procedures>TBD</Procedures>
8     <Version>3.3</Version>
9     <Links>
10    <Link href="http://support.sas.com/software/products/sasstudio/index.h
11    </Links>
12  </Registration>
13  <Metadata>
14
15    <DataSources>
16    </DataSources>
17
18    <Options>
19    </Options>
20
21  </Metadata>
22  <UI>
23  </UI>
24
25  <CodeTemplate>
26    <! [CDATA[
27
28proc print data=sashelp.cars;run;
29

```

3 タスクテンプレートのコードを編集し、タスクを作成します。タスクテンプレートのユーザーインターフェイスを表示するには、 をクリックします。タスクテンプレートのユーザーインターフェイスでは、ラジオボタン、チェックボックス、コンボボックス、その他のタイプのオプションの例を参照できます。このファイルの詳細については、*SAS Studio: Developer's Guide* を参照してください。

4  をクリックします。

注: タスクの名前に、次の特殊文字を含めることはできません。

[] { } , ? / \ * # " % + | < > :

ワークスペースでのタスクコードとタスクレイアウトのカスタマイズ

Preferences ウィンドウでは、タスクコードの表示に影響するいくつかのオプションを変更できます。

これらのオプションにアクセスするには、 をクリックし、**Preferences** を選択します。タスクをクリックします。

生成コードの先頭と末尾の空白をすべて削除する	生成コードの前後にある空白をすべて削除します。
タスクコードのヘッダーコメントを生成する	SAS タスクの生成コードの前にコメントを追加します。
生成コードを自動的にフォーマットする	タスクによって生成され、コードエディタで表示されるすべてのコードを自動的にフォーマットします。
表示	
タスクコードを表示する	<p>タスクオプション、タスクコード、およびタスクの結果をワークスペースにどのように表示するかを指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Split: タスクの設定、コード、およびタスクの結果を表示します。 ■ Settings: タスクのオプションのみをワークスペースに表示します。 ■ Code/Results: SAS コード、ログおよび結果(ある場合)をワークスペースに表示します。
タスクログを表示する	Split 表示または Code/Results 表示を選択した場合に、タスクの SAS コードを表示するかどうかを指定します。

タスク設定を右側に表示する

タスクオプションを SAS Studio ワークスペースの右側に表示します。デフォルトでは、タスクオプションは左側に表示されます。

8

データタスク

データの特性分析タスク	116
データの特性分析タスクについて	116
例: データの特性分析タスク	116
役割へのデータの割り当て	120
オプションの設定	121
組み合わせタスク	121
組み合わせタスクについて	121
例: 52 個のオブジェクトを 5 つの集合に分ける場合	
組み合わせの計算	121
オプションの設定	123
リストタスク	123
リストタスクについて	123
例: 自動車の種類別のドライブトレイン、MSRP、エンジンサイズのレポート	123
役割へのデータの割り当て	125
オプションの設定	126
順列タスク	128
順列タスクについて	128
例: 6 つのオブジェクトの順列の計算	128
オプションの設定	130
データのランクタスク	130
データのランクタスクについて	130
例: 年齢および身長による生徒のランク付け	130

役割へのデータの割り当て	132
オプションの設定	133
ランダムサンプルタスク	137
ランダムサンプルタスクについて	137
例: Sashelp.Pricedata データセットのランダムサンプルの作成	137
役割へのデータの割り当て	139
オプションの設定	141
データの並べ替えタスク	142
データの並べ替えタスクについて	142
役割へのデータの割り当て	142
オプションの設定	143
テーブル属性タスク	145
テーブル属性タスクについて	145
例: Sashelp.Pricedata データセットのテーブル属性	145
オプションの設定	147
データの転置タスク	148
データの転置タスクについて	148
役割へのデータの割り当て	149
オプションの設定	150

データの特性分析タスク

データの特性分析タスクについて

データの特性分析タスクでは、要約レポート、グラフ、度数、データの主な特性を記述する単変量の SAS データセットを作成します。

例: データの特性分析タスク

この例では、Sashelp.Pricedata データセットのコンテンツについての理解を深めます。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、データフォルダを展開し、データの特性分析をダブルクリックします。データの特性分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.PRICEDATA データセットを選択します。
- 3 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の実例を次に示します。

**Summary of Character Variables for SASHELP.PRICEDATA
Limited to the 30 Most Frequent Distinct Values per Variable**

Variable	Label	Value	Frequency Count	Percent of Total Frequency
productLine	Name of product line	Line2	240	23.5294
		Line3	240	23.5294
		Line4	240	23.5294
		Line1	180	17.5471
		Line5	120	11.7647

Variable	Label	Value	Frequency Count	Percent of Total Frequency
productName	Product Name	Product1	60	5.8824
		Product10	60	5.8824
		Product11	60	5.8824
		Product12	60	5.8824
		Product13	60	5.8824
		Product14	60	5.8824

Summary of Numeric (Not Date or Currency) Variables for SASHELP.PRICEDATA

Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
cost	Unit Cost	1020	0	37419.00	16.400	36.685	29.7	78.0	055372

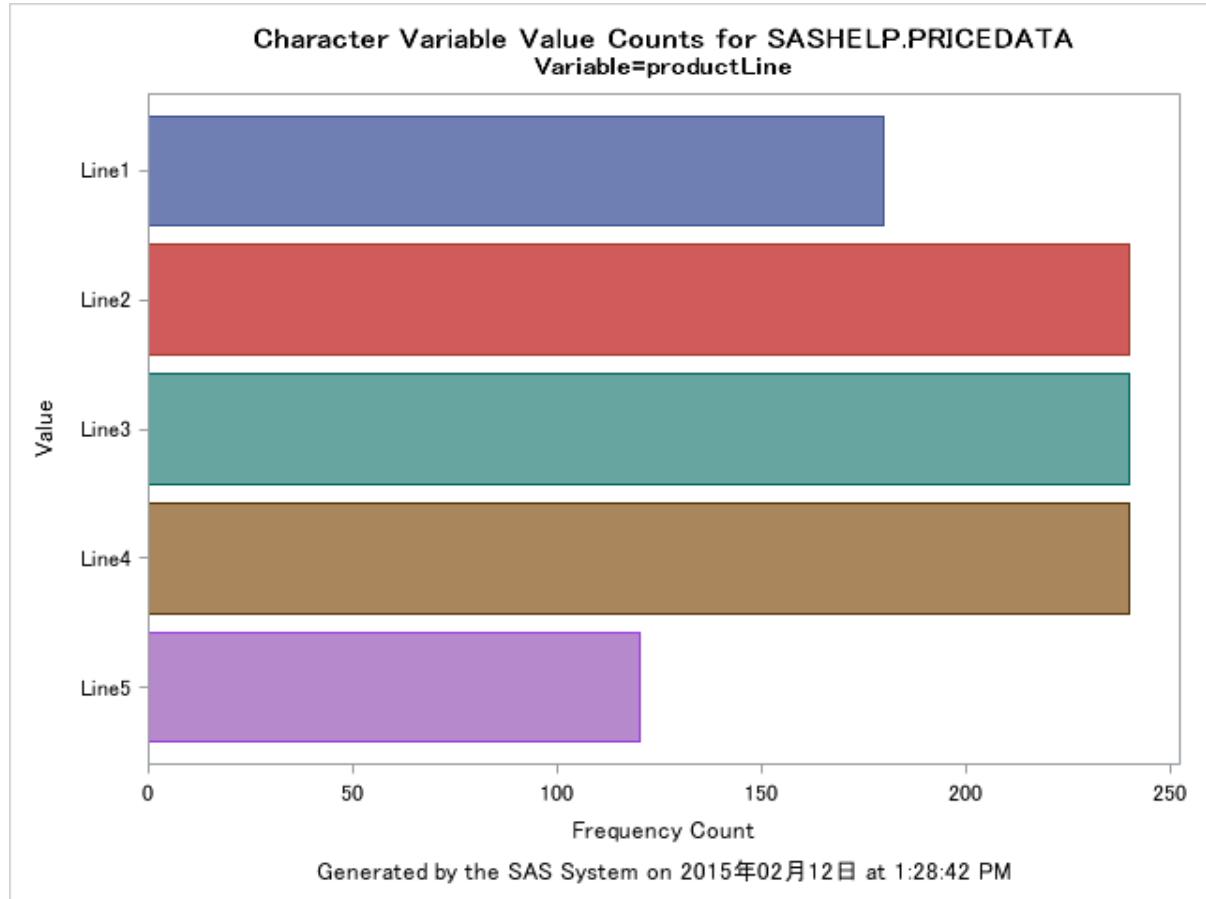
Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
discount	Price Discount	1020	0	11.50	0.000	0.011	0.0	0.2	0.00122

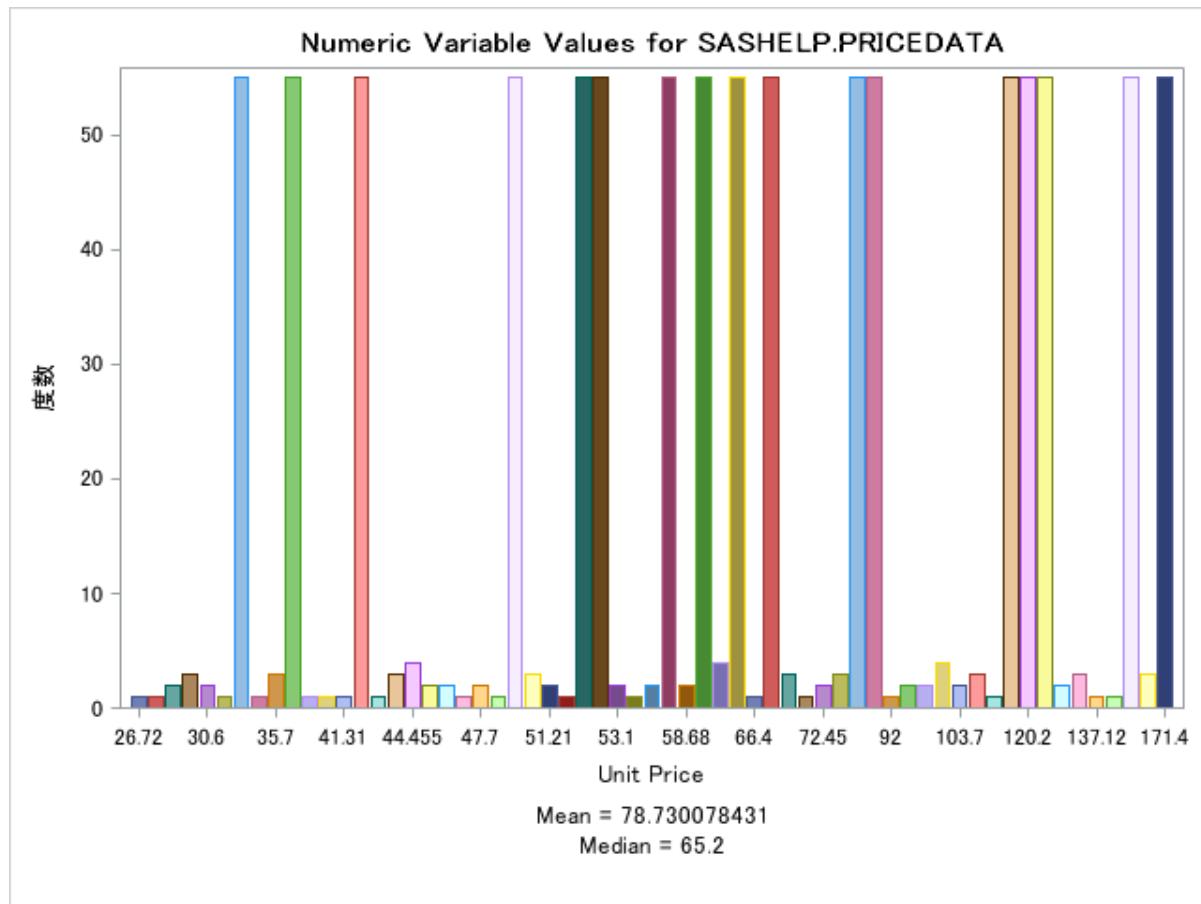
Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
line	Product Line ID	1020	0	2940.00	1.000	2882	30	50	0.04003

Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
price	Unit Price	1020	0	80304.68	26.720	78.730	65.2	171.4	1.23613

Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
price1	Product 1 Unit Price	1020	0	52723.63	44.455	51.690	52.3	52.3	0.06410

Variable	Label	N	NMiss	Total	Min	Mean	Median	Max	StdMean
price10	Product 10 Unit Price	1020	0	57312.53	45.520	56.189	56.9	56.9	0.07740





このタスクは、デフォルトで出力データの作成も実行します。出力データには、度数データテーブルと単変量データテーブルが含まれます。両方のテーブルは Work ライブラリに保存されます。

役割へのデータの割り当て

データの特性分析タスクを実行するには、データソースを選択する必要があります。ただし、役割は使用しません。

オプションの設定

オプション名	説明
出力オプション	少なくとも 1 つの出力オプションを選択する必要があります。デフォルトでは、要約レポート、グラフ、度数データと単変量データの出力テーブルが作成されます。
カテゴリ値を制限する	カテゴリ変数あたりに報告する値の最大数を指定します。デフォルトでは、30 の値が報告されます。この最大値は、 変数の重複しない値の最大数 ボックスで変更できます。

組み合わせタスク

組み合わせタスクについて

組み合わせタスクでは、各集合に特定の数のオブジェクトを指定して、全数のオブジェクトをいくつかの集合に分ける場合に可能な組み合わせの数を計算します。

例: 52 個のオブジェクトを 5 つの集合に分ける場合の組み合わせの計算

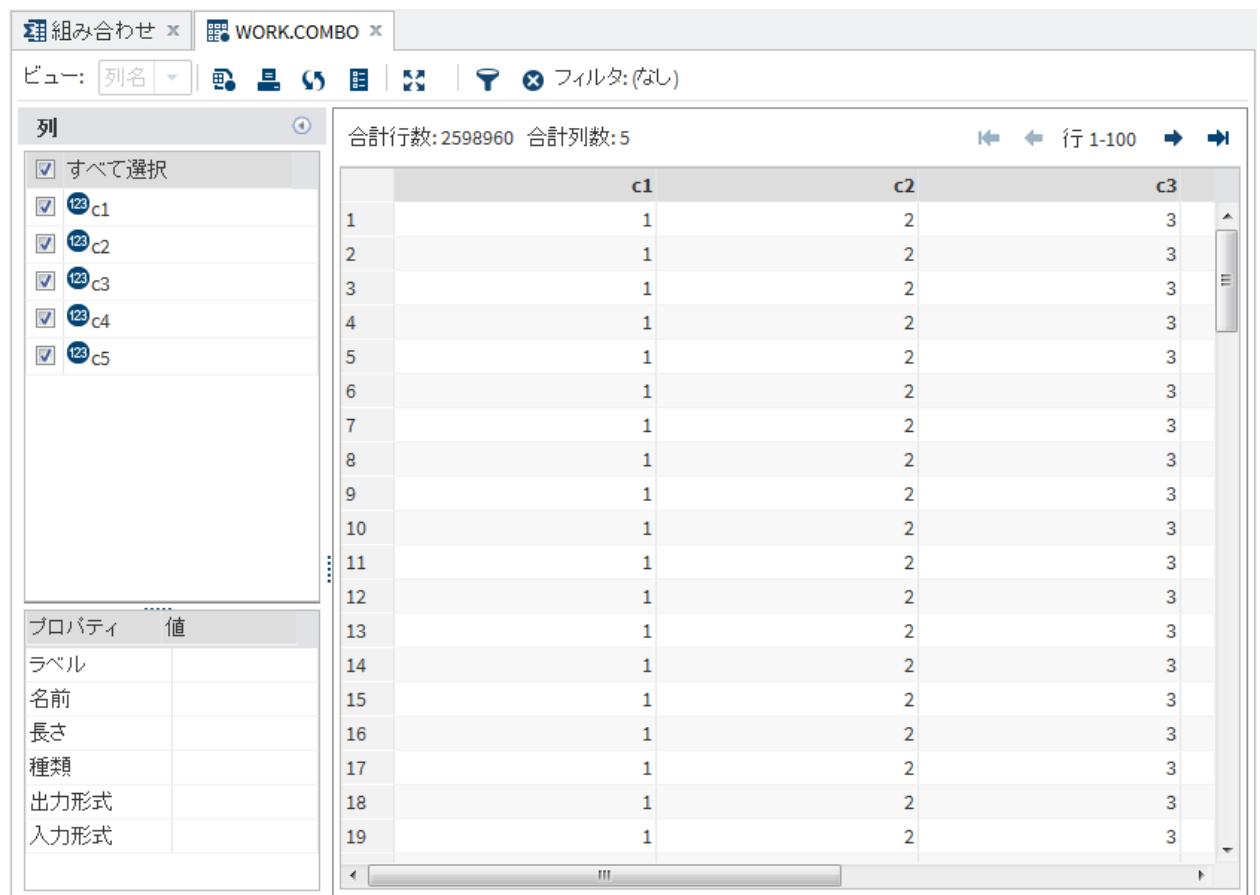
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、Combinatorics and Probability フォルダを展開し、Combinations をダブルクリックします。組み合わせタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- オプションタブで、次のオプションを指定します。
次の役割に列を割り当てます。

オプション名	指定する値
オブジェクトの総数	52
セット内のオブジェクトの数	5
データセット名	Combo

3 タスクを実行するには、 をクリックします。

組み合わせタスクによって出力データセットが作成されます。SAS Studio で、このデータセットは **WORK.Combo** タブに表示されます。



	c1	c2	c3
1	1	2	3
2	1	2	3
3	1	2	3
4	1	2	3
5	1	2	3
6	1	2	3
7	1	2	3
8	1	2	3
9	1	2	3
10	1	2	3
11	1	2	3
12	1	2	3
13	1	2	3
14	1	2	3
15	1	2	3
16	1	2	3
17	1	2	3
18	1	2	3
19	1	2	3

オプションの設定

組み合わせタスクを実行するには、次のオプションをすべて指定する必要があります。

オプション名	説明
オブザベーション	
オブジェクトの総数	オブジェクトの数を指定します。
セット内のオブジェクトの数	1つの集合内のオブジェクトの数を指定します。
出力データセット	
データセット名	出力データセットの名前を指定します。

リストタスク

リストタスクについて

リストタスクは、テーブルのコンテンツをレポートとして表示します。たとえば、リストタスクを使用して、各営業地域ごとに費用と収益を合計したレポートを作成できます。

例:自動車の種類別のドライブトレイン、MSRP、エンジンサイズのレポート

この例では、自動車の種類ごとのレポートを作成します。各レポートには、ドライブトレイン、MSRP およびエンジンサイズがリストされています。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、データフォルダを展開し、リストをダブルクリックします。リストタスクのユーザーインターフェイスが開きます。

2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。

3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
リスト変数	DriveTrain MSRP EngineSize
グループ分析	Type

4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

List Data for SASHELP.CARS

Type=Hybrid

Row number	DriveTrain	MSRP	Engine Size (L)
1	Front	\$20,140	1.4
2	Front	\$19,110	2.0
3	Front	\$20,510	1.5

Type=SUV

Row number	DriveTrain	MSRP	Engine Size (L)
4	All	\$36,945	3.5
5	All	\$37,000	3.0
6	All	\$52,195	4.4
7	All	\$37,895	4.2
8	Front	\$26,545	3.4
9	Front	\$52,795	5.3
10	Front	\$46,995	4.6
11	Front	\$42,735	5.3
12	All	\$41,465	5.3
13	Front	\$30,295	4.2
14	Front	\$20,255	2.5
15	All	\$32,235	4.7

役割へのデータの割り当て

役割	説明
リスト変数	リストされている順に変数を出力します。

役割	説明
グループ分析	この役割に1つ以上の変数を割り当てるとき、選択した変数または変数群によってテーブルで並べ替えが実行され、異なる値ごとに、あるいは変数または変数の組み合わせのグループ別にリストが生成されます。
合計	レポートのリストの一番下に、選択した変数の合計値を出力します。
ラベルの識別	この役割で1つ以上の変数を指定すると、行の識別に、オブザベーション番号(結果では列のヘッダー"Obs"で指定)ではなく、これらの変数の出力形式が適用された値がリストタスクで使用されます。

オプションの設定

オプション名	説明
基本オプション	
行番号を表示する	オブザベーションごとに行番号をリストする列を出力に追加します。 列のラベルテキストボックスに、この列用のラベルを指定できます。デフォルトでは、この列の名前は、Row numberです。
列ヘッダーに列のラベルを使用する	列のヘッダーとして、列の名前ではなく、列のラベルを使用します。
行数を表示する	テーブルの行数を出力の終わりに報告するか、各グループ別の行数を各グループ別の出力の最後に報告します。

オプション名	説明
変数を合計する前に値を四捨五入する	各数値をその形式で指定された小数点以下の桁数で四捨五入します。または、形式が指定されていない場合は、少数第3位で四捨五入します。このオプションが指定されている場合、リストタスクでは、変数を合計する前に値の四捨五入が実行されます。
ヘッダーの方向	列のヘッダーは、横書きまたは縦書きで出力できます。あるいは、 デフォルト を選択すると、SASにより各列の最適な配列が決定されます。
列の幅	<p>リストタスクでの列の幅の決定方法を指定します。</p> <p>Default ページごとに列の幅を決定します。</p> <p>Full すべてのページに対して、出力形式の幅(出力形式が指定されていない場合はデフォルトの幅)を使用します。</p> <p>Minimum ページごとに、最小の列の幅を使用します。</p> <p>Uniform テーブル全体を読み込んで、出力を生成する前に適切な列の幅を決定します。このオプションが選択されていない場合は、ページの異なる同じ列で、列の幅が異なることがあります。</p> <p>Uniform by すべての列を BY グループ内で均一にフォーマットします。各変数のフォーマットされた幅をその列幅として使用します。フィールドの幅を指定した出力形式が明示的に変数に設定されていない場合は、タスクでは、最大幅のデータ値が列の幅として使用されます。</p>

オプション名	説明
ラベルを分割する	<p>変数のラベルに分割文字(*、!、@、#、\$、%、^、&、+)のいずれかが含まれている場合、ラベルはその分割文字で分割されます。たとえば、"This is*a label"と記述された変数のラベルがあり、*文字が分割文字として選択されている場合、その列のヘッダーは、次のように出力されます。</p> <pre>This is a label</pre> <p>Use variable label as column headings オプションとラベルを分割するオプションの両方を選択する必要はありません。ラベルを分割するオプションは、変数のラベルを使用する必要があることを暗に示すものです。</p>
リストする行	出力でリストする行の数を指定します。デフォルトでは、すべての行がリストされます。

順列タスク

順列タスクについて

順列タスクでは、特定の数のオブジェクトについて想定し得る順列を計算します。

例: 6 つのオブジェクトの順列の計算

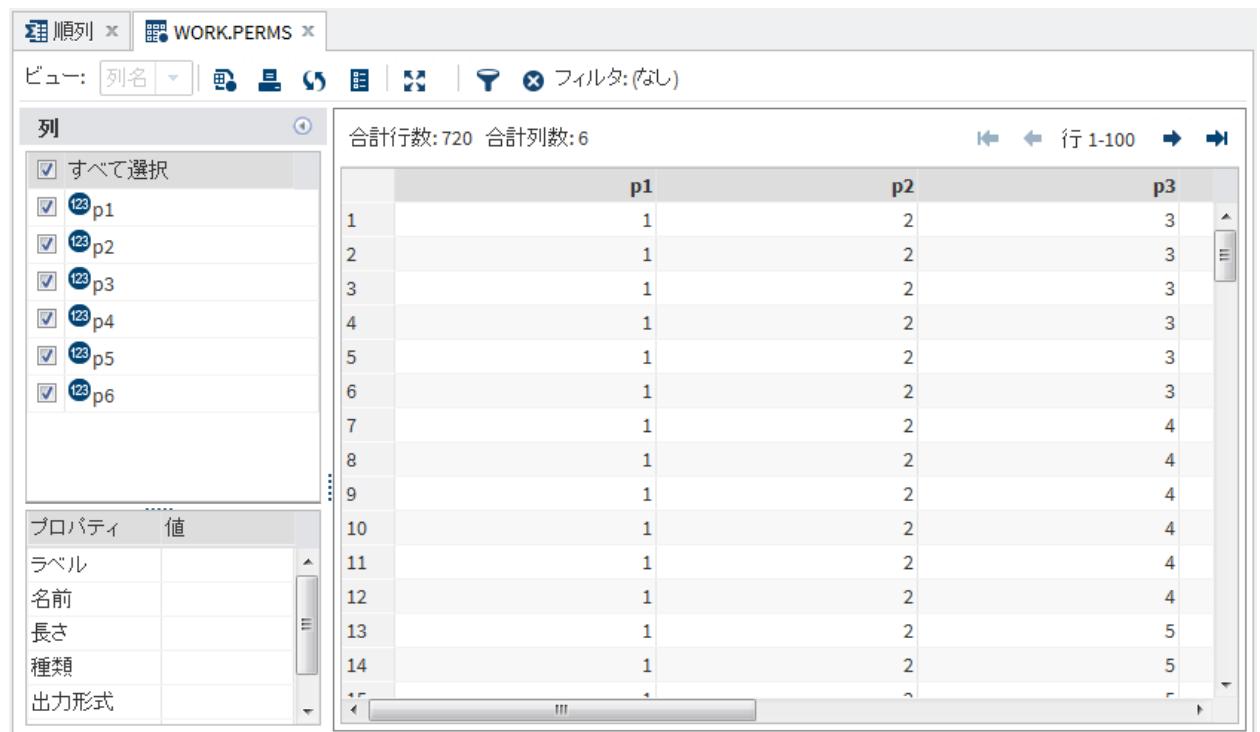
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、Combinatorics and Probability フォルダを展開し、Permutations をダブルクリックします。順列タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- オプションタブで、次のオプションを指定します。
次の役割に列を割り当てます。

オプション名	指定する値
Number of objects	6
データセット名	Perms

③ タスクを実行するには、 をクリックします。

順列タスクによって出力データセットが作成されます。SAS Studio で、このデータセットは **WORK.Perms** タブに表示されます。



The screenshot shows the SAS Studio interface with the '順列' (Sort) task open. The 'WORK.PERMS' tab is selected. On the left, there's a sidebar for column selection with checkboxes for 'すべて選択' and columns p1, p2, p3. Below it is a properties panel with fields for 'ラベル', '名前', '長さ', '種類', and '出力形式'. The main area displays a grid of data with 720 rows and 6 columns. The columns are labeled p1, p2, and p3. The data shows a repeating pattern of values 1, 2, and 3 across the rows.

	p1	p2	p3
1	1	2	3
2	1	2	3
3	1	2	3
4	1	2	3
5	1	2	3
6	1	2	3
7	1	2	4
8	1	2	4
9	1	2	4
10	1	2	4
11	1	2	4
12	1	2	4
13	1	2	5
14	1	2	5

オプションの設定

順列タスクを実行するには、次のオプションをすべて指定する必要があります。

オプション名	説明
Observations	
Number of objects	順列を計算するオブジェクトの数を指定します。この値として、1 から 10 の範囲を使用できます。
出力データセット	
データセット名	出力データセットの名前を指定します。

データのランクタスク

データのランクタスクについて

データのランクタスクでは、テーブルの行全体の 1 つ以上の数値変数のランクを計算し、出力テーブルにそのランクを含めます。

たとえば、自社で販売している各製品の売上高をランク付けする必要がある場合があります。この場合、ランク付け変数によって、製品の売上高の順位が示されます。最も売上高の大きい製品は、最初にランクされます。

例:年齢および身長による生徒のランク付け

この例では、教室の生徒を年齢と身長によってランク付けします。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、データフォルダを展開し、データのランクをダブルクリックします。データのランクタスクのユーザーインターフェイスが開きます。

2 データタブで、**SASHELP.CLASS** データセットを選択します。

3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
ランク付けを行う列	Hei
グループ変数	Age

4 タスクを実行するには、 をクリックします。

データのランクタスクによって出力データセットが作成されます。SAS Studio で、このデータセットが **WORK.Rank** タブに表示されます。このデータセットには、各生徒のそれぞれの年齢グループ内での身長のランクを示した、追加の rank_Height 列が含まれています。たとえば、11 歳の年齢グループでは、Joyce が 1 番にランクされています。12 歳の年齢グループでは、Louise が 1 番にランクされています。

The screenshot shows the KNIME interface with the 'WORK.RANK' node open. The left sidebar displays a list of columns: Name, Sex, Age, Height, Weight, and rank_Height. The 'Age' and 'Height' columns are selected. The main area shows a preview of 19 rows of data with columns: Name, Sex, Age, Height, and rank_Height. The data includes names like Joyce, Thomas, James, Jane, John, Louise, Robert, Alice, Barbara, Jeffrey, Alfreddo, Carol, and Henry, along with their sex (Female/Male), age (11-14), height (51.3-69), and rank (1-5).

	Name	Sex	Age	Height	rank_Height
1	ジョイス	女子	11	51.3	1
2	トーマス	男子	11	57.5	2
3	ジェームズ	男子	12	57.3	2
4	ジェーン	女子	12	59.8	4
5	ジョン	男子	12	59	3
6	ルイーズ	女子	12	56.3	1
7	ロバート	男子	12	64.8	5
8	アリス	女子	13	56.5	1
9	バーバラ	女子	13	65.3	3
10	ジェフリー	男子	13	62.5	2
11	アルフレッド	男子	14	69	4
12	キャロル	女子	14	62.8	1
13	ヘンリー	男子	14	63.5	2

役割へのデータの割り当て

データのランクタスクを実行するには、**ランク付けを行う列**役割に列を割り当てる必要があります。

役割

ランク付けを行う列

説明

この役割に割り当てられる各列がランク付けされます。この役割には、少なくとも 1 つの変数を割り当てる必要があります。デフォルトでは、ランク付けされた列には、`rank_column-name` という名前が付けられます。ここで、`column-name` は、列の元の名前です。

役割	説明
グループ変数	この役割に 1 つ以上の列を割り当てると、選択した列または列群によって入力テーブルで並べ替えが実行され、各グループ内でランクが計算されます。

オプションの設定

少なくとも 1 つの出力オプションを選択する必要があります。

オプション名	説明
オプション	

ランク付けの方法

データのランク付けを実行する際に使用する方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

None

データをランク付けする方法を使用しません。

100 個のグループに分けてランク付け

元の値を 100 個のグループに分割します。これらのグループでは、最小の値にパーセント点 0 が付与され、最大の値にパーセント点 99 が付与されます。

Deciles

元の値を 10 個のグループに分割します。これらのグループでは、最小の値に十分位値 0 が付与され、最大の値に十分位値 9 が付与されます。

オプション名	説明
ランク付けの方法(続き)	<p>Quartiles 元の値を 4 つのグループに分割します。これらのグループでは、最小の値に四分位値 0 が付与され、最大の値に四分位値 3 が付与されます。</p> <p>Group = n (NTILES) 元の値を n 個のグループに分割します。これらのグループでは、最小の値に値 0 が付与され、最大の値に値 $n-1$ が付与されます。値 n は、グループ数ボックスで指定します。</p> <p>Fractional ranks with denominator = n 各ランクを、ランク付け変数の非欠損値を持つオブザベーションの数で割って、分数のランクを計算します。</p> <p>Fractional ranks with denominator = n+1 各ランクを、分母 $n+1$ (ここで、n はランク付け変数の非欠損値を持つオブザベーションの数)で割って、分数のランクを計算します。</p> <p>Percents 各ランクを、変数の非欠損値を持つオブザベーションの数で割り、その結果に 100 を掛けてパーセント値を求めます。</p>

オプション名	説明
ランク付けの方法(続き)	<p>Normal scores (Blom formula)、Normal scores (Tukey formula)、Normal scores (van der Waerden formula)</p> <p>ランクから正規スコアを計算します。結果変数は、正規分布で表示されます。式は次のとおりです。</p> <p>Blom 式</p> $y_i = \Phi^{-1} \left(\frac{\left(r_i - \frac{3}{8} \right)}{\left(n + \frac{1}{4} \right)} \right)$ <p>Tukey 式</p> $y_i = \Phi^{-1} \left(\frac{\left(r_i - \frac{1}{3} \right)}{\left(n + \frac{1}{3} \right)} \right)$ <p>van der Waerden 式</p> $y_i = \Phi^{-1} \left(\frac{r_i}{(n+1)} \right)$ <p>これらの式で、Φ^{-1}は累積正規分布関数の逆関数(PROBIT)で、r_i は i 番目のオブザベーションのランク、n はランク付け変数の非欠損オブザベーションの数を表します。</p> <p>注: タイ値のときに適用する順位オプションを設定した場合、データのランクタスクでは、タイ値以外の値に基づいて、ランクから正規スコアを計算し、その結果得られるスコアにタイ値指定を適用します。</p> <p>Savage スコア(指数) ランクから Savage(指数)スコアを計算します。</p> <p>注: タイ値のときに適用する順位オプションを設定した場合、データのランクタスクでは、タイ値以外の値に基づいて、ランクから Savage スコアを計算し、その結果得られるスコアにタイ値指定を適用します。</p>

オプション名	説明
タイ値のときに適用する順位	タイ値となるデータについて正規スコアまたはランクの計算方法を指定します。
	Mean (Midrank) 対応するランクまたは正規スコアの平均を割り当てます。
	高順位 対応するランクまたは正規スコアの最大値を割り当てます。
	低順位 対応するランクまたは正規スコアの最小値を割り当てます。
	ランク(Dense) タイ値を单一順位の統計量として取り扱うことによりスコアおよびランクを計算します。デフォルトの方法の場合、ランクは、1 位で始まり、ランク付け対象の変数の一意の非欠損値の数で終わる連続した整数です。タイ値には、同じランクが割り当てられます。
ランク順	値を最小値から最大値の順にリストするか、最大値から最小値の順にリストするかを指定します。
結果	
出力データの保存場所	出力テーブルの場所を指定します。デフォルトでは、このテーブルは Work 一時ライブラリに保存されます。
ランク付けされた列を含める	出力テーブルに元の列とランク付けされた列を含めることを指定します。元の列をランク付けされた列で置き換える必要がある場合は、 Include ranking columns チェックボックスの選択を解除してください。 デフォルトで、ランク付けされた列には、 <code>rank_column-name</code> という名前が付けられます。ここで、 <code>column-name</code> は、元の列の名前です。

ランダムサンプルタスク

ランダムサンプルタスクについて

ランダムサンプルタスクでは、入力テーブルの行のランダムサンプルを含む出力テーブルを作成します。

データの部分集合が必要な場合に、このタスクを使用します。たとえば、経費報告手続きを改善し、できる限り経費を削減する目的で、従業員の旅費を監査する必要があると仮定します。すべての経費報告書を調べるためのリソースは持っていないため、統計的なサンプル抽出を使用して、監査用の経費報告書を客観的に選択します。

例: **Sashelp.Pricedata** データセットのランダムサンプルの作成

この例では、Sashelp.Pricedata データセットのデータの部分集合を作成します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、データフォルダを展開し、**ランダムサンプル**をダブルクリックします。ランダムサンプルタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.PRICEDATA** データセットを選択します。
- 3 タスクを実行するには、 をクリックします。

表形式の結果を次に示します。

SURVEYSELECT プロシジャー

選択方法	Simple Random Sampling
------	------------------------

入力データセット	PRICEDATA
乱数シード	614778001
標本サイズ	10
選択確率	0.009804
サンプリングの重み	102
出力データセット	RANDOMSAMPLE

また、このタスクを実行すると、サンプルデータセットも Work ライブラリに作成されます。SAS Studio で、このデータセットは **WORK.RandomSample** タブに表示されます。

	date	sale	price	discount	cost
1	JUL01	419	52.3	0	23.9
2	APR02	391	52.3	0	23.9
3	FEB02	378	67.9	0	30.9
4	APR01	367	48.6	0	22.2
5	OCT00	245	65.2	0	29.7
6	APR01	319	52.16	0.2	29.7
7	MAR02	266	65.2	0	29.7
8	SEP02	304	58.68	0.1	29.7
9	AUG99	444	56.9	0	25.9
10	AUG99	429	120.2	0	54.7

役割へのデータの割り当て

ランダムサンプルタスクでは、入力データソースを指定する必要があります。タスクの実行に役割は必要ありません。

役割	説明
出力列	出力テーブルに含める変数を指定します。デフォルトでは、すべての変数が出力テーブルに含まれます。ただし、出力に含める変数を選択することもできます。

役割	説明
層の列	<p>入力テーブルを重複のない相互排他的なサブセット(層)に分割するために使用する変数を指定します。各層は層の変数の一連の値によって定義され、サンプリングは層ごとに別々に行われます。完全サンプルは、すべての層から取得されたサンプルの和集合です。</p> <p>注: この役割に変数を割り当てない場合は、入力テーブル全体が単一層として扱われます。</p> <p>合計サンプルサイズは、各層のサイズに比例して層間で割り振ることができます。例として、候補値が M と F の変数 GENDER および候補値が Y と N の変数 VOTED について考えます。GENDER と VOTED の両方を層の列役割に割り当てた場合、入力テーブルは 4 つの層(投票した男性、投票しなかった男性、投票した女性、投票しなかった女性)に分割されます。</p> <p>入力テーブルは 20,000 行で構成され、値は次のように分布しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 投票した男性 7,000 人 ■ 投票しなかった男性 4,000 人 ■ 投票した女性 5,000 人 ■ 投票しなかった女性 4,000 人 <p>したがって、投票した男性の比率は、$7,000/20,000=0.35$ (35%)になります。サンプルにおける比率は、入力テーブルにおける層の比率を反映している必要があります。たとえば、使用するサンプルテーブルのオブザベーション件数が 100 の場合、入力テーブルにおける比率が反映されるように、投票した男性の層からサンプル値の 35%を選択する必要があります。</p>

オプションの設定

オプション名	説明
サンプルサイズ	<p>サンプルサイズを必要行数または入力行の必要パーセントとして指定します。たとえば、入力行が 400 あるときに行の 3%と指定した場合、結果のサンプルには 12 行が含まれることになります。</p> <p>注: 層の列役割に変数を割り当てた場合、ここで指定するサンプルサイズは入力テーブル全体ではなく各層に適用されます。</p>
サンプリング手法	<p>データをサンプリングする際に使用する方法を指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Simple (no duplicates) 入力データをサンプリングする際に簡易法を指定します。選択された行は、その後の選択の対象になりません。これにより、同じ行を 2 度以上選択することが不可能になります。</p> <p>Unrestricted (duplicates allowed) 入力データをサンプリングする際に、制限のない方法を指定します。選択された行は、その後も選択の対象になります。これにより、同じ行を 2 度以上選択することが可能になります。出力テーブルでは、同じ行を複数回選択した場合の記録方法を指定できます。</p> <p>次のオプションから選択できます。</p> <p>Show each observations once in output (exclude duplicates) 任意の行を n 回選択した場合、その行はサンプルに 1 回使用されます。出力では、NumberHits 変数(ランダムサンプルタスクが自動的に計算)によって、入力テーブルでオブザベーションが発生した回数がリストされます。</p> <p>Show all observations in output (include duplicates) 任意の行を n 回選択した場合、その行はサンプルに n 回使用されます。</p>

オプション名	説明
出力データセットの場所	出力データの名前と場所を指定します。デフォルトでは、このデータは Work ライブラリに保存されます。
ランダムシード値	乱数生成の初期シードを指定します。ランダムシード値を指定しない場合、システムクロックに基づくシードを使用してサンプルが作成されます。
サンプル選択の要約の生成	サンプルの生成に使用したシードを含む要約テーブルを生成します。同じ入力テーブルを使用してこの同じシードを後で指定することで、同じサンプルを再現できます。

データの並べ替えタスク

データの並べ替えタスクについて

データの並べ替えタスクを使用すると、いずれかの列をキーとしてテーブルを並べ替えることができます。このタスクの結果は、Work ライブラリの並べ替えテーブルに保存されます。このタスクの実行時には、結果または出力データは表示されません。

役割へのデータの割り当て

データの並べ替えタスクを実行するには、並べ替え役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
並べ替え	この役割に 1 つ以上の変数を割り当てるとき、選択した変数によってテーブルがグループ化されます。並べ替えのプライマリキー、セカンダリキーおよびそれ以降のキーがどの変数であるかによって、この役割内での変数の表示順序が決まります。並べ替えのプライマリキーは、常に並べ替え役割内で最初にリストされる変数です。

役割	説明
削除する変数	この役割に 1 つ以上の変数を割り当てるとき、指定した変数は生成される出力に含まれません。この役割には、最大($n - 1$)の変数を割り当てるすることができます。 n は、このテーブルの変数の総数です。

オプションの設定

オプション名	説明
出力順序	
照合シーケンス	<p>文字変数を並べ替える際に使用する照合シーケンスを指定します。次の照合基準を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ サーバーで定義されているシーケンス(サーバーデフォルト) ■ ASCII または EBCDIC 照合シーケンス ■ 文字変数の逆引き照合順序 ■ デンマーク、フィンランド、イタリア、ノルウェー、スペイン、スウェーデンなどの国家基準 ■ 社内のインストールサイトで規定されているカスタム定義の照合シーケンス
'並べ替え' グループ内で元のデータ順を維持する	並べ替え役割で設定されている順序に従い、データをグループ化します。このオプションが選択されていない場合、出力テーブルは、ソート対象のキー グループ内で無定義の順序でグループ化されます。
重複レコード	
すべてのレコードを保持する	すべての重複レコードを含め、すべてのレコードを出力テーブルに保持します。

オプション名	説明
各 '並べ替え' グループの第 1 レコードのみ保持する	並べ替えグループに同じ値がある重複したオブザベーションは排除されます。Group data in the order of the Sort by variable オプションが選択されている場合は、各並べ替えグループで保持されるオブザベーションは、元のテーブルから読み込まれた最初のオブザベーションです。Group data in the order of the Sort by variable が選択されていない場合は、各並べ替えグループで保持されるオブザベーションを事前に決めるることはできません。
隣接する重複レコードを保持しない	各レコードを出力テーブルの以前のレコードと比較します。厳密な一致が検出された場合、その重複レコードは出力テーブルに書き込まれません。 注: 並べ替え役割に割り当てない変数がある場合は、レコードが隣接していないことが原因で、一部の重複レコードが排除されないことがあります。
高度な並べ替え	
並べ替え用のメモリ	データの並べ替えタスクで使用可能なメモリの最大容量を指定します。メモリの容量は、バイト(B)、キロバイト(KB)、メガバイト(MB)、ギガバイト(GB)で指定できます。また、利用可能なメモリのすべてを使用するか、サーバーに割り当てられているデフォルトの容量のメモリを使用するかを指定できます。
一時的に必要なディスク容量を削減する	データの並べ替え処理時に、一時ファイル内に並べ替え変数およびオブザベーション番号のみを保存し、並べ替えの実行に必要なストレージの容量を削減するように指定します。並べ替えの最終段階には、一時ファイルをインデックスとして使用して元のテーブルにアクセスし、正しく並べ替えられた順序でデータを結果テーブルに送信します。

オプション名	説明
インデックス付きのデータを並べ替える	テーブルがすでに適切な順序で並べ替えられている場合、または並べ替え役割で指定したとおりのキーを持つインデックスがテーブルに作成されている場合にも、すべてのテーブルを並べ替える必要があることを指定します。このオプションを指定すると、テーブルの現在の順序またはインデックスの有無にかかわらず、テーブルは並べ替えられます。
結果	
出力データの保存場所	出力テーブルの保存場所を指定します。デフォルトでは、このテーブルは Work 一時ライブラリに保存されます。

テーブル属性タスク

テーブル属性タスクについて

テーブル属性タスクでは、次のような種類のレポートを作成できます。

- 次のデータ属性を含むデフォルトのレポート: テーブルが作成された日付、最後に変更された日付、行数、エンコーディング、エンジン依存またはホスト依存の情報、変数とその属性のアルファベット順のリスト。
- 拡張レポートには、テーブルおよび変数の属性が表示されます。デフォルトのレポートとは異なり、レポート内のコンテンツの順番を指定できます。このレポートで、テーブルの種類、テーブルの作成日と変更日、オブザベーションの数、変数のラベル、変数の種類を確認できます。

例: Sashelp.Pricedata データセットのテーブル属性

この例では、Sashelp.Pricedata データセットのテーブル属性を表示します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、データフォルダを展開し、テーブル属性をダブルクリックします。テーブル属性タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.PRICEDATA データセットを選択します。
- 3 オプションタブで、デフォルトのレポートチェックボックスの選択を解除します。
- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

テーブル属性タスクの結果の一部を次に示します。これらの結果は、Sashelp.Pricedata データセットの拡張レポートです。

Table Name	Label	Type	Date Created	Date Modified	Number of Obs.	Char. Set	Password Protected	Data Set Type
PRICEDATA	Simulated monthly sales data with hierarchy of region, line, product	DATA	20JUNI 3:13:29:56	20JUNI 3:13:29:56	1020		—	

Name	変数番号	Type	Format	Label	Length
cost	5	Numeric		Unit Cost	8
date	1	Numeric	MONYY	Order Date	8
discount	4	Numeric		Price Discount	8
line	27	Numeric		Product Line ID	8
price	3	Numeric		Unit Price	8
price1	6	Numeric		Product 1 Unit Price	8
price10	15	Numeric		Product 10 Unit Price	8
price11	16	Numeric		Product 11 Unit Price	8
price12	17	Numeric		Product 12 Unit Price	8
price13	18	Numeric		Product 13 Unit Price	8
price14	19	Numeric		Product 14 Unit Price	8
price15	20	Numeric		Product 15 Unit Price	8

また、出力データセットが WORK.TableAttributes タブに表示されます。

合計行数: 28 合計列数: 41 行 1-28

	LIBNAME	MEMNAME	MEMLABEL
1	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
2	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
3	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
4	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
5	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
6	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
7	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
8	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
9	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
10	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
11	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
12	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
13	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
14	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
15	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
16	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w
17	SASHHELP	PRICEDATA	Simulated monthly sales data w

オプションの設定

オプション名	説明
デフォルトのレポート	DATASETS プロシージャの出力が含まれています。このレポートには、テーブルの作成日および最終変更日、オブザベーションの数、エンコーディング、エンジン依存またはホスト依存の情報、変数とその属性のアルファベット順のリストなどのデータ属性が含まれています。

オプション名	説明
拡張レポート	<p>DATASETS プロシージャの出力が含まれています。REPORT プロシージャを使用して拡張レポートが作成されています。</p> <p>このレポートには、テーブルと変数の属性が表示されます。このレポートで、テーブルの種類、テーブルの作成日と変更日、オブザベーションの数、変数のラベル、変数の種類を確認できます。</p>
変数の並べ替え基準	<p>変数テーブルで、変数名、テーブルの変数の順序、変数の種類、変数の出力形式、変数のラベルによって行を並べ替えます。</p> <p>注: このオプションは、拡張レポートのみに適用されます。</p>
並べ替えの順序	<p>テーブルの行を昇順または降順のどちらで並べ替えるかを指定します。</p> <p>注: このオプションは、拡張レポートのみに適用されます。</p>
出力データの保存場所	<p>出力テーブルの場所を指定します。デフォルトでは、このテーブルは Work 一時ライブラリに保存されます。</p>

データの転置タスク

データの転置タスクについて

データの転置タスクでは、入力テーブルの選択した列を出力テーブルの行に転置します。グループ変数を使用しない場合は、選択したそれぞれの列が单一の行に転置されます。グループ変数を使用した場合は、選択した列がグループ変数の値に基づいて下位列に分割されます。各サブ列は、出力テーブルの行になります。

役割へのデータの割り当て

データの転置タスクを実行するには、**転置変数役割**に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
転置変数	<p>この役割に割り当てる各変数は、出力テーブルの1つ以上の行になります。グループ変数を選択しない場合は、列全体が単一の行に転置されます。1つ以上のグループ変数を選択した場合、各列はグループ変数を使用してサブ列に分割され、各サブ列が1つの行に転置されます。この場合、1つの列はグループ変数で定義されているグループの数と同じ数の行に転置されます。</p> <p>転置変数役割には、少なくとも1つの列を割り当てる必要があります。グループ変数を選択するには、グループ分析役割に列を割り当てます。</p>
コピー変数	<p>この役割に割り当てる各変数は、転置されることなく、入力テーブルから直接出力テーブルにコピーされます。これらの列は、直接出力テーブルにコピーされるため、出力テーブルの行の数と入力テーブルの行の数は同じです。入力テーブルの行の数が、転置する変数の数と同じでない場合、出力テーブルは欠損値で埋められます。</p>
グループ分析	<p>この役割に割り当てる各変数は、転置しようとしている列をサブ列に分割するために使用されます。分割したサブ列は個別に転置されます。グループ変数の一連の値によって定義された各サブ列は、出力テーブルの行になります。</p>
New column names	<p>この役割に割り当てる変数は、出力データセットの転置変数に名前を付ける際に使用されます。転置データセットの変数名が作成されると、出力形式が適用された非欠損値はすべて、変数がこの役割に割り当てられたのと同じ順序で連結されます。</p> <p>Allow duplicate items チェックボックスを選択すると、転置出力データセットには、各 BY グループの前回のオブザーバーションのみが含まれます。</p>

役割	説明
New column labels	この役割に割り当てる変数の値は、 New column names 役割の変数をラベル付けする際に使用されます。

オプションの設定

オプション名	説明
ソースの列	
Name	出力テーブルの各行には、その出力行の値が属している入力テーブルの変数の名前が含まれています。これらの変数名を含む出力列のヘッダーを指定するには、Name ボックスにヘッダーの名前を入力します。ヘッダーの名前には、特殊文字、先頭の番号、空白を含めることができますが、32 文字を超えることはできません。デフォルトの名前は、Source です。
ラベル	出力テーブルの各行には、その出力行の値が属している入力テーブルの変数のラベルが含まれています。これらの変数のラベルを含む出力列のヘッダーを指定するには、Label ボックスにヘッダーのラベルを入力します。ラベルには、特殊文字、先頭の数、空白を含めることができますが、32 文字を超えることはできません。デフォルトのラベルは Label です。
Column Name Prefix	
Use prefix	出力データセット内の転置変数の名前を作成する際に使用する接頭辞を指定できます。接頭辞を使用する場合、変数名は接頭辞値で始まり、その後に New column names 役割に割り当たった変数の値が続きます。
結果	
出力テーブルの名前	出力テーブルには、異なる名前を指定できます。

9

計量経済分析タスク

カウントデータ回帰分析タスク	152
カウントデータ回帰分析タスクについて	152
例: カウントデータ回帰分析	152
役割へのデータの割り当て	155
オプションの設定	155
 <i>Heckman</i> 選択モデルタスク	158
<i>Heckman</i> 選択モデルタスクについて	158
例: <i>Heckman</i> 選択モデルタスク	158
役割へのデータの割り当て	161
オプションの設定	161
 パネルデータ: カウントデータ回帰分析タスク	162
パネルデータ: カウントデータ回帰分析タスクについて	162
例: パネルデータを扱うカウントデータ回帰分析	163
役割へのデータの割り当て	165
オプションの設定	165
 パネルデータ: 線形回帰分析	166
パネルデータ: 線形回帰分析タスクについて	166
例: パネルデータを扱う線形回帰分析	167
役割へのデータの割り当て	168
モデルオプションの設定	169
オプションの設定	170
 バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスク	172

バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクについて	172
例:バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスク	173
役割へのデータの割り当て	175
オプションの設定	175

カウントデータ回帰分析タスク

カウントデータ回帰分析タスクについて

カウントデータ回帰分析タスクでは、連続従属変数の回帰分析を実行します。この変数は、Poisson 分布、負の二項分布、Zero-inflated Poisson 分布、Zero-inflated 負の二項分布などの分布から、負でない整数値を扱います。

注: タスクのバージョンは、サイトで利用可能な SAS/ETS のバージョンによって異なります。たとえば、サイトで SAS 9.4 以前のバージョンを実行している場合は、SAS Studio ではバージョン 1 のカウントデータ回帰分析タスクが実行されます。サイトで SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 以降を実行していて、SAS/ETS 13.1 以降が利用できる場合は、SAS Studio ではバージョン 2 のカウントデータ回帰分析タスクが実行されます。2 つのバージョンの違いは、SAS/ETS 13.1 以降には新しいオプションが追加されていることです。

例:カウントデータ回帰分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 WORK.LONG97DATA データセットを作成します。詳細については、“[LONG97DATA データセット](#)”(386 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、**計量経済**フォルダを展開し、カウントデータ回帰分析をダブルクリックします。カウントデータ回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.LONG97DATA** データセットを選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	art
連続変数	ment phd mar
カテゴリ変数	kid5

5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Class Level Information		
Class	Levels	Values
kid5	4	0 1 2 3

Model Fit Summary					
Dependent Variable	art				
Number of Observations	915				
Data Set	WORKLONG97DATA				
Model	Poisson				
Log Likelihood	-1659				
Maximum Absolute Gradient	4.52499E-9				
Number of Iterations	5				
Optimization Method	Newton-Raphson				
AIC	3332				
SBC	3366				

Algorithm converged.

Parameter Estimates					
Parameter	DF	Estimate	Standard Error	t Value	Approx Pr > t
Intercept	1	-0.570945	0.296411	-1.93	0.0541
ment	1	0.026211	0.002014	13.01	<.0001
phd	1	0.015683	0.026428	0.59	0.5529
mar	1	0.179880	0.062563	2.88	0.0040
kid5_0	1	0.726607	0.280831	2.59	0.0097
kid5_1	1	0.594124	0.283226	2.10	0.0359
kid5_2	1	0.451952	0.288913	1.56	0.1177
kid5_3	0	0			

役割へのデータの割り当て

カウントデータ回帰分析タスクを実行するには、**従属変数**役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	<p>負でない整数またはカウント値を持つ数値列を指定します。</p> <p>分布オプションでは、分析対象モデルの種類を指定します。次の種類のモデルを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Poisson 分布回帰分析モデル ■ 線形分散関数を使用した負の二項分布回帰分析モデル ■ 2 次分散関数を使用した負の二項分布回帰分析モデル ■ Zero-inflated Poisson 分布モデル ■ Zero-inflated 負の二項分布モデル <p>Zero-inflated 分布を選択した場合は、ゼロの確率の計算に使用するリンク関数を指定できます。</p>
連続変数	回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。
カテゴリ変数	分析でデータのグループ化に使用する変数を指定します。

オプションの設定

オプション	説明
手法	

オプション	説明
パラメータ推定値の共分散の種類	<p>パラメータ推定値の共分散行列の種類を指定します。</p> <p>次の種類の行列を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 逆 Hessian 行列からの共分散 ■ 外積行列からの共分散 ■ 外積行列と Hessian 行列からの共分散(準最尤推定値ともいう)
モデルに切片を含める	モデルに切片を含めるかどうかを指定します。
最適化	
手法	使用する反復最小化法を指定します。
最大反復回数	選択した方法の最大反復回数を指定します。
統計量	<p>結果に、タスクによってデフォルトで作成される統計量を含めるか、デフォルトの統計量と追加で選択した統計量を含めるか、あるいは統計量を一切含めないかを指定できます。</p> <p>結果に含めることができる追加統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ推定値の相関行列 ■ パラメータ推定値の共分散行列 ■ 目的関数とパラメータ推定値の反復過程
Plots	<p>注: プロットオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 以降を実行している場合にのみ使用できます。</p>
Select plots to display	結果に、デフォルトのプロットのみを含めるか、選択したプロットのみを含めるか、あるいはプロットを一切含めないかを指定します。
診断プロット	

オプション	説明
プロファイル尤度プロット	モデルパラメータのプロファイル尤度関数を作成します。X 軸のモデルパラメータは変化しますが、他のパラメータはすべて最尤推定値で固定されます。
過分散診断プロット	過分散診断プロットを作成します。
確率プロット	
包括的な予測確率プロット	指定カウントレベルの包括的な予測確率を作成します。
予測確率プロファイルプロット	モデル回帰変数に対して、指定カウントレベルの予測確率プロファイルを作成します。X 軸の回帰変数は変化しますが、他の回帰変数はすべて実測データセットの平均値で固定されます。
指定カウントレベル	包括的な予測確率プロットおよび予測確率プロファイルプロットの応答変数の値を指定します。各値は負でない整数にする必要があります。整数以外を指定した場合は、最も近い整数に丸められます。 X TO Y BY Z の形式でリストを指定することができます。たとえば、COUNTS(0 1 2 TO 10 BY 2 15)を使用した場合、カウント 0、1、2、4、6、8、10、15 のプロットが作成されます。
Zero-Inflation プロット	注: zero-inflation プロセス選択の確率プロファイルプロットオプションは、依存変数の分布として、Zero-inflated Poisson 分布または Zero-inflated 負の二項分布を選択した場合のみ利用できます。
zero-inflation プロセス選択の確率プロファイルプロット	モデル回帰変数に対して、zero-inflation プロセス選択の確率プロファイルプロットを作成します。X 軸の回帰変数は変化しますが、他の回帰変数はすべて実測データセットの平均値で固定されます。
表示形式	プロットをパネルに表示するか、個別に表示するかを指定します。このオプションは、すべての分布に適用されます。

Heckman 選択モデルタスク

Heckman 選択モデルタスクについて

Heckman の 2 段階選択法は、作為的に選択したサンプルの修正手段として使用できます。これは 2 段階推定法です。1 段階目では、選択式に対してプロビット分析を実行します。2 段階目では、1 段階目のバイナリプロビットモデルに基づいて結果式を分析します。

注: このタスクは、SAS 9.4 以降および SAS/ETS 12.3 以降を実行している場合にのみ使用できます。

例: Heckman 選択モデルタスク

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 Work.Mroz データセットを作成します。詳細については、“[MROZ データセット](#)”(406 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、**計量経済**フォルダを展開し、**Heckman 選択モデル**をダブルクリックします。Heckman 選択モデルタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.MROZ** データセットを選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
選択式	
従属変数	inlf

役割	列名
連続変数	nwifeinc exper expersq age kidslt6 kidsge6
結果式	
従属変数	lwage
連続変数	exper expersq
カテゴリ変数	educ

5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Summary Statistics of Continuous Responses								
Variable	N	Mean	Standard Error	Type	Lower Bound	Upper Bound	N Obs Lower Bound	N Obs Upper Bound
lwage	428	1.190173	0.723198	Regular				

Discrete Response Profile of inflf		
Index	Value	Total Frequency
1	0	325
2	1	428

Class Level Information		
Class	Levels	Values
educ	13	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

Heckman First Step Model Fit Summary		
Number of Endogenous Variables		1
Endogenous Variable		inlf
Number of Observations		753
Log Likelihood		-415.37436
Maximum Absolute Gradient		0.0001730
Number of Iterations		13
Optimization Method		Quasi-Newton
AIC		844.74872
Schwarz Criterion		877.11718

Goodness-of-Fit Measures		
Measure	Value	Formula
Likelihood Ratio (R)	199	$2 * (\text{LogL} - \text{LogL0})$
Upper Bound of R (U)	1029.7	$-2 * \text{LogL0}$
Aldrich-Babbitt	none	□ / □□□

役割へのデータの割り当て

Heckman 選択モデルタスクを実行するには、選択式および結果式の従属変数役割に列を割り当てる必要があります。

役割	列名
選択式	
従属変数	バイナリ値を持つ単一の数値列を指定します。タスクでデフォルトで使用されるサンプルでは、従属変数が 1 に等しくなっています。
連続変数	モデルで選択式の従属変数に使用する独立列(回帰変数)を指定します。
カテゴリ変数	値をレベルに分類する方法を指定します。
切片を含める	選択式で切片を使用するかどうかを指定します。
結果式	
従属変数	使用する単一の数値列を指定します。
連続変数	モデルで結果式の従属変数のモデルに使用する独立列(回帰変数)を指定します。
Categorical values	値をレベルに分類する方法を指定します。
切片を含める	選択式で切片を使用するかどうかを指定します。

オプションの設定

オプション	説明
手法	

オプション	説明
分散推定法	標準誤差の計算に修正標準誤差と OLS 標準誤差のどちらを使用するかを指定します。
パラメータ推定値の共分散の種類	パラメータ推定値の共分散行列を計算するための方法を指定します。外積行列からの共分散、逆 Hessian 行列からの共分散、または外積行列と Hessian 行列からの共分散(準最尤推定値)を選択できます。
最適化	
手法	使用する反復最小化法を指定します。デフォルトでは、準 Newton 法が使用されます。
最大反復回数	選択した方法の最大反復回数を指定します。
統計量	
結果に、タスクによってデフォルトで作成される統計量を含めるか、デフォルトの統計量と追加で選択した統計量を含めるか、あるいは統計量を一切含めないかを指定できます。 結果に含めることができる情報を次に示します。	
<ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ推定値の相関行列 ■ パラメータ推定値の共分散行列 ■ 目的関数とパラメータ推定値の反復過程 	

パネルデータ:カウントデータ回帰分析タスク

パネルデータ:カウントデータ回帰分析タスクについて

パネルデータ:カウントデータ回帰分析タスクでは、連続従属変数のカウントデータ回帰分析を実行します。この変数は、Poisson 分布の負でない整数値または負の二項分布のパネルデータです。

注: このタスクは、SAS 9.4 のメンテナンスリリース 1 以降および SAS/ETS 13.1 以降を実行している場合にのみ使用できます。

例:パネルデータを扱うカウントデータ回帰分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 WORK.LONG97DATA データセットを作成します。詳細については、“[LONG97DATA データセット](#)”(386 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、**計量経済**フォルダを展開し、**パネルデータ:カウントデータ回帰分析**をダブルクリックします。パネルデータ:カウントデータ回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.LONG97DATA** データセットを選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	art
連続変数	ment phd mar
カテゴリ変数	kid5
クロスセクション ID	fem

- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Class Level Information		
Class	Levels	Values
kid5	4	0 1 2 3

Model Fit Summary	
Dependent Variable	art
Number of Observations	915
Data Set	WORK.LONG97DATA
Model	Poisson
Error Component	Random
Number of Cross Sections	2
Log Likelihood	-1654
Maximum Absolute Gradient	1.87227E-6
Number of Iterations	13
Optimization Method	Newton-Raphson
AIC	3323
SBC	3362

Algorithm converged.

Parameter Estimates					
Parameter	DF	Estimate	Standard Error	t Value	Approx Pr > t
Intercept	1	-0.615254	0.305887	-2.01	0.0443
ment	1	0.025462	0.002024	12.57	<.0001
phd	1	0.013129	0.026437	0.50	0.6195
mar	1	0.154313	0.063066	2.45	0.0144
kid5 0	1	0.810816	0.281812	2.88	0.0040
kid5 1	1	0.637467	0.283490	2.25	0.0245

役割へのデータの割り当て

カウントパネルデータ回帰分析タスクを実行するには、**従属変数**および**クロスセクション ID** 役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	<p>負でない整数またはカウント値を持つ数値列を指定します。</p> <p>分布オプションでは、分析対象モデルの種類を指定します。次の種類のモデルを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Poisson 分布回帰分析モデル ■ 線形分散関数を使用した負の二項分布回帰分析モデル ■ 2 次分散関数を使用した負の二項分布回帰分析モデル
連続変数	回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。
カテゴリ変数	分析でデータのグループ化に使用する変数を指定します。
クロスセクション ID	各オブザーバーションのクロスセクションを指定します。誤差成分モデルを固定するか、ランダムにするかを指定できます。

オプションの設定

オプション	説明
手法	

オプション	説明
パラメータ推定値の共分散の種類	<p>パラメータ推定値の共分散行列の種類を指定します。</p> <p>次の種類の行列を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 逆 Hessian 行列からの共分散 ■ 外積行列からの共分散 ■ 外積行列と Hessian 行列からの共分散(準最尤推定値ともいう)
モデルに切片を含める	モデルに切片を含めるかどうかを指定します。
最適化	
手法	使用する反復最小化法を指定します。
最大反復回数	選択した方法の最大反復回数を指定します。
統計量	<p>結果に、タスクによってデフォルトで作成される統計量および追加の出力テーブルを含めるかどうかを指定できます。</p> <p>結果に含めることができる追加統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ推定値の相関行列 ■ パラメータ推定値の共分散行列 ■ 目的関数とパラメータ推定値の反復過程

パネルデータ:線形回帰分析

パネルデータ:線形回帰分析タスクについて

パネルデータ:線形回帰分析タスクでは、時系列データとクロスセクション(横断面)データを組み合わせて作成される線形計量経済モデルを分析します。この種の時系列クロスセクションベースのプールドデータは、よくパネルデータと呼ばれます。パネルデータの一般的な例としては、世帯、国、会社、取引などに関する経時的なオブザベーションが挙げられます。たとえば、

世帯収入に関する調査データの場合、同じ世帯を異なる期間(年)に繰り返し調査することによってパネルが作成されます。

注: タスクのバージョンは、サイトで利用可能な SAS/ETS のバージョンによって異なります。たとえば、サイトで SAS 9.3 のメンテナンスリリース 2 を実行している場合は、SAS/ETS 12.1 が利用可能であり、SAS Studio ではバージョン 1 のパネルデータ:線形回帰分析タスクが実行されます。サイトで SAS 9.4 以降を実行していて、SAS/ETS 12.3 以降を利用できる場合は、SAS Studio ではバージョン 2 のパネルデータ:線形回帰分析タスクが実行されます。2つのバージョンの違いは、SAS/ETS 12.3 以降には新しいオプションが追加されていることです。

例:パネルデータを扱う線形回帰分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 WORK.GREENE データセットを作成します。詳細については、“[GREENE データセット](#)”(385 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、**計量経済**フォルダを展開し、**パネルデータ:線形回帰分析**をダブルクリックします。パネルデータ:線形回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.GREENE** データセットを選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	cost
連続変数	production
クロスセクション ID	firm
時系列 ID	year

- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

Wansbeek-Kapteyn の分散成分 (一元配置変量効果)

従属変数 : cost

モデルの詳細	
推定手法	RanOne
クロスセクション数	3
時系列の長さ	4
HAC Kernel	Bartlett
HAC Bandwidth	Newey and West

適合度統計量			
SSE	0.1541	DFE	8
MSE	0.0193	Root MSE	0.1388
R2 乗	0.8774		

分散成分推定値	
クロスセクションに対する分散成分	0.068961
誤差に対する分散成分	0.018214

変量効果に対する Hausman 検定		
自由度	m 値	Pr > m
1	2.82	0.0930

パラメータ推定値					
変数	自由度	推定値	標準誤差	t 値	Pr > t
Intercept	1	-2.16577	0.6317	-3.43	0.0090
production	1	0.599897	0.0817	7.35	<.0001

役割へのデータの割り当て

パネルデータ: 線形回帰分析タスクを実行するには、従属変数、クロスセクション ID および時系列 ID 役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	カウント値を持つ数値列を指定します。従属カウント変数では、入力データセット内の負でない整数値のみを扱う必要があります。

役割	説明
連続変数	回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。
カテゴリ変数	分析でデータのグループ化に使用する変数を指定します。
クロスセクション ID	各オブザーバーションのクロスセクションを指定します。タスクでは、入力データがクロスセクション ID で並べ替えられ、さらに各クロスセクション内の時系列 ID で並べ替えられることが検証されます。
時系列 ID	各オブザーバーションの期間を指定します。タスクでは、時系列 ID の値がすべてのクロスセクションで同じであることが検証されます。

モデルオプションの設定

オプション	説明
モデル	
モデルの種類	<p>ランダム効果モデルを作成するか、固定効果モデルを作成するかを指定します。</p> <p>注: このセクションで使用可能な残りのオプションは、ランダム効果を作成するか、固定効果を作成するかによって異なります。</p>
モデルに切片を含める	<p>モデルで切片を使用するかどうかを指定します。このオプションは、ランダム効果モデルと固定効果モデルのどちらを作成するかにかかわらず適用されます。</p> <p>注: このオプションは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。</p>
ランダム効果	

オプション	説明
ランダム効果	1元と2元のどちらのランダム効果モデルを推定するかを指定します。デフォルトでは、1元ランダム効果モデルが推定されます。
分散成分推定法	使用する分散成分推定の種類を指定します。推定の種類の詳細については、SAS/ETS User's Guide の PANEL プロジェクションの説明を参照してください。
ランダム効果の検定	
一元 Breusch-Pagan 検定	ランダム効果に対して Breusch-Pagan 1元または2元検定を要求します。
二元 Breusch-Pagan 検定	
固定効果	
固定効果	1元と2元のどちらの固定効果モデルを推定するかを指定します。
固定効果を表示する	結果に固定効果を含めるかどうかを指定します。 注: このオプションは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。

オプションの設定

オプション	説明
手法	

オプション	説明
共分散行列推定量	<p>共分散行列の推定量を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Newey and West <p>注: このオプションは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。</p> ■ OLS 推定量では、分散共分散行列が修正されないことを指定します。 ■ HCCMEnでは、不均一分散性修正共分散行列を指定します。nは、0 から 4 の値です。
不均一分散性を満たす共分散行列のクラスター補正	<p>分散共分散行列のクラスタ修正を指定します。</p> <p>注: このオプションは、共分散行列推定量に HCCME0 から HCCME3 のいずれかのオプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
<h3>統計量</h3>	
<p>結果に、タスクによってデフォルトで作成される統計量を含めるか、デフォルトの統計量と追加で選択した統計量を含めるか、あるいは統計量を一切含めないかを指定できます。</p> <p>結果に含めることができる情報を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ推定値の相関行列 ■ パラメータ推定値の共分散行列 ■ 目的関数とパラメータ推定値の反復過程 	
<h3>Plots</h3>	
<h4>診断プロット</h4>	
<p>次の種類の診断プロットを表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 予測値と実績値のプロット ■ 残差の QQ プロット ■ 残差とオブザベーションのプロット ■ 残差のヒストグラム 	
<h4>クロスセクションプロット</h4>	

オプション	説明
次の種類のプロットを表示できます。	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 実績値と時系列のプロット ■ 予測値と時系列 ■ 積み上げ残差と時系列 ■ 残差と時系列 	
Number of cross sections in one time series plot	<p>1 つの時系列プロットに組み込むクロスセクションの数を指定します。</p> <p>注: このオプションは、表示形式オプションで、個々のプロットを選択している場合にのみ使用できます。</p>
表示形式	プロットをパネルに表示するか、個別に表示するかを指定します。

バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスク

バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクについて

バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクでは、正規分布またはロジスティック分布のパネルデータからバイナリ従属変数の回帰分析を実行します。

注: タスクのバージョンは、サイトで利用可能な SAS/ETS のバージョンによって異なります。たとえば、サイトで SAS 9.3 のメンテナンスリリース 2 を実行している場合は、SAS/ETS 12.1 が利用可能であり、SAS Studio ではバージョン 1 のバイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクが実行されます。サイトで SAS 9.4 以降を実行している場合は、SAS/ETS 12.3 以降を利用できるため、SAS Studio ではバージョン 2 のバイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクが実行されます。2 つのバージョンの違いは、SAS/ETS 12.3 以降には新しいオプションが追加されていることです。

例:バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスク

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 Work.Mroz データセットを作成します。詳細については、“[MROZ データセット](#)”(406 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、**計量経済**フォルダを展開し、**Binary Probit/Logit Regression** をダブルクリックします。バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.MROZ** データセットを選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	inlf
連続変数	nwifeinc exper expersq age kidslt6 kidsge6
カテゴリ変数	educ

- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Discrete Response Profile of inflf		
Index	Value	Total Frequency
1	0	325
2	1	428

Class Level Information		
Class	Levels	Values
educ	13	5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

Model Fit Summary	
Number of Endogenous Variables	1
Endogenous Variable	inlf
Number of Observations	753
Log Likelihood	-396.16371
Maximum Absolute Gradient	1.27229
Number of Iterations	157
Optimization Method	Quasi-Newton
AIC	830.32742
Schwarz Criterion	918.18466

Goodness-of-Fit Measures		
Measure	Value	Formula
Likelihood Ratio (R)	237.42	$2 * (\text{LogL} - \text{LogLO})$
Upper Bound of R (U)	1029.7	$-2 * \text{LogLO}$
Aldrich-Nelson	0.2397	$R / (R+U)$
Cragg-Uhler 1	0.2704	$1 - \exp(-R/N)$
Cragg-Uhler 2	0.3629	$(1 - \exp(-R/N)) / (1 - \exp(-U/N))$
Estrella	0.3012	$1 - (1 + R/U)^(U/N)$
Adjusted Estrella	0.255	$1 - ((\text{LogL} + K) / \text{LogLO})^{(-2/N * \text{LogLO})}$

役割へのデータの割り当て

バイナリプロビット/ロジット回帰分析タスクを実行するには、**従属変数役割**に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	回帰分析の従属変数として使用する数値列を指定します。 分布ドロップダウンリストを使用して、正規モデルとロジスティックモデルのどちらを作成するかを指定します。
連続変数	回帰分析モデルの独立回帰変数(説明)変数として使用する数値列を指定します。
カテゴリ変数	値をレベルに分類する方法を指定します。

オプションの設定

オプション	説明
手法	
パラメータ推定値の共分散の種類	パラメータ推定値の共分散行列の種類を指定します。 次の種類の行列を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 逆 Hessian 行列からの共分散 ■ 外積行列からの共分散 ■ 外積行列と Hessian 行列からの共分散(準最尤推定値ともいう)
モデルに切片を含める	モデルに切片を含めるかどうかを指定します。
不等分散性	
不等分散性の分析	不等分散性オプションを表示します。

オプション	説明
分散関数の変数	残差の残差の不等分散に関する列を指定し、これらの変数を誤差分散のモデル化に使用する方法を決めます。このタスクでサポートされている不均一分散回帰分析モデルを次に示します。 $y_i = x_i' \beta + \varepsilon_i$ $\varepsilon_i \sim N(0, \sigma_i^2)$
分散関数の形式	使用するリンク関数を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 指数分布 $\sigma_i^2 = \sigma^2(1 + \exp(z_i' \gamma))$ ■ 定数なしの指数 $\sigma_i^2 = \sigma^2 \exp(z_i' \gamma)$ ■ 線形 $\sigma_i^2 = \sigma^2(1 + z_i' \gamma)$ ■ 線形関数の平方 $\sigma_i^2 = \sigma^2(1 + (z_i' \gamma)^2)$ 	
最適化	
手法	使用する反復最小化法を指定します。デフォルトでは、準 Newton 法が使用されます。
最大反復回数	選択した方法の最大反復回数を指定します。
統計量	
<p>結果に統計量を含めるかどうかを指定できます。</p> <p>結果に含めることができる情報を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パラメータ推定値の相関行列 ■ パラメータ推定値の共分散行列 ■ 目的関数とパラメータ推定値の反復過程 	
Plots	
Select plots to display	タスクによって作成されるデフォルトのプロットを表示するか、選択したプロットのみを表示するか、あるいはプロットを一切表示しないかを指定します。

オプション	説明
診断プロット	
誤差標準偏差と観測回帰変数	分散関数の変数オプションに列を割り当てた場合に、誤差標準偏差と実測回帰変数の関係を表示します。
プロファイル対数尤度	プロファイル対数尤度を表示します。各プロファイルグラフは、プロファイルリングパラメータを除くすべてのパラメータをそれぞれの最大尤度推定値に設定することで得られます。プロファイルリングパラメータでは、対応する標準偏差の最大尤度推定値によって決定される事前定義グリッド上の値が使用されます。
出力プロット	
予測値と回帰変数	モデルの予測値を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。
限界効果と回帰変数	限界効果を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。
逆ミルズ比と回帰変数	逆ミルズ比を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。
予測応答確率と回帰変数	予測応答確率を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。
応答の各水準の予測確率と回帰変数	応答の各水準の予測確率を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。

オプション	説明
線形予測子値と回帰変数	モデルの右側に構造部を表示します。それぞれに寄与する回帰変数はその平均値と同じに設定されます。ただし、X 軸で報告されるパラメータを除きます。
表示形式	プロットをパネルに表示するか、個別に表示するかを指定します。

10

グラフタスク

棒グラフタスク	181
棒グラフタスクについて	181
例:各製品ラインの平均売上を示す棒グラフ	181
役割へのデータの割り当て	182
オプションの設定	184
棒-折れ線グラフタスク	186
棒-折れ線グラフタスクについて	186
例:都市部と高速道路における走行距離(生産地域別)	186
役割へのデータの割り当て	188
オプションの設定	189
箱ひげ図タスク	191
箱ひげ図タスクについて	191
例:自動車の 1 ガロン当たりの走行距離(都市部)を比較する箱ひげ図	191
役割へのデータの割り当て	192
オプションの設定	193
バブルプロットタスク	195
バブルプロットタスクについて	195
例:	195
役割へのデータの割り当て	196
オプションの設定	197
ヒストグラムタスク	199
ヒストグラムタスクについて	199

例:株式数のヒストグラム	199
役割へのデータの割り当て	200
オプションの設定	201
折れ線グラフタスク	202
折れ線グラフタスクについて	202
例:車種別の平均馬力の表示	203
役割へのデータの割り当て	204
オプションの設定	205
円グラフタスク	207
円グラフタスクについて	207
例:各車種の地域別 MSRP 総額を示す円グラフ	207
役割へのデータの割り当て	208
オプションの設定	209
散布図タスク	210
散布図タスクについて	210
例:身長と体重の散布図	210
役割へのデータの割り当て	212
オプションの設定	214
時系列プロットタスク	215
時系列プロットタスクについて	215
例:株式動向の時系列プロット	215
役割へのデータの割り当て	216
オプションの設定	217
単純横棒グラフタスク	218
単純横棒グラフタスクについて	218
例:生産地域および車種別の走行距離を示す横棒グラフ	218
役割へのデータの割り当て	220
オプションの設定	221

棒グラフタスク

棒グラフタスクについて

棒グラフタスクでは、グラフ変数のさまざまな値間で数値や統計量を比較する横棒グラフまたは縦棒グラフを作成します。棒グラフは、高さの異なる棒を表示することでデータの相対振幅を示すものです。各棒はデータのカテゴリーを表します。

例: 各製品ラインの平均売上を示す棒グラフ

たとえば、SASHELP.PRICEDATA データセットの各製品ラインの売上総額を比較する棒グラフを作成できます。デフォルトでは、製品ラインごとに応答変数の平均が計算されます。この棒グラフは、製品ライン 2 の平均製品売上が最も高いことを示しています。

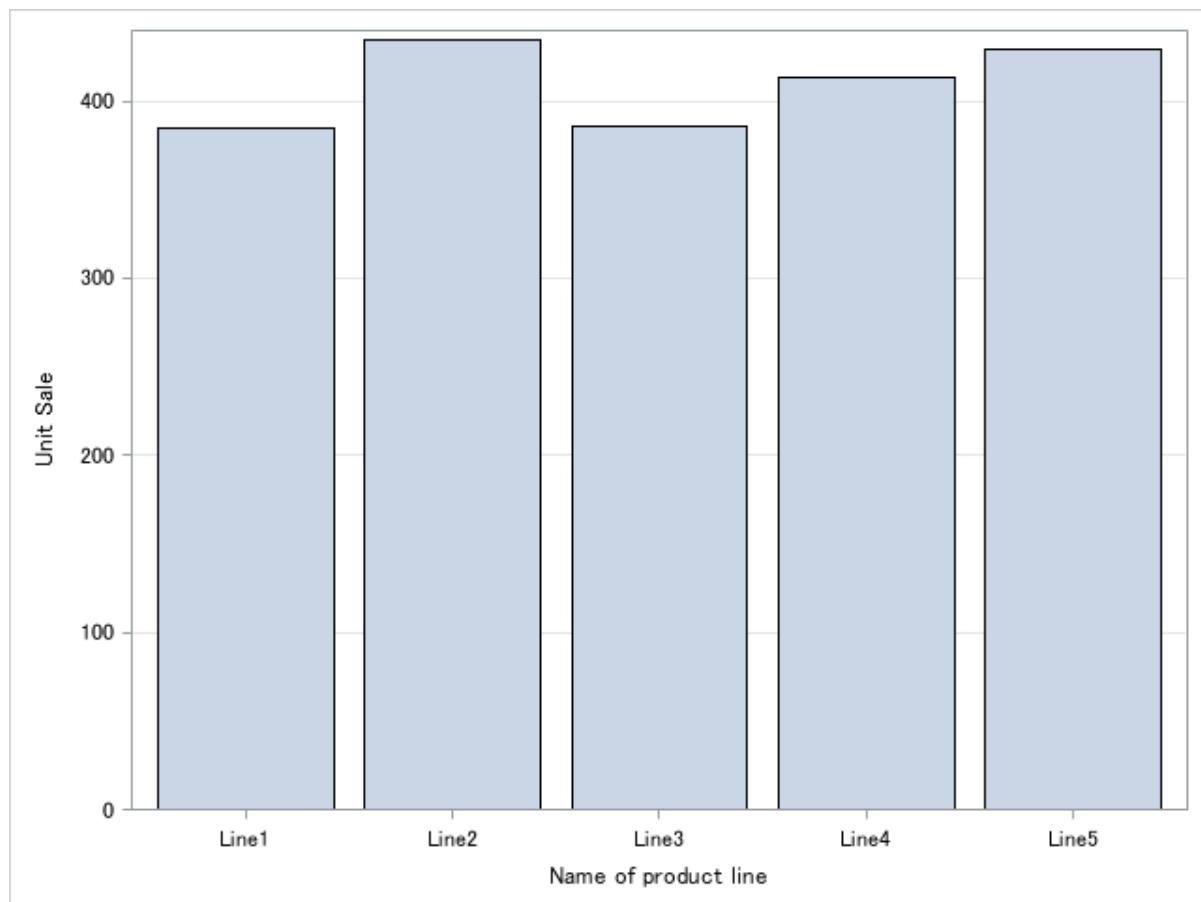
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、**棒グラフ**をダブルクリックします。棒グラフタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.PRICEDATA** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
カテゴリ変数	productLine
応答変数	sale

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようにになります。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

棒グラフタスクを実行するには、**カテゴリ変数役割**に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
カテゴリ変数	オブザーバーションを個別のサブセットに分類する変数を指定します。
応答変数	プロットの数値応答変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。
BY 変数	BY グループごとに個別のグラフを作成します。
方向	縦棒グラフまたは横棒グラフのいずれかを作成できます。
グループレイアウト	
クラスター	単一のカテゴリ棒の代わりに、グループ値を隣接する個別の棒として表示します。グループ値の各セットの中心は、カテゴリの中央の目盛りに合わせられます。
積み上げ	クラスタリングを使用せずにグループ値を重ね合わせます。各グループは、現在のスタイルの GraphData1...GraphDataN スタイル要素に基づく一意の視覚属性で表されます。

オプション名	説明
統計量	
注:	<p>次の場合は、統計量のオプションを使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 列を応答変数役割に割り当てなかった場合。応答変数を割り当てない場合、デフォルトの統計量は度数です。 ■ グループレイアウトに積み上げを選択した場合。この場合、デフォルトの統計量は合計です。
平均	応答変数の平均を計算します。
合計	応答変数の合計を計算します。
限界	
限界	表示する限界線を指定します。限界は各棒から伸びる太い線分として表示され、末尾にセリフが付いています。限界線は、Mean 統計量を選択した場合にのみ表示されます。
限界統計量	限界線の統計量を指定します。
限界乗数	限界線の標準単位数を指定します。デフォルトでは、この値は 1 です。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
バーの詳細	
バーの色を適用する	グループ変数役割に列を割り当てない場合に棒の色を指定します。

オプション名	説明
透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
バーのグラデーションを適用する	<p>各棒に階調度を適用します。</p> <p>注: このオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリース 2 以降が稼動している場合にのみ利用できます。</p>
データスキン	塗りつぶしたすべての棒に使用する特殊効果を指定します。
バーのラベル	
バーのラベルまたは統計量を表示する	計算された応答の値をデータラベルとして表示します。
カテゴリ軸	
反転する	目盛り値が逆(降順)に表示されるように指定します。
データの順序で値を表示する	連続していない目盛り値をそれらがデータに出現在する順序で配置します。
ラベルを表示する	
応答軸	
グリッドを表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
統計接頭辞を削除する	計算された統計量の名前を軸ラベルから削除します。たとえば、平均を計算する場合、軸ラベルは Weight (Mean)のようになります。
ラベルを表示する	応答軸のラベルを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、変数の名前が軸ラベルとして使用されます。ただし、カスタムラベルを作成できます。
凡例の詳細	

オプション名	説明
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。
グラフサイズ	グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

棒-折れ線グラフタスク

棒-折れ線グラフタスクについて

棒-折れ線グラフタスクでは、折れ線グラフが重なった、縦棒グラフを作成します。

このタスクを使用して次のタスクを実行できます。

- 厳密振幅と相対振幅を表示して比較します。
- 各部が全体に占める割合を調べます。
- データの動向とパターンを確認します。

例:都市部と高速道路における走行距離(生産地域別)

たとえば、都市部および高速道路における 1 ガロン当たりの走行距離を車両の生産地域別に比較する棒-折れ線グラフを作成できます。このタスクにより、都市部および高速道路における 1 ガロン当たりの走行距離の平均が地域別に計算されます。この棒-折れ線グラフは、都市部および高速道路における 1 ガロン当たりの走行距離はアジア製の車両が最も長くなる傾向にあることを示しています。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

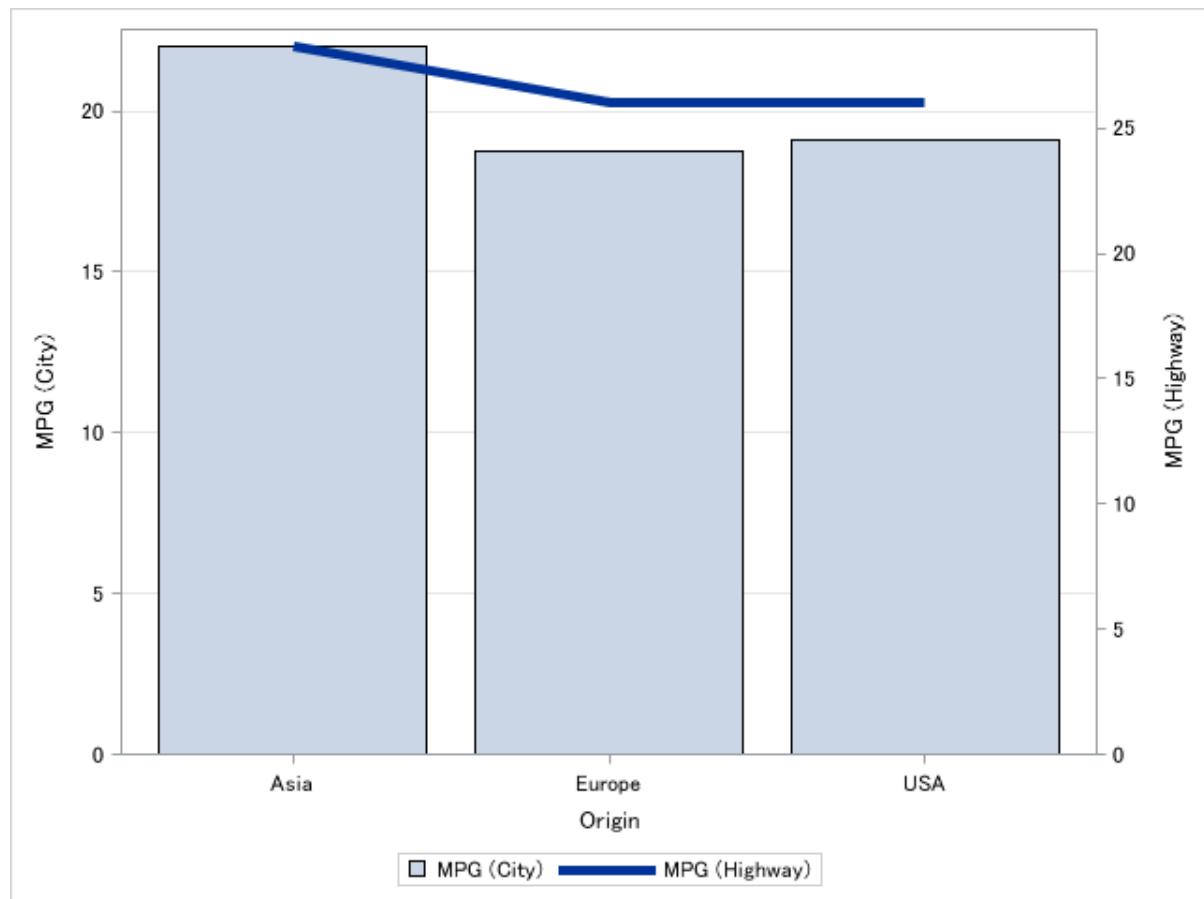
- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、棒-折れ線グラフをダブルクリックします。棒-折れ線グラフタスクのユーザーインターフェイスが開きます。

2 データタブで、SASHELP.CARS データセットを選択します。

3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
カテゴリ変数	Origin
バーの応答変数	MPG_City
線の応答変数	MPG_Highway

4 タスクを実行するには、 をクリックします。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

棒-折れ線グラフタスクを実行するには、カテゴリ変数、バーの応答変数および線の応答変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
カテゴリ変数	オブザベーションを個別のサブセットに分類する変数を指定します。
バーの応答変数	棒グラフの数値応答変数を指定します。
線の応答変数	折れ線グラフの数値応答変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。
統計量	
平均	応答変数の平均を計算します。
合計	応答変数の合計を計算します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
バーの詳細	
バーの色を適用する	棒の色を指定します。
透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
バーのグラデーションを適用する	各棒に階調度を適用します。 注: このオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリース 2 以降が稼動している場合にのみ利用できます。
データスキン	塗りつぶしたすべての棒に使用する特殊効果を指定します。
線の詳細	
線の色を適用する	線の色を指定します。
線の太さ	線の太さ(ピクセル単位)を指定します。
透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
実線を使用する	線の実線パターンを指定します。
カテゴリ軸	
反転する	目盛り値が逆(降順)に表示されるように指定します。

オプション名	説明
データの順序で値を表示する	連続していない目盛り値をそれらがデータに出 現する順序で配置します。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示できます。目的のラベルをカスタ ムラベルボックスに入力します。
応答軸	
ゼロベースラインを使用する	連続していないカテゴリ値からすべての線をオフ セットし、カテゴリの中央からすべての棒をオフセ ットするかどうかを指定します。デフォルトでは、 オフセットされません。
同じ尺度を使用する	両方の応答軸に同じ目盛り単位を使用します。
グリッドを表示する	棒グラフの軸の各目盛り位置にグリッド線を作成 します。
統計接頭辞を削除する	計算された統計量の名前を軸ラベルから削除しま す。たとえば、平均を計算する場合、軸ラベルは Weight (Mean) のようになります。
軸のラベルにプロット接頭辞を追加する	応答軸のラベルに (Bar) および (Line) を追加しま す。
カスタムラベル	棒グラフの応答軸にカスタムラベルを指定できま す。棒応答変数の名前がデフォルトラベルとして 使用されます。
カスタムラベル	折れ線グラフの応答軸にカスタムラベルを指定 できます。折れ線応答変数の名前がデフォルトラ ベルとして使用されます。
凡例の詳細	
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定 します。
グラフサイズ	
グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。	

箱ひげ図タスク

箱ひげ図タスクについて

箱ひげ図タスクでは、間隔として測定される数値を表す、単一の箱ひげ図を作成します。分析変数の値を分類するように選択した場合は、複数の箱ひげ図が作成されます。

例:自動車の 1 ガロン当たりの走行距離(都市部)を比較する箱ひげ図

この例では、自動車の生産地域(アジア、ヨーロッパおよび米国)別の 1 ガロン当たりの走行距離(都市部)を比較する 3 つの箱ひげ図を作成します。

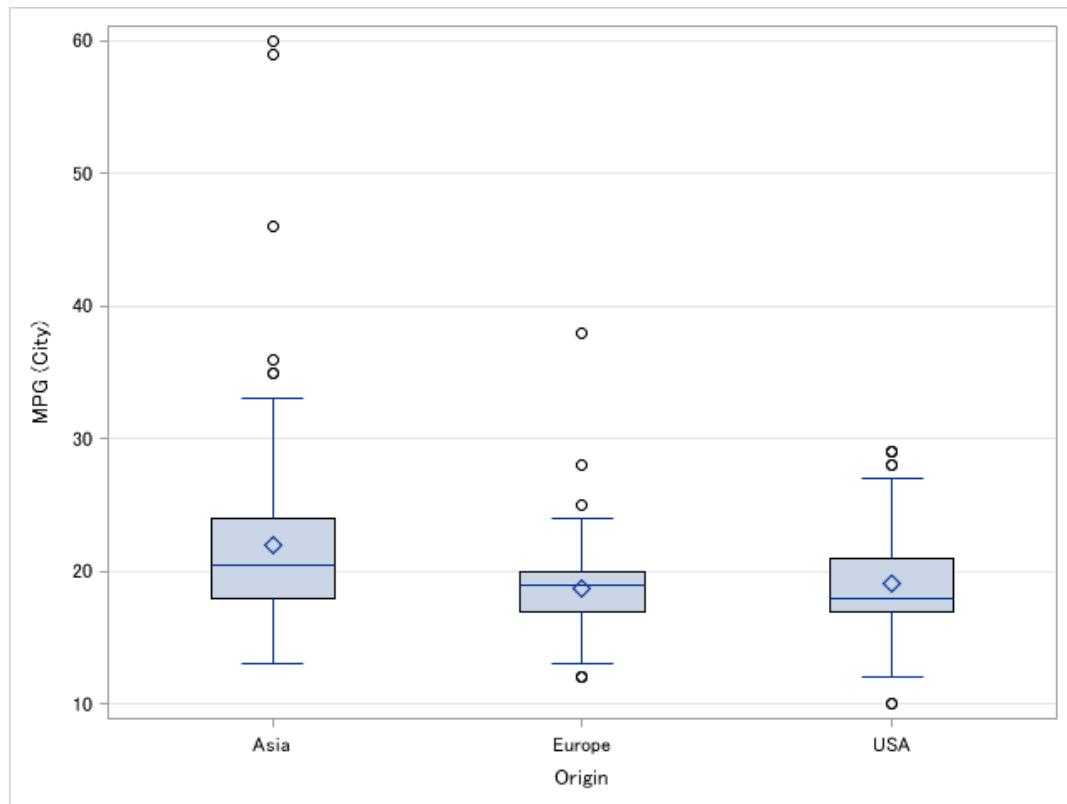
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、**箱ひげ図**をダブルクリックします。箱ひげ図タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
分析変数	MPG_City
カテゴリ変数	Origin

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

その結果作成される箱ひげ図を次に示します。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

箱ひげ図タスクを実行するには、分析変数役割に列を割り当てる必要があります。縦箱ひげ図または横箱ひげ図のいずれかを作成できます。

役割	説明
分析変数	プロットの分析変数を指定します。

役割	説明
カテゴリ変数	カテゴリ変数の固有値ごとに箱ひげ図を作成します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
BY 変数	BY グループごとに個別のグラフを作成します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
箱の詳細	
箱の幅	各箱の幅を指定します。0.0 (使用可能な幅の 0%)~1.0 (使用可能な幅の 100%)の間の値を指定します。
塗りつぶし	箱を色で塗りつぶすかどうかを指定します。デフォルトの色は白です。
データスキン	プロットに使用する特殊効果を指定します。データスキンは塗りつぶしたすべての箱に反映されます。塗りつぶし領域にデータスキンが与える効果は、スキンタイプ、グラフスタイル、およびスキンが適用された要素の色によって異なります。多くの場合、明るい色で塗りつぶされた中～大の大きさの領域にスキンを使用すると、最も効果があります。
透明度	プロットの透明度を指定します。デフォルト値は、0 です。ただし、有効な値の範囲は 0 (完全に不透明)~1 (完全に透明)です。

オプション名	説明
キャップの形状の設定	<p>ひげの上限線を表示するかどうかを指定します。このオプションを選択した場合は、ひげの上限線の形を選択できます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Bracket 括弧付きの直線を表示します。 ■ Line 直線を表示します。 ■ Serif 短い直線を表示します。
刻み目	箱にノッチを付けるかどうかを指定します。ノッチの終端は、次の計算で求められた場所に配置されます。 $\text{median} \pm 1.58\left(\frac{IQR}{\sqrt{N}}\right)$
グループプレイアウト	
グループ順序	グループ内での箱の順序を指定します。グループは、昇順、降順、またはデータ内での出現順に表示できます。
カテゴリ軸	
反転する	目盛り値が逆(降順)に表示されるように指定します。
データの順序で値を表示する	連続していない目盛り値をそれらがデータに出現する順序で配置します。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示できます。目的のラベルをカスタムラベルボックスに入力します。
カテゴリ軸	
グリッドを表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
ラベルを表示する	分析軸のラベルを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、変数の名前が軸ラベルとして使用されます。ただし、カスタムラベルを作成できます。
凡例の詳細	

オプション名	説明
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。
グラフサイズ	グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

バブルプロットタスク

バブルプロットタスクについて

バブルプロットタスクでは、3つ以上の変数の関係を調査します。バブルプロットでは、2つの変数によってバブルの中心の位置が決まり、3つ目の変数により、各バブルのサイズが決まります。

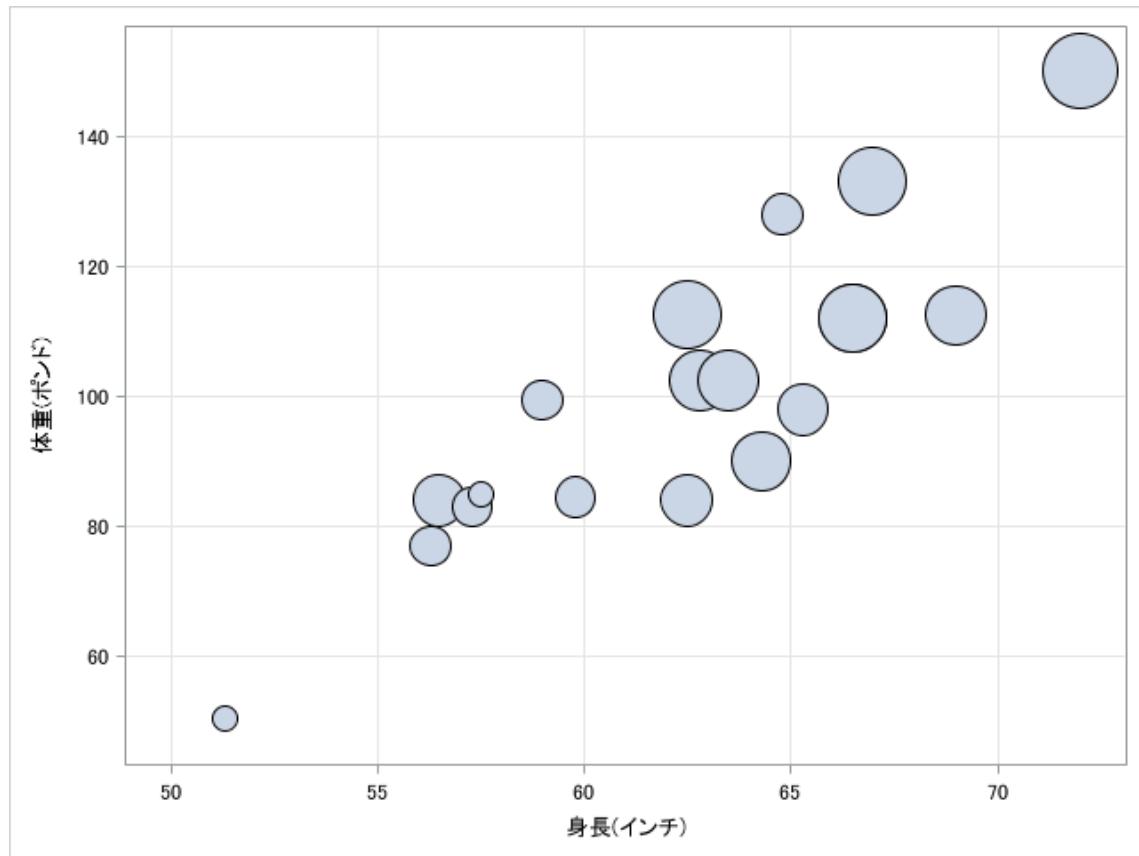
例:

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、**Bubble Plot** をダブルクリックします。バブルプロットタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- データタブで、**SASHelp.CLASS** データセットを選択します。
- 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
X 変数	Height
Y 変数	重み
Size variable	Age

4 タスクを実行するには、 をクリックします。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

バブルプロットタスクを実行するには、**X 変数**、**Y 変数**および **Size variable** 役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
X 変数	X 軸の変数を指定します。
Y 変数	Y 軸の変数を指定します。
Size variable	バブルのサイズを制御する数値変数を指定します。最小値と最大値により、バブルサイズの決定に使用される範囲が自動的に決まります。これらの値は、オプションタブで設定できます。
色の応答変数	階調の凡例に色をマッピングする際に使用される数値変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。各グループのバブルは、異なる色によって自動的に区別されます。 注: 任意の変数を色の応答変数役割にも割り当てると、そのグループ変数は無視されます。
ラベル変数	各データ点のラベルとして使用する値を指定します。この役割に変数を割り当てた場合は、その変数の値がデータラベルとして使用されます。この役割に変数を割り当てなかった場合は、Y 変数の値がデータラベルとして使用されます。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	

オプション名	説明
出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。	
バブルの詳細	
色を適用する	グループ変数役割に列を割り当てない場合に棒の色を指定します。
最少半径	最も小さいバブルの半径を指定します。
最大半径	最も大きいバブルの半径を指定します。
透明度	バブルの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
データスキン	塗りつぶしたすべてのバブルに使用する特殊効果を指定します。
色モデル	
色の応答変数役割に変数を割り当てる場合は、カラーマップで使用する 3 つの色を指定できます。	
バブルのラベル	
Label variable 役割に変数を割り当てる場合は、ラベルの色、ラベルのテキストのフォントサイズおよびラベルの位置を指定できます。	
X Axis and Y Axis	
グリッド線を表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
ラベルを表示する	応答軸のラベルを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、変数の名前が軸ラベルとして使用されます。ただし、カスタムラベルを作成できます。
凡例の詳細	

オプション名	説明
グループ凡例の場所	グループの凡例をプロットの外側または内側のどちらに配置するかを指定します。このオプションは、 グループ変数役割 に変数を割り当てた場合に使用できます。
色凡例の表示位置	色の凡例をプロットの右側または下側のどちらに表示するかを指定します。
グラフサイズ	
グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。	

ヒストグラムタスク

ヒストグラムタスクについて

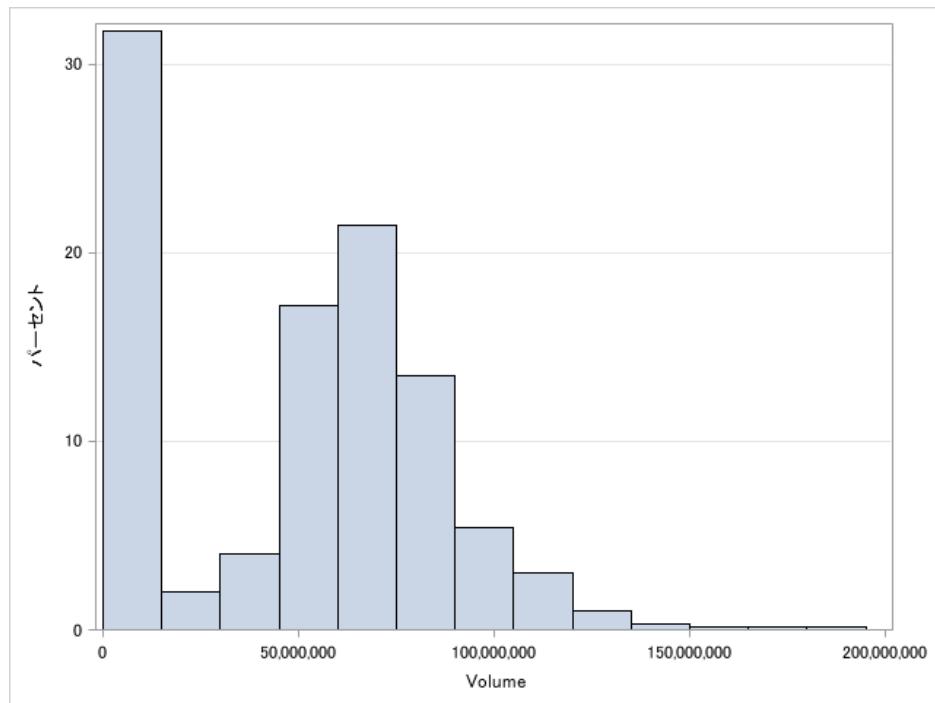
ヒストグラムタスクでは、数値変数の度数分布を示すグラフを作成します。

例: 株式数のヒストグラム

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、**グラフフォルダ**を展開し、**ヒストグラム**をダブルクリックします。ヒストグラムタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- データタブで、**SASHELP STOCKS** データセットを選択します。
- 分析変数役割に **Volume** 列を割り当てます。
- タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようにになります。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

ヒストグラムタスクを実行するには、分析変数役割に列を割り当てる必要があります。

数値変数の値の分布を示す密度曲線を作成するかどうかを指定できます。標準分布および核分布の密度曲線を作成できます。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	<p>出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。</p>
ビンの詳細	<p>ヒストグラムのビンの色と透明度を指定できます。SAS 9.4 以降のメンテナンスリリース 2 を実行している場合は、各ビンに階調度を適用するかどうかも指定できます。</p>
X 軸	
間隔軸	X 軸で分析変数の最小値と最大値に基づいて等間隔の目盛りを作成します。
ビン軸	X 軸で値ビンの中央に目盛りを作成します。
ビン数を指定する	<p>ヒストグラムのビン数を指定できます。有効な値の範囲は 2~20 です。</p> <p>ビンは常にデータの範囲にまたがります。このタスクでは、できるだけ解釈が容易な目盛り値(5、10、15、20 など)が作成されます。場合によっては、最初のビンの位置とビン幅が調整されます。デフォルトでは、ビン数は自動的に決定されます。</p>
ラベルを表示する	分析変数のラベルを X 軸に沿って表示します。カスタムラベルを入力することもできます。
Y 軸	

オプション名	説明
軸の尺度を指定する	Y 軸に適用する目盛り単位を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。
	COUNT 軸に、度数カウントを表示します。
	PERCENT 軸の値は、全体に対するパーセントとして表示されます。
	PROPORTION 軸の値は、全体に対する比率(0.0 から 1.0)として表示されます。
グリッドを表示する	Y 軸のグリッド線を表示するかどうかを指定します。
ラベルを表示する	軸の目盛り単位の種類を示すラベルを表示するかどうかを指定します。

凡例の詳細

凡例を表示する	出力に凡例を表示するかどうかを指定します。
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。

グラフサイズ

グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

折れ線グラフタスク

折れ線グラフタスクについて

折れ線グラフタスクは、カテゴリ変数の値が連続していないことを前提としています。このタスクでは、これらの値は個別のカテゴリに分類されます。入力データソースから応答変数役割に列を割り当てる場合、応答値の統計量(平均または合計のいずれか)を選択できます。デフォ

ルトでは、応答変数の値の平均が計算されます。応答変数が割り当てられていない場合は、カテゴリ別の度数グラフが作成されます。

例:車種別の平均馬力の表示

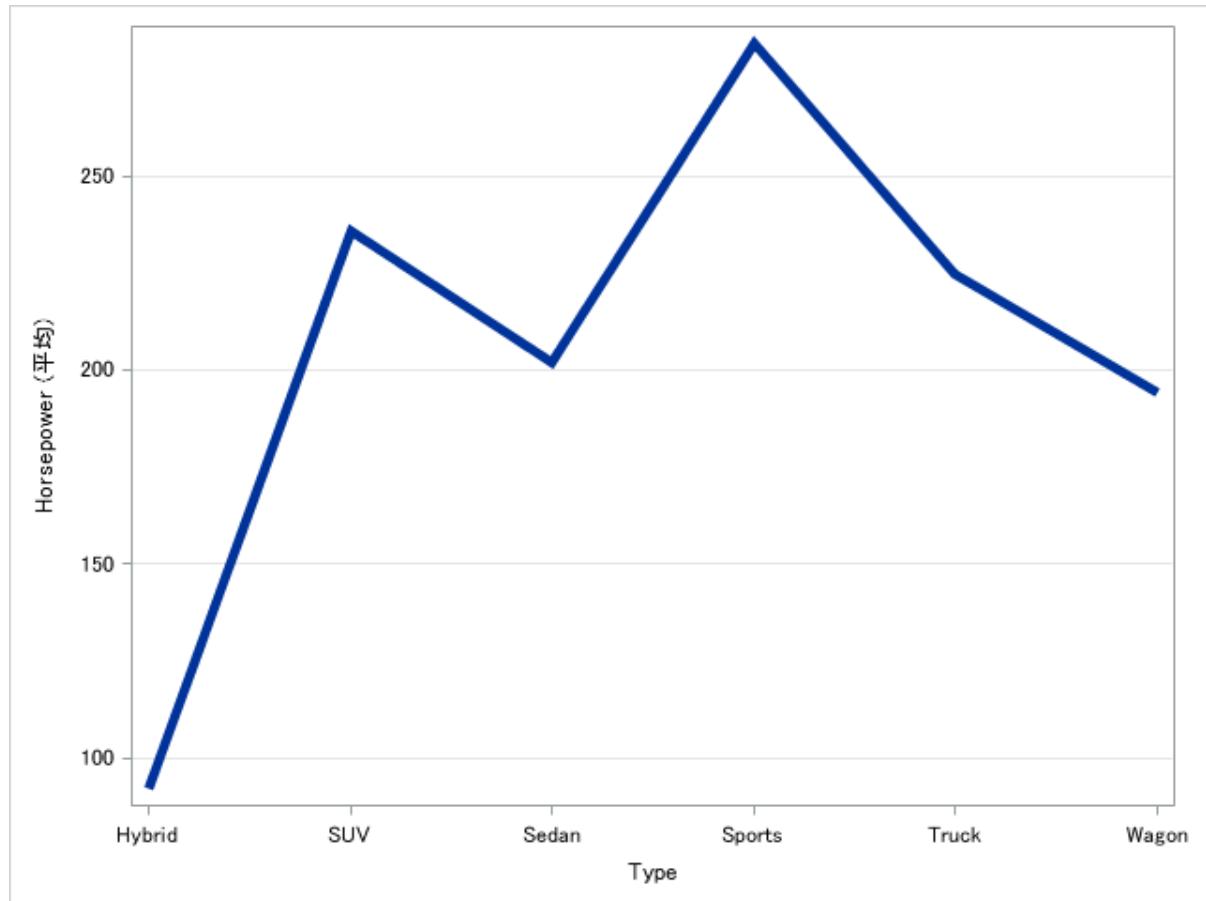
この例では、車種別の平均馬力を折れ線グラフで表示します。結果は、スポーツカーの平均馬力が最も高く、ハイブリッドカーの平均馬力が最も低いことを示しています。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、折れ線グラフをダブルクリックします。折れ線グラフタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
カテゴリ変数	Type
応答変数	Horsepower

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

折れ線グラフタスクを実行するには、カテゴリ変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	

オプション名	説明
カテゴリ変数	オブザベーションを個別のサブセットに分類する変数を指定します。
応答変数	プロットの数値応答変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。
統計量	
平均	応答変数の平均を計算します。
合計	応答変数の合計を計算します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
線の詳細	
線の色を適用する	グループ変数役割に列を割り当てない場合に折れ線の色を指定します。
線の太さ	線の太さ(ピクセル単位)を指定します。
透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
実線を使用する	線の実線パターンを指定します。

オプション名	説明
線のラベル	
線のラベルを表示する	応答変数のラベルを表示します。グループ変数役割に列を割り当てた場合、各線のラベルとしてグループ値が表示されます。
カテゴリ軸	
反転する	目盛り値が逆(降順)に表示されるように指定します。
データの順序で値を表示する	連続していない目盛り値をそれらがデータに出現する順序で配置します。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示できます。デフォルトでは、変数名がラベルとして使用されます。 このラベルをカスタマイズするには、目的のラベルをカスタムラベルボックスに入力します。
応答軸	
グリッドを表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
統計接頭辞を削除する	計算された統計量の名前を軸ラベルから削除します。たとえば、平均を計算する場合、軸ラベルは Weight (Mean)のようになります。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示できます。デフォルトでは、変数名がラベルとして使用されます。 このラベルをカスタマイズするには、目的のラベルをカスタムラベルボックスに入力します。
凡例の詳細	
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。
グラフサイズ	グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

円グラフタスク

円グラフタスクについて

円グラフタスクでは、データを扇形の"スライス"として表示することによって各部が全体に占める相対的割合を表す円グラフを作成します。各スライスはデータのカテゴリを表します。スライスのサイズは、そのデータがグラフ統計量全体に占める割合を表します。

例: 各車種の地域別 **MSRP** 総額を示す円グラフ

この例では、各車種のメーカー希望小売価格(MSRP)を生産地域別に比較します。結果の円グラフは、6つの輪(車種ごとに1つ)で構成されます。これらの輪は、3つの地域(アジア、ヨーロッパおよび米国)の MSRP 値に区分けされています。このグラフを使用すると、各地域の MSRP 総額の値を比較できます。SUV 車種の輪は、MSRP が最も高いのは米国で、最も低いのはヨーロッパであることを示しています。

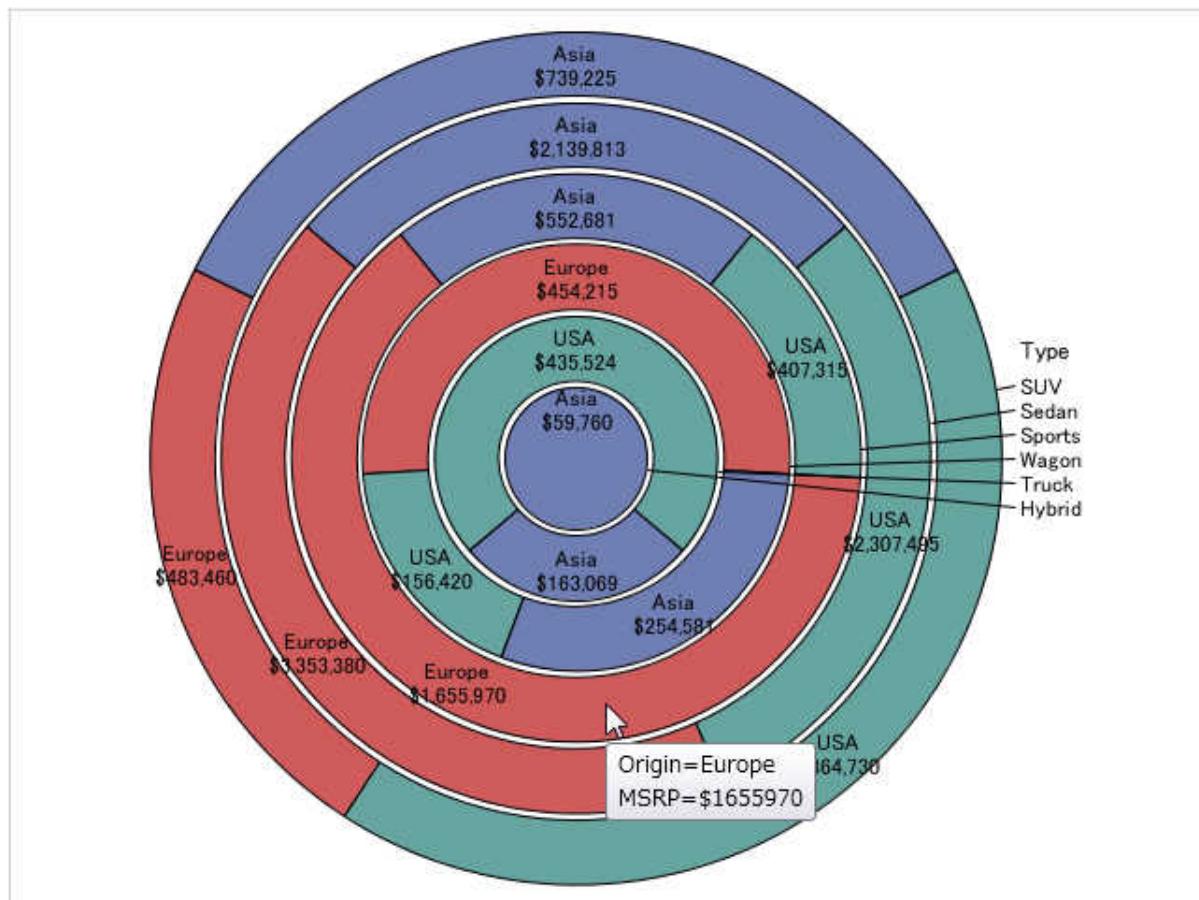
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、円グラフをダブルクリックします。円グラフタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
カテゴリ変数	Origin
応答変数	MSRP
グループ変数	Type

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果を次に示します。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

円グラフタスクを実行するには、カテゴリ変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
カテゴリ変数	オブザーバーションを個別のサブセットに分類する変数を指定します。
応答変数	プロットの数値応答変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。 注: タスクで、円グラフに"その他"スライスを生成する場合、このスライスに関連付けられる URL はありません。したがって、このスライスにリンクは含まれません。
向き	
開始位置	円グラフの最初のスライスを作成する場所を指定します。残りのスライスは反時計回りに表示されます。
最初のスライスを中心配置する	最初のスライスをオフセットするかどうかを指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。

オプション名	説明
円の詳細	
塗りつぶしの透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
データスキン	塗りつぶしたすべての棒に使用する特殊効果を指定します。
円のラベル	
場所	ラベルの表示場所(円グラフのスライスの内または外)を指定します。デフォルトでは、スライスに最も適した場所が自動的に決定されます。
ラベルのフォントサイズの設定	各スライスのラベルのフォントサイズを指定できます。
グラフサイズ	グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

散布図タスク

散布図タスクについて

散布図タスクでは、データ点のパターンまたは集中部を明らかにすることによって 2 つまたは 3 つの変数の関係を示すプロットを作成できます。たとえば、2 次元散布図では、クラスに参加している全生徒の身長と体重を表示できます。

例: 身長と体重の散布図

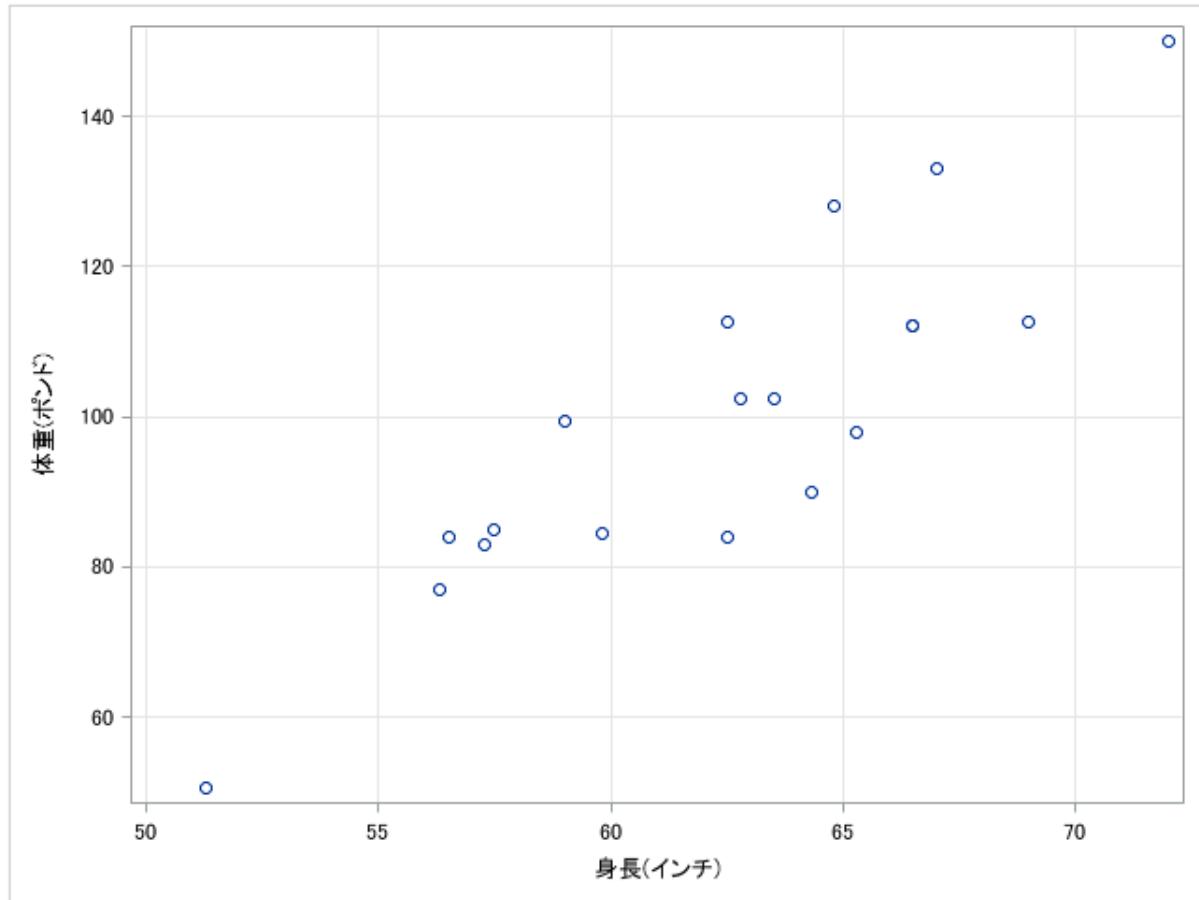
この例では、身長と体重の散布図を作成します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、散布図をダブルクリックします。散布図タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CLASS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
X 変数	Height
Y 変数	重み

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

散布図タスクを実行するには、X 変数および Y 変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	

オプション名	説明
X 変数	X 軸の変数を指定します。
Y 変数	Y 軸の変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。各グループ値のプロット要素は、それぞれ異なる視覚属性によって自動的に区別されます。
マーカーのラベル変数	各データ点にラベルを表示します。変数を指定した場合は、その変数の値がデータラベルとして使用されます。変数を指定しなかった場合は、Y 変数の値がデータラベルとして使用されます。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。

当てはめプロット

注: このオプションは、数値変数を割り当てている場合にのみ使用できます。

回帰	当てはめ回帰線を使用したプロットを作成します。平均の信頼限界および個々の予測値の予測限界を含めるかどうかを指定できます。 Alpha オプションでは、信頼限界の信頼水準を指定します。次数オプションでは、多項式当てはめの度合いを指定します。
Loess	当てはめレス曲線を作成します。信頼限界を含めるかどうかを指定できます。 Alpha オプションでは、信頼限界の信頼水準を指定します。
PBSpline	当てはめ罰則付き B スプライン曲線を作成します。平均の信頼限界および個々の予測値の予測限界を含めるかどうかを指定できます。 Alpha オプションでは、信頼限界の信頼水準を指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
マーカーの詳細	マーカーの記号の種類、色およびサイズを指定できます。プロットの透明度を指定することもできます。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
マーカーのラベル	マーカーのラベル変数役割に変数を割り当てた場合にプロット内のラベルの外観を指定します。
X 軸、Y 軸	
グリッド線を表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示します。デフォルトでは、変数名がラベルとして使用されます。 カスタマイズするには、目的のラベルをカスタムラベルボックスに入力します。
凡例の詳細	
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。
グラフサイズ	グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。

時系列プロットタスク

時系列プロットタスクについて

時系列プロットタスクでは、折れ線グラフを作成します。時系列プロットは、入力データのオブザベーションを結ぶ線セグメントを表示します。

例: 株式動向の時系列プロット

この例では、株式動向を示す時系列プロットを作成します。

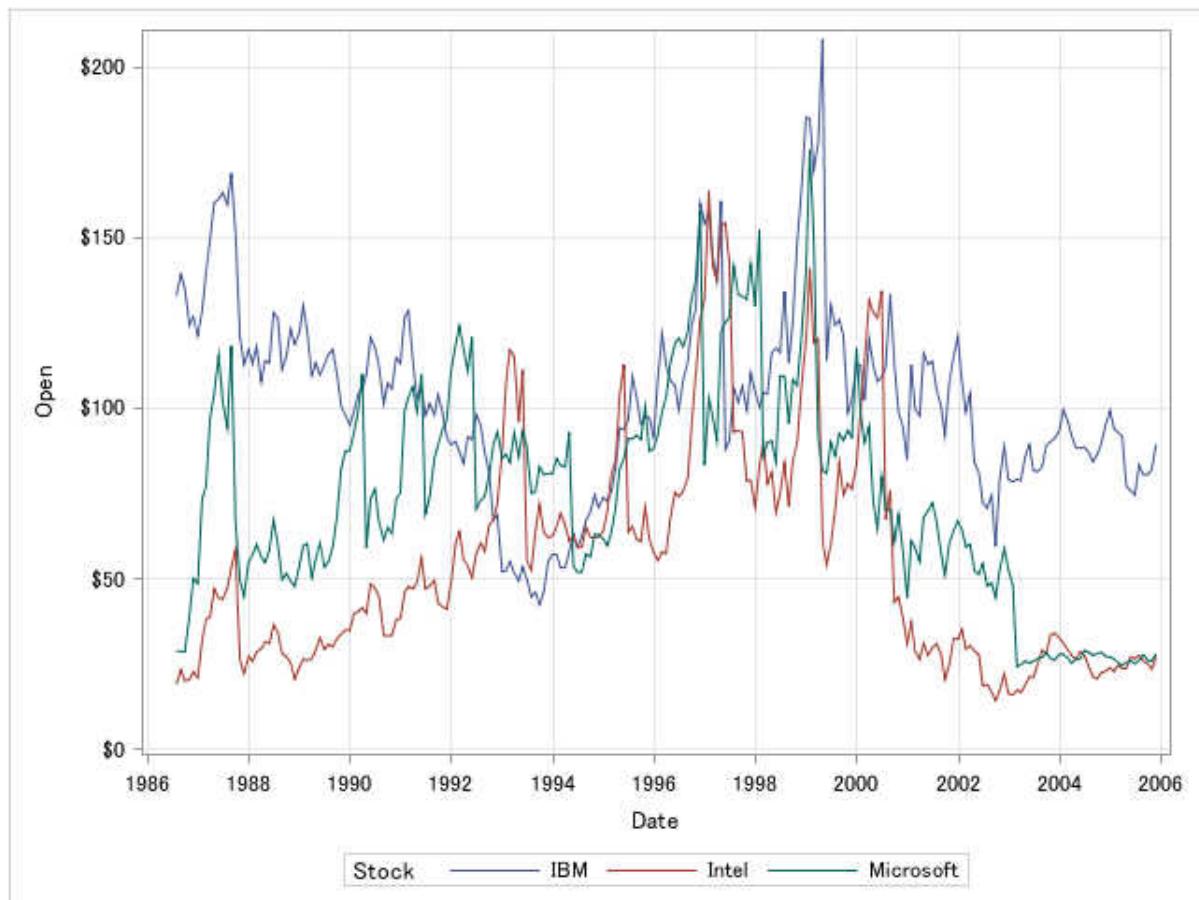
この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、**時系列プロット**をダブルクリックします。時系列プロットタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP STOCKS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
X 変数	Date
Y 変数	Open
グループ変数	Stock

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の時系列プロットは、3つの会社の株式価値を示しています。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

時系列プロットタスクを実行するには、X 変数および Y 変数役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
X 変数	X 軸の変数を指定します。
Y 変数	Y 軸の変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
プロットの詳細	時系列プロットで使用するマーカーの記号の種類、色およびサイズを指定できます。プロットの透明度を指定することもできます。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
プロットのラベル	プロットのラベルを表示する
	曲線にラベルを追加します。このテキストのサイズを指定することもできます。
X 軸、Y 軸	グリッド線を表示する
	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。

オプション名	説明
ラベルを表示する	軸ラベルを表示します。デフォルトでは、変数名がラベルとして使用されます。 カスタマイズするには、目的のラベルをカスタムラベルボックスに入力します。
凡例の詳細	
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定します。
グラフサイズ	
グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。	

単純横棒グラフタスク

単純横棒グラフタスクについて

単純横棒グラフタスクでは、単純な横棒グラフを作成します。横棒グラフのタイトル、フトノート、軸、凡例をカスタマイズできます。

例: 生産地域および車種別の走行距離を示す横棒グラフ

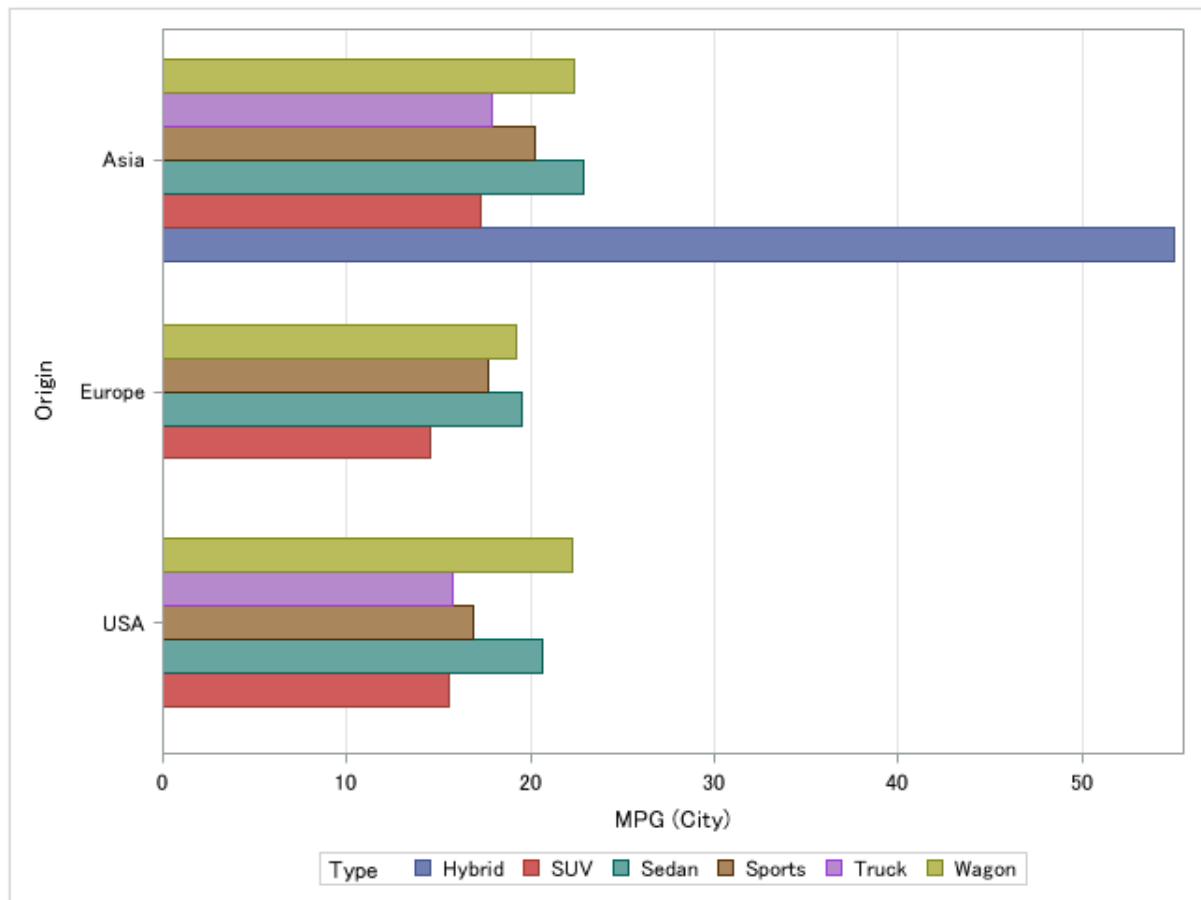
この横棒グラフを作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、グラフフォルダを展開し、**単純横棒グラフ**をダブルクリックします。単純横棒グラフタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
カテゴリ変数	Origin
応答変数	MPG_City
グループ変数	Type

4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようにになります。



役割へのデータの割り当て

SQL WHERE 句を適用して入力データセットのデータをサブセット化できます。Where string ボックスに、有効な SQL 構文を入力します。文字列は一重引用符で囲む必要があります。結果のグラフでこの WHERE 句を表示するには、フットノートとして含めるチェックボックスを選択します。

単純横棒グラフタスクを実行するには、カテゴリ変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
カテゴリ変数	オブザーバーションを個別のサブセットに分類する変数を指定します。
応答変数	プロットの数値応答変数を指定します。
グループ変数	データのグループ化に使用される変数を指定します。
URL 変数	HTML ページ内でプロットの一部を選択したときに表示される Web ページの URL を格納した文字変数を指定します。
グループレイアウト	
クラスター	単一のカテゴリ棒の代わりに、グループ値を隣接する個別の棒として表示します。グループ値の各セットの中心は、カテゴリの中央の目盛りに合わせられます。
積み上げ	クラスタリングを使用せずにグループ値を重ね合わせます。各グループは、現在のスタイルの GraphData1...GraphData n スタイル要素に基づく一意の視覚属性で表されます。
統計量	
平均	応答変数の平均を計算します。

オプション名	説明
合計	応答変数の合計を計算します。

オプションの設定

オプション名	説明
タイトルとフットノート	出力にカスタムのタイトルとフットノートを指定できます。このテキストのフォントサイズを指定することもできます。
バーの詳細	
バーの色を適用する	グループ変数役割に列を割り当てない場合に棒の色を指定します。
透明度	プロットの透明度を指定します。範囲は 0 (完全に不透明)～1 (完全に透明)です。
バーのグラデーションを適用する	各棒に階調度を適用します。 注: このオプションは、SAS 9.4 のメンテナンスリース 2 以降が稼動している場合にのみ利用できます。
データスキニ	塗りつぶしたすべての棒に使用する特殊効果を指定します。
バーのラベル	
バーのラベルを表示する	計算された応答の値をデータラベルとして表示します。
カテゴリ軸	
反転する	目盛り値が逆(降順)に表示されるように指定します。

オプション名	説明
データの順序で値を表示する	連続していない目盛り値をそれらがデータに出 現する順序で配置します。
ラベルを表示する	軸ラベルを表示できます。目的のラベルをカスタ ムラベルボックスに入力します。
応答軸	
グリッドを表示する	軸の各目盛り位置にグリッド線を作成します。
統計接頭辞を削除する	計算された統計量の名前を軸ラベルから削除し ます。たとえば、平均を計算する場合、軸ラベル は Weight (Mean)のようになります。
カスタムラベル	応答軸のラベルをカスタマイズできます。デフォ ルトでは、変数の名前が軸ラベルとして使用され ます。
凡例の詳細	
凡例の場所	凡例の配置場所(軸エリアの外または内)を指定 します。
グラフサイズ	
グラフの幅と高さをインチ、cm またはピクセルで指定できます。	

11

ハイパフォーマンス統計タスク

ハイパフォーマンスタスクについて	224
連続データの bin 化タスク	224
連続データの bin 化タスクについて	224
例: ウィンザー化 bin 化	224
役割へのデータの割り当て	227
オプションの設定	227
出力データセットの作成	228
ハイパフォーマンス相関分析タスク	229
ハイパフォーマンス相関分析タスクについて	229
例: Weight、Oxygen、Run Time の間の相関	229
役割へのデータの割り当て	230
オプションの設定	231
出力データセットの作成	232
一般化線形モデル	232
一般化線形モデルタスクについて	232
例: モデルの選択	232
役割へのデータの割り当て	235
モデルの構築	238
モデルの選択オプションの設定	240
オプションの設定	241
出力オプションの設定	242
欠損値の置き換えタスク	242

欠損値の置き換えタスクについて	242
役割へのデータの割り当て	242
オプションの設定	243
ランダムサンプルタスク	243
ランダムサンプルタスクについて	243
役割へのデータの割り当て	244
出力データセットの作成	245
オプションの設定	245

ハイパフォーマンスタスクについて

ハイパフォーマンスタスクは、大容量のデータ向けに設計されています。大規模なデータセットでこれらのハイパフォーマンスタスクを実行する前に十分な計算能力があるか確認してください。

連続データのBIN化タスク

連続データのBIN化タスクについて

連続データのBIN化タスクは、データ準備タスクです。このタスクでは、連続変数のデータ値をいくつかの間隔に分割し、各間隔の値をそれぞれの間隔の 1 つの代表値で置き換えます。

注: このタスクは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。

例: ウィンザー化BIN化

この例では、タスクを使用して入力データの基本的なウィンザー化統計情報を取得します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

1 Work.Ex12 データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```
data ex12;
```

```
length id 8;
do id=1 to 10000;
  x1 = ranuni(101);
  x2 = 10*ranuni(201);
  x3 = 100*ranuni(301);
  output;
end;
run;
```

 をクリックします。

- 2 タスクセクションで、ハイパフォーマンス統計量フォルダを展開し、**bin 連続データ**をダブルクリックします。連続データの bin 化タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、**WORK.EX12** データセットを選択します。
- 4 ビン化する変数役割に **x1** および **x2** 列を割り当てます。
- 5 オプションタブを選択して、次のオプションを指定します。
 - ビン数ボックスに、10 を入力します。
 - 選択方法ドロップダウンリストで、**ワインザー化ビン化**を選択します。
- 6 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

パフォーマンスの情報	
実行モード	Single-Machine
スレッド数	4

データアクセスの情報			
データ	エンジン	役割	バス
WORK_EX1_2	V9	Input	On Client

bin化の情報	
手法	Winsor Binning
指定された bin 数	10
変数の数	2

マッピング				
変数	bin化変数	範囲	度数	比率
x1	BIN_x1	x1 < 0.137722	1405	0.14050000
		0.137722 <= x1 < 0.227865	849	0.08490000
		0.227865 <= x1 < 0.318007	897	0.08970000
		0.318007 <= x1 < 0.408150	864	0.08640000
		0.408150 <= x1 < 0.498293	906	0.09060000
		0.498293 <= x1 < 0.588435	899	0.08990000
		0.588435 <= x1 < 0.678578	935	0.09350000
		0.678578 <= x1 < 0.768720	901	0.09010000
		0.768720 <= x1 < 0.858863	948	0.09480000
		0.858863 <= x1	1396	0.13960000
x2	BIN_x2	x2 < 1.398500	1385	0.13850000
		1.398500 <= x2 < 2.301366	941	0.09410000

役割へのデータの割り当て

連続データの bin 化タスクを実行するには、bin 化する変数役割に変数を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
bin 化する変数	bin 化対象の入力変数として 1 つ以上の変数を指定します。間隔変数を指定する必要があります。
追加役割	
度数カウント	各オブザーバーションの出現度数を表す数値変数を指定します。度数値が 1 未満か、欠損している場合、そのオブザーバーションは分析で使用されません。変数を度数カウント役割に割り当たない場合、各オブザーバーションに度数 1 が割り当てられます。

オプションの設定

オプション名	説明
手法	
bin 数	すべての bin 化変数の bin 化レベルの総数を指定します。2~1000(2 と 1000 を含む)の任意の整数を指定できます。デフォルトの bin 化レベル数は 16 です。

オプション名	説明
手法	<p>使用する bin 化方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ パケット bin 化では、長さの等しい bin を作成し、それらの bin のいずれかにデータを割り当てます。bin 化中に bin 数を指定できます。デフォルトの bin (bin 化レベル) 数は 16 です。 ■ ウインザー化 bin 化は、両端を切り捨てて滑らかな bin 化結果を得る点を除き、パケット bin 化と同じです。この手法は、データ準備段階で異常値を削除する目的でよく使用されます。 ■ ウインザーレートオプションの値を指定する必要があります。有効な値は 0.0 から 0.5 (0.0 と 0.5 を含まない) です。デフォルト値は、0.05 です。 ■ 擬似分位点 bin 化では、分位点 bin 化方法の結果を模倣しますが、CPU 時間とメモリの消費量を減らして効率を高めます。
統計量	<p>結果に統計量を含めるかどうか指定できます。含めることができる追加統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基本統計量を使用すると、各 bin 化変数の平均、擬似平均、標準偏差、最小値、最大値、bin 数が表示されます。 ■ 分位点統計量を使用すると、推定分位点と極値テーブルが表示されます。

出力データセットの作成

結果を出力データセットに保存するかどうかを指定できます。出力データセットに含める追加変数役割で、出力データセットに含める列を入力データセットから指定します。

ハイパフォーマンス相関分析タスク

ハイパフォーマンス相関分析タスクについて

相関とは、数値変数間の関係を表すための統計学的手法です。関係は、変数の相関係数を計算することによって表されます。ハイパフォーマンス相関分析タスクは、変数間の関連性を調べるための Pearson 統計量を計算します。相関の範囲は-1~1 です。

注: このタスクは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。

例: Weight、Oxygen、Run Time の間の相関

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 Work.Fitness データセットを作成します。詳細については、“[FITNESS データセット](#)” (382 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、ハイパフォーマンス統計量フォルダを展開し、相関分析をダブルクリックします。ハイパフォーマンス相関分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 3 データタブで、WORK.FITNESS データセットを選択します。
- 4 分析変数役割に Weight、Oxygen および RunTime 列を割り当てます。
- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようになります。

パフォーマンスの情報			
実行モード	Single-Machine		
スレッド数	4		
データアクセスの情報			
データ	エンジン	役割	バス
WORKFITNESS	V9	Input	On Client
3 変数 : Weight Oxygen RunTime			
Pearson の相関係数 H0: Rho=0 に対する Prob > H オブザベーション数			
	Weight	Oxygen	RunTime
Weight	1.00000 0.4264 31	-0.15358 0.4264 29	0.20072 0.2965 29
Oxygen	-0.15358 0.4264 29	1.00000 29	-0.86843 <.0001 28
RunTime	0.20072 0.2965 29	-0.86843 <.0001 28	1.00000 29

役割へのデータの割り当て

ハイパフォーマンス相関分析タスクを実行するには、**分析変数役割**に 2 つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
分析変数	相関係数の計算対象として使用する列を指定します。
追加役割	
度数カウント	オブザベーションの度数を表す数値列を指定します。

役割	説明
重み	Pearson の重み付き積率相関の計算に使用する重みを指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
手法	
欠損値	<p>欠損値を計算に含めるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ すべての選択済み変数に非欠損値を使用するオプションを選択した場合、値が欠損しているオブザベーションはすべて分析から除外されます。 ■ 変数ペアに非欠損値を使用するオプションを選択した場合、両方の値が非欠損値である限り、オブザベーションのデータは 2 つの変数間の相間に寄与します。そのため、分析変数の相関は、異なる数のオブザベーションに基づいて計算される場合があります。

統計量

結果にタスクによって自動的に作成される統計のみを含めるか、選択した統計を含めるか、統計を一切含めないかを指定できます。デフォルトでは、相関テーブルのみが結果に表示されます。

結果に次の統計量を含めることができます。

- 相関
- 共分散
- 平方和と積和
- 修正平方和と積和
- 記述統計量

p 値を表示する

相関係数ごとに観測係数より大きな値が観測される確率を表示するかどうかを指定します。

オプション名	説明
相関を降順に並べ替える	各変数の相関係数を並べ替えて表示します。相関を絶対値の降順で並べ替えます。

出力データセットの作成

結果を出力データセットに保存するかどうかを指定できます。デフォルトでは、相関は出力データセットに含まれています。さらに、共分散、平方和と積和、修正平方和と積和を含めることもできます。

一般化線形モデル

一般化線形モデルタスクについて

一般化線形モデルタスクは、一般化線形モデルのモデル当てはめおよびモデル構築に利用できるハイパフォーマンスタスクです。このタスクでは、正規分布、Poisson 分布、Tweedie 分布などの指数型分族に属する標準分布モデルの当てはめを行います。また、順序応答および公称応答の多項モデルの当てはめにも対応しています。タスクには、選択方法として変数増加法、変数減少法および変数増減法(ステップワイズ法)が用意されています。

注: このタスクは、SAS 9.4 以降を実行している場合にのみ使用できます。

例: モデルの選択

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 Work.getStarted データセットを作成します。詳細については、“[GETSTARTED データセット](#)”(383 ページ)を参照してください。
- 2 タスクセクションで、ハイパフォーマンス統計量フォルダを展開し、一般化線形モデルをダブルクリックします。一般化線形モデルタスクのユーザーインターフェイスが開きます。

3 データタブで、WORK.GETSTARTED データセットを選択します。

4 次の役割に列を割り当てます。

役割またはオプション名	列名
分布	Poisson
応答変数	Y
分類変数	C1
	C2
	C3
	C4
	C5

5 モデルタブをクリックします。変数ボックスで、C1–C5 を選択します。Add をクリックします。

6 選択タブをクリックします。選択方法ドロップダウンリストで、変数増加法を選択します。

7 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

パフォーマンスの情報	
実行モード	Single-Machine
スレッド数	4

データアクセスの情報

データ	エンジン	役割	バス
WORK.GETSTARTED	V9	Input	On Client

モデルの情報

データソース	WORK.GETSTARTED
応答変数	Y
分類バラメータ化	GLM
分布	Poisson
リンク関数	Log
最適化の手法	Newton-Raphson with Ridging

選択の情報

選択の方法	Forward
Select 基準	Significance Level
Stop 基準	Significance Level
適用される効果の階層	Single
入力の有意水準 (SLE)	0.05
Stop 区間	1

読み込んだオブザベーション数	100
使用されたオブザベーション数	100

分類変数の水準の情報

分類	水準	値
C1	4	01 23

役割へのデータの割り当て

一般化線形モデルタスクを実行するには、応答変数役割に列を割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	
応答	
分布	<p>モデルの分布を指定します。次の分布から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二項分布 ■ ガンマ分布 ■ 逆 Gaussian 分布 ■ 多項分布 ■ 負の二項分布 ■ 正規分布 ■ Poisson 分布 ■ Tweedie 分布

二項分布のオプション

Response data consists of numbers of events and trials

データを、正の応答(イベント)の数を指定する変数と、試行の数を指定する別の変数のどちらで構成するかを指定します。

イベント数

イベント数を含む列を指定します。

試行数

試行数を含む列を指定します。

オプション名	説明
応答	<p>応答値を含む変数を指定します。</p> <p>二項応答モデルを作成する場合は、関心のあるイベントオプションを使用して順序が最初または最後のカテゴリを参照カテゴリとして指定できます。カスタムカテゴリを選択することもできます。</p> <p>注: このオプションは、Response data consists of numbers of events and trials チェックボックスを選択しなかった場合にのみ利用できます。</p>

すべての分布タイプのオプション

応答	<p>応答値を含む変数を指定します。</p> <p>二項応答モデルまたは正規多項モデルを作成する場合は、関心のあるイベントオプションを使用して参照カテゴリとして順序が最初または最後のカテゴリを指定できます。カスタムカテゴリを選択することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二項応答モデルを作成するには、分布として Binomial を選択します。二項応答モデルの場合、1つの応答カテゴリを参照として指定することは、他の応答カテゴリをイベントカテゴリとして指定することと同じです。 ■ 正規多項モデルを作成するには、分布として Multinomial を選択し、リンク関数として一般化ロジットを選択します。一般化ロジットモデル場合、各ロジットは非参照カテゴリを参照カテゴリと対比します。
----	---

オプション名	説明
リンク関数	<p>モデルのリンク関数を指定します。利用可能な関数は、選択した分布によって異なります。</p> <p>リンク関数に Default を選択した場合は、モデル分布のデフォルトのリンク関数が使用されます。</p> <p>分布と対応するデフォルトのリンク関数のリストを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二項分布では、ロジットリンク関数を使用します。 ■ ガンマ分布では、逆リンク関数を使用します。 ■ 逆 Gauss 分布では、平方の逆リンク関数を使用します。 ■ 多項分布では、累積ロジットリンク関数を使用します。 ■ 負の二項分布では、対数リンク関数を使用します。 ■ 正規分布では、恒等リンク関数を使用します。 ■ Poisson 分布では、対数リンク関数を使用します。 ■ Tweedie 分布では、対数リンク関数を使用します。
説明変数	
分類変数	分析でデータのグループ化(分類)に使用する変数を指定します。分類変数は文字でも数値でもかまいません。
効果のパラメータ化	
コーディング	<p>分類変数のパラメータ化方法を指定します。選択したコーディングスキーマに従って、分類変数から設計行列の列が作成されます。</p> <p>次のコーディングスキーマから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ GLM coding フルランク未満の参照セルコーディングを指定します。このコーディングスキーマがデフォルトです。 ■ Reference coding 参照セルコーディングを指定します。

オプション名	説明
欠損値の処理	<p>次の条件のいずれかが満たされた場合、オブザベーションは分析対象から除外されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モデル内の変数に欠損値が含まれる場合 ■ (分類変数がモデルで使用されているかどうかにかかわらず) 分類変数に欠損値が含まれる場合
連続変数	回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。
オフセット変数	線形予測子に対するオフセットとして使用する変数を指定します。オフセットは、係数が 1 となる効果として働きます。オフセット変数の値が欠損しているオブザベーションは、分析から除外されます。
追加役割	
度数カウント	各オブザベーションの出現度数を表す数値列を指定します。
重み変数	データの重み付き分析を実行する際に重みとして使用する列を指定します。

モデルの構築

モデル構築の要件

デフォルトでは、効果が指定されていないため、切片のみのモデルの当てはめが行われます。効果を指定するには、**分類変数役割**または**連続変数役割**に少なくとも 1 つの変数を割り当てる必要があります。変数の組み合わせを選択し、クロス、ネスト、組み合わせまたは多項式の各効果を作成できます。

モデルを作成するには、**モデルタブ**で**モデルビルダ**を使用します。モデルを作成したら、モデルに切片を含めるかどうかを指定できます。

主効果の作成

- 1 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2 列の追加をクリックして、モデル効果ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。
- 2 クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、B(A)、C(B*A)、D*E(C*B*A)などがあります。この例で B(A) は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

- 1 モデル効果ボックスで、効果名を選択します。
- 2 Nest をクリックします。Nested ウィンドウが開きます。
- 3 ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。
注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。
- 4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。
- 2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

N 次の多項式効果の作成

1 変数ボックスで 1 つの変数を選択します。

2 N フィールドの数値を調整して、高次クロスを指定します。

3 多項式の次数 = N をクリックして、モデル効果ボックスに多項式効果を追加します。

たとえば、Age および Height 変数を選択し、N フィールドで 3 を指定して、多項式の次数 = N をクリックすると、モデル効果として Age、Age*Age、Age*Age*Age、Height、Height*Height、Height*Height*Height が作成されます。

モデルの選択オプションの設定

オプション	説明
モデルの選択	
選択方法	<p>モデルの選択法を指定します。このタスクでは、選択法で定義されているルールに従って、モデルに効果を追加する必要があるか、モデルから効果を削除する必要があるかを調べることによって、モデルが選択されます。</p> <p>選択方法の有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ None では、フルモデルを当てはめます。 ■ 変数増加法では、効果を含まないモデルから開始し、モデルに効果を追加する有意水準オプションに基づいて効果を追加します。

オプション**選択方法(続き)****説明**

- **変数減少法**では、すべての効果を含むモデルから開始し、モデルから効果を削除する有意水準オプションの値に基づいて効果を削除します。
- **変数増減法(ステップワイズ法)**は、変数増加法モデルに似ています。ただし、モデルにすでに存在する効果が必ずしもそのまま残るとは限りません。効果は、モデルに効果を追加する有意水準オプションに基づいてモデルに追加され、モデルから効果を削除する有意水準オプションに基づいてモデルから削除されます。

最適モデルの選択方法

最も当てはまるモデルが識別されるようにするための基準を指定します。

詳細**選択プロセスの詳細**

選択プロセスに関してどの程度の情報を結果に含めるかを指定します。選択プロセスの各ステップの要約または詳細、または選択プロセスに関するすべての情報を表示できます。

効果の階層を維持する

効果の階層を維持することを指定します。

オプションの設定**オプション****手法****Dispersion****Dispersion parameter****説明**

分散パラメータを持つ分布に、固定の分散パラメータを指定できます。このパラメータは、デフォルトでは推定されます。

最適化

オプション	説明
手法	使用する最適化法を指定します。
最大反復回数	選択した最適化法で実行する最大反復回数を指定します。
統計量	
<p>出力に含める統計量を選択できます。 含めることができる追加統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 推定値の信頼限界 ■ パラメータ推定値の相関 ■ パラメータ推定値の共分散 	

出力オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。また、出力データセットに、予測値、残差またはその他の変数を追加するかどうかも指定できます。

欠損値の置き換えタスク

欠損値の置き換えタスクについて

欠損値の置き換えタスクでは、データセット内の欠損値をその欠損値の推定値で置き換えます。また、このタスクでは、バイナリ補完インジケータも作成されます。

役割へのデータの割り当て

役割	説明
役割	

役割	説明
欠損値を平均値で置き換える	変数の欠損値を平均で置き換えます。
欠損値を擬似平均で置き換える	変数の欠損値を擬似平均で置き換えます。非欠損値がない場合は、擬似平均は 0 です。
欠損値を乱数で置き換える	変数の欠損値を乱数値(変数の最小値と最大値の間の値)で置き換えます。非欠損値がない場合は、乱数値は 0 です。
追加役割	
度数カウント	各オブザベーションの出現度数を表す数値変数を指定します。度数値が 1 未満か、欠損している場合、そのオブザベーションは分析で使用されません。変数を度数カウント役割に割り当たない場合、各オブザベーションに度数 1 が割り当てられます。

オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。この出力データセットには、データ、補完インジケータ変数(未補完の場合は 0、補完済みの場合は 1)および補完された変数が含まれています。さらに、入力データセットの変数を含めることもできます。

ランダムサンプルタスク

ランダムサンプルタスクについて

ランダムサンプルタスクは、単純なランダムサンプルまたは層別サンプリングを実行するハイパフォーマンスプロシージャです。このタスクの出力には、出力データセットとサンプルデータ、パフォーマンス情報に関するテーブル、母集団とサンプルの度数情報に関するテーブルが含まれています。

役割へのデータの割り当て

層別サンプリングを実行する場合は、層化基準役割に列を割り当てる必要があります。それ以外の場合は、層化基準役割の使用は任意です。

役割	説明
層化基準	<p>入力テーブルを重複のない相互排他的なサブセット(層)に分割するために使用する変数を指定します。各層は層の変数の一連の値によって定義され、サンプリングは層ごとに別々に行われます。完全サンプルは、すべての層から取得されたサンプルの和集合です。</p> <p>注: この役割に変数を割り当てない場合は、入力テーブル全体が單一層として扱われます。</p> <p>合計サンプルサイズは、各層のサイズに比例して層間で割り振ることができます。例として、候補値が M と F の変数 GENDER および候補値が Y と N の変数 VOTED について考えます。GENDER と VOTED の両方を層化基準役割に割り当た場合、入力テーブルは 4 つの層(投票した男性、投票しなかった男性、投票した女性、投票しなかった女性)に分割されます。</p> <p>入力テーブルは 20,000 行で構成され、値は次のように分布しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 投票した男性 7,000 人 ■ 投票しなかった男性 4,000 人 ■ 投票した女性 5,000 人 ■ 投票しなかった女性 4,000 人
層化基準(続き)	<p>したがって、投票した男性の比率は、$7,000/20,000=0.35$ (35%)になります。サンプルにおける比率は、入力テーブルにおける層の比率を反映している必要があります。たとえば、使用するサンプルテーブルのオブザベーション件数が 100 の場合、入力テーブルにおける比率が反映されるように、投票した男性の層からサンプル値の 35%を選択する必要があります。</p>

出力データセットの作成

出力データに含める数値変数および文字変数を入力データセットから選択できます。すべての入力オブザベーションとサンプルインジケータ変数を含めるを選択して、入力テーブルと同数の行を含む出力テーブルを作成します。出力テーブルには、追加のパーティションインジケータがあり、サンプルにオブザベーションが含まれている場合は 1、含まれていない場合は 0 を示します。

オプションの設定

オプション名	説明
手法	
サンプルの基準	<p>サンプルサイズを必要行数または入力行の必要パーセントとして指定します。たとえば、入力行が 400 あるときに行の 3%と指定した場合、結果のサンプルには 12 行が含まれることになります。</p> <p>注: 層化基準役割に変数を割り当てた場合、ここで指定するサンプルサイズは入力テーブル全体ではなく各層に適用されます。</p>
ランダムシード	乱数生成の初期シードを指定します。この値をゼロまたは負の数値に設定した場合は、システムクロックに基づくシードを使用してサンプルが生成されます。

オプション名	説明
文字層別値の大文字小文字を無視する	<p>層別サンプリングを実行する場合に、同じ正規化値を持つ層別変数を区別します。たとえば、ターゲットに 3 つの異なる値"A"、"B"および"b"が含まれていて、"B"と"b"を異なるレベルとして扱う場合は、このオプションを選択する必要があります。そうしないと、"B"と"b"は同じレベルとして扱われます。タスクでは、値は次のように正規化されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1 先頭の空白は削除されます。2 値は 32 文字に切り捨てられます。3 文字は小文字から大文字に変換されます。

12

組み合わせと確率タスク

誕生日が同じ確率タスク	247
誕生日が同じ確率タスクについて	247
例: 室内にいる 145 人のうち、2 人以上の誕生日が 同じである確率	248
オプションの設定	250
コイン投げシミュレーションタスク	250
コイン投げシミュレーションタスクについて	250
例: 10,000,000 回コインを投げた場合の結果の確率	250
オプションの設定	251
サイコロ転がしシミュレーションタスク	252
サイコロ転がしシミュレーションタスクについて	252
例: 100,000,000 回サイコロを転がした場合の結果の確率	252
オプションの設定	253
ポーカーの持ち札の確率タスク	254
ポーカーの持ち札の確率タスクについて	254
例: ポーカーの持ち札の確率タスクの結果	254

誕生日が同じ確率タスク

誕生日が同じ確率タスクについて

誕生日が同じ確率タスクでは、室内の 2 人以上の誕生日が同じである確率を計算します。

例: 室内にいる **145** 人のうち、**2** 人以上の誕生日が同じである確率

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、Combinatorics and Probability フォルダを展開し、Same Birthday Probability をダブルクリックします。誕生日が同じ確率タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 オプションタブで、次のオプションを指定します。

オプション名	指定する値
Number in a room	145
データセット名	Birthdays

- 3 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Same Birthday Probability

Number in a Room	Probability
2	0.000273972602740
3	0.00820416588478
4	0.01635591246655
5	0.02713557369979
6	0.04046248364911
7	0.05623570309598
8	0.07433529235167
9	0.09462383388917
10	0.11694817771108
11	0.14114137832173
12	0.16702478883806
13	0.19441027523243
14	0.22310251200497
15	0.25290131976369
16	0.28360400625285
17	0.31500766529656
18	0.34691141787179
19	0.37911852603154
20	0.41143838358068
21	0.44368833516521
22	0.47569530766255
23	0.50729723432399
24	0.53834425791453
25	0.56869970396946
26	0.59824082013594

オプションの設定

誕生日が同じ確率タスクを実行するには、次のオプションをすべて指定する必要があります。

オプション名	説明
オブザベーション	
Number in a room	室内にいる人の数を指定します。
出力データセット	
データセット名	出力データセットの名前を指定します。

コイン投げシミュレーションタスク

コイン投げシミュレーションタスクについて

コイン投げシミュレーションタスクでは、指定した数のコインを投げるシミュレーションを実行します。結果には、コインを指定した回数投げた場合にその表が出る度数とパーセントが示されます。

例: 10,000,000 回コインを投げた場合の結果の確率

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**Combinatorics and Probability** フォルダを開き、**Coin Toss Simulation** をダブルクリックします。コイン投げシミュレーションタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 オプションタブで、次のオプションを指定します。

オプション名	指定する値
コイン数	10
投げる回数	10,000,000
データセット名	Coins

3 タスクを実行するには、 をクリックします。

この例の結果を次に示します。

Tossing 10 coins 10000000 times

Number of Heads	Frequency	Probability
0	9,656	0.000966
1	97,521	0.009752
2	439,887	0.043989
3	1,173,051	0.117305
4	2,049,467	0.204947
5	2,460,563	0.246056
6	2,050,787	0.205079
7	1,173,007	0.117301
8	438,442	0.043844
9	97,780	0.009778
10	9,839	0.000984
	10,000,000	1.000000

オプションの設定

コイン投げシミュレーションタスクを実行するには、次のオプションをすべて指定する必要があります。

オプション名	説明
Observations	
Number of coins	投げるコインの数を指定します。

オプション名	説明
Number of tosses	コインを投げる回数を指定します。
出力データセット	
データセット名	出力データセットの名前を指定します。

サイコロ転がしシミュレーションタスク

サイコロ転がしシミュレーションタスクについて

サイコロ転がしシミュレーションでは、指定した数のサイコロを転がすシミュレーションを実行します。結果には、指定した回数サイコロを転がした場合に各目が出る度数とパーセントが示されます。

例: 100,000,000 回サイコロを転がした場合の結果の確率

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、Combinatorics and Probability フォルダを展開し、Dice Roll Simulation をダブルクリックします。サイコロ転がしシミュレーションタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- オプションタブで、次のオプションを指定します。

オプション名	指定する値
サイコロ数	2
投げる回数	100,000,000
データセット名	サイコロ

3 タスクを実行するには、をクリックします。

結果は次のようになります。

Rolling 2 dice 100000000 times

Value Rolled	Frequency	Probability
2	2,776,506	0.027765
3	5,554,303	0.055543
4	8,337,412	0.083374
5	11,110,601	0.111106
6	13,891,763	0.138918
7	16,663,327	0.166633
8	13,888,541	0.138885
9	11,111,920	0.111119
10	8,334,439	0.083344
11	5,549,895	0.055499
12	2,781,294	0.027813
100,000,000		1.000000

オプションの設定

サイコロ転がしシミュレーションタスクを実行するには、次のオプションをすべて指定する必要があります。

オプション名	説明
オブザベーション	
サイコロの数	転がすサイコロの数を指定します。
投げる回数	サイコロを転がす回数を指定します。
出力データセット	
データセット名	出力データセットの名前を指定します。

ポーカーの持ち札の確率タスク

ポーカーの持ち札の確率タスクについて

ポーカーの持ち札の確率タスクでは、ポーカーの持ち札の度数と確率を計算します。ポーカーの持ち札の確率タスクの入力データセットは、計算タスクによって生成された出力データセットである必要があります。

例: ポーカーの持ち札の確率タスクの結果

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**Combinatorics and Probability** フォルダを展開し、**Computations** をダブルクリックします。計算タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 オプションタブで、次のオプションを指定します。

オプション名	指定する値
Total number	52
Number in a set	5
データセット名	Combo

- 3 タスクを実行するには、 をクリックします。Work.Combo データセットが作成されます。
- 4 タスクセクションで、**Combinatorics and Probability** フォルダを展開し、**Poker Hand Probability** をダブルクリックします。ポーカーの持ち札の確率タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 5 入力データセットとして、WORK.COMBO を選択します。

6 タスクを実行するには、をクリックします。

結果は次のようにになります。

Poker Hand Probability

Poker Hand	Frequency	Probability
Nothing	1,302,540	0.501177
One Pair	1,088,240	0.422569
Two Pair	123,552	0.047539
Three of a Kind	54,912	0.021128
Straight	10,200	0.003925
Flush	5,108	0.001965
Full House	3,744	0.001441
Four of a Kind	624	0.000240
Straight Flush	36	0.000014
Royal Flush	4	0.000002
Total	2,598,960	1.000000

13

統計タスク

データ探索タスク	260
データ探索タスクについて	260
例: SASHELP.CARS データの探索	260
役割へのデータの割り当て	262
プロットオプションの設定	263
要約統計量タスク	265
要約統計量タスクについて	265
例:販売台数の要約統計量	265
役割へのデータの割り当て	267
オプションの設定	268
出力オプションの設定	271
分布分析タスク	271
分布分析タスクについて	271
例:各地域の売上の分布分析	271
役割へのデータの割り当て	274
オプションの設定	275
一元度数表タスク	278
一元度数表タスクについて	278
例:販売台数の一元度数表	278
役割へのデータの割り当て	280
オプションの設定	280
相関分析タスク	282
相関分析タスクについて	282

例: Sashelp.Cars データセットにおける相関	282
役割へのデータの割り当て	283
オプションの設定	284
出力オプションの設定	286
分割表分析タスク	287
分割表分析タスクについて	287
例: DriveTrain 別の車種の分布	287
役割へのデータの割り当て	289
オプションの設定	290
t 検定タスク: 1 標本 t 検定	293
1 標本 t 検定タスクについて	293
例: 馬力の 1 標本 t 検定	293
役割へのデータの割り当て	295
オプションの設定	295
t 検定タスク: 対応のある t 検定	297
対応のある t 検定タスクについて	297
例: 価格とコストの比較分布の確認	298
役割へのデータの割り当て	300
オプションの設定	300
t 検定タスク: 2 標本 t 検定	303
2 標本 t 検定タスクについて	303
例: 2 標本 t 検定	303
役割へのデータの割り当て	305
オプションの設定	306
一元配置分散分析タスク	308
一元配置分散分析タスクについて	308
例: MPG_Highway の平均の差の車種別検定	308
役割へのデータの割り当て	310
オプションの設定	311
出力オプションの設定	313
ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスク	314
ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスクについて	314

例: 生産地域別に分類した MPG_Highway の Wilcoxon スコア	314
役割へのデータの割り当て	316
オプションの設定	316
出力データセットの作成	319
N 元配置分散分析タスク	319
N 元配置分散分析タスクについて	319
例: Sashelp.RevHub2 データセットの分析	319
役割へのデータの割り当て	320
モデルの構築	321
オプションの設定	322
出力オプションの設定	323
共分散の分析タスク	323
共分散の分析タスクについて	323
例: Sashelp.Class データセットの分析	324
役割へのデータの割り当て	326
オプションの設定	327
出力オプションの設定	328
線形回帰分析タスク	328
線形回帰分析タスクについて	328
例: 生徒の身長に基づく体重予測	328
役割へのデータの割り当て	333
モデルの構築	334
モデルオプションの設定	336
モデルの選択オプションの設定	340
出力データセットの作成	342
バイナリロジスティック回帰分析タスク	342
バイナリロジスティック回帰分析タスクについて	342
例: 電子メールを迷惑メールとして分類	343
役割へのデータの割り当て	346
モデルの構築	348
モデルの選択オプションの指定	350
オプションの設定	352
出力データセットの作成	356

予測回帰モデル	357
予測回帰モデルについて	357
例:野球選手の給与の予測	357
データの分割	359
役割へのデータの割り当て	360
モデルの構築	362
モデルの選択	363
最終モデルのオプションの設定	367
スコアオプションの設定	369
一般化線形モデル	370
一般化線形モデルタスクについて	370
例: Sashelp.Baseball データセットの分析	370
役割へのデータの割り当て	372
モデルの構築	375
オプションの設定	377
出力オプションの設定	379

データ探索タスク

データ探索タスクについて

データ探索タスクを使用すると、選択した変数間の関係を探索するために使用できるグラフが表示されます。

例: **SASHHELP.CARS** データの探索

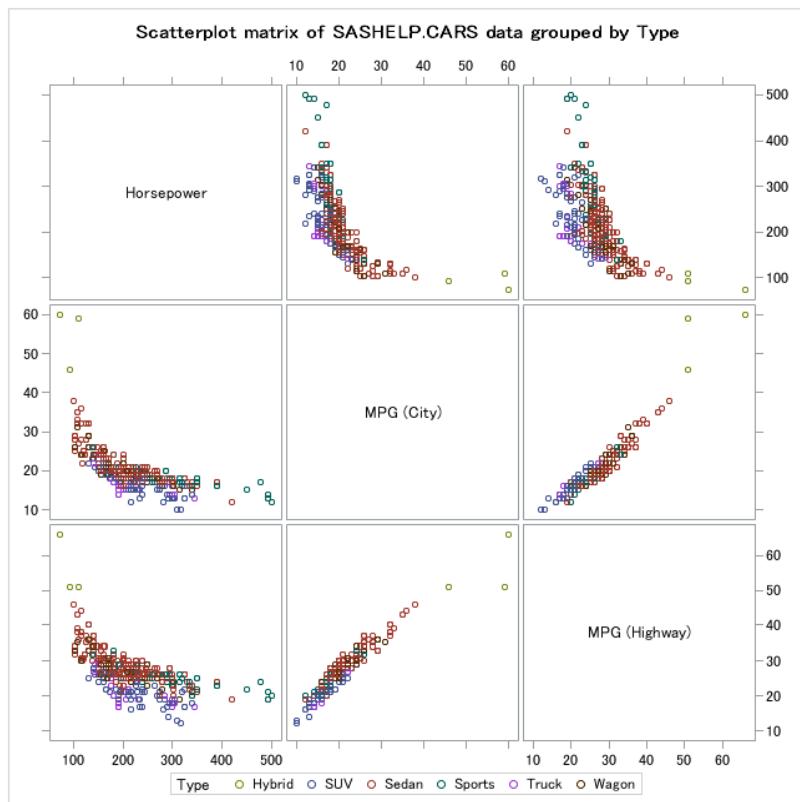
この例を作成するには、次の操作を実行します。

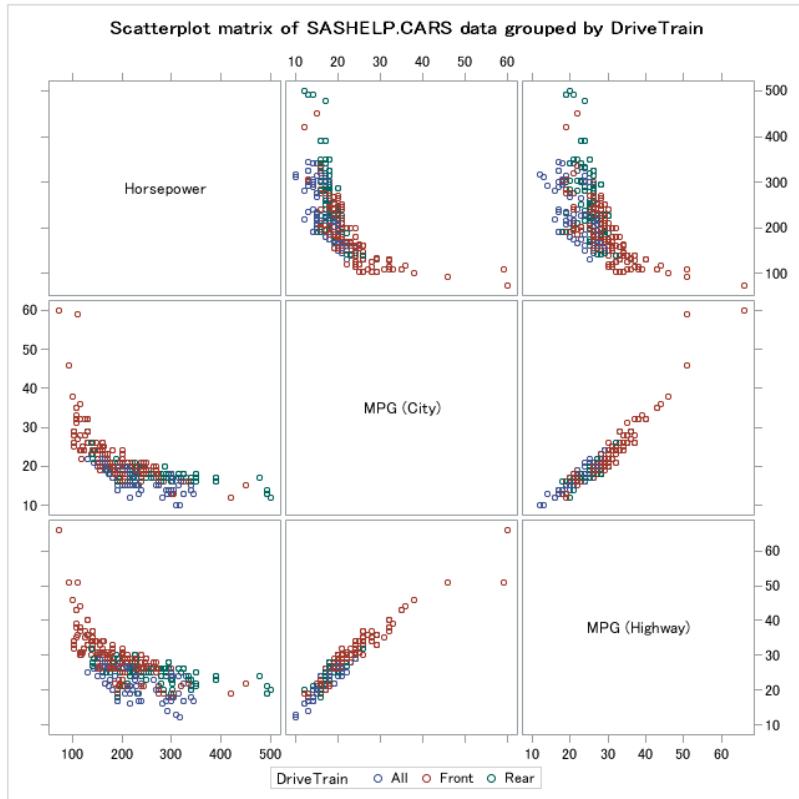
- 1 タスクセクションで、**統計量**フォルダを展開し、**データ探索**をダブルクリックします。データ探索タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当て、オプションを指定します。

役割	列名
連続変数	Horsepower MPG_City MPG_Highway
分類変数	Type DriveTrain

4 タスクを実行するには、をクリックします。

結果の一部を次に示します。





役割へのデータの割り当て

データ探索タスクを実行するには、**分類変数役割**に2つの列を割り当てるか、または**連続変数役割**に1つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
分類変数	データの探索に使用する分類変数を指定します。
連続変数	分析で使用する連続変数を指定します。
追加役割	

役割	説明
グループ分析	BY 変数の数に基づいて、個別の分析を作成します。

プロットオプションの設定

使用できるプロットオプションは、データタブで割り当てた列によって異なります。

オプション名	説明
ヒストグラムと箱ひげ図	

ヒストグラムと箱ひげ図を組み合わせるオプションは、**連続変数**役割には列が割り当てられているものの、**分類変数**役割には列が割り当てられていない場合に使用できます。

オプション名	説明
散布図行列	

散布図行列オプションは、**連続変数**役割に少なくとも 2 つの列が割り当てられている場合に使用できます。

ヒストグラムの追加	行列の対角セルにヒストグラムを追加します。このヒストグラムには、正規分布の密度曲線と核密度推定を追加できます。
-----------	---

予測楕円の追加	散布図が含まれる各セルに予測楕円を追加します。その楕円の信頼水準を指定できます。有効な値は 0 と 1 の間です。
---------	---

オプション名	説明
対散布図	

対散布図オプションは、**連続変数**役割に少なくとも 2 つの列が割り当てられている場合に使用できます。

対散布図	2 つ以上の変数の値をプロットし、X と Y の変数の組み合わせごとに個別のセルを作成します。つまり、各 Y*X ペアが個別の軸セット上にプロットされます。
------	--

オプション名	説明
予測楕円の追加	散布図が含まれる各セルに予測楕円を追加します。その楕円の信頼水準を指定できます。有効な値は 0 と 1 の間です。
回帰散布図	
回帰散布図オプションは、連続変数役割に少なくとも 2 つの列が割り当てられている場合に使用できます。	
回帰散布	散布図に回帰当てはめを追加します。
応答変数を選択する	回帰線の当てはめ時に使用する変数を指定します。
当てはめ直線の追加	散布図に回帰当てはめを追加します。
loess 当てはめの追加	散布図にレス当てはめを追加します。
当てはまる、罰則付き B スプライン曲線の追加	散布図に罰則付き B スプライン近似曲線を追加します。
モザイクプロット	
モザイクプロット	クロス集計表のセルに対応するタイルを表示するモザイクプロットを作成します。タイルの面積は表セルの度数に比例します。列変数は X 軸上に表示され、タイルの幅は列変数レベルの相対度数に比例します。行変数は Y 軸上に表示され、タイルの高さは列レベル内の行レベルの相対度数に比例します。
正方形モザイクプロット	Y 軸の高さと X 軸の幅が等しい平方モザイクプロットを作成します。平方モザイクプロットでは、両軸の相対度数の尺度が同じになります。
Specify colors of mosaic plot tiles	残差の値に基づいてモザイクプロットタイルに色を付けます。対応する表セルの Pearson または標準化された残差に基づいてタイルに色を付けるように指定することもできます。
ヒストグラム	

オプション名	説明
ヒストグラム	入力データセットにある数値変数を使用してヒストグラムを作成します。
正規分布の密度曲線の追加	ヒストグラムに正規分布の密度曲線を追加します。
核密度推定の追加	ヒストグラムに核密度推定を追加します。
インセットの統計量の追加	ボックスまたは表形式の要約統計量をヒストグラムに直接追加します。
箱ひげ図	
箱ひげ図オプションは、少なくとも 1 つの列が分類変数役割に割り当てられている場合に使用できます。	
比較箱ひげ図	
	各分類変数に一元箱ひげ図を作成します。このプロットには、分類変数ごとにすべての連続変数が表示されます。

要約統計量タスク

要約統計量タスクについて

要約統計量タスクでは、すべてのオブザベーションおよびオブザベーショングループを対象として変数の記述統計量を生成することができます。データの要約は、ヒストグラムや箱ひげ図などのグラフ表示にも対応しています。

たとえば、このタスクを使用すると、製品の種類および国別の新規販売台数に関するレポートを作成できます。

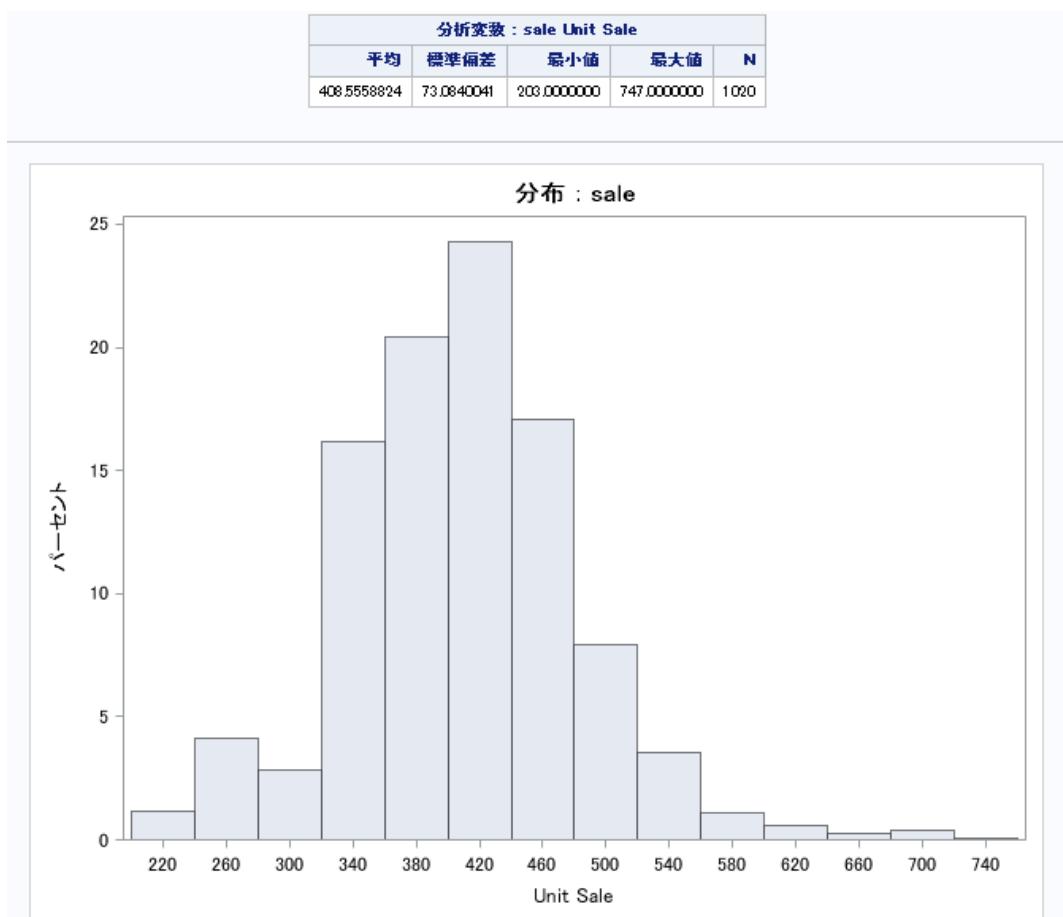
例:販売台数の要約統計量

この例では、販売台数を分析します。表形式の結果に加え、分布ヒストグラムを表示することもできます。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計量フォルダを展開し、要約統計量をダブルクリックします。要約統計量タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.PRICEDATA** データセットを選択します。
- 3 分析変数役割に **sale** 列を割り当てます。
- 4 オプションタブで、プロットセクションを展開し、ヒストグラムチェックボックスを選択します。
- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようにになります。



役割へのデータの割り当て

要約統計量タスクを実行するには、分析変数役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
分析変数	この役割に割り当てる変数は、統計量を表示する数値変数です。この役割には、少なくとも1つの変数を割り当てる必要があります。
分類変数	この役割に割り当てる変数は、入力データをカテゴリやサブグループに分類するために使用する文字変数または離散数値変数です。選択したすべての分析変数の統計量は、分類変数の重複しない組み合わせごとに計算されます。
追加役割	
グループ分析	この役割に割り当てる変数は、グループ分析変数の固有値または値の組み合わせごとに統計量を個別に計算するために使用されます。統計量を計算する前に、この役割の変数によってデータが自動的に並べ替えられます。
度数カウント	この役割に変数を割り当てるとき、テーブル内の各オブザーベーションが n 件のオブザーベーションを表すものとされます。 n は、該当する行の度数カウントの値です。それに応じて統計量が計算されます。この役割に割り当てることができる変数は1つのみです。
重み変数	この役割に変数を割り当てるとき、各オブザーベーションにその変数の値を使用して重み付きの平均、分散および合計が計算されます。この役割に割り当てることができる変数は1つのみです。

オプションの設定

オプション名	説明
統計量	
基本統計量	
平均	分析変数の値を足して、その合計を非欠損オブザベーションの数で割ることによって計算される算術平均です。
標準偏差	データ値のグループの変動を表す統計的尺度です。この尺度は、度数分布の分散尺度として最も広く使用されており、分散の正の平方根と等しくなります。
最小値	分析変数の最小値です。
最大値	分析変数の最大値です。
中央値	分析変数の中央値です。
オブザベーションの数	欠損値が存在しないオブザベーションの合計数です。
欠損値の数	欠損値が存在するオブザベーションの合計数です。
追加統計量	
標準誤差	サンプル平均の標準偏差です。標準誤差は、サンプルサイズの平方根に対するサンプル標準偏差の比率として定義されます。 注: このオプションは、標準偏差と分散の除数ドロップダウンリストで自由度を選択した場合にのみ使用できます。
分散	データ値の分散を表す統計的尺度です。この尺度は、各オブザベーションとサンプル平均との全二乗分散の平均です。

オプション名	説明
モード	分析変数の最頻値です。
範囲	データの最小値から最大値までの差分です。
合計	分析変数のすべての値の合計です。
重みの合計	各オブザーバーションの重み付けに使用する数値変数の合計です。 注: 重み変数役割に変数を割り当てていない場合は、重みの合計を計算できません。
平均の信頼限界	平均の両側信頼限界です。平均の両側 100(1 - α) % 信頼区間の上限と下限は $\bar{x} \pm t_{\left(1 - \frac{\alpha}{2}; n - 1\right)} \frac{s}{\sqrt{n}}$ です。ここで、 s は $\sqrt{\frac{1}{n-1} \sum (x_i - \bar{x})^2}$ 、 $t_{\left(1 - \frac{\alpha}{2}; n - 1\right)}$ は生徒の t 統計の $1 - \frac{\alpha}{2}$ (自由度 $n - 1$) です。
変動係数	相対変動の単位なし尺度です。この尺度は、パーセントで表される平均に対する標準偏差の比率として定義されます。変動係数が意味を持つのは、変数が比率尺度で測定される場合のみです。
歪度	一方向の偏差が逆方向と比較して大きくなる傾向を表す歪度です。
尖度	裾の重さを表す尖度です。
Percentiles	
1st、5th、10th、下側四分位点(25%点)、Median、上側四分位点(75%点)、90th、95th、99th、四分位範囲	計算するパーセント点と分位点を選択します。

オプション名	説明
分位点の計算方法	<p>分位点、中央値、パーセント点の計算に使用する方法を指定します。</p> <p>順序統計量にもとづく方法 すべてのデータをメモリに読み込み、一意の値を基準にして並べ替えます。</p> <p>Piecewise-parabolic アルゴリズム 分位点を近似計算します。メモリの消費が少ない方法です。</p> <p>注: 重み変数役割に変数を割り当てた場合は、順序統計量にもとづく方法のみを使用できます。</p>
Plots	
ヒストグラム	<p>データ分布の確認に使用するグラフを作成します。正規分布の密度曲線を追加した場合、タスクでは μ および σ にサンプル平均およびサンプル標準偏差が使用されます。核分布の密度曲線を追加した場合、タスクでは AMISE 法を使用して核密度推定が計算されます。</p> <p>グラフに統計量を含めるには、インセットの統計量の追加 チェックボックスを選択します。</p>
比較箱ひげ図	<p>中央の場所の尺度(中央値)、2 つの分散尺度(範囲と四分位範囲)、歪度(中央値の向きから分位点に相対的に)、潜在的異常値を示すグラフを作成します。箱ひげ図は、特に 2 つ以上のデータセットを比較する場合に役立ちます。</p> <p>注: 比較箱ひげ図 オプションは、分類変数役割 に列が割り当てられていない場合にのみ使用できます。</p> <p>グラフにはインセットの統計量全体を追加することも、各グループのインセットの統計量のみを追加することもできます。</p>
ヒストグラムと箱ひげ図	<p>共通の X 軸を持つ単一パネルにヒストグラムと箱ひげ図と一緒に表示します。インセットの統計量全体をグラフに追加することができます。</p> <p>注: ヒストグラムと箱ひげ図 オプションは、分類変数役割 に列が割り当てられていない場合にのみ使用できます。</p>

オプション名	説明
詳細	
標準偏差と分散の除数	分散と標準偏差の計算に使用する除数を指定します。有効なオプションは次のとおりです。
自由度	$n - 1$ デフォルトでは、分散の除数は自由度です。
オブザベーションの数	n
重みの合計- 1	$(\sum_i w_i) - 1$
重みの合計	$\sum_i w_i$ 注: 重みの合計- 1 および重みの合計オプションは、重み変数役割に変数を割り当てた場合にのみ使用できます。

出力オプションの設定

統計量を出力データセットに保存するかどうかを指定できます。

分布分析タスク

分布分析タスクについて

分布分析では、数値変数の分布に関する情報を得ることができます。この分析では、ヒストグラム、確率プロット、QQ プロットなど、さまざまなプロットを使用できます。

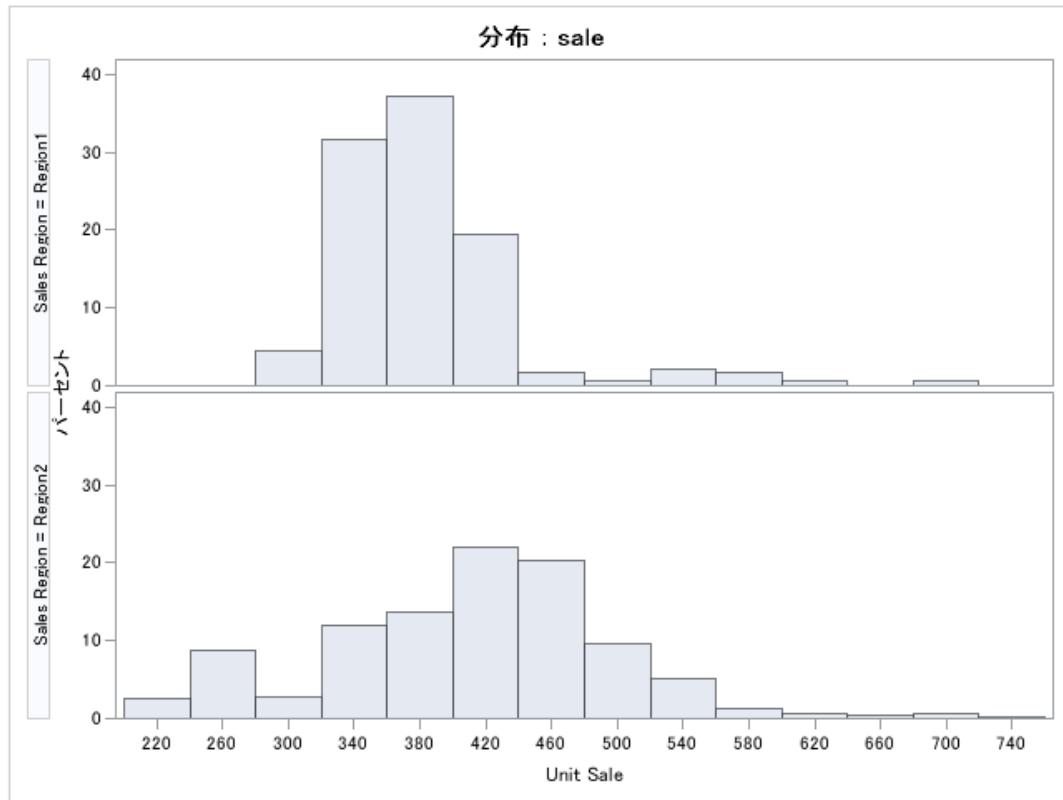
例: 各地域の売上の分布分析

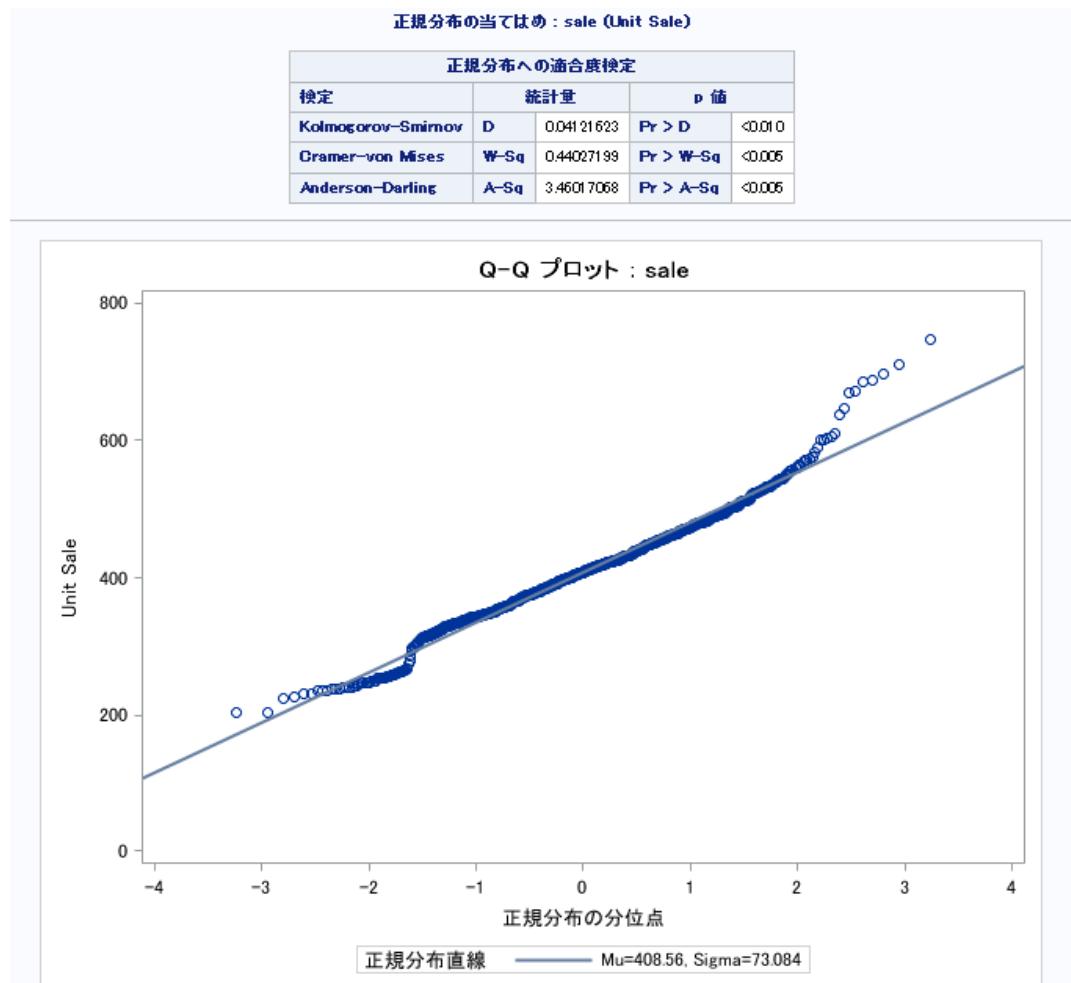
この例では、各地域の売上を分析します。データには 3 つの地域が含まれているため、結果も 3 セットになります。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、**分布** をダブルクリックします。分布分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.PRICEDATA** データセットを選択します。次に、**sale** 変数を分析変数役割に割り当てます。
- 3 オプションタブをクリックします。
 - a データの検索グループで、**regionName** 変数を分類変数役割に割り当てます。
 - b 正規性の確認グループで、ヒストグラムと適合度検定および正規 QQ プロットオプションを選択します。
- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。





役割へのデータの割り当て

分布分析タスクを実行するには、**分析変数**に列を割り当てて、**オプションタブ**でプロットまたは検定を選択する必要があります。

役割	説明
役割	
分析変数	分析変数と結果におけるそれらの変数の順序を指定します。

役割	説明
追加役割	
度数カウント	オブザベーションの度数を表す数値変数を指定します。各オブザベーションが n 件のオブザベーションを表すものとされます。 n は、変数の値です。
グループ分析	分布分析タスクでグループの形成に使用される変数を指定します。

オプションの設定

オプション名	説明
データの検索	

デフォルトでは、タスクによってデータのヒストグラムが作成されます。分類変数役割で、分析変数を分類レベルにグループ化する際に使用する変数を指定します。この役割に割り当てることができる列は最大 2 つです。

ヒストグラムに核密度推定および正規分布の密度曲線を重ね合わせるかどうかを指定することもできます。最後に、選択した統計量のインセットボックスをグラフに含めるかどうかを指定できます。

正規性の確認

注: これらのオプションのいずれかを選択した場合は、オブザベーションの数、適合度検定、平均値、中央値、標準偏差、分散、歪度、尖度のインセットの統計量を含めるかどうかも指定できます。

ヒストグラムと適合度検定	経験的分布関数に基づいて一連の適合度検定を含む正規性検定を要求します。テーブルには、Shapiro-Wilk 検定(サンプルサイズが 2,000 以下の場合)、Kolmogorov-Smirnov 検定、Anderson-Darling 検定、Cramér-von Mises 検定の検定統計量と p 値が示されます。
--------------	---

オプション名	説明
正規確率プロット	<p>順序付けられた変数値と正規分布のパーセント点を比較する確率プロットを作成します。データ分布が正規分布と一致する場合は、プロット上の点により線形パターンが形成されます。確率プロットは、グラフでのパーセント点の推定に適しています。</p> <p>プロット上の分布参照線は、パラメータの最尤推定値から作成されます。</p> <p>選択した統計量のインセットボックスをグラフに含めるかどうかを指定することもできます。</p>
正規 QQ プロット	<p>順序付けられた変数値と正規分布の分位点を比較する QQ プロットを作成します。データ分布が正規分布と一致する場合は、プロット上の点により線形パターンが形成されます。QQ プロットは、グラフでの分布パラメータの推定に適しています。</p> <p>プロット上の分布参照線は、パラメータの最尤推定値から作成されます。</p> <p>選択した統計量のインセットボックスをグラフに含めるかどうかを指定することもできます。</p>
分布の当てはめ	
	<p>注: これらの分布のいずれかにプロットオプションを選択した場合は、オブザベーションの数、平均値、中央値、標準偏差、分散のインセットの統計量を含めるかどうかも指定できます。</p>
ベータ分布	
ヒストグラムと適合度検定	しきい値パラメータ θ 、尺度パラメータ σ および形状パラメータ α と β を使用してベータ分布の当てはめを行います。
確率プロット	形状パラメータ α と β のベータ確率プロットを指定します。
QQ プロット	形状パラメータ α と β のベータ QQ プロットを指定します。
指指数分布	

オプション名	説明
ヒストグラムと適合度検定	しきい値パラメータ θ および尺度パラメータ σ を使用して指数分布の当てはめを行います。
確率プロット	指数確率プロットを指定します。
QQ プロット	指数 QQ プロットを指定します。
ガンマ分布	
ヒストグラムと適合度検定	しきい値パラメータ θ 、尺度パラメータ σ および形状パラメータ α を使用してガンマ分布の当てはめを行います。
確率プロット	形状パラメータ α のガンマ確率プロットを指定します。
QQ プロット	形状パラメータ α のガンマ QQ プロットを指定します。
対数正規分布	
ヒストグラムと適合度検定	しきい値パラメータ θ 、尺度パラメータ σ および形状パラメータ c を使用して対数正規分布の当てはめを行います。
確率プロット	形状パラメータ σ の対数正規確率プロットを指定します。
QQ プロット	形状パラメータ σ の対数正規 QQ プロットを指定します。
Weibull 分布	
ヒストグラムと適合度検定	しきい値パラメータ θ 、尺度パラメータ σ および形状パラメータ c を使用して Weibull 分布の当てはめを行います。
確率プロット	2 パラメータワイブル確率プロットを指定します。
QQ プロット	2 パラメータワイブル QQ プロットを指定します。

一元度数表タスク

一元度数表タスクについて

一元度数表タスクでは、データから度数表を生成します。このタスクを使用して二項検定およびカイ²乗検定を実行することもできます。

このタスクの用途の1つとして、新薬の効能分析が挙げられます。たとえば、医学研究者グループが皮膚状態の新しい治療法の有効性を評価したいと考えているとします。この取り組みに参加するクリニックの皮膚科医は、研究の実施方法と状態の評価方法について研修を受けます。研修後、2人の皮膚科医は、予備的研究を基に患者の皮膚状態を調べ、同じ症状の患者を評価します。2人の診断内容の一致を評価するために、一元度数表タスクを使用できます。

例:販売台数の一元度数表

この例では、各販売地域の販売台数を分析します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計量フォルダを展開し、一元度数表をダブルクリックします。一元度数表タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.PRICEDATA データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
分析変数	sale
グループ分析	regionName

- 4 タスクを実行するには、をクリックします。

結果の一部を次に示します。

Sales Region=Region1

Unit Sale				
sale	度数	パーセント	累積 度数	累積 パーセント
298	1	0.56	1	0.56
300	1	0.56	2	1.11
301	1	0.56	3	1.67
307	1	0.56	4	2.22
308	1	0.56	5	2.78
314	1	0.56	6	3.33
316	1	0.56	7	3.89
318	1	0.56	8	4.44
320	1	0.56	9	5.00
321	1	0.56	10	5.56
322	2	1.11	12	6.67
323	1	0.56	13	7.22
324	2	1.11	15	8.33
328	1	0.56	16	8.89
331	3	1.67	19	10.56
332	2	1.11	21	11.67
333	1	0.56	22	12.22
334	2	1.11	24	13.33
335	1	0.56	25	13.89
337	1	0.56	26	14.44
338	4	2.22	30	16.67
339	1	0.56	31	17.22

役割へのデータの割り当て

一元度数表タスクを実行するには、分析変数役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
分析変数	分析する変数を指定します。この役割に割り当てる変数ごとに一元度数表が作成されます。この役割には、少なくとも 1 つの変数を割り当てる必要があります。
追加役割	
度数カウント	度数カウントとして使用する変数を指定します。この役割に変数を割り当てるとき、度数表内の各オブザベーションが n 件のオブザベーションを表すものとされます。この例では、 n は該当する行の度数カウントの値です。この役割に割り当てることができる変数は 1 つのみです。
グループ分析	表の並べ替え基準とする変数を 1 つ以上指定します。グループごとに分析が行われます。

オプションの設定

オプション名	説明
Plots	デフォルトでは、プロットは結果に含まれています。度数プロットおよび累積度数プロットを作成するには、度数表を表示するチェックボックスを選択します。カイ 2 乗の適合度の偏差プロットを作成するには、漸近検定チェックボックスを選択します。
度数とパーセント	結果でプロットを非表示にするには、プロットの表示を抑制するチェックボックスを選択します。

オプション名	説明
度数表を表示する	度数表を作成するかどうかを指定します。
パーセントを含める	分析変数の各値の度数および合計度数のパーセントを含む度数表を作成します。
累積度数とパーセントを含める	分析変数の各値の度数および累積度数を含む度数表を作成します。
統計量	
二項比率に関する検定	
漸近検定を実行するかどうかを指定します。二項比率の場合、帰無仮説の比率と信頼水準を指定します。	
カイ²乗適合度検定	
漸近検定を実行するかどうかを指定します。 正確な p 値を直接計算する代わりに正確な p 値のモンテカルロ推定を計算するには、 モンテカルロ推定を使用する チェックボックスを選択します。モンテカルロ推定は、正確な値を計算するには大量の時間とメモリが必要となり、漸近近似では十分でない大規模な問題に適しています。	
Exact Computations Methods	
注: このセクションは、二項比率に関する検定またはカイ ² 乗適合度検定の統計量で 正確検定 チェックボックスを選択している場合に表示されます。	
計算時間を制限する	各クロス集計表の各 p 値の計算時間制限(秒数)を指定します。デフォルト値は 300 秒(つまり 5 分)です。
欠損値	
度数表に含める	度数表に欠損値を含めます。
パーセントと統計量に含める	二項検定やカイ ² 乗検定およびパーセント計算に欠損値の度数を含めます。

相関分析タスク

相関分析タスクについて

相関とは、数値変数間の関係を表すための統計学的手法です。関係は、変数の相関係数を計算することによって表されます。相関の範囲は-1～1です。相関分析タスクを使用すると、変数間の関連性を調べるためのグラフと統計量が表示されます。

例: **Sashelp.Cars** データセットにおける相関

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、**相関分析** をダブルクリックします。相関分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列
分析変数	EngineSize Horsepower
相関変数	Cylinders MPG_Highway

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果は次のようになります。

2 With 変数 :	Cylinders MPG_Highway
2 変数 :	EngineSize Horsepower
Pearson の相関係数 オブザベーション数	
Cylinders	EngineSize Horsepower
MPG_Highway	-0.71730 -0.64720
MPG (Highway)	428 428

役割へのデータの割り当て

相関分析タスクを実行するには、**分析変数**役割に少なくとも 2 つの列を割り当てる必要があります。または、**分析変数**役割に少なくとも 1 つの列を割り当て、**相関変数**役割に 1 つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
分析変数	相関係数を計算する変数を指定します。
相関変数	分析変数との間で相関を計算する変数を指定します。
部分変数	ここで指定する変数の相関を分析変数と相関変数から削除してから、相関を計算します。
追加役割	

役割	説明
度数カウント	オブザベーションの度数を表す数値変数を指定します。この役割に変数を割り当てると、各オブザベーションが n 件のオブザベーションを表すものとされます。 n は、度数変数の値です。 n が整数以外の場合、自動的に切り捨てられます。 n が 1 未満か、欠損している場合、そのオブザベーションは分析から除外されます。度数変数の合計は、オブザベーションの合計数を表します。
重み	Pearson の重み付き積率相関の計算に使用する重みを指定します。
グループ分析	BY 変数で定義された各グループのオブザベーションについて、それぞれ個別の分析値を取得できます。

オプションの設定

オプション名	説明
手法	
欠損値	値が欠損しているオブザベーションをどのように扱うかを指定します。すべての選択済み変数に非欠損値を使用するオプションを選択した場合、値が欠損しているオブザベーションはすべて分析から除外されます。変数ペアに非欠損値を使用するオプションを選択した場合、欠損していない変数ペアを使用して相関統計量が計算されます。
統計量	

オプション名	説明
デフォルトでは、相関と p 値を示すテーブルが結果に表示されます。次の統計量を含めることもできます。	
Correlations	このオプションを選択すると、相関が結果に追加されます。各相関係数に関連付ける確率を指定したり、相関を絶対値で降順に並べ替えたりすることもできます。
Covariances	このオプションを選択すると、分散および共分散行列が結果に追加されます。また、Pearson 相関が表示されます。列を部分変数役割に割り当てると、偏共分散行列が計算されます。
平方和と積和	このオプションを選択すると、平方和と積和のテーブルが結果に表示されます。Pearson 相関も結果に追加されます。列を部分変数役割に割り当てると、不偏平方和と積和行列が表示されます。
修正平方和と積和	このオプションを選択すると、修正平方和と積和のテーブルが表示されます。Pearson 相関も結果に追加されます。列を部分変数役割に割り当てると、不偏と偏の両方の修正平方和と積和行列が計算されます。
記述統計量	このオプションを選択すると、変数ごとに単純な記述統計量が追加されます。このオプションを選択せずに出力データセットの作成を選択した場合でも、データセットには変数の記述統計量が含まれます。
Fisher's z Transformation	Pearson 相関では、Fisher transformation オプションを使用して特定の対立(帰無)仮説、 $H_0: \rho = \rho_0$ の下で、信頼限界値および p 値を求め、Fisher の z 変換を使用した相関係数を計算できます。Fisher's z transformation チェックボックスを選択した場合は、帰無仮説ボックスに値を指定する必要があります。 次のタイプの中から信頼限界を選択できます。
■ Two-sided confidence limits	は、帰無仮説 $H_0: \rho = \rho_0$ の検定に対する両側信頼限界を求めます。これがデフォルトです。
■ Lower confidence limit	は、片側帰無仮説 $H_0: \rho \leq \rho_0$ の検定に対する下側信頼限界を求めます。
■ Upper confidence limit	は、片側帰無仮説 $H_0: \rho \geq \rho_0$ の検定に対する上側信頼限界を求めます。
デフォルトでは、相関の信頼限界の水準は 95% です。	
ノンパラメトリック相関	

オプション名	説明
Spearman' rank-order correlation	Spearman の順位相関を計算します。これは、データ値の順位に基づくノンパラメトリックな関連性指標です。相関の範囲は-1~1です。
Kendall's tau-b	Kendall の tau-b を計算します。これは、ペアのオブザベーションの一致数と不一致数に基づくノンパラメトリックな関連性指標です。一致はペアのオブザベーションが一緒に変化する場合に発生し、不一致はペアのオブザベーションが別個に変化する場合に発生します。Kendall の tau-b の範囲は-1~1です。
Hoeffding's measure of dependence	Hoeffding の従属性指標である D 統計量を計算します。これは、独立性からのより一般的な乖離を検出するノンパラメトリックな関連性指標です。この D 統計量は通常の定義の 30 倍あり、範囲は-0.5~1 となっているため、大きな正の値のみが従属性を示します。

Plots

結果に次のプロットのいずれかを含めることができます。

- 変数の散布図行列。対称行列プロットに分析変数のヒストグラムを含めることができます。
 - 分析変数とは異なる適用可能な各変数ペアの散布図。新しいオブザベーションの予測楕円を表示するか、平均の信頼楕円を表示するかを指定できます。
- また、プロットする変数の数とプロットする最大点数を指定することもできます。

出力オプションの設定

Pearson 相関統計量を含む出力データセットを作成するかどうかを指定できます。このデータセットには、平均、標準偏差およびオブザベーション数も含まれています。

次の統計量を出力データセットに含めることができます。

- **Correlations:** デフォルトでは、出力データセットに、対応する_TYPE_変数値'CORR'を持つ相關係数が追加されます。

- **Covariances**: このオプションを選択すると、出力データセットに、対応する_TYPE_変数値 'COV'を持つ共分散行列が追加されます。
- **平方和と積和**: 列を部分変数役割に割り当てると、出力データセットに、平方和と積和行列は追加されません。
- **修正平方和と積和**: 列を部分変数役割に割り当てると、出力データセットに、偏修正平方和と積和行列が追加されます。

分割表分析タスク

分割表分析タスクについて

分割表分析タスクでは、1元からN元の度数表および分割表(クロス集計表)を作成します。また、このタスクでは行と列間の関連性についての統計量も生成されます。

例: DriveTrain 別の車種の分布

この例を作成するには、次の操作を実行します。

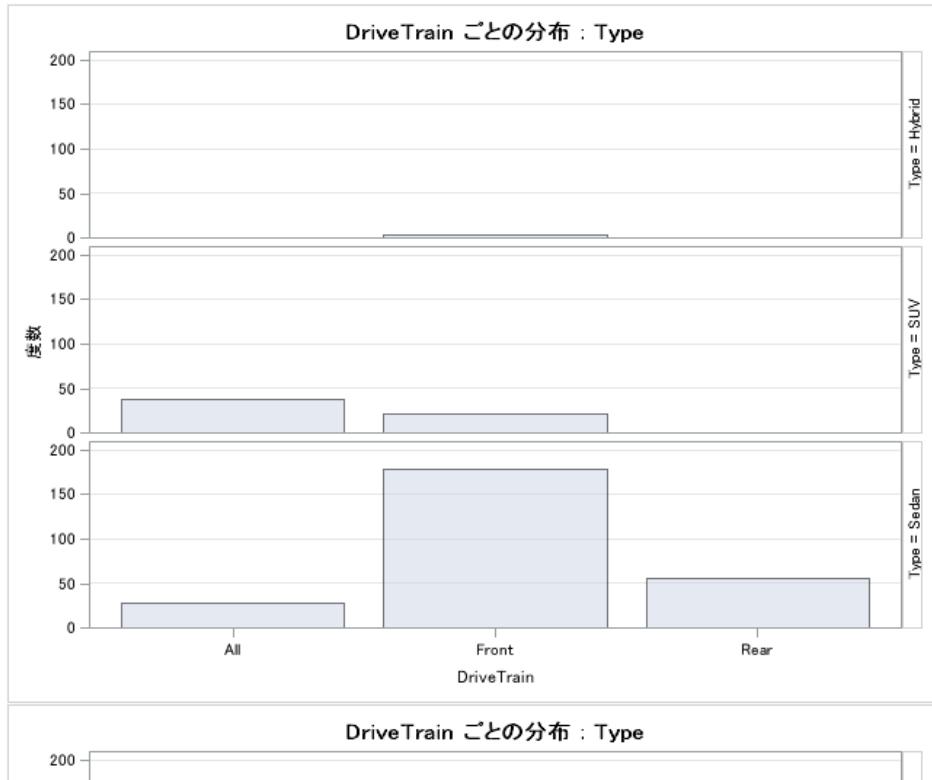
- 1 タスクセクションで、**統計量**フォルダを展開し、**分割表分析**をダブルクリックします。分割表分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CARS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列
行変数	Type
列変数	DriveTrain

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の実例を次に示します。

度数		表 : Type * DriveTrain			
Type		DriveTrain			合計
		All	Front	Rear	
Hybrid	0	3	0	3	3
SUV	38	22	0	60	
Sedan	28	179	55	262	
Sports	5	8	36	49	
Truck	12	0	12	24	
Wagon	9	14	7	30	
合計	92	226	110	428	



役割へのデータの割り当て

分割表分析タスクを実行するには、最初に行変数または列変数役割に少なくとも 1 つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
行変数	一元分割表分析の行を指定します。複数の変数をこの役割に割り当ると、複数の一元分割表分析が実行されます。
列変数	一元分割表分析の列を指定します。列変数のみ割り当てる場合、複数の一元分割表分析が実行されます。

役割	説明
層の変数	N 元の度数表およびクロス集計表の分割表を作成します。 注: 層の変数を使用するには、行変数または列変数の両方の役割に列を割り当てる必要があります。
追加役割	
度数カウント	テーブルの各行が n 件のオブザベーションを表すように指定します。この例では、 n は該当するオブザベーションの度数カウントの値です。

オプションの設定

オプション名	説明
Plots	デフォルトでは、プロットは結果に含まれています。これらのプロットを非表示にするには、プロットの表示を抑制するチェックボックスを選択します。
度数表	
度数	
観測	各セルの度数カウントを表示します。
期待	各セルの期待セル度数を表示します。
偏差	各セルのセル度数の期待値からの偏差を表示します。
パーセント	
セル	クロス集計表に全体のパーセントを表示します。
行	クロス集計表のセルに行のパーセントを表示します。

オプション名	説明
列	クロス集計表のセルに列のパーセントを表示します。
累積	
列のパーセント	各セルに列の累積パーセントを表示します。
度数とパーセント	1元度数表に累積度数および累積パーセントを表示します。
カイ2乗統計量に対するセルの寄与率	クロス集計表に Pearson のカイ2乗統計量に対する各セルの寄与率を表示します。
統計量	
カイ2乗統計量	カイ2乗統計量に基づく同質性/独立性および関連性指標のカイ2乗検定を要求します。検定には、Pearson のカイ2乗、尤度比のカイ2乗、Mantel-Haenszel のカイ2乗があります。2×2表の場合、Fisher の正確検定や継続的に調整されるカイ2乗検定も含まれます。
関連性の指標	いくつかの関連性指標とその漸近標準誤差(ASE)を計算します。指標には、ガンマ、Kendall の tau-b、Stuart の tau-c、Somers の D (C R)、Somers の D (R C)、Pearson と Spearman の相関係数、lambda(対称と非対称)、不確実性係数(対称と非対称)があります。
Cochran-Mantel-Haenszel 統計量	多元表の残りの変数の調整後、行変数と列変数間の関連性を検定する Cochran-Mantel-Haenszel 統計量を要求します。これらの統計量には、CMH 相関統計量、行平均スコア(ANOVA)、補正相対リスクと補正オッズ比があります。

オプション名	説明
一致の統計量 ($n \times n$ 表)	$n \times n$ 表に対する分類一致の検定および指標を計算します。このオプションを使用すると、 2×2 表に対する McNemar 検定を実行したり、応答カテゴリが 2 つ以上ある表の対称性に対する Bowker 検定を実行したりすることができます。また、単純なカッパ係数、重み付きカッパ係数、単純なカッパと重み付きカッパに対する漸近標準誤差、対応する信頼限界を作成します。複数の層と 2 つの応答カテゴリが存在する場合、Cochran の Q 検定も計算します。
オッズ比と相対リスク(2×2 表)	2×2 表の場合に、相対リスクの指標とその漸近 Walk 信頼限界を要求します。
二項比率とリスクの差(2×2 表)	2×2 表の場合に、リスク(二項比率)とリスク差を要求します。
正確検定	
Fisher の正確検定	2×2 より大きい表の場合に、Fisher の正確検定を要求します。
手法	
欠損値の処理	<p>欠損値の処理方法を指定します。</p> <p>欠損値を除く オブザベーションのいずれかの変数に欠損値がある場合は、表からそのオブザベーションを除外するように指定します。</p> <p>欠損値の度数を表示する 度数表およびクロス集計表に欠損値の度数を表示します。このような度数は、パーセント、検定または指標の計算では除外されます。</p> <p>欠損値を計算に含める すべての変数で欠損値を有効な値として処理します。</p>

t 検定タスク: 1 標本 t 検定

1 標本 t 検定タスクについて

1 標本 t 検定では、サンプルの平均と帰無仮説の平均を比較します。

サンプルサイズを n とした個々の平均と値 m を比較するには、 $t = \frac{\bar{x} - m}{\frac{s}{\sqrt{n}}}$ を使用します。ここ

で、 \bar{x} はオブザベーションのサンプル平均、 s^2 はオブザベーションのサンプル分散です。

たとえば、SASHELP.CARS データセットの馬力値に対して 1 標本 t 検定を実行できます。帰無仮説は 300 です。

1 標本 t 検定を実行するには、t 検定タスクを開きます。T 検定ドロップダウンリストから、One-sample test を選択します。

例: 馬力の 1 標本 t 検定

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計量フォルダを展開し、T 検定をダブルクリックします。t 検定タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.CARS データセットを選択します。
- 3 T 検定ドロップダウンリストから、One-sample test を選択します。
- 4 分析変数役割に Horsepower 列を割り当てます。
- 5 オプションタブで、対立仮説フィールドに 300 と入力します。
- 6 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

変数 : Horsepower

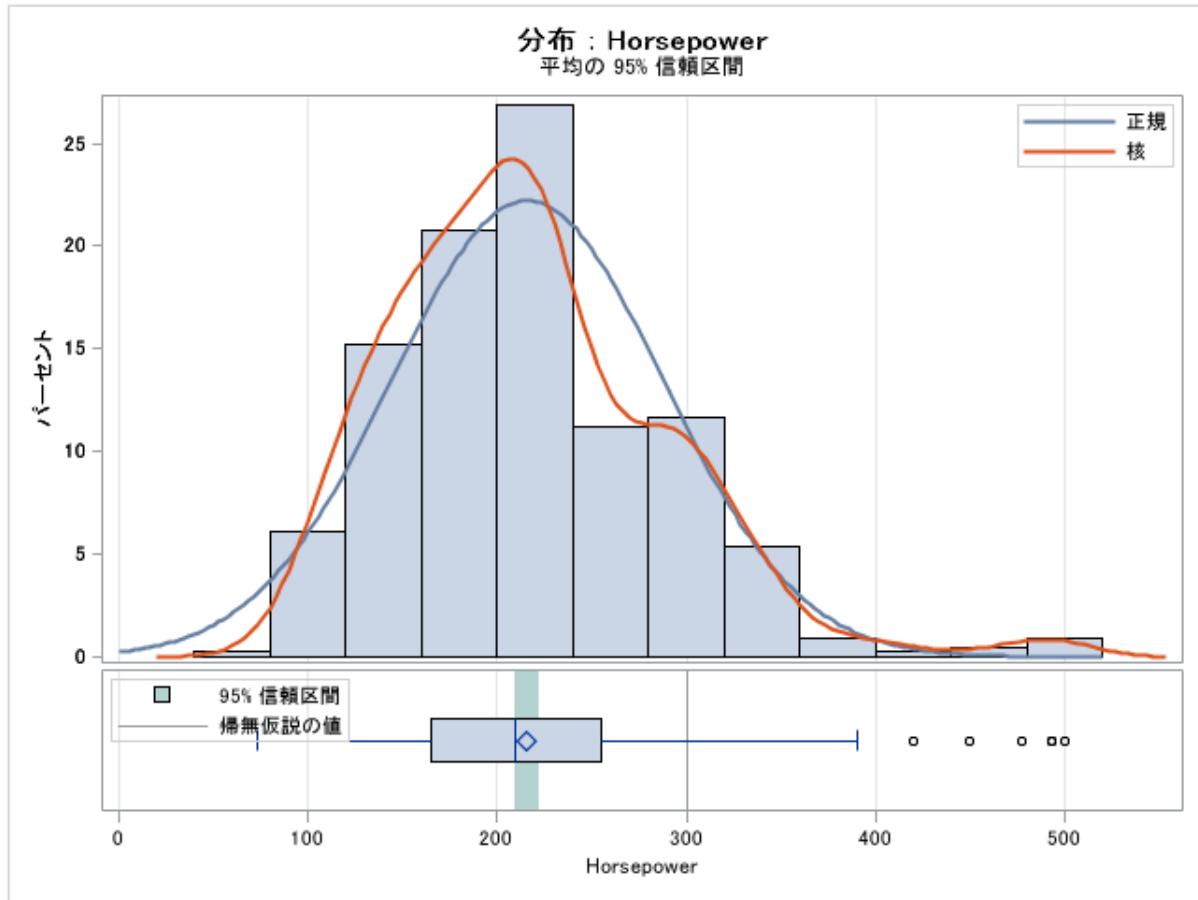
正規性の検定				
検定	統計量		p 値	
Shapiro-Wilk	W	0.949922	Pr < W	<0.0001
Kolmogorov-Smirnov	D	0.090616	Pr > D	<0.0100
Cramer-von Mises	W-Sq	0.589806	Pr > W-Sq	<0.0060
Anderson-Darling	A-Sq	3.685805	Pr > A-Sq	<0.0060

変数 : Horsepower

N	平均	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
428	215.9	71.8360	3.4723	73.0000	5000

平均	平均の 95% 信頼限界	標準偏差	標準偏差の 95% 信頼限界
215.9	209.1	222.7	71.8360

自由度	t 値	Pr > t
427	-24.22	<.0001



役割へのデータの割り当て

1 標本 t 検定を実行するには、T 検定ドロップダウンリストから **One-sample test** を選択します。分析変数役割に数値列を割り当てます。

オプションの設定

オプション名	説明
検定	

オプション名	説明
裾	<p>統計量検定の側(裾)数と方向および検定に基づく信頼区間を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 両側検定では、両側検定と、平均の信頼区間を指定します。 ■ 右側検定では、平均が帰無値より大きいという対立仮説の下で行われる右側検定を指定し、上側信頼区間の範囲として下側信頼限界から無限大までを指定します。 ■ 左側検定では、平均が帰無値より小さいという対立仮説の下で行われる左側検定を指定し、下側信頼区間の範囲として負の無限大から上側信頼限界までを指定します。
対立仮説	帰無仮説の値を指定します。デフォルトでは、帰無仮説の値は 0 です。
正規性の仮説	
正規性の検定	経験的分布関数に基づいて一連の適合度検定を含む正規性検定を実行します。テーブルには、Shapiro-Wilk 検定(サンプルサイズが 2000 以下の場合)、Kolmogorov-Smirnov 検定、Anderson-Darling 検定、Cramér-von Mises 検定の検定統計量と p 値が示されます。
ノンパラメトリック検定	
注:	このオプションは、両側検定にのみ使用できます。

オプション名	説明
符号検定と Wilcoxon 符号付き順位検定	<p>次の検定により結果を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 符号検定統計量は $M = (n^+ - n^-)/2$ です。ここで、n^+ は μ_0 を超える値の数、n^- は μ_0 より小さい値の数です。μ_0 と等しい値は破棄されます。 ■ Wilcoxon 符号付き順位統計量 S は $S = \sum_{i: x_i - \mu_0 > 0} r_i^+ - \frac{n_t(n_t + 1)}{4}$ として計算されます。ここで、r_i^+ は $x_i - \mu_0$ の値を破棄した後の $x_i - \mu_0$ の順位、n_t は μ_0 と等しくない x_i 値の数を表します。同位値には平均順位が使用されます。
Plots	
ヒストグラムと箱ひげ図	共通の X 軸を持つ単一パネルにヒストグラムと箱ひげ図と一緒に作成します。
正規性プロット	正規 QQ プロットを作成します。
信頼区間プロット	平均の信頼区間のプロットを作成します。

t 検定タスク:対応のある t 検定

対応のある t 検定タスクについて

対応のある t 検定では、オブザベーションにおける差の平均を特定の数値(帰無仮説の差)と比較します。対応のある t 検定は、同一人物から 2 回測定した血圧値など、2 つのサンプルが相關している場合に使用します。

対応のある差 n と値 m を比較するには、 $t = \frac{\bar{d} - m}{\frac{s_d}{\sqrt{n}}}$ を使用します。ここで、 \bar{d} は対応のある差のサンプル平均、 s_d^2 は対応のある差のサンプル分散です。

対応のある t 検定を実行するには、t 検定タスクを開きます。T 検定ドロップダウンリストから、**Paired test** を選択します。

例:価格とコストの比較分布の確認

この例では、SASHELP.PRICEDATA データセットの価格とコストの差の平均を比較します。この検定の帰無仮説は 30 です。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計量フォルダを展開し、T 検定をダブルクリックします。t 検定タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.PRICEDATA データセットを選択します。
- 3 T 検定ドロップダウンリストから、Paired test を選択します。
- 4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
グループ 1 変数	price
グループ 2 変数	cost

- 5 オプションタブで、対立仮説フィールドに 30 と入力します。
- 6 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

変数 : _Difference_ (Difference: price - cost)

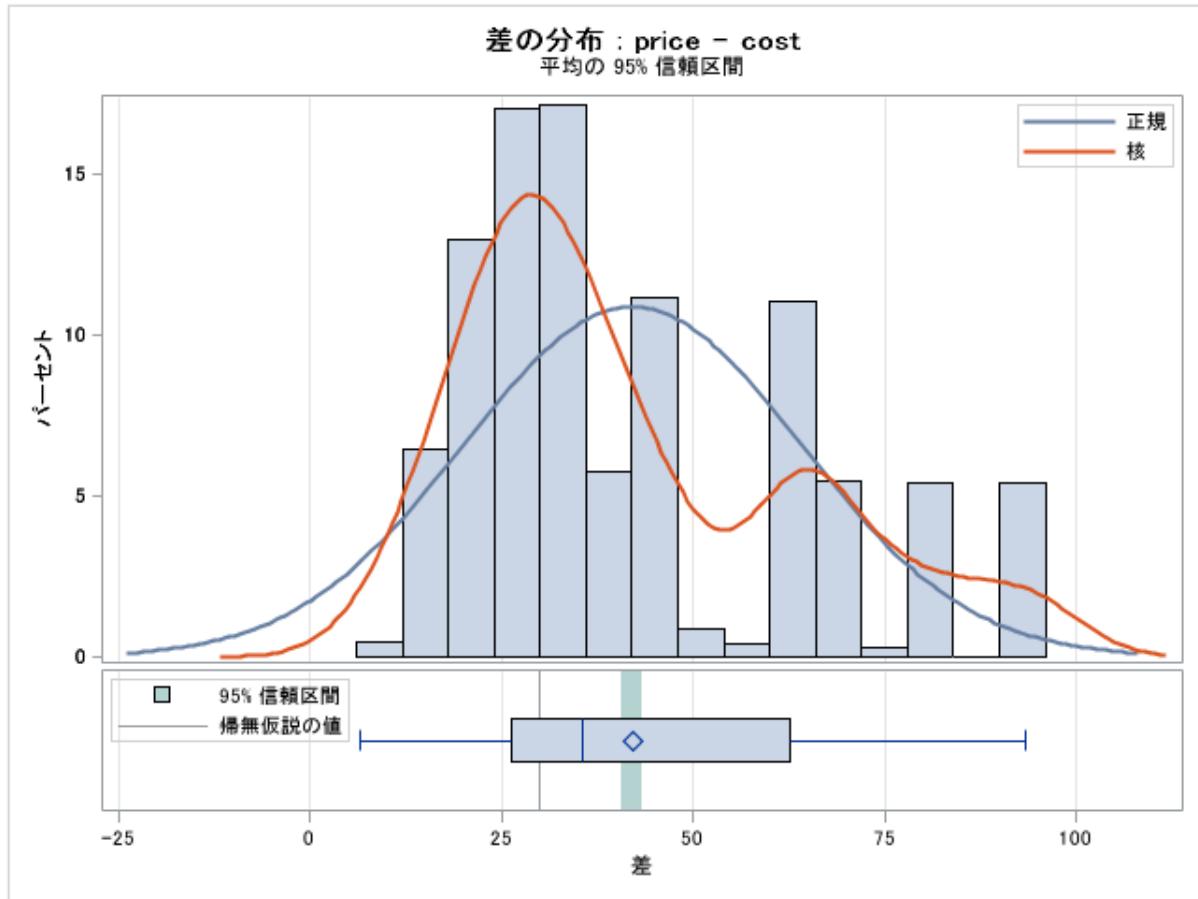
正規性の検定				
検定	統計量		p 値	
Shapiro-Wilk	W	0.896986	Pr < W	<0.0001
Kolmogorov-Smirnov	D	0.1888	Pr > D	<0.0100
Cramer-von Mises	W-Sq	7.159388	Pr > W-Sq	<0.0050
Anderson-Darling	A-Sq	39.28743	Pr > A-Sq	<0.0050

差 : price - cost

N	平均	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値
1020	42.0448	21.9813	0.6883	6.5700	93.4000

平均	平均の 95% 信頼限界		標準偏差	標準偏差の 95% 信頼限界	
42.0448	40.6942	43.3954	21.9813	21.0671	22.9791

自由度	t 値	Pr > t
1019	17.50	<.0001



役割へのデータの割り当て

対応のある t 検定を実行するには、T 検定ドロップダウンリストから **Paired test** を選択します。グループ 1 変数およびグループ 2 変数役割に列を割り当てます。タスクではこれらの 2 つの変数を比較します。対応のある t 検定の方法は、グループ 1 変数の各値からグループ 2 変数の対応する値を引くことであるため、変数の指定が重要です。

オプションの設定

オプション名	説明
検定	

オプション名	説明
裾	<p>統計量検定の側(裾)数と方向および検定に基づく信頼区間を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 両側検定では、両側検定と、平均の信頼区間を指定します。 ■ 右側検定では、平均が帰無値より大きいという対立仮説の下で行われる右側検定を指定します。上側信頼区間の範囲は、下側信頼限界から無限大までです。 ■ 左側検定では、平均が帰無値より小さいという対立仮説の下で行われる左側検定を指定します。下側信頼区間の範囲は負の無限大～上側信頼限界です。
対立仮説	帰無仮説の値を指定します。
正規性の仮説	
正規性の検定	<p>経験的分布関数に基づいて一連の適合度検定を含む正規性検定を実行します。テーブルには、Shapiro-Wilk 検定(サンプルサイズが 2000 以下の場合)、Kolmogorov-Smirnov 検定、Anderson-Darling 検定、Cramér-von Mises 検定の検定統計量と p 値が示されます。</p>
ノンパラメトリック検定	
注: このオプションは、両側検定にのみ使用できます。	

オプション名	説明
符号検定と Wilcoxon 符号付き順位検定	<p>次の検定により結果を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 符号検定統計量は $M = (n^+ - n^-)/2$ です。ここで、n^+ は μ_0 を超える値の数、n^- は μ_0 より小さい値の数です。μ_0 と等しい値は破棄されます。 ■ Wilcoxon 符号付き順位統計量 S は $S = \sum_{i: x_i - \mu_0 > 0} r_i^+ - \frac{n_t(n_t + 1)}{4}$ として計算されます。ここで、r_i^+ は $x_i - \mu_0$ の値を破棄した後の $x_i - \mu_0$ の順位、n_t は μ_0 と等しくない x_i 値の数を表します。同位値には平均順位が使用されます。
Plots	
ヒストグラムと箱ひげ図	共通の X 軸を持つ単一パネルにヒストグラムと箱ひげ図と一緒に作成します。
正規性プロット	正規 QQ プロットを作成します。
一致プロット	各ペアで第 1 応答に対して第 2 応答をプロットします。平均は、大きな太字の記号として表示されます。傾き=0 および y 切片=1 の斜線が重ねて表示されます。斜線に対する点の場所は、差(比率)の強さと方向を示しています。線と同方向に沿ってクラスタリングが密になるほど、各被験者の 2 つの測定値の正相関が強くなります。線と垂直方向のクラスタリングは、負相関を示しています。
応答プロファイルプロット	各オブザベーションについて第 1 応答と第 2 応答を結ぶ線を左から右に向かって描画するプロットを作成します。平均第 1 応答と平均第 2 応答は太線で結ばれます。傾きが大きくなるほど、効果も強力になります。プロファイルが広範にわたる場合、被験者間変動が大きいことを示しています。正の傾きが安定している場合、正相関が強いことを示しています。傾きが幅広く変化する場合、相関が欠落していることを示しています。負の傾きが安定している場合、負相関が強いことを示しています。

オプション名	説明
信頼区間プロット	平均の信頼区間のプロットを作成します。

t 検定タスク: 2 標本 t 検定

2 標本 t 検定タスクについて

2 標本 t 検定では、1 つ目のサンプルの平均から 2 つ目のサンプルの平均を引いたものを特定の数値(帰無仮説の差)と比較します。

n_1 と n_2 のオブザベーションが含まれている 2 つの独立サンプルの平均を値 m と比較するには、 $t = \frac{(\bar{x}_1 - \bar{x}_2) - m}{s\sqrt{\frac{1}{n_1} + \frac{1}{n_2}}}$ を使用します。この例では、 s^2 は合併分散、 $s^2 = \frac{(n_1 - 1)s_1^2 + (n_2 - 1)s_2^2}{n_1 + n_2 - 2}$ 、 $s_{1,2}^2$ と $s_{1,2}^2$ は 2 つのグループのサンプル分散です。この t 統計量の使用は、 $\sigma_1^2 = \sigma_2^2$ であるという仮定に左右されます。ここで、 σ_1^2 と σ_2^2 は 2 つのグループの母分散です。

2 標本 t 検定を実行するには、t 検定タスクを開きます。T 検定ドロップダウンリストから、**Two-sample test** を選択します。

例: 2 標本 t 検定

この例では、クラスに参加している男性と女性の身長の値を分析します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、統計量フォルダを展開し、T 検定をダブルクリックします。t 検定タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- データタブで、SASHELP.CLASS データセットを選択します。
- T 検定ドロップダウンリストから、Two-sample test を選択します。

4 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
分析変数	Height
グループ変数	Sex

5 タスクを実行するには、 をクリックします。

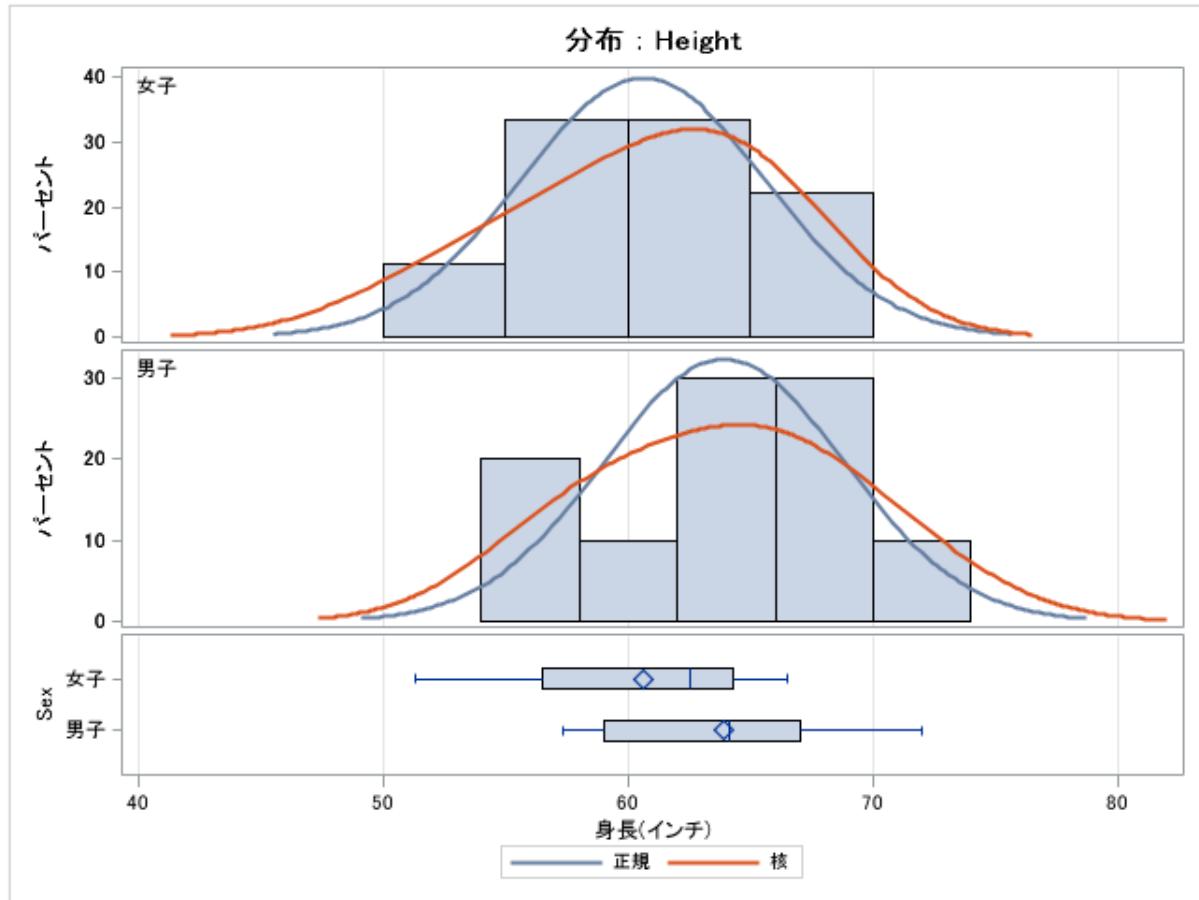
結果の一部を次に示します。

変数 : Height (身長(インチ))
Sex = 女子

正規性の検定				
検定	統計量		p 値	
Shapiro-Wilk	W	0.931231	Pr < W	0.4932
Kolmogorov-Smirnov	D	0.203889	Pr > D	>0.1500
Cramer-von Mises	W-Sq	0.049919	Pr > W-Sq	>0.2500
Anderson-Darling	A-Sq	0.308707	Pr > A-Sq	>0.2500

変数 : Height (身長(インチ))
Sex = 男子

正規性の検定				
検定	統計量		p 値	
Shapiro-Wilk	W	0.954758	Pr < W	0.7249
Kolmogorov-Smirnov	D	0.139972	Pr > D	>0.1500
Cramer-von Mises	W-Sq	0.025769	Pr > W-Sq	>0.2500
Anderson-Darling	A-Sq	0.202753	Pr > A-Sq	>0.2500



役割へのデータの割り当て

2 標本 t 検定を実行するには、T 検定ドロップダウンリストから **Two-sample test** を選択します。次の各役割に列を割り当てます。

役割	説明
分析変数	分析で使用する列を指定します。
グループ変数	グループ化に使用する列を指定します。この列のレベルは 2 つのみにしてください。

オプションの設定

オプション名	説明
検定	
裾	統計量検定の側(裾)数と方向および検定に基づく信頼区間を指定します。次のオプションのいずれかを選択できます。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 両側検定では、両側検定と、平均の信頼区間を指定します。 ■ 右側検定では、平均が帰無値より大きいという対立仮説の下で行われる右側検定を指定し、上側信頼区間の範囲として下側信頼限界から無限大までを指定します。 ■ 左側検定では、平均が帰無値より小さいという対立仮説の下で行われる左側検定を指定し、下側信頼区間の範囲として負の無限大から上側信頼限界までを指定します。
対立仮説	帰無仮説の値を指定します。
不等分散に対する Cox and Cochran 確率近似	Cochran-Cox 近似を計算します。この方法で t_u の p 値を近似した場合、 $t_u = \frac{\left(\frac{s_1^2}{\sum_{i=1}^{n_1^*} f_{1i} w_{1i}} \right)^{t_1} + \left(\frac{s_2^2}{\sum_{i=1}^{n_2^*} f_{2i} w_{2i}} \right)^{t_2}}{\left(\frac{s_1^2}{\sum_{i=1}^{n_1^*} f_{1i} w_{1i}} \right)^{t_1} + \left(\frac{s_2^2}{\sum_{i=1}^{n_2^*} f_{2i} w_{2i}} \right)^{t_2}}$ となるような p 値 が得られます。この例では、 t_1 および t_2 は、 p の有意水準に対応する t 分布の臨界値であり、サンプルサイズはそれぞれ n_1 および n_2 になります。 $n_1 \neq n_2$ の場合自由度は定義されません (Cochran-Cox 1950)。

オプション名	説明
正規性の仮説	
正規性の検定	経験的分布関数に基づいて一連の適合度検定を含む正規性検定を実行します。テーブルには、Shapiro-Wilk 検定(サンプルサイズが 2000 以下の場合)、Kolmogorov-Smirnov 検定、Anderson-Darling 検定、Cramér-von Mises 検定の検定統計量と p 値が示されます。
ノンパラメトリック検定 注: このオプションは、対立仮説が 0 に等しい場合は、両側検定にのみ使用できます。	
Wilcoxon 順位和検定	Wilcoxon スコアの分析を生成します。分類レベル(サンプル)が 2 つの場合、このオプションにより Wilcoxon 順位和検定が作成されます。
Plots	
ヒストグラムと箱ひげ図	共通の X 軸を持つ単一パネルにヒストグラムと箱ひげ図と一緒に作成します。
正規性プロット	正規 QQ プロットを作成します。
信頼区間プロット	平均の信頼区間のプロットを作成します。このプロットはデフォルトでは作成されません。
Wilcoxon 箱ひげ図	Wilcoxon スコアの箱ひげ図を作成します。このプロットは Wilcoxon 分析に関連付けられます。このプロットはデフォルトでは作成されません。
注: このプロットは、対立仮説が 0 に等しい場合は、両側検定にのみ使用できます。	

一元配置分散分析タスク

一元配置分散分析タスクについて

一元配置分散分析(ANOVA)タスクでは、単一の連続従属変数に対する、単一のカテゴリ変数の平均値間の差異を検定し、グラフを作成します。

一元配置分散分析タスクを使用すると、次のような作業を行うことができます。

- ムラサキツメクサの窒素含有量に対する細菌の効果の研究。因子は細菌の菌株、その水準の数は 6 です。
- 3 つの異なるブランドのバッテリの寿命の比較。因子はブランド、その水準の数は 3 です。

例: MPG_Highway の平均の差の車種別検定

この例では、6 つの車種について、1 ガロン当たりの高速道路走行距離の平均の差を調べます。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計量フォルダを開き、一元配置分散分析をダブルクリックします。
一元配置分散分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHELP.CARS データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	MPG_Highway
カテゴリ変数	Type

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

分類変数の水準の情報		
分類	水準	値
Type	6	Hybrid SUV Sedan Sports Truck Wagon

読み込んだオブザベーション数	428
使用されたオブザベーション数	428

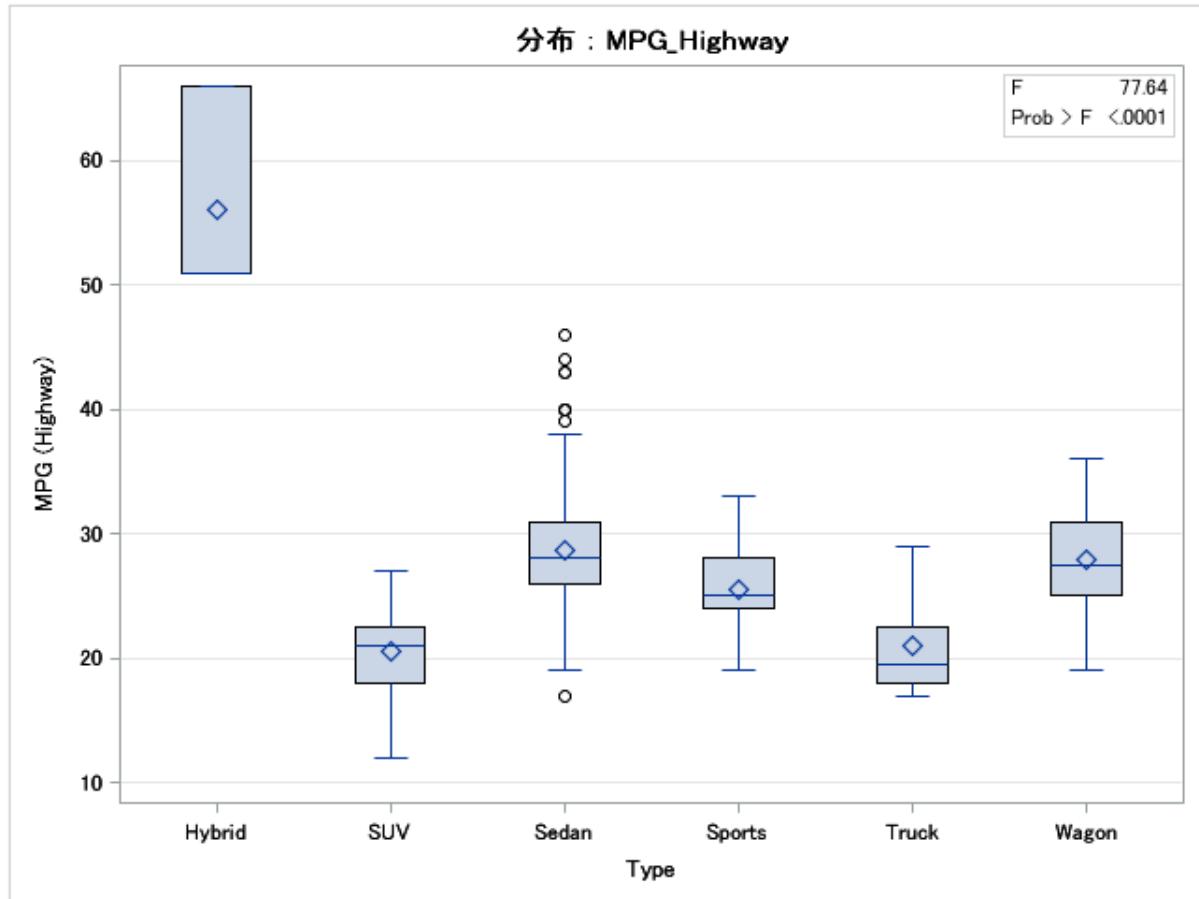
従属変数 : MPG_Highway MPG (Highway)

要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Model	5	6743.47900	1348.69580	77.64	<.0001
Error	422	7331.03268	17.37212		
Corrected Total	427	14074.51168			

R2 乗	変動係数	Root MSE	MPG_Highway の平均
0.479127	15.52701	4.167987	26.84346

要因	自由度	Type I 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Type	5	6743.478998	1348.695800	77.64	<.0001

要因	自由度	Type III 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Type	5	6743.478998	1348.695800	77.64	<.0001



役割へのデータの割り当て

一元配置分散分析タスクを実行するには、次の役割に列を割り当てる必要があります。

役割名	説明
従属変数	連続数値列を指定します。
カテゴリ変数	グループのレベルを示す値が含まれている文字列または数値列を指定します。この役割に割り当てる列には、2つ以上の異なる値が含まれている必要があります。

オプションの設定

オプション名	説明
正規性の仮説	
正規性の検定	経験的分布関数に基づいて一連の適合度検定を含む正規性検定を実行します。テーブルには、Shapiro-Wilk 検定(サンプルサイズが 2,000 以下の場合)、Kolmogorov-Smirnov 検定、Anderson-Darling 検定、Cramér-von Mises 検定の検定統計量と p 値が示されます。
分散の等分散性	
検定	実行する検定の種類を指定します。有効な値は次のとおりです。
None	検定を実行しないことを指定します。
Bartlett	データが正規分布である場合に、Type I の誤差率を正確に計算します。
検定(続き)	
Brown & Forsythe	Levene の検定の一種です。等分散を調べる際は、グループの中央値からの絶対偏差に基づいて行います。この検定は分散の差異を調べるのに適していますが、データに大きなグループが複数含まれている場合はリソースの消費量が大きくなります。
Levene	2 乗残差を計算して等分散を調べます。Levene の検定は分散の等分散性の標準検定と考えられています。これがデフォルトです。
O'Brien	O'Brien の検定(2 乗残差を使用する Levene の検定を変更したもの)を指定します。

オプション名	説明
Welch's variance-weighted ANOVA	重み付き分散を使用してグループの平均を検定します。等分散の仮定が満たされない場合にこの検定を使用できます。
比較	
次の比較手法から選択できます。	
Bonferroni	
主効果のすべての平均値に対して平均値間の差を求める Bonferroni の t 検定を実行します。	
Duncan の多重比較	
主効果のすべての平均値に対して Duncan の多重比較検定を実行します。	
Dunnett 両側	
Dunnett の両側 t 検定を実行して、主効果のすべての平均値について、単一の対照群と比較して、任意の処理群に有意差がないかどうかを調べます。	
Dunnett 左側	
Dunnett の片側 t 検定を実行して、対照群に対して、任意の処理群が有意に小さいかを調べます。	
Dunnett 右側	
Dunnett の片側 t 検定を実行して、対照群に対して、任意の処理群が有意に大きいかを調べます。	
Gabriel	
主効果のすべての平均値に対して、Gabriel の多重比較プロジェクションを実行します。	
Nelson	
最小二乗平均を使用してすべての差異を分析します。	

オプション名	説明
Ryan-Einot-Gabriel-Welsch	主効果のすべての平均値に対して、Ryan-Einot-Gabriel-Welsch の多重比較検定を実行します。
Scheffé	主効果のすべての平均値に対して、Scheffé の多重比較プロシージャを実行します。
Sidak	主効果のすべての平均値に対して、Sidak の不等式により調整した水準を使用して平均値間の差異を調べる、対応のある <i>t</i> 検定を実行します。
Student-Newman-Keuls	主効果のすべての平均値に対して、Student-Newman-Keuls の多重比較検定を実行します。
Least significant difference (LSD)	主効果のすべての平均値に対して、対応のある <i>t</i> 検定を実行します。セルのサイズが等しい場合、この検定は、Fisher の最小有意差検定と同等になります。
Tukey	主効果のすべての平均値に対して、Tukey のスチュードント化範囲検定(HSD)を実行します。グループサイズが異なる場合、これは Tukey-Kramer 検定になります。 選択した検定の有意水準を指定することもできます。

Plots

デフォルトでは、結果に箱ひげ図、平均値プロットおよび最小二乗平均差のプロットが含まれます。パネルに表したり個々のプロットとして表示できる診断プロットを含めることもできます。
また、これらのプロットに含める最大点数を指定することもできます。

出力オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。出力データセットに含める値を指定することもできます。予測値、残差、標準誤差、影響統計量を含めることができます。

ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスク

ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスクについて

ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスクは、一元分類で位置と尺度の差を調べるいくつかのノンパラメトリック検定で構成されます。また、このタスクでは、経験的分布関数に基づいて未加工データと統計量に対する標準一元配置を実行することもできます。

例: 生産地域別に分類した MPG_Highway の Wilcoxon スコア

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、ノンパラメトリックな一元配置分散分析をダブルクリックします。ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、SASHHELP.CARS データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

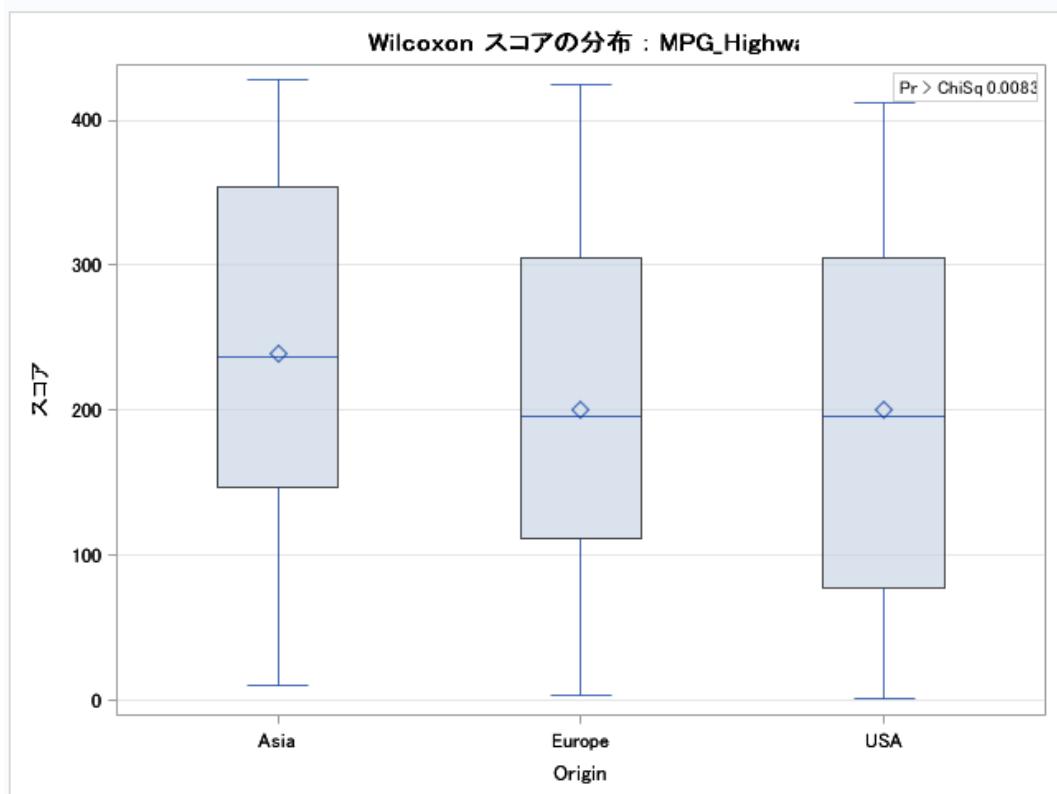
役割	列名
従属変数	MPG_Highway
分類変数	Origin

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

変数 MPG_Highway に対する Wilcoxon スコア (順位和)					
分類変数 : Origin					
Origin	N	スコアの合計	H0 のもとでの期待値	H0 のもとでの標準偏差	平均スコア
Asia	158	37704.0	33891.00	1231.66801	238.632911
Europe	123	24687.0	26383.50	1155.00891	200.707317
USA	147	29415.0	31531.50	1211.97891	200.102041

同順位には平均スコアを使用しました。

Kruskal-Wallis 検定	
カイ 2 乗	9.5956
自由度	2
Pr > Chi-Square	0.0083



役割へのデータの割り当て

ノンパラメトリックな一元配置分散分析タスクを実行するには、**従属変数**および**分類変数**役割に列を割り当てる必要があります。

役割名	説明
役割	
従属変数	従属変数として使用する列を指定します。
分類変数	サブグループを定義します。サブグループごとに別々に分析が行われます。欠損値を有効なレベルとして扱うかどうかを指定できます。
追加役割	
度数カウント	テーブルの各行が n 件のオブザーベーションを表すように指定します。この例では、 n は該当するオブザーベーションの度数カウントの値です。
グループ分析	これらの列を基準にテーブルを並べ替えます。グループごとに分析が行われます。

オプションの設定

オプション名	説明
Plots	

オプション名	説明
デフォルトでは、プロットは結果に含まれています。表示されるプロットは、選択するオプションによって決まります。作成可能ないくつかのプロットを次に示します。	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 位置の差セクションのオプションを選択すると、Wilcoxon スコアの箱ひげ図、全体の中央値を上回るまたは下回る度数を示す積み上げ棒グラフ、Van der Waerden スコアの箱ひげ図、Savage スコアの箱ひげ図を作成できます。 ■ 尺度の差セクションのオプションを選択すると、Ansari-Bradley スコアの箱ひげ図、Klotz スコアの箱ひげ図、Mood スコアの箱ひげ図、Siegel-Tukey スコアの箱ひげ図を作成できます。 ■ 位置と尺度の差セクションのオプションを選択すると、Conover スコアの箱ひげ図を作成できます。 ■ Kolmogorov-Smirnov 検定と Cramer-von Mises 検定を含む経験分布関数検定オプションを選択すると、経験的分布検定のプロットを作成できます。 	
プロットに p 値を表示するかどうかを指定できます。	
結果でプロットを非表示にするには、プロットの表示を抑制するチェックボックスを選択します。	
検定	
検定 各種分析で漸近検定のみを計算するか、漸近検定と正確検定の両方を計算するかを指定します。	
位置の差	
Wilcoxon スコア	オブザベーションの順位です。
中央値スコア	オブザベーションが中央値より大きい場合は 1、それ以外の場合は 0 です。
Van der Waerden スコア	標準正規分布の分位点です。これらのスコアは分位点正規スコアとも呼ばれます。
Savage スコア	指数分布からの順序統計量の予測値です。スコアの中心を 0 にするために 1 を引きます。
尺度の差	
Ansari-Bradley スコア	Siegel-Tukey スコアと似ていますが、同じスコアを対応する極値順位に割り当てます。
Klotz スコア	Van der Waerden (分位点正規)スコアの 2 乗です。
Mood スコア	各順位と平均順位の差の 2 乗です。

オプション名	説明
Siegel-Tukey スコア	スコアは $a(1) = 1, a(n) = 2, a(n - 1) = 3, a(2) = 4, a(3) = 5, a(n - 2) = 6, \dots$ として計算されます。 スコア値は、すべてのオブザベーションにスコアが割り当てられるまで、このパターンで中央順位に向かって増加し続けます。
位置と尺度の差	
Conover スコア	サンプル平均からの絶対偏差の 2 乗順位に基づきます。
Additional Tests	
Kolmogorov-Smirnov 検定と Cramer-von Mises 検定を含む 経験分布関数検定	経験的分布関数(EDF)統計量です。
対応のある多重比較分析 (漸近のみ)	Dwass、Steel、Critchlow-Fligner (DSCF)多重比較分析を計算します。
手法	
連続性の補正	
2 標本の Wilcoxon 検定と Siegel-Tukey 検定の連続性の補正	2 標本 Wilcoxon および Siegel-Tukey の漸近検定に連続性の補正をデフォルトで使用します。標準検定統計量 z の計算では、 $(S - E_0(S))$ 分子がゼロより大きければ、分子から 0.5 を引くことでこの補正を行います。分子がゼロより小さければ、分子に 0.5 を足します。
正確な統計量の計算	
モンテカルロ推定を使用する	正確な p 値を直接計算する代わりに正確な p 値のモンテカルロ推定を要求します。モンテカルロの p 値推定の信頼限界水準を指定することもできます。
計算時間を制限する	正確な各 p 値の計算に時間制限を指定します。正確な p 値の計算では、膨大な時間とメモリが消費されることがあります。

出力データセットの作成

統計量を出力データセットに保存するかどうかを指定できます。

N 元配置分散分析タスク

N 元配置分散分析タスクについて

N 元配置分散分析タスクでは、単一の連續従属変数の平均に対する 1 つ以上の因子の効果を検定し、グラフを作成します。

例: **Sashelp.RevHub2** データセットの分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、**N 元配置分散分析** をダブルクリックします。
N 元配置分散分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHHELP.REVHUB2** データセットを選択します。
- 3 次の役割に変数を割り当てます。

役割	列名
従属変数	Revenue
Factors	Source
	Type

- 4 モデルタブで、**Source** および **Type** を選択します。すべての組み合わせをクリックします。
- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

分類変数の水準の情報		
分類	水準	値
SOURCE	4	Freight Other Passenger Service
TYPE	3	Direct Indirect Other

読み込んだオブザベーション数	72
使用されたオブザベーション数	72

従属変数 : REVENUE REVENUE

要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Model	11	9.7259489E13	8.8417717E12	30.35	<.0001
Error	60	1.7480696E13	29134493048		
Corrected Total	71	1.1474018E14			

R2 乗	変動係数	Root MSE	REVENUE の平均
0.847650	81.22575	539763.8	664523.0

要因	自由度	Type I 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
SOURCE	3	3.2657409E13	1.0885803E13	37.36	<.0001
TYPE	2	3.1959368E13	1.5979684E13	54.85	<.0001
SOURCE*TYPE	6	3.2642711E13	5.4404519E12	18.67	<.0001

要因	自由度	Type III 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
SOURCE	3	3.2657409E13	1.0885803E13	37.36	<.0001
TYPE	2	3.1959368E13	1.5979684E13	54.85	<.0001
SOURCE*TYPE	6	3.2642711E13	5.4404519E12	18.67	<.0001

役割へのデータの割り当て

N 元配置分散分析タスクを実行するには、従属変数および Factors 役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	従属変数を指定します。

役割	説明
Factors	分類変数を指定します。

モデルの構築

モデル構築の要件

デフォルトでは、効果が指定されていないため、切片のみのモデルの当てはめが行われます。タスクを実行するには、少なくとも 2 つの変数を **Factors** 役割に割り当てる必要があります。変数の組み合わせを選択し、クロス、ネスト、組み合わせまたは多項式の各効果を作成できます。

モデルを作成するには、**Model** タブでモデルビルダを使用します。モデルを作成したら、モデルに切片を含めるかどうかを指定できます。

主効果の作成

- 1 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2 列の追加をクリックして、モデル効果ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。
- 2 クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、B(A)、C(B*A)、D*E(C*B*A)などがあります。この例で B(A)は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

- 1 モデル効果ボックスで、効果名を選択します。
- 2 Nest をクリックします。Nested ウィンドウが開きます。

- 3 ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。

注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。

- 4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

- 2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

- 2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

オプションの設定

オプション	説明
統計量	

オプション	説明
-------	----

出力にデフォルトの統計量のみを表示するか、デフォルト統計量と追加統計量を表示するか、あるいは統計量を一切含めないかを選択できます。

追加統計量のオプションを次に示します。

- **多重比較の実行**では、指定された効果の最小二乗平均を計算します。 p 値の調整方法と最小二乗平均の差異の信頼限界を指定できます。
- **平方和オプション**を使用すると、各効果の Type I で推定可能な関数に関連した平方和と、各効果の Type III で推定可能な関数に関連した平方和を表示できます。

Plots

出力にデフォルトのプロットのみを表示するか、選択したプロットのみを表示するか、あるいはプロットを一切表示しないかを選択できます。プロットに表示する最大点数を指定することもできます。

結果に追加できるいくつかのプロットを次に示します。

- **最小二乗平均プロット**
- **平均差プロット**
- **相互作用プロット(Factors 役割に 2 つの変数が割り当てられている場合のみ利用可能)**
- **平均プロットの分析(調整に Nelson 法を選択している場合のみ利用可能)**
- **個別にまたはパネルに表示可能な診断プロット**

出力オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。出力データセットに含める値を指定することもできます。予測値、残差、標準誤差、影響統計量を含めることができます。

共分散の分析タスク

共分散の分析タスクについて

共分散の分析タスクは、連続従属変数の連続予測子とカテゴリ予測子を結合する線形モデルの当てはめを行います。このタスクでは、結果を解釈するためのグラフ出力も生成されます。

例: Sashelp.Class データセットの分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、**共分散分析** をダブルクリックします。共分散の分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CLASS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に変数を割り当てます。

役割	列名
従属変数	Height
カテゴリ変数	Sex
連続変数	Weight

- 4 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

分類変数の水準の情報		
分類	水準	値
Sex	2	女子 男子

読み込んだオブザベーション数	19
使用されたオブザベーション数	19

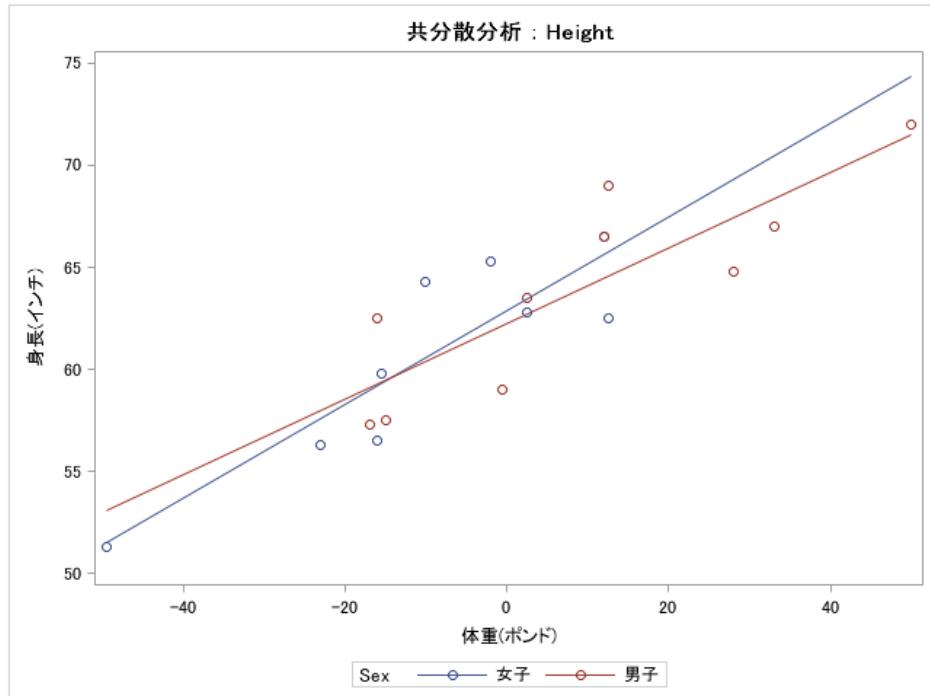
従属変数 : Height 身長(インチ)

要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Model	3	369.1762676	123.0587559	17.75	<.0001
Error	15	103.9879429	6.9325295		
Corrected Total	18	473.1642106			

R2 乗	変動係数	Root MSE	Height の平均
0.780229	4.223778	2.632970	62.33684

要因	自由度	Type I 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Sex	1	52.2463216	52.2463216	7.54	0.0150
Weight	1	313.2623253	313.2623253	45.19	<.0001
Weight*Sex	1	3.6676206	3.6676206	0.53	0.4782

要因	自由度	Type III 平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Sex	1	1.3925030	1.3925030	0.20	0.6604
Weight	1	313.2122368	313.2122368	45.18	<.0001
Weight*Sex	1	3.6676206	3.6676206	0.53	0.4782



役割へのデータの割り当て

共分散の分析タスクを実行するには、従属変数、カテゴリ変数および連続共変量役割に列を割り当てる必要があります。

役割	説明
従属変数	連続数値変数を指定します。
カテゴリ変数	グループのレベルを示す文字変数または数値変数を指定します。
連続共変量	従属変数に関連する連続数値変数を指定します。共変量変数を中心にするかどうかを指定できます。

オプションの設定

オプション	説明
モデル	
切片	カテゴリ変数のレベルごとに等切片と不等切片のどちらを使用するか指定します。
傾き	カテゴリ変数のレベルごとに等傾斜と不等傾斜のどちらを使用するか指定します。
パラメータ推定値を表示する	正規方程式の解を作成します(パラメータ推定値)。デフォルトでは、モデルに分類変数が含まれない場合はタスクで解が表示されます。このオプションは、分類効果のあるモデルについての解を確認する場合にのみ選択します。
多重比較	
多重比較の実行	カテゴリ変数の最小二乗平均を実行します。
共変量値	多重比較で使用する値を指定します。共変量値には平均値を指定するか、値を指定できます。
手法	<p><i>p</i>-値の多重比較調整と最小二乗平均の差異の信頼限界を求めます。</p> <p>使用可能な手法は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Bonferroni ■ Dunnett ■ Nelson ■ Scheffe ■ Sidak ■ Tukey
有意水準	比較の有意水準を指定します。デフォルトは0.05です。
Plots	

オプション	説明
出力にデフォルトプロットのみ表示する、出力に表示するプロットを選択する、または出力にプロットを表示しないことを選択できます。使用可能なプロットのリストは、多重比較で選択した手法によって異なります。	

出力オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。出力データセットに含める値を指定することもできます。予測値、残差、標準誤差、影響統計量を含めることができます。

線形回帰分析タスク

線形回帰分析タスクについて

線形回帰分析タスクでは、線形モデルを当てはめて、1つ以上の連續予測子変数またはカテゴリ予測子変数から1つの連續従属変数を予測します。このタスクでは、結果の解釈に使用できる統計量とグラフが生成されます。

例:生徒の身長に基づく体重予測

この例では、回帰分析を使用することで、子の身長がわかっている場合にその身長から体重を適切に予測できることを確認します。

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、**統計量**フォルダを展開し、**線形回帰分析**をダブルクリックします。線形回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.CLASS** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
従属変数	重み
分類変数	Sex
連続変数	Age Height

4 モデルタブをクリックし、次のモデルを作成します。

- a Height 変数を選択し、Ctrl キーを押しながら Age 変数を選択します。追加をクリックします。
- b Height 変数を選択し、Ctrl キーを押しながら Sex 変数を選択します。クロスをクリックします。

▲モデル効果



切片を含める

5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

データセット	SASHHELP.CLASS
従属変数	Weight
選択の方法	None

読み込んだオブザーバーション数	19
使用されたオブザーバーション数	19

分類変数の水準の情報		
分類	水準	値
Sex	2	女子 男子

次元の数		
効果数	4	
パラメータ数	5	

最小 2乗の要約				
ステップ	効果の追加	取り込んだ効果数	取り込んだパラメータ数	SBC
0	Intercept	1	1	120.6906
1	Age	2	2	108.5093
2	Height	3	3	98.4141*
3	Height*Sex	4	4	98.6423

* 基準の最適値

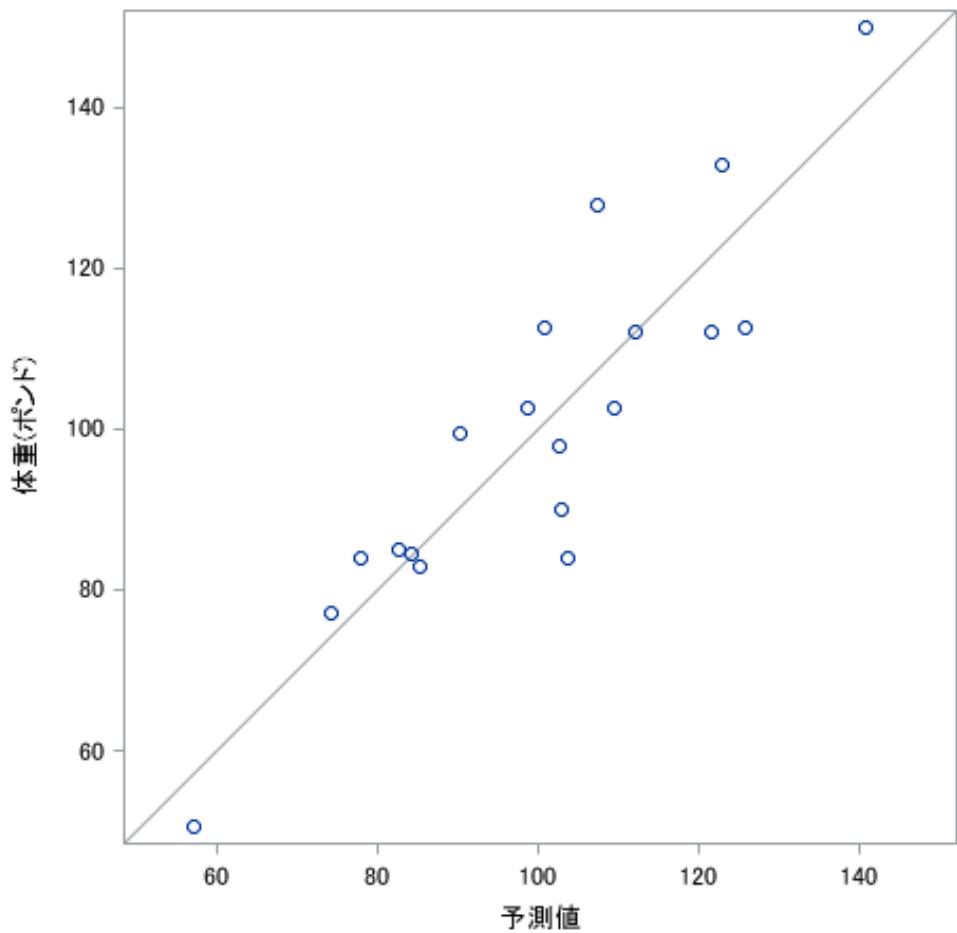
最小 2乗モデル (選択なし)

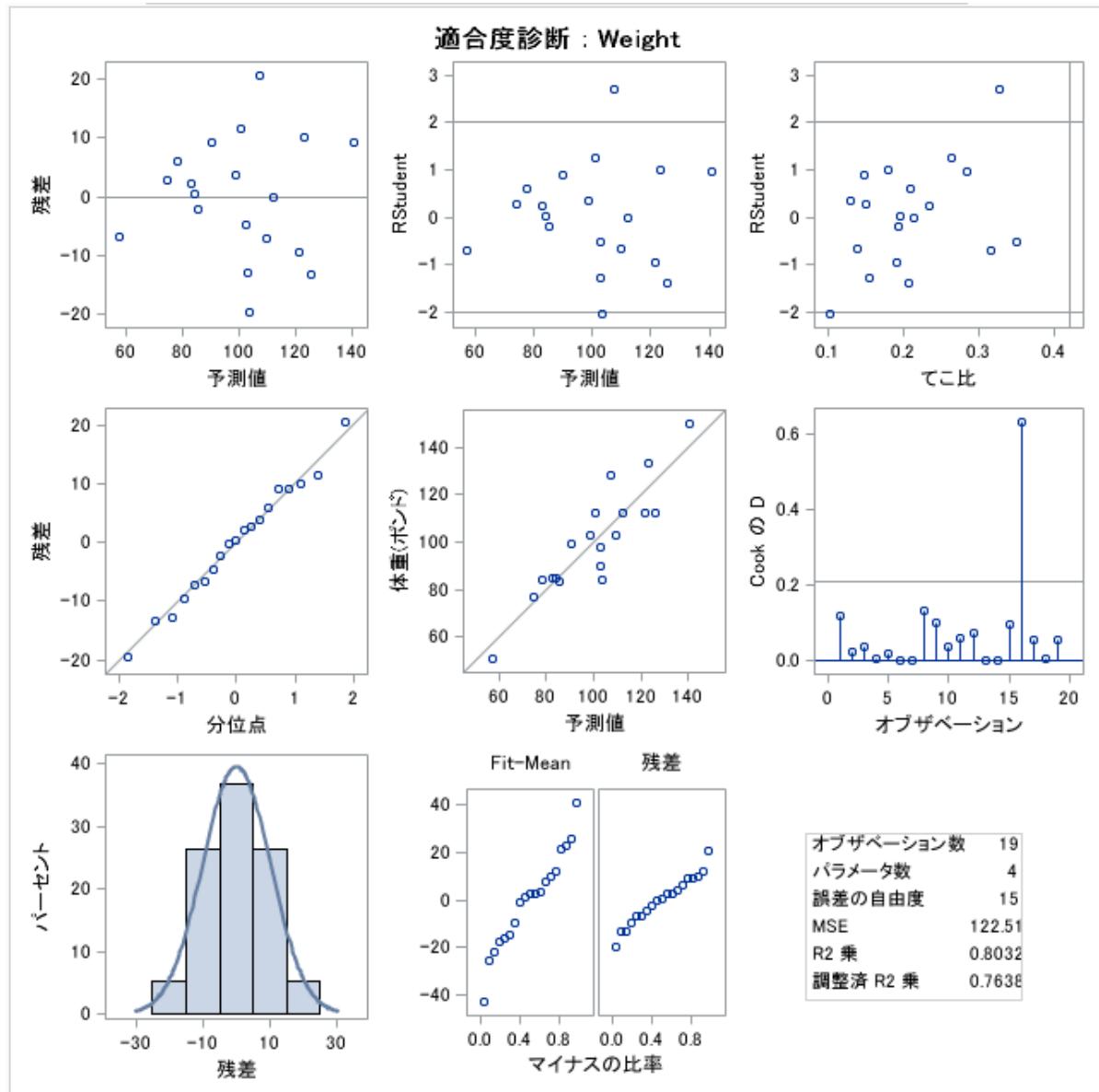
分散分析					
要因	自由度	平方和	平均平方	F 値	Pr > F
Model	3	7498.06138	2499.35379	20.40	<.0001
Error	15	1837.67546	122.51170		
Corrected Total	18	9335.73684			

Root MSE	11.06850
従属変数の平均	100.02632
R2 乗	0.8032
調整済み R2 乗	0.7638
AIC	115.86454
AICC	120.47992
SBC	98.64229

モデル : MODEL1
従属変数 : Weight 体重(ポンド)

観測値と予測値 : Weight





役割へのデータの割り当て

線形回帰分析タスクを実行するには、**従属変数**役割に1つの列を割り当て、**分類変数**役割または**連続変数**役割に1つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
役割	
従属変数	回帰分析の従属変数として使用する数値変数を指定します。この役割には数値変数を割り当てる必要があります。
分類変数	設計行列コードを使って回帰分析モデルを入力する分類変数を指定します。
効果のパラメータ化	
コーディング	<p>分類変数のパラメータ化方法を指定します。選択したコーディングスキーマに従って、分類変数から設計行列の列が作成されます。</p> <p>次のコーディングスキーマから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Effects coding 効果コーディングを指定します。 ■ GLM coding フルランク未満の参照セルコーディングを指定します。このコーディングスキーマがデフォルトです。 ■ Reference coding 参照セルコーディングを指定します。
欠損値の処理	
次の条件のいずれかが満たされた場合、オブザベーションは分析対象から除外されます。	
<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル内の変数に欠損値が含まれる場合 ■ (分類変数がモデルで使用されているかどうかにかかわらず)分類変数に欠損値が含まれる場合 	
連続変数	回帰分析モデルの数値共変量(回帰変数)を指定します。
追加役割	

役割	説明
度数カウント	オブザベーションの度数を表す数値変数を指定します。この役割に変数を割り当てると、各オブザベーションが n 件のオブザベーションを表すものとされます。 n は、度数変数の値です。 n が整数以外の場合、自動的に切り捨てられます。 n が 1 未満か、欠損している場合、そのオブザベーションは分析から除外されます。度数変数の合計は、オブザベーションの合計数を表します。
重み	データの重み付き分析を実行する際に重みとして使用する変数を指定します。
グループ分析	オブザベーションの各グループについてそれぞれ個別の分析を作成することを指定します。

モデルの構築

モデル構築の要件

効果を指定するには、**分類変数役割**または**連続変数役割**に少なくとも 1 つの列を割り当てる必要があります。変数の組み合わせを選択し、クロス、ネスト、組み合わせまたは多項式の各効果を作成できます。モデルに切片を含めるかどうかを指定することもできます。

モデルを作成するには、**モデルタブ**で**モデルビルダ**を使用します。

主効果の作成

- 1 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2 列の追加をクリックして、**モデル効果**ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。
- 2 クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、 $B(A)$ 、 $C(B^*A)$ 、 $D^*E(C^*B^*A)$ などがあります。この例で $B(A)$ は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

- 1 モデル効果ボックスで、効果名を選択します。
- 2 Nest をクリックします。Nested ウィンドウが開きます。
- 3 ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。
注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。
- 4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。
- 2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。
- 2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

N 次の多項式効果の作成

- 1 変数ボックスで 1 つの変数を選択します。

2 N フィールドの数値を調整して、高次クロスを指定します。

3 多項式の次数 = N をクリックして、モデル効果ボックスに多項式効果を追加します。

たとえば、Age および Height 変数を選択し、N フィールドで 3 を指定して、**多項式の次数 = N** をクリックすると、モデル効果として Age、Age*Age、Age*Age*Age、Height、Height*Height、Height*Height*Height が作成されます。

モデルオプションの設定

オプション名	説明
手法	
信頼水準	信頼区間の作成に使用する有意水準を指定します。
統計量	結果にデフォルトの統計量を含めるか、または追加統計量を含めるかを選択できます。
追加で使用可能な統計量	
パラメータ推定値	
標準回帰係数	標準回帰係数を表示します。標準回帰係数は、回帰変数のサンプル標準偏差に対する従属変数のサンプル標準偏差の比率によってパラメータ推定値を割ることによって計算されます。
推定値の信頼限界	パラメータ推定値の $100(1 - \alpha) \%$ 上側信頼限界と下側信頼限界を表示します。
平方和	
逐次平方和(Type I)	モデルの項ごとにパラメータ推定値と一緒に逐次平方和(Type I SS)を表示します。
偏平方和(Type II)	モデルの項ごとにパラメータ推定値と一緒に偏平方和(Type II SS)を表示します。

オプション名	説明
偏相関と半偏相関	
平方偏相関	Type I と Type II の平方和を使用して計算される平方偏相関係数を表示します。
平方半偏相関	Type I と Type II の平方和を使用して計算される平方半偏相関係数を表示します。この値は、平方和を修正済み平方和合計で割ることによって計算されます。
診断	
Analysis of influence	推定値と予測値に各オブザベーションが与える影響の詳細な分析を要求します。
Analysis of residuals	残差の分析を要求します。結果には、入力データと推定されたモデルからの予測値、平均の予測値と残差値の標準誤差、スチュードント化残差、およびパラメータ推定値への各オブザベーションの影響を評価する Cook の D 統計量が含まれます。
予測値	入力データと推定されたモデルから予測値を計算します。
多重比較	
多重比較の実行	固定効果の最小二乗平均を計算して比較するかどうかを指定します。
テストする効果を選択する	比較する効果を指定します。これらの効果はモデルタブで指定します。
手法	p -値の多重比較調整と最小二乗平均の差異の信頼限界を求めます。有効な手法は次のとおりです。Bonferroni、Nelson、Scheffé、Sidak、Tukey。
有意水準	各最小二乗平均に $1 - \text{number}$ の信頼水準の t タイプ信頼区間が確立されることが求められます。 number の値は $0 \sim 1$ の間である必要があります。デフォルト値は、0.05 です。

オプション名	説明
共線性	
共線性分析	回帰変数間の詳細な共線性分析を要求します。固有値、条件インデックス、および各固有値に対する推定値の分散分解などが挙げられます。
推定値のトレランス値	推定値のトレランス値を作成します。変数のトレランスは、 $1 - R^2$ として定義されます。R2 乗値は、モデルの他のすべての回帰変数に対する変数の回帰から得られます。
分散拡大係数	パラメータ推定値の分散拡大係数を作成します。分散拡大はトレランスの逆数です。
不等分散性	
不等分散性分析	モデルの一次モーメントと二次モーメントが正しく指定されていることを確認する検定を実行します。
漸近共分散行列	不等分散性仮説下での推定値の漸近共分散行列とパラメータ推定値の不等分散一致標準誤差を表示します。
Plots	
診断と残差プロット	デフォルトでは、いくつかの診断プロットが結果に含まれます。説明変数の残差のプロットを含めるかどうかを指定することもできます。
その他の診断プロット	
Rstudent 統計量と予測値	予測値でスチュードント化残差をプロットします。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、参照線 $RSTUDENT = \pm 2$ の帯域から外れるスチュードント化残差は異常値と見なされます。

オプション名	説明
DFFITS 統計量とオブザベーション番号	DFFITS 統計量とオブザベーション番号をプロットします。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、DFFITS 統計量の大きさが $2\sqrt{\frac{p}{n}}$ を超えるオブザベーションは影響因子と見なされます。使用されるオブザベーションの数は n で、回帰変数の数は p です。
説明変数ごとの DFBETAS 統計量とオブザベーション番号	モデルの各回帰変数について、オブザベーション番号に対する DFBETAS を示すパネルを作成します。これらのプロットはパネルとして表示することも、個々のプロットとして表示することもできます。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、DFBETAS 統計量の大きさが $\frac{2}{\sqrt{n}}$ を超えるオブザベーションは該当する回帰変数に対する影響因子と見なされます。オブザベーションの数は n です。
極値ポイントのラベル	プロットの各タイプの極値を識別します。
散布図	
Fit plot for a single continuous variable	単一の連続変数を持つモデルの回帰線、信頼帯および予測帯とデータを重ね合わせた散布図を作成します。切片は除外されます。点の数がプロットポイントの最大数オプションの値を超える場合は、散布図の代わりにヒートマップが表示されます。
観測値と予測値	予測値に対する観測値の散布図を作成します。
説明変数ごとの偏回帰プロット	各回帰変数の偏回帰プロットを作成します。これらのプロットをパネルに表示する場合は、パネル 1 つ当たりの回帰変数数は最大で 6 つになります。
プロットポイントの最大数	各プロットに含める最大点数を指定します。

モデルの選択オプションの設定

オプション	説明
モデルの選択	
選択方法	<p>モデルのモデル選択法を指定します。このタスクでは、選択法で定義されているルールに従って、モデルに効果を追加する必要があるか、モデルから効果を削除する必要があるかを調べることによって、モデルが選択されます。</p> <p>選択方法の有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ None では、フルモデルを当てはめます。 ■ 変数増加法では、効果を含まないモデルから開始し、指定した基準の値に基づいて効果を追加します。 ■ 変数減少法では、すべての効果を含むモデルから開始し、指定した基準の値に基づいて効果を削除します。 ■ 変数増減法(ステップワイズ法)は、変数増加法モデルに似ています。ただし、モデルにすでに存在する効果が必ずしもそのまま残るとは限りません。効果は、指定した基準の値に基づいてモデルに追加されます。
効果の追加/削除基準	モデルに対して効果を追加または削除する際の基準を指定します。
効果の追加/削除の停止基準	モデルに対する効果の追加または削除を停止する際の基準を指定します。
最適モデルの選択方法	最も当てはまるモデルが識別されるようにするための基準を指定します。
統計量の選択	

オプション

モデルの当てはまりに関する統計量

説明

当てはめ要約テーブルと当てはめ統計テーブルに表示するモデル当てはめ統計量を指定します。デフォルトの当てはめの統計量を選択した場合、これらのテーブルに表示される統計量のデフォルトセットには、モデルの選択で使用されるすべての基準が含まれます。

結果に含めることのできる追加の当てはめ統計量を次に示します。

- 調整済み R2 乗値
- 赤池の情報量規準
- 小サンプルバイアス用に修正された赤池の情報規準
- Bayes 情報量規準
- Mallows の Cp
- 予測残差平方和統計量を指定する Press 統計量
- R2 乗値
- Schwarz の Bayes 情報量規準

その他の診断プロット

基準プロット

調整済み R2 乗値、赤池の情報量規準、小サンプルバイアス用に修正された赤池の情報規準および最も当てはまるモデルの選択に使用する規準のプロットを表示します。

係数プロット

次のプロットを表示します。

- 選択プロセスの進行に伴うパラメータ値の漸次的变化を示すプロット
- 最も当てはまるモデルの選択に使用する規準の漸次的变化を示すプロット

詳細

選択プロセスの詳細

選択プロセスに関してどの程度の情報を結果に含めるかを指定します。選択プロセスの各ステップの要約または詳細、または選択プロセスに関するすべての情報を表示できます。

出力データセットの作成

オブザベーションに関する統計量データセットを作成するかどうかを指定できます。このデータセットには、平方和と積和が含まれます。

次の統計量を出力データセットに含めることもできます。

- Cook の D 影響統計量。
- ベータの共分散に関するオブザベーションの標準的な影響度。
- 予測値に関するオブザベーションの標準的な影響度(DFFITS と呼ばれる)。
- てこ比。
- 予測値。
- i 番目の残差を $(1 - h)$ で除算した Press 統計量。 h はてこ比を表し、モデルは i 番目のオブザベーションなしで再度当てはめられています。
- 残差。
- 残差を標準誤差で除算したスチューデント化残差。
- 現在のオブザベーションを除いたスチューデント化残差。

バイナリロジスティック回帰分析タスク

バイナリロジスティック回帰分析タスクについて

バイナリロジスティック回帰分析タスクは、説明変数のセットとバイナリレベルを持つ不連続応答間の関係の調査にロジスティック回帰分析モデルを当てはめるために使用されます。

例:電子メールを迷惑メールとして分類

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- 1 タスクセクションで、統計フォルダを展開し、二項ロジスティック回帰分析をダブルクリックします。バイナリロジスティック回帰分析タスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- 2 データタブで、**SASHELP.JUNKMAIL** データセットを選択します。
- 3 次の役割に列を割り当て、オプションを指定します。

役割	列名
応答	クラス
関心のあるイベント	1
連続変数	感嘆符 CapAvg

- 4 モデルタブをクリックします。感嘆符変数と CapAvg 変数を選択し、Add をクリックします。

▲モデル効果

The screenshot shows the 'Model Effects' dialog box in the SPSS Statistics interface. On the left, a list of variables includes 'Exclamation' and 'CapAvg'. On the right, the 'Model Effects' list contains 'Exclamation' and 'CapAvg'. The central panel has two sections: 'Single Effect' (with buttons for 'Add' and 'Cross') and 'Standard Model' (with buttons for 'All combinations' and 'N combinations'). Below these are buttons for 'Polynomial degree = N' and 'Next'. At the bottom left is a checked checkbox for 'Check for model effects'. At the bottom center is a button for 'OK'.

変数:

モデル効果:

Exclamation
CapAvg

单一効果

追加 クロス

ネスト

標準モデル

すべての組み合わせ N 元の組み合わせ

多項式の次数 = N

モデルに切片を含める

オフセット変数: (1項目)

123 列

面 +

5 タスクを実行するには、をクリックします。

モデルの情報		
データセット	SASHELP.JUNKMAIL	Classifying Email as Junk or Not
応答変数	Class	0 – Not Junk, 1 – Junk
応答の水準数	2	
モデル	binary logit	
最適化の手法	Fisher's scoring	

読み込んだオブザベーション	4601
使用されたオブザベーション	4601

反応プロファイル		
順番	Class	度数の合計
1	0	2788
2	1	1813

モデルの確率基準は Class=1 です。

モデル収束状態		
収束基準(GOON=1E-6)は満たされました。		

モデルの適合度統計量		
基準	切片のみ	切片と共に変量
AIC	6172.153	5035.224
SC	6178.587	5064.526
-2 Log L	6170.153	5029.224

包括帰無仮説 : BETA=0 の検定			
検定	カイ ² 乗値	自由度	Pr > ChiSq
尤度比	1140.9288	2	<.0001
スコア	312.5004	2	<.0001
Wald	630.4776	2	<.0001

最尤推定値の分析					
パラメータ	自由度	推定値	標準誤差	Wald	Pr > ChiSq
Intercept	1	-1.8144	0.0652	773.5908	<.0001
Exclamation	1	1.8816	0.1165	261.0441	<.0001
CapAvg	1	0.3077	0.0189	264.8582	<.0001

オッズ比の推定		
効果	点推定	95% Wald 信頼限界

役割へのデータの割り当て

バイナリロジスティック回帰分析タスクを実行するには、**応答変数**に複数の列を割り当て、**分類変数役割**または**連続変数役割**のいずれかに1つの列を割り当てます。

役割	説明
役割	
応答	
応答データはイベント数と試行数を含みます	応答データにイベントと試行が含まれるかどうかを指定します。
イベント数	各オブザーバーションのイベント数を表す変数を指定します。
試行数	各オブザーバーションの試行数を表す変数を指定します。
応答	応答データを表す変数を指定します。バイナリロジスティック回帰分析を実行するには、応答変数のレベルが2つのみである必要があります。 関心のあるイベントドロップダウンリストを使用して、バイナリ応答モデルのイベントカテゴリを選択します。
リンク関数	応答確率を線形予測子にリンクするリンク関数を指定します。 有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 補対数-対数補対数-対数関数です。 ■ Probit逆標準正規分布関数です。 ■ Logit対数オッズ関数です。
説明変数	
分類変数	分析で使用する分類変数を指定します。分類変数は、統計分析またはモデルをその値ではなく、水準で入力する変数です。変数の値を水準に関連付けるプロセスを水準化と呼びます。

役割	説明
効果のパラメータ化	
コーディング	<p>分類変数のパラメータ化方法を指定します。選択したコーディングスキーマに従って、分類変数から設計行列の列が作成されます。</p> <p>次のコーディングスキーマから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Effects coding 効果コーディングを指定します。 ■ GLM coding フルランク未満の参照セルコーディングを指定します。このコーディングスキーマがデフォルトです。 ■ Reference coding 参照セルコーディングを指定します。
欠損値の処理	<p>次の条件のいずれかが満たされた場合、オブザベーションは分析対象から除外されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モデル内の変数に欠損値が含まれる場合 ■ (分類変数がモデルで使用されているかどうかにかかわらず)分類変数に欠損値が含まれる場合
連続変数	分析で説明変数として使用する連続変数を指定します。
追加役割	
度数カウント	各オブザベーションの出現度数を表す変数を指定します。タスクは、各オブザベーションが n 回出現するものとして扱います。ここで n は、そのオブザベーションの変数の値です。
重み変数	入力データセットにある各オブザベーションの重み付けの程度を指定します。
グループ分析	BY 変数の数に基づいて、個別の分析を作成します。

モデルの構築

主効果の作成

- 1 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2 列の追加をクリックして、モデル効果ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。
- 2 クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、B(A)、C(B*A)、D*E(C*B*A)などがあります。この例で B(A)は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

- 1 モデル効果ボックスで、効果名を選択します。
- 2 Nest をクリックします。Nested ウィンドウが開きます。
- 3 ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。
注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。
- 4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。
- 2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。
- 2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

N 次の多項式効果の作成

- 1 変数ボックスで 1 つの変数を選択します。
- 2 N フィールドの数値を調整して、高次クロスを指定します。
- 3 多項式の次数 = N をクリックして、モデル効果ボックスに多項式効果を追加します。

たとえば、Age および Height 変数を選択し、N フィールドで 3 を指定して、多項式の次数 = N をクリックすると、モデル効果として Age、Age*Age、Age*Age*Age、Height、Height*Height、Height*Height*Height が作成されます。

モデルオプションの設定

オプション	説明
モデル	
モデルに切片を含める	モデルに切片を含めるかどうかを指定します。
オフセット変数	線形予測子に対するオフセットとして使用する変数を指定します。オフセットは、係数が 1 となる効果として働きます。オフセット変数の値が欠損しているオブザーベーションは、分析から除外されます。

モデルの選択オプションの指定

オプション	説明
モデルの選択	<p>選択方法</p> <p>モデルのモデル選択法を指定します。このタスクでは、選択法で定義されているルールに従って、モデルに効果を追加する必要があるか、モデルから効果を削除する必要があるかを調べることによって、モデルが選択されます。</p> <p>選択方法の有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">■ None では、フルモデルを当てはめます。■ 変数増加法では、効果を含まないモデルから開始し、モデルに効果を追加する有意水準オプションに基づいて効果を追加します。■ 変数減少法では、すべての効果を含むモデルから開始し、モデルから効果を削除する有意水準オプションの値に基づいて効果を削除します。

オプション	説明
選択方法(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高速変数減少法では、Lawless と Singhal (1978)の計算アルゴリズムを使用します。このアルゴリズムは、モデルからの後続の変数減少ごとに、残りのスロープ推定までの 1 次近似を計算します。これらの近似推定に基づいて、モデルから変数が削除されます。この選択モデルは、削除された各変数に対するモデルの再当てはめが行われないため、極めて効率的です。 ■ 変数増減法(ステップワイズ法)は、変数増加法モデルに似ています。ただし、モデルにすでに存在する効果が必ずしもそのまま残るとは限りません。効果は、モデルに効果を追加する有意水準オプションに基づいてモデルに追加され、モデルから効果を削除する有意水準オプションに基づいてモデルから削除されます。 ■ 高速変数減少法(ステップワイズ法)では、Lawless と Singhal の計算アルゴリズムを使用します。このアルゴリズムは、モデルからの後続の変数減少ごとに、残りのスロープ推定までの 1 次近似を計算します。これらの近似推定に基づいて、モデルから変数が削除されます。この選択モデルは、削除された各変数に対するモデルの再当てはめが行われないため、極めて効率的です。
詳細	
選択プロセスの詳細を表示する	<p>選択プロセスに関してどの程度の情報を結果に含めるかを指定します。選択プロセスの各ステップの要約または詳細を表示するか、または選択プロセスに関するすべての情報を表示するかを選択できます。</p>

オプション	説明
効果の階層を維持する	<p>モデル階層要件の適用方法と、モデルに一度に入力または削除できる効果が1つのみか複数かを指定します。たとえば、モデルに主効果 A と B、および相互作用 A*B を指定したとします。選択プロセスの最初のステップでは、A または B のいずれかをモデルに入力できます。2番目のステップでは、他方の主効果をモデルに入力できます。相互作用効果は、両方の主効果がすでに入力されている場合にのみ入力できます。また、モデルから A または B を削除する場合は、まず A*B 相互作用を削除する必要があります。</p> <p>モデル階層は、モデルに含まれる用語について、用語に含まれるすべての効果がモデルに存在している必要があるという要件を意味します。たとえば、相互作用 A*B をモデルに入力するためには、主効果 A と B がモデルに含まれている必要があります。同様に、A*B が存在している間は、A と B いずれの効果もモデルから削除することはできません。</p>

オプションの設定

オプション名	説明
統計量	<p>注: 結果に含まれるデフォルトの統計量に加えて、追加で含める統計量を選択できます。</p>
分類テーブル	予測されたイベント確率が範囲内のカットポイント値 z を上回るか下回るかに従って、入力されたバイナリ応答オブザベーションを分類します。予測イベント確率が z 以上である場合、オブザベーションはイベントとして予測されます。

オプション名	説明
偏相関	<p>各パラメータ i について、部分相関統計</p> $\left(\beta_i \right) \sqrt{\frac{\chi^2_i - 2}{-2\log L_0}}$ <p>を計算します。ここで、χ^2_i はパラメータの Wald カイ 2 乗統計量であり、$\log L_0$ は切片専用モデルの対数尤度です(Hilbe 2009)。$\chi^2_i < 2$ の場合、部分相関は 0 に設定されます。</p>
一般化寄与率	当てはめモデルの一般化 R2 乗値測定を求めます。
適合度と過分散	
デビアンスおよび Pearson のカイ 2 乗統計量	逸脱と Pearson 適合度検定を計算するかどうかを指定します。
集計	Pearson カイ 2 乗検定統計量と尤度比カイ 2 乗検定統計量(逸脱)が計算される部分母集団を指定します。指定された変数のリストにある共通値を持つオブザベーションは、同じ部分母集団に属していると見なされます。リストにある変数は、入力データセットのどの変数にもなりえます。
過分散補正	逸脱または Pearson 推定を使用して過分散を修正するかどうかを指定します。
Hosmer & Lemeshow goodness-of-fit	バイナリ応答モデルの場合の Hosmer and Lemeshow 適合度検定(Hosmer and Lemeshow 2000)を実行します。被験対象は、推定確率のパーセント点に基づいて、ほぼ同じサイズの約 10 のグループに分割されます。これらのグループのオブザベーションの観測数と期待数の不一致は、Pearson カイ 2 乗統計量によって要約されます。統計量は、次にカイ 2 乗分布と t 自由度で比較されます。ここで t は、グループ数マイナス n です。デフォルトでは、 $n = 2$ です。小文字の p -値は、当てはめモデルが適正モデルではないことを示唆しています。
多重比較	

オプション名	説明
多重比較の実行	固定効果の最小二乗平均を計算して比較するかどうかを指定します。
テストする効果を選択する	比較する効果を指定します。これらの効果はモデルタブで指定します。
手法	<i>p</i> -値の多重比較調整と最小二乗平均の差異の信頼限界を求めます。有効な手法は次のとおりです。 Bonferroni 、 Nelson 、 Scheffé 、 Sidak 、 Tukey 。
有意水準	各最小二乗平均に $1 - \text{number}$ の信頼水準の <i>t</i> タイプ信頼区間が確立されることが求められます。 <i>number</i> の値は 0 から 1 の間である必要があります。デフォルト値は、0.05 です。
正確検定	
切片の正確検定	切片の正確検定を計算します。
テストする効果を選択する	選択した効果のパラメータの正確検定を計算します。
有意水準	パラメータ比またはオッズ比の $100(1 - \alpha)\%$ 信頼限界の有意水準 α を指定します。
パラメータ推定値	
次のパラメータ推定値を計算できます。	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 標準化された推定値 ■ 累乗された推定値 ■ パラメータ推定値の相関 ■ パラメータ推定値の共分散 	
パラメータの信頼区間、オッズ比の信頼区間、およびこれらの推定値の信頼水準を指定できます。	
診断	

オプション名	説明
影響度診断	影響が大きいと見なされるオブザベーションの診断測定を表示します。各オブザベーションについて、結果にはオブザベーションのシーケンス番号、最終モデルに含まれる説明変数の値、および Pregibon (1981)により考案された回帰診断測定が含まれています。標準化された残差と尤度残差を含めるかどうかを指定できます。
Plots	<p>結果にプロットを含めるかどうかを選択できます。</p> <p>結果に含めることができる追加のプロットは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ オブザベーション番号別の標準化された DFBETA ■ オブザベーション番号別の影響統計量 ■ モデルの当てはまりとパラメータ推定値に対する影響 ■ 予測確率プロット ■ 効果プロット ■ オッズ比プロット ■ ROC プロット <p>これらのプロットをパネルに表示するか、個別に表示するかを指定できます。</p>
影響度と ROC プロットのラベル	影響度プロットと ROC プロットのラベルを含む入力データの変数を指定します。
プロットポイントの最大数	プロットに含める最大点数を指定します。デフォルトでは、5,000 点が表示されます。
手法	
最適化	
手法	回帰パラメータを推定するための最適化技術を指定します。Fisher スコアリングと Newton-Raphson アルゴリズムでは同じ推定値が求められますが、バイナリ応答データにロジットリンク関数が指定されている場合以外は、推定される共分散行列に若干の差異があります。

オプション名	説明
最大反復回数	実行する最大反復回数を指定します。指定した回数の反復によって収束できない場合、タスクによって作成された表示出力とすべての出力データセットには、最後の最大尤度反復に基づく結果が含まれます。

出力データセットの作成

オプション名	説明
出力データセット	

2種類の出力データセットを作成できます。作成する各データセットのチェックボックスを選択します。

出力データセットの作成

指定した統計量を含むデータセットを出力します。

出力データセットに含めることができる統計量は次のとおりです。

- 線形予測子
- 予測値
- 予測値の信頼限界
- Pearson 残差
- 逸脱度残差
- 尤度残差
- 標準化された Pearson 残差
- 標準化された逸脱度残差
- 個々のオブザベーションの削除によるカイ²乗適合度検定の変更
- 個々のオブザベーションの削除による逸脱の変更
- てこ比
- 標準化された DFBETA
- 線形予測子の標準誤差
- 各応答水準の予測確率

スコアリングされたデータセットの作成

出力データセットと事後確率のすべての統計量を含むデータセットを出力します。

オプション名	説明
SAS スコアリングコードをログに追加する	ファイルまたはカタログエントリのいずれかへの当てはめモデルの予測値を計算するための SAS DATA ステップコードを記述します。このコードは、さらに新しいデータにスコア付けするための DATA ステップに含めることができます。

予測回帰モデル

予測回帰モデルについて

このタスクは、実測データに基づいて最も影響のある効果を選択する予測タスクです。このタスクを実行して、データをモデルトレーニング、検証および検定の互いに素なサブセットに論理的に分割することができます。予測回帰モデルタスクでは、単変量応答の基準から独立した同一に分布される一般線形モデルに焦点を置き、モデルの選択アルゴリズムの柔軟性と洞察力を高めます。このタスクではスコア付きのデータセットも作成できます。このタスクの結果を利用すると、線形回帰分析タスクなどの他のタスクで選択したモデルをさらに詳しく簡単に調べることができます。

例:野球選手の給与の予測

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、統計量フォルダを開き、**Predictive Regression Model** をダブルクリックします。予測回帰モデルタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- データタブで、**SASHelp.BASEBALL** データセットを選択します。
- 次の役割に列を割り当て、オプションを指定します。

役割	列名
従属変数	logSalary

役割	列名
分類変数	League Division
連続変数	nAtBat nHits nHome nRuns nRBI nBB

- 4 モデルタブをクリックします。nAtBat、nHits、nHome、nRuns、nRBI、nBB、League および Division 変数を選択し、追加をクリックします。

データ モデル 選択 最終モデル スコアリング 情報

▲候補モデル効果

変数:

- nAtBat
- nHits
- nHome
- nRuns
- nRBI
- nBB
- League
- Division

モデル効果:

- nAtBat
- nHits
- nHome
- nRuns
- nRBI
- nBB
- League
- Division

単一効果

追加 クロス ネスト

標準モデル

すべての組み合わせ N 元の組み合わせ

多项式の次数 = N

切片を含める

- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

データセット	SASHELP.BASEBALL
従属変数	logSalary
選択の方法	Stepwise
Select 基準	SBC
Stop 基準	SBC
適用される効果の階層	Single

読み込んだオブザーバーション数	322
使用されたオブザーバーション数	263

分類変数の水準の情報		
分類	水準	値
League	2	American National
Division	2	East West

次元の数	
効果数	9
パラメータ数	11

ステップワイズ選択の要約					
ステップ	効果の追加	効果の削除	取り込んだ効果数	取り込んだパラメータ数	SBC
0	Intercept		1	1	-57.2041
1	nHits		2	2	-124.6362
2	nBB		3	3	-137.9363*

* 基準の最適値

ローカル最小の SBC 基準で、選択を停止しました。

停止の詳細				
候補	効果	候補 SBC	比較 SBC	
Entry	nREI	-137.2172	>	-137.9363
Removal	nBB	-124.6362	>	-137.9363

データの分割

十分なデータがある場合には、そのデータをトレーニングデータ、検証データおよび検定データの3つの部分に分割できます。選択プロセスでは、トレーニングデータにモデルが当てはめられ、検証データを使用してそのモデルの予測誤差が決定されます。この予測誤差は、その選択プロセスを終了するタイミングや、選択プロセスの進行時に追加すべき効果の決定に使

用できます。最後に、任意のモデルが選択されたら、検証データを使用して、モデルの選択時に何の役割も果たさなかったデータに対してそのモデルがどのように一般化できるかを評価します。

データは、次のいずれかの方法で分割できます。

- 検証データまたは検定データの比率を指定します。この比率は、サンプリングによって入力データを分割する際に使用されます。
- 任意のオブザベーションが検証事例であるか、検定事例であるかを示す値を持つ変数が入力データセットに含まれている場合は、データの分割時にその変数を指定できます。変数を指定する場合には、検証事例または検定事例に適切な値も選択します。入力データセットは、このような値を使用して分割されます。

役割へのデータの割り当て

予測回帰モデルタスクを実行するには、**従属変数役割**に1つの列を割り当て、**分類変数役割**または**連続変数役割**に1つの列を割り当てる必要があります。

役割	説明
ロール	
従属変数	回帰分析の従属変数として使用する数値変数を指定します。
分類変数	分析でデータのグループ化(分類)に使用する変数を指定します。分類変数は、統計分析またはモデルをその値ではなく、水準で入力する変数です。変数の値を水準に関連付けるプロセスを水準化と呼びます。
効果のパラメータ化	

役割	説明
コーディング	<p>分類変数のパラメータ化方法を指定します。選択したコーディングスキーマに従って、分類変数から設計行列の列が作成されます。</p> <p>次のコーディングスキーマから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Effects coding 効果コーディングを指定します。 ■ GLM coding フルランク未満の参照セルコーディングを指定します。このコーディングスキーマがデフォルトです。 ■ Reference coding 参照セルコーディングを指定します。
欠損値の処理	
	<p>モデル内の変数に欠損値が含まれる場合、オブザベーションは分析対象から除外されます。また、このテーブルで前に指定した分類変数のいずれかに欠損値が含まれる場合は、その値をモデルで使用しているかどうかに関係なくオブザベーションは除外されます。</p>
連続変数	
	<p>回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。</p>
追加役割	
度数カウント	<p>オブザベーションの度数を表す数値変数を指定します。この役割に変数を割り当てると、各オブザベーションが n 件のオブザベーションを表すものとされます。n は、度数変数の値です。n が整数以外の場合、自動的に切り捨てられます。n が 1 未満か、欠損している場合、そのオブザベーションは分析から除外されます。度数変数の合計は、オブザベーションの合計数を表します。</p>
重み	
	<p>データの重み付き分析を実行する際に重みとして使用する数値列を指定します。</p>
グループ分析	<p>オブザベーションの各グループについてそれぞれ個別の分析を作成することを指定します。</p>

モデルの構築

モデル構築の要件

効果を指定するには、**分類変数**役割または**連続変数**役割に少なくとも 1 つの列を割り当てる必要があります。変数の組み合わせを選択し、クロス、組み合わせまたは多項式の各効果を作成できます。

モデルを作成するには、**Model** タブでモデルビルダを使用します。モデルを作成したら、モデルに切片を含めるかどうかを指定できます。

主効果の作成

- 1** 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2** 列の追加をクリックして、**モデル効果**ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1** 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。
- 2** クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、B(A)、C(B*A)、D*E(C*B*A)などがあります。この例で B(A)は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

- 1** モデル効果ボックスで、効果名を選択します。
- 2** **Nest** をクリックします。**Nested** ウィンドウが開きます。
- 3** ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。

注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。

4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

N 次の多項式効果の作成

1 変数ボックスで 1 つの変数を選択します。

2 N フィールドの数値を調整して、高次クロスを指定します。

3 多項式の次数 = N をクリックして、モデル効果ボックスに多項式効果を追加します。

たとえば、Age および Height 変数を選択し、N フィールドで 3 を指定して、多項式の次数 = N をクリックすると、モデル効果として Age、Age*Age、Age*Age*Age、Height、Height*Height、Height*Height*Height が作成されます。

モデルの選択

オプション名	説明
モデルの選択	

オプション名	説明
選択方法	デフォルトでは、指定した完全モデルを使用してモデルの当てはめが行われます。ただし、次の選択方法のいずれかを使用することもできます。
選択方法(続き)	<p>変数増加法 変数増加法を指定します。この方法では、効果なしのモデルから開始し、効果を追加します。</p> <p>変数減少法 変数減少法を指定します。すべての効果を含むモデルから開始し、効果を削除します。</p> <p>ステップワイズ回帰法 ステップワイズ回帰法を指定します。この方法は変数増加法に似ていますが、モデルにすでに存在する効果が必ずしもそのまま残らないという点で異なります。</p> <p>LASSO LASSO 法を指定します。この方法では、絶対回帰係数の和が制限される最小二乗のバージョンに基づいてパラメータが追加および削除されます。モデルに分類変数が含まれる場合、それらの分類変数は分割されます。</p> <p>Adaptive LASSO LASSO 法の各係数に適合型重みを適用するよう要求します。モデルのパラメータの最小二乗推定値は適合型重みの作成で使用されます。</p>

オプション名	説明
選択方法(続き)	<p>弾性ネット elastic net 法を指定します。この方法は LASSO を拡張したものです。elastic net 法では、絶対回帰係数の和と二乗回帰係数の和の両方が制限される最小二乗のバージョンに基づいてパラメータが推定されます。モデルに分類変数が含まれる場合、それらの分類変数は分割されます。</p> <p>Least angle regression 最小角度回帰を指定します。この方法では、効果なしのモデルから開始し、効果を追加します。対応する最小二乗推定値と比較する際にいづれかの段階のパラメータ推定値が"縮小"されます。モデルに分類変数が含まれる場合、それらの分類変数は分割されます。</p>
効果の追加/削除基準	モデルに対して効果を追加または削除するかどうかを決定するための基準を指定します。
効果の追加/削除の停止基準	モデルに対する効果の追加または削除を停止するかどうかを決定するための基準を指定します。
最適モデルの選択方法	最も当てはまるモデルを決定するための基準を指定します。
統計量の選択	

オプション名	説明
モデルの当てはまりに関する統計量	<p>当てはめ要約テーブルと当てはめ統計テーブルに表示するモデル当てはめ統計量を指定します。デフォルトの当てはめの統計量を選択した場合、これらのテーブルに表示される統計量のデフォルトセットには、モデルの選択で使用されるすべての基準が含まれます。</p> <p>結果に含めることのできる追加の当てはめ統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 調整済み R2 乗値 ■ 赤池の情報量規準 ■ 小サンプルバイアス用に修正された赤池の情報規準 ■ 平均二乗誤差 ■ Bayes 情報量規準 ■ Mallows の Cp ■ 予測残差平方和統計量を指定する Press 統計量 ■ R2 乗値 ■ Schwarz の Bayes 情報量規準
他の診断プロット	
基準プロット	調整済み R2 乗値、赤池の情報量規準、小サンプルバイアス用に修正された赤池の情報規準および最も当てはまるモデルの選択に使用する規準のプロットを表示します。これらのプロットをパネルに表示するか、個別に表示するかを選択できます。
係数プロット	<p>次のプロットを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 選択プロセスの進行に伴うパラメータ値の漸次的变化を示すプロット ■ 最も当てはまるモデルの選択に使用する規準の漸次的变化を示すプロット
詳細	

オプション名	説明
選択プロセスの詳細	選択プロセスに関してどの程度の情報を結果に含めるかを指定します。選択プロセスの各ステップの要約または詳細、または選択プロセスに関するすべての情報を表示できます。
モデル効果の階層	
モデル効果の階層	<p>モデル階層要件の適用方法と、モデルに一度に入力または削除できる効果が1つのみか複数かを指定します。たとえば、モデルに主効果 A と B、および相互作用 A^*B を指定したとします。選択プロセスの最初のステップでは、A または B のいずれかをモデルに入力できます。2番目のステップでは、他方の主効果をモデルに入力できます。相互作用効果は、両方の主効果がすでに入力されている場合にのみ入力できます。また、モデルから A または B を削除する場合は、まず A^*B 相互作用を削除する必要があります。</p> <p>モデル階層は、モデルに含まれる用語について、用語に含まれるすべての効果がモデルに存在している必要があるという要件を意味します。たとえば、相互作用 A^*B をモデルに入力するためには、主効果 A と B がモデルに含まれている必要があります。同様に、A^*B が存在している間は、A と B いずれの効果もモデルから削除することはできません。</p>
Model effects subject to the hierarchy requirement	モデル階層要件をモデル内の分類効果と連続効果に適用するか、または分類効果のみに適用するかを指定します。

最終モデルのオプションの設定

オプション名	説明
選択済みモデルの統計量	

オプション名	説明
結果にデフォルトの統計量を含めるか、または追加統計量(標準回帰係数など)を含めるかを選択できます。標準回帰係数は、回帰変数のサンプル標準偏差に対する従属変数のサンプル標準偏差の比率によってパラメータ推定値を割ることによって計算されます。	
共線性	
共線性分析	回帰変数間の詳細な共線性分析を要求します。固有値、条件インデックス、および各固有値に対する推定値の分散分解などが挙げられます。
推定値のトレランス値	推定値のトレランス値を作成します。変数のトレランスは、 $1 - R^2$ として定義されます。R2 乗値は、モデルの他のすべての回帰変数に対する変数の回帰から得られます。
分散拡大係数	パラメータ推定値の分散拡大係数を作成します。分散拡大はトレランスの逆数です。
選択済みモデルのプロット	
診断と残差プロット	
結果にデフォルトの診断プロットを含めるかどうかを指定できます。説明変数の残差のプロットを含めるかどうかを指定することもできます。	
他の診断プロット	
Rstudent 統計量と予測値	予測値でスチューデント化残差をプロットします。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、参照線 $RSTUDENT = \pm 2$ の帯域から外れるスチューデント化残差は異常値と見なされます。
DFFITS 統計量とオブザベーション番号	DFFITS 統計量とオブザベーション番号をプロットします。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、DFFITS 統計量の大きさが $2\sqrt{\frac{p}{n}}$ を超えるオブザベーションは影響因子と見なされます。使用されるオブザベーションの数は n で、回帰変数の数は p です。

オプション名	説明
説明変数ごとの DFBETAS 統計量とオブザベーション番号	モデルの各回帰変数について、オブザベーション番号に対する DFBETAS を示すパネルを作成します。これらのプロットはパネルとして表示することも、個々のプロットとして表示することもできます。極値ポイントのラベルオプションを選択した場合、DFBETAS 統計量の大きさが $\frac{2}{\sqrt{n}}$ を超えるオブザベーションは該当する回帰変数に対する影響因子と見なされます。オブザベーションの数は n です。
極値ポイントのラベル	プロットの各タイプの極値を識別します。
散布図	
観測値と予測値	予測値に対する観測値の散布図を作成します。
説明変数ごとの偏回帰プロット	各回帰変数の偏回帰プロットを作成します。これらのプロットをパネルに表示する場合は、パネル 1 つ当たりの回帰変数数は最大で 6 つになります。
プロットポイントの最大数	各プロットに含める最大点数を指定します。

スコアオプションの設定

オプション名	説明
スコアリング	予測値と残差を含むスコア付きデータセットを作成できます。
SAS スコアリングコードをログに追加する	ファイルまたはカタログエントリのいずれかへの当てはめモデルの予測値を計算するための SAS DATA ステップコードを記述します。このコードは、さらに新しいデータにスコア付けするための DATA ステップに含めることができます。

一般化線形モデル

一般化線形モデルタスクについて

一般化線形モデルは、従来の線形モデルを拡張したモデルです。一般化線形モデルでは、母平均は非線形リンク関数による線形予測子によって異なります。その応答確率分布は、指数型分布族に含まれます。一般化線形モデルの例には、誤差が正規性を持つ古典的線形モデル、バリナリデータに対するロジスティックおよびプロビットモデル、多項データに対する対数線形モデルがあります。その他の統計量モデルは、適切なリンク関数と応答確率分布を選択することにより、一般化線形モデルとして定式化できます。

一般化線形モデルタスクでは、一般化線形モデルのモデル当てはめおよびモデル構築を行います。このタスクでは、正規分布、Poisson 分布、Tweedie 分布などの指数型分布族に属する標準分布モデルの当てはめを行います。また、順序応答および公称応答の多項モデルの当てはめにも対応しています。タスクには、選択方法として変数増加法、変数減少法および変数増減法(ステップワイズ法)が用意されています。

例: **Sashelp.Baseball** データセットの分析

この例を作成するには、次の操作を実行します。

- タスクセクションで、**統計量** フォルダを展開し、一般化線形モデルをダブルクリックします。一般化線形モデルタスクのユーザーインターフェイスが開きます。
- データタブで、**SASHHELP.BASEBALL** データセットを選択します。
- 分布ドロップダウンリストから **Poisson** を選択します。次の役割に列を割り当てます。

役割	列名
応答	
応答変数	nHome リンク関数ドロップダウンリストから、 Logarithm を選択します。

役割	列名
説明変数	
分類変数	League
連続変数	logSalary

- 4 モデルタブをクリックします。変数ボックスで、League および logSalary を選択します。追加をクリックしてこれらを主効果として追加します。
- 5 タスクを実行するには、 をクリックします。

結果の一部を次に示します。

モデルの情報			
データセット	SASHELP.BASEBALL	1986 Baseball Data	
分布	Poisson		
リンク関数	Log		
従属変数	nHome	Home Runs in 1986	
読み込んだオブザーバーション数			
使用されたオブザーバーション数			
欠損値数			
分類変数の水準の情報			
分類	水準	値	
League	2	American National	
適合度評価の基準			
基準	自由度	値	値/自由度
デビアンス	260	1442.0654	5.5464
Scaled デビアンス	260	1442.0654	5.5464
Pearson カイ ² 乗	260	1449.1038	5.5735
Scaled Pearson カイ ² 乗	260	1449.1038	5.5735
対数尤度		4726.6264	
完全対数尤度		-1237.6660	
AIC (小さいほどよい)		2481.3320	
AICC (小さいほどよい)		2481.4247	
BIC (小さいほどよい)		2492.0485	

役割へのデータの割り当て

一般化線形モデルタスクを実行するには、二項分布を除くすべての分布の応答変数役割に列を割り当てる必要があります。二項分布を選択した場合には、単一の応答変数または1組の変数のいずれかをイベント数および試行数役割に割り当てる必要があります。

オプション名	説明
役割	

オプション名	説明
応答	
分布	<p>モデルの分布を指定します。次の分布から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 二項分布。 ■ ガンマ分布。 ■ 逆 Gauss 分布。 ■ 多項分布。 ■ 負の二項分布。 ■ 正規分布。 ■ Poisson 分布。 ■ Tweedie 分布。Tweedie 分布を選択した場合は、Tweedie のべき指数パラメータを指定できます。この値には、0、1、または 1.1 より大きい 3.0 以下の値を使用できます。 ■ Zero-inflated 負の二項分布。 ■ Zero-inflated Poisson 分布。
二項分布のオプション	
応答データはイベント数と試行数を含みます	イベントと試行の応答データからなる対の変数を指定します。
イベント数	イベント数を含む列を指定します。
試行数	試行数を含む列を指定します。
応答	<p>応答値を含む単一の変数を指定します。</p> <p>モデル化するイベントを表す応答変数の値を選択するには、関心のあるイベントオプションを使用します。</p>
<p>注: 応答役割および関心のあるイベントオプションは、応答データはイベント数と試行数を含みますチェックボックスを選択していない場合のみ使用できます。</p>	
すべての分布タイプのオプション	

オプション名	説明
応答	応答データを表す変数を指定します。ほとんどの種類の分布に対して、単一の数値変数を指定します。
リンク関数	モデルのリンク関数を指定します。利用可能な関数は、選択した分布によって異なります。
説明変数	
分類変数	分析でデータのグループ化(分類)に使用する変数を指定します。分類変数は文字でも数値でもかまいません。分類変数は、統計分析またはモデルをその値ではなく、水準で入力する変数です。変数の値を水準に関連付けるプロセスを水準化と呼びます。
効果のパラメータ化	
コーディング	<p>分類変数のパラメータ化方法を指定します。選択したコーディングスキーマに従って、分類変数から設計行列の列が作成されます。</p> <p>次のコーディングスキーマから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Effect coding 効果コーディングを指定します。 ■ GLM coding フルランク未満の参照セルコーディングを指定します。このコーディングスキーマがデフォルトです。 ■ Reference coding 参照セルコーディングを指定します。
欠損値の処理	
	<p>次の条件のいずれかが満たされた場合、オブザベーションは分析対象から除外されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ モデル内の変数に欠損値が含まれる場合 ■ (分類変数がモデルで使用されているかどうかにかかわらず)分類変数に欠損値が含まれる場合
連続変数	回帰分析モデルの独立共変量(回帰変数)を指定します。連続変数を指定しない場合、タスクでは切片のみを使用するモデルの当てはめを行います。

オプション名	説明
オフセット変数	線形予測子に対するオフセットとして使用する変数を指定します。オフセットは、係数が 1 となる効果として働きます。オフセット変数の値が欠損しているオブザベーションは、分析から除外されます。
追加役割	
度数カウント	各オブザベーションの出現度数を表す数値列を指定します。
重み変数	データの重み付き分析を実行する際に重みとして使用する数値列を指定します。
グループ分析	BY 変数として使用する列を指定します。

モデルの構築

モデル構築の要件

デフォルトでは、効果が指定されていないため、切片のみのモデルの当てはめが行われます。効果を指定するには、**分類変数役割**または**連続変数役割**に少なくとも 1 つの変数を割り当てる必要があります。変数の組み合わせを選択し、クロス、ネスト、組み合わせまたは多項式の各効果を作成できます。

モデルを作成するには、**モデルタブ**で**モデルビルダ**を使用します。モデルを作成したら、モデルに切片を含めるかどうかを指定できます。

主効果の作成

- 1 変数ボックスで変数名を選択します。
- 2 列の追加をクリックして、**モデル効果**ボックスに変数を追加します。

クロス効果(相互作用)の作成

- 1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。複数の変数を選択するには、Ctrl キーを押します。

2 クロスをクリックします。

ネストされた効果の作成

ネストされた効果は、主効果またはクロス効果に続けて、分類変数または分類変数のリストをかっこで囲んで指定します。主効果またはクロス効果は、かっこ内にリストされた効果内にネストされます。ネストされた効果の例としては、 $B(A)$ 、 $C(B^*A)$ 、 $D^*E(C^*B^*A)$ などがあります。この例で $B(A)$ は、"A は B 内にネストされる"と読みます。

1 モデル効果ボックスで、効果名を選択します。

2 Nest をクリックします。Nested ウィンドウが開きます。

3 ネストされた効果で使用する変数を選択します。外側または外側内でネスト化をクリックし、ネストされた効果の作成方法を指定します。

注: 外側内でネスト化ボタンは、分類変数が選択されている場合にのみ使用できます。

4 追加をクリックします。

すべての組み合わせモデルの作成

1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

2 すべての組み合わせをクリックします。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、すべての組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight、Age*Height*Weight が作成されます。

N 元の組み合わせの作成

1 変数ボックスで 2 つ以上の変数を選択します。

2 N 元の組み合わせをクリックして、モデル効果ボックスにこれらの効果を追加します。

たとえば、Height、Weight および Age 変数を選択し、N の値として 2 を指定し、N 元の組み合わせをクリックすると、モデル効果として Age、Height、Weight、Age*Height、Age*Weight、Height*Weight が作成されます。N がモデル内の変数の数より大きな値に設定されている場合、事実上 N は変数の数に設定されます。

N 次の多項式効果の作成

- 1 変数ボックスで 1 つの変数を選択します。
- 2 N フィールドの数値を調整して、高次クロスを指定します。
- 3 多項式の次数 = N をクリックして、モデル効果ボックスに多項式効果を追加します。

たとえば、Age および Height 変数を選択し、N フィールドで 3 を指定して、**多項式の次数 = N** をクリックすると、モデル効果として Age、Age*Age、Age*Age*Age、Height、Height*Height、Height*Height*Height が作成されます。

Zero-Inflated モデルのモデル効果の指定

これらのオプションは、データタブで、分布として **Zero-inflated 負の二項分布**または **Zero-inflated Poisson 分布**を選択した場合に使用できます。

次の中から作成するモデルの種類を選択する必要があります。

- 切片のみのモデル。
- 主要なモデルから効果を追加したモデル。モデルビルダを使用して、これらのモデル効果を定義します。
- カスタムモデル。これらの効果は、**Enter a custom model** テキストボックスで指定します。複数の効果を指定する場合は、各効果の間にスペースを挿入します。

zero-inflated モデルに効果を追加することを選択する場合は、これらの効果のリンク関数を指定してください。

オプションの設定

オプション	説明
手法	
分散	

オプション	説明
過分散調整	<p>パラメータの共分散行列および尤度関数を尺度パラメータにより調整します。分散パラメータには、Pearson 推定または逸脱推定を選択できます。Pearson および逸脱のカイ²乗適合度検定の計算に使用する部分母集団を定義するには、1つ以上の変数をその役割に割り当てます。</p> <p>注: このオプションは、二項分布および多項分布のみで使用できます。</p>
分散パラメーターを推定する	<p>分散パラメータを持つ分布に、固定の分散パラメータを指定できます。このパラメータは、デフォルトでは推定されます。</p> <p>注: このオプションは、二項分布および多項分布では使用できませんが、他の種類の分布では使用できます。</p>
最適化	
最大反復回数	選択した最適化法で実行する最大反復回数を指定します。
統計量	
<p>出力に含める統計量を選択できます。</p> <p>含めることができる追加統計量を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ type 1 (逐次)分析 ■ type 3 分析 ■ Type 3 の対比に関する Wald 統計量 ■ プロファイル尤度信頼区間および Wald 信頼区間などの信頼区間 ■ パラメータ推定値の相関 ■ パラメータ推定値の共分散 ■ 影響度診断、予測値、信頼区間、残差などのオブザベーション統計量 ■ 分類効果の多重比較 ■ ロジットリンク関数を使用した二項分布または対数リンク関数を使用した Poisson 分布のみで使用可能な正確検定 	
Plots	

オプション	説明
出力に表示するプロットを選択できます。複数のプロットの表示を選択する場合、これらのプロットを個別または1つのパネルとして表示できます。	

結果に追加できるいくつかのプロットを次に示します。

- 予測プロット
- オブザベーションの数による Cook の D およびオブザベーションの数による DFBETA などの影響度プロット
- 残差、逸脱度残差、標準化された逸脱度残差、Pearson 残差、標準化された Pearson 残差、尤度残差のプロット

出力オプションの設定

出力データセットを作成するかどうかを指定できます。出力データセットに含める値を指定することもできます。出力データセットには、線形予測子の予測値、残差、影響統計量、標準誤差を含めることができます。

付録 1

タスク用入力データセットの例

タスクのデータセットについて	381
<i>FITNESS</i> データセット	382
<i>GETSTARTED</i> データセット	383
<i>GREENE</i> データセット	385
<i>IN</i> データセット	385
<i>LONG97DATA</i> データセット	386
<i>MROZ</i> データセット	406

タスクのデータセットについて

タスクドキュメント内の例を実行する際に、1つ以上のデータセットを作成することが必要になる場合があります。この付録では、必要な SAS コードを提供します。これらのデータセットを作成するには、このコードを(HTML バージョンの *SAS Studio*: ユーザーガイドから)*SAS Studio* のプログラムタブにコピーアンドペーストし、 をクリックします。

FITNESS データセット

FITNESS データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```
data Fitness;
  input Age Weight Oxygen RunTime @@;
  datalines;
44 89.47 44.609 11.37
40 75.07 45.313 10.07
44 85.84 54.297 8.65
42 68.15 59.571 8.17
38 89.02 49.874 .
47 77.45 44.811 11.63
40 75.98 45.681 11.95
43 81.19 49.091 10.85
44 81.42 39.442 13.08
38 81.87 60.055 8.63
44 73.03 50.541 10.13
45 87.66 37.388 14.03
45 66.45 44.754 11.12
47 79.15 47.273 10.60
54 83.12 51.855 10.33
49 81.42 49.156 8.95
51 69.63 40.836 10.95
51 77.91 46.672 10.00
48 91.63 46.774 10.25
49 73.37 . 10.08
57 73.37 39.407 12.63
54 79.38 46.080 11.17
52 76.32 45.441 9.63
50 70.87 54.625 8.92
51 67.25 45.118 11.08
54 91.63 39.203 12.88
51 73.71 45.790 10.47
57 59.08 50.545 9.93
49 76.32 .
48 61.24 47.920 11.50
52 82.78 47.467 10.50
;
```

GETSTARTED データセット

GETSTARTED データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```
data getStarted;
  input C1-C5 Y Total;
  datalines;
0 3 1 1 3 2 28.361
2 3 0 3 1 2 39.831
1 3 2 2 2 1 17.133
1 2 0 0 3 2 12.769
0 2 1 0 1 1 29.464
0 2 1 0 2 1 4.152
1 2 1 0 1 0 0.000
0 2 1 1 2 1 20.199
1 2 0 0 1 0 0.000
0 1 1 3 3 2 53.376
2 2 2 2 1 1 31.923
0 3 2 0 3 2 37.987
2 2 2 0 0 1 1.082
0 2 0 2 0 1 6.323
1 3 0 0 0 0 0.000
1 2 1 2 3 2 4.217
0 1 2 3 1 1 26.084
1 1 0 0 1 0 0.000
1 3 2 2 2 0 0.000
2 1 3 1 1 2 52.640
1 3 0 1 2 1 3.257
2 0 2 3 0 5 88.066
2 2 2 1 0 1 15.196
3 1 3 1 0 1 11.955
3 1 3 1 2 3 91.790
3 1 1 2 3 7 232.417
3 1 1 1 0 1 2.124
3 1 0 0 0 2 32.762
3 1 2 3 0 1 25.415
2 2 0 1 2 1 42.753
3 3 2 2 3 1 23.854
2 0 0 2 3 2 49.438
1 0 0 2 3 4 105.449
0 0 2 3 0 6 101.536
0 3 1 0 0 0 0.000
3 0 1 0 1 1 5.937
```

384 付録1 / タスク用入力データセットの例

2	0	0	0	3	2	53.952
1	0	1	0	3	2	23.686
1	1	3	1	1	1	0.287
2	1	3	0	3	7	281.551
1	3	2	1	1	0	0.000
2	1	0	0	1	0	0.000
0	0	1	1	2	3	93.009
0	1	0	1	0	2	25.055
1	2	2	2	3	1	1.691
0	3	2	3	1	1	10.719
3	3	0	3	3	1	19.279
2	0	0	2	1	2	40.802
2	2	3	0	3	3	72.924
0	2	0	3	0	1	10.216
3	0	1	2	2	2	87.773
2	1	2	3	1	0	0.000
3	2	0	3	1	0	0.000
3	0	3	0	0	2	62.016
1	3	2	2	1	3	36.355
2	3	2	0	3	1	23.190
1	0	1	2	1	1	11.784
2	1	2	2	2	5	204.527
3	0	1	1	2	5	115.937
0	1	1	3	2	1	44.028
2	2	1	3	1	4	52.247
1	1	0	0	1	1	17.621
3	3	1	2	1	2	10.706
2	2	0	2	3	3	81.506
0	1	0	0	2	2	81.835
0	1	2	0	1	2	20.647
3	2	2	2	0	1	3.110
2	2	3	0	0	1	13.679
1	2	2	3	2	1	6.486
3	3	2	2	1	2	30.025
0	0	3	1	3	6	202.172
3	2	3	1	2	3	44.221
0	3	0	0	0	1	27.645
3	3	3	0	3	2	22.470
2	3	2	0	2	0	0.000
1	3	0	2	0	1	1.628
1	3	1	0	2	0	0.000
3	2	3	3	0	1	20.684
3	1	0	2	0	4	108.000
0	1	2	2	1	1	4.615
0	2	3	2	2	1	12.461
0	3	2	0	1	3	53.798
2	1	1	2	0	1	36.320

```

1 0 3 0 0 0 0.000
0 0 3 2 0 1 19.902
0 2 3 1 0 0 0.000
2 2 2 1 3 2 31.815
3 3 3 0 0 0 0.000
2 2 1 3 3 2 17.915
0 2 3 2 3 2 69.315
1 3 1 2 1 0 0.000
3 0 1 1 1 4 94.050
2 1 1 1 3 6 242.266
0 2 0 3 2 1 40.885
2 0 1 1 2 2 74.708
2 2 2 2 3 2 50.734
1 0 2 2 1 3 35.950
1 3 3 1 1 1 2.777
3 1 2 1 3 5 118.065
0 3 2 1 2 0 0.000
;

```

GREENE データセット

GREENE データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```

data greene;
  input firm year production cost @@;
datalines;
1 1955 5.36598 1.14867 1 1960 6.03787 1.45185
1 1965 6.37673 1.52257 1 1970 6.93245 1.76627
2 1955 6.54535 1.35041 2 1960 6.69827 1.71109
2 1965 7.40245 2.09519 2 1970 7.82644 2.39480
3 1955 8.07153 2.94628 3 1960 8.47679 3.25967
;

```

IN データセット

IN データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```

data in;
  label q = "Quantity"
    p = "Price"
    s = "Price of Substitutes"

```

386 付録1 / タスク用入力データセットの例

```
y = "Income"
u = "Unit Cost";
drop i e1 e2;
p = 0; q = 0;
do i = 1 to 60;
  y = 1 + .05*i + .15*rannor(123);
  u = 2           + .05*rannor(123) + .05*rannor(123);
  s = 4 - .001*(i-10)*(i-110) + .5*rannor(123);
  e1 = .15 * rannor(123);
  e2 = .15 * rannor(123);
  demandx = 1 + .3 * y + .35 * s + e1;
  supplyx = -1 - 1 * u + e2 - .4*e1;
  q = 1.4/2.15 * demandx + .75/2.15 * supplyx;
  p = ( - q + supplyx ) / -1.4;
  output;
end;
run;
```

LONG97DATA データセット

IN データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```
data long97data;
  input fem ment phd mar kid5 art lnart;
datalines;
0 7.99999860 1.38000000 1 2 3 1.25276290
0 6.99999950 4.29000000 0 0 0 -0.69314720
0 47.00000760 3.84999990 0 0 4 1.50407740
0 19.00000190 3.58999990 1 1 1 0.40546510
0 0.00000000 1.80999990 1 0 1 0.40546510
0 6.00000050 3.58999990 1 1 1 0.40546510
0 9.99999900 2.11999990 1 1 0 -0.69314720
0 1.99999990 4.29000000 1 0 0 -0.69314720
0 1.99999990 2.57999990 1 2 3 1.25276290
0 3.99999900 1.80000000 1 1 3 1.25276290
0 0.00000000 4.29000000 1 2 1 0.40546510
0 3.00000000 2.76000000 1 1 0 -0.69314720
0 9.99999900 3.41000010 1 1 1 0.40546510
0 6.99999950 4.34000020 1 3 2 0.91629080
0 15.00000100 3.84999990 1 2 5 1.70474800
0 1.99999990 2.09999990 1 0 2 0.91629080
0 13.00000000 4.29000000 1 0 2 0.91629080
0 15.00000100 4.29000000 0 0 1 0.40546510
0 4.99999810 2.26000000 1 1 0 -0.69314720
```

0	6.00000050	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
0	12.00000000	2.26000000	1	0	3	1.25276290
0	15.99999810	3.84999990	1	1	6	1.87180220
0	6.99999950	4.29000000	0	0	4	1.50407740
0	6.00000050	1.80000000	1	2	2	0.91629080
0	1.99999990	2.26000000	0	0	2	0.91629080
0	0.00000000	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
0	30.00000190	4.29000000	1	0	4	1.50407740
0	9.99999900	4.29000000	1	2	1	0.40546510
0	1.99999990	2.09999990	1	0	1	0.40546510
0	0.99999990	3.58999990	1	0	7	2.01490310
0	3.00000000	3.42000010	1	1	2	0.91629080
0	9.99999900	4.29000000	1	2	2	0.91629080
0	9.99999900	4.29000000	0	0	2	0.91629080
0	0.99999990	3.33999990	1	2	0	-0.69314720
0	1.99999990	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	10.99999710	4.29000000	1	0	1	0.40546510
0	4.99999810	3.61999990	1	0	4	1.50407740
0	0.00000000	4.29000000	1	3	1	0.40546510
0	3.99999900	4.34000020	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	1.25000000	1	1	2	0.91629080
0	19.00000190	4.34000020	0	0	7	2.01490310
0	3.00000000	1.67000000	1	3	1	0.40546510
0	0.00000000	3.47000000	0	0	0	-0.69314720
0	0.99999990	2.26000000	1	1	1	0.40546510
0	0.99999990	1.80000000	1	0	1	0.40546510
0	17.00000000	4.34000020	1	2	2	0.91629080
0	3.00000000	3.58999990	0	0	2	0.91629080
0	0.99999990	1.75000000	1	2	1	0.40546510
0	6.00000050	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	15.00000100	4.29000000	1	2	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	26.99999810	3.31999990	1	2	2	0.91629080
0	4.99999810	4.34000020	1	0	2	0.91629080
0	6.99999950	3.41000010	0	0	4	1.50407740
0	0.00000000	4.29000000	1	0	1	0.40546510
0	10.99999710	3.19000010	1	0	2	0.91629080
0	13.00000000	4.29000000	1	0	2	0.91629080
0	3.99999900	1.74000000	1	2	1	0.40546510
0	3.99999900	2.76000000	0	0	1	0.40546510
0	26.99999810	3.58999990	1	1	7	2.01490310
0	9.99999900	1.80999990	1	0	4	1.50407740
0	13.00000000	4.29000000	1	1	2	0.91629080
0	0.99999990	4.29000000	1	1	1	0.40546510
0	6.00000050	2.76000000	0	0	1	0.40546510
0	6.00000050	3.47000000	0	0	6	1.87180220

388 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	4.99999810	2.50000000	1	2	2	0.91629080
0	1.99999990	1.25000000	1	0	5	1.70474800
0	13.99999710	3.58999990	1	1	3	1.25276290
0	0.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	12.00000000	3.58999990	1	0	1	0.40546510
0	6.99999950	3.58999990	1	3	0	-0.69314720
0	3.00000000	1.75000000	1	0	1	0.40546510
0	1.99999990	1.75000000	1	2	1	0.40546510
0	1.99999990	3.58999990	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.60999990	1	0	3	1.25276290
0	30.00000190	4.29000000	1	0	5	1.70474800
0	21.00000000	1.74000000	1	0	16	2.80336050
0	4.99999810	2.76000000	1	0	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	2.76000000	1	2	1	0.40546510
0	25.00000000	4.29000000	1	2	3	1.25276290
0	0.00000000	3.47000000	1	1	5	1.70474800
0	4.99999810	2.57999990	1	2	0	-0.69314720
0	0.99999990	2.14000010	1	0	0	-0.69314720
0	4.99999810	2.26000000	0	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	4.29000000	1	2	3	1.25276290
0	15.00000100	4.29000000	1	0	3	1.25276290
0	30.00000190	4.29000000	0	0	3	1.25276290
0	1.99999990	2.20000000	1	0	0	-0.69314720
0	6.00000050	1.80000000	1	2	3	1.25276290
0	0.00000000	2.09999990	1	2	1	0.40546510
0	13.00000000	4.29000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	12.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	30.00000190	4.29000000	1	2	2	0.91629080
0	4.99999810	1.80999990	1	1	1	0.40546510
0	9.99999900	4.34000020	1	0	1	0.40546510
0	4.99999810	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
0	3.99999900	2.50000000	1	2	1	0.40546510
0	13.00000000	2.05000000	1	2	4	1.50407740
0	7.99999860	3.47000000	1	0	3	1.25276290
0	6.00000050	2.60999990	1	1	1	0.40546510
0	6.00000050	4.29000000	1	2	1	0.40546510
0	25.00000000	4.29000000	0	0	2	0.91629080
0	1.99999990	4.29000000	1	1	2	0.91629080
0	9.00000000	4.34000020	1	0	6	1.87180220
0	9.99999900	2.11999990	1	1	0	-0.69314720
0	3.00000000	2.76000000	1	0	2	0.91629080
0	1.99999990	4.29000000	1	2	0	-0.69314720

0	0.00000000	2.50000000	1	0	1	0.40546510
0	6.00000050	4.34000020	1	0	5	1.70474800
0	7.99999860	2.76000000	1	1	2	0.91629080
0	9.99999900	3.19000010	1	1	2	0.91629080
0	7.99999860	4.61999990	0	0	3	1.25276290
0	6.00000050	3.15000010	1	2	0	-0.69314720
0	21.00000000	2.55000000	1	1	4	1.50407740
0	3.99999900	1.52000000	1	0	0	-0.69314720
0	1.99999990	1.72000000	1	2	4	1.50407740
0	0.99999990	1.78000000	1	1	2	0.91629080
0	17.00000000	2.85999990	1	1	1	0.40546510
0	30.00000190	4.61999990	1	2	0	-0.69314720
0	4.99999810	4.13999990	0	0	1	0.40546510
0	13.00000000	2.96000000	1	1	6	1.87180220
0	10.99999710	2.55000000	1	0	1	0.40546510
0	19.00000190	2.21000000	1	1	0	-0.69314720
0	4.99999810	3.08999990	1	0	3	1.25276290
0	66.00000760	4.54000000	1	2	4	1.50407740
0	0.00000000	1.78000000	1	0	3	1.25276290
0	3.00000000	2.21000000	1	3	0	-0.69314720
0	3.00000000	2.39000010	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.96000000	1	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	2.51000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.00000000	1.97000000	1	2	2	0.91629080
0	4.99999810	4.13999990	0	0	0	-0.69314720
0	29.00000000	4.25000000	1	1	4	1.50407740
0	10.99999710	2.85999990	1	2	0	-0.69314720
0	22.99999620	2.96000000	1	1	9	2.25129180
0	45.99999240	2.96000000	1	2	2	0.91629080
0	7.99999860	4.61999990	1	1	6	1.87180220
0	4.99999810	3.69000010	1	2	0	-0.69314720
0	0.99999990	3.15000010	1	1	0	-0.69314720
0	9.00000000	4.61999990	0	0	2	0.91629080
0	1.99999990	3.35999990	1	0	0	-0.69314720
0	6.99999950	3.69000010	0	0	4	1.50407740
0	10.99999710	3.54000000	1	0	1	0.40546510
0	56.99999620	2.96000000	1	1	4	1.50407740
0	15.99999810	2.55999990	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.31999990	1	0	0	-0.69314720
0	3.00000000	2.31999990	1	0	0	-0.69314720
0	0.99999990	0.92000000	1	2	0	-0.69314720
0	9.99999900	4.54000000	1	0	0	-0.69314720
0	10.99999710	4.54000000	1	3	0	-0.69314720
0	10.99999710	1.76000000	1	1	5	1.70474800
0	15.99999810	2.55999990	0	0	1	0.40546510
0	4.99999810	2.39000010	1	1	0	-0.69314720
0	9.00000000	3.40000010	1	0	2	0.91629080

390 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	19.99999620	2.86999990	1	2	2	0.91629080
0	21.00000000	4.54000000	1	2	4	1.50407740
0	4.99999810	2.82999990	1	0	4	1.50407740
0	6.00000050	1.67999990	1	0	0	-0.69314720
0	12.00000000	3.54000000	0	0	3	1.25276290
0	0.00000000	1.76000000	1	0	2	0.91629080
0	10.99999710	3.15000010	1	3	1	0.40546510
0	3.00000000	2.51000000	1	0	0	-0.69314720
0	15.99999810	3.69000010	1	1	0	-0.69314720
0	10.99999710	1.76000000	1	1	4	1.50407740
0	4.99999810	1.86000000	1	1	12	2.52572870
0	0.99999990	2.76000000	1	3	0	-0.69314720
0	15.99999810	4.61999990	1	1	1	0.40546510
0	12.00000000	4.25000000	1	0	5	1.70474800
0	10.99999710	2.54000000	1	0	4	1.50407740
0	0.00000000	2.20000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.00000000	1.76000000	1	0	2	0.91629080
0	3.00000000	2.85999990	1	3	3	1.25276290
0	13.00000000	3.40000010	1	2	0	-0.69314720
0	45.00000000	4.54000000	1	1	1	0.40546510
0	47.00000760	1.86000000	1	1	9	2.25129180
0	6.99999950	1.52000000	1	0	0	-0.69314720
0	6.99999950	2.55999990	1	1	2	0.91629080
0	19.00000190	2.21000000	1	0	0	-0.69314720
0	9.00000000	3.69000010	1	0	7	2.01490310
0	76.99998470	1.78000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	1.17999990	1	1	0	-0.69314720
0	3.99999900	2.00000000	1	0	1	0.40546510
0	19.00000190	2.21000000	1	0	0	-0.69314720
0	12.00000000	4.13999990	1	2	0	-0.69314720
0	0.99999990	2.85999990	1	3	0	-0.69314720
0	17.00000000	2.85999990	1	1	1	0.40546510
0	6.00000050	2.54000000	0	0	7	2.01490310
0	3.99999900	2.85999990	1	1	0	-0.69314720
0	6.00000050	2.52000000	0	0	4	1.50407740
0	3.00000000	1.52000000	1	1	2	0.91629080
0	4.99999810	3.08999990	1	1	3	1.25276290
0	3.00000000	1.17999990	1	1	0	-0.69314720
0	3.00000000	1.42000000	1	0	0	-0.69314720
0	15.00000100	4.61999990	0	0	7	2.01490310
0	0.00000000	2.96000000	1	2	1	0.40546510
0	9.99999900	4.54000000	0	0	2	0.91629080
0	41.99999620	4.54000000	0	0	7	2.01490310
0	3.00000000	2.51000000	1	2	1	0.40546510
0	6.99999950	3.15000010	1	1	2	0.91629080
0	0.00000000	2.50000000	1	0	1	0.40546510
0	6.00000050	2.96000000	1	3	1	0.40546510

0	3.99999900	1.67999990	1	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	1.22000000	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	1.52000000	1	0	1	0.40546510
0	4.99999810	2.21000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.99999990	3.92000010	1	1	0	-0.69314720
0	13.00000000	4.54000000	1	0	5	1.70474800
0	0.00000000	1.17999990	1	0	2	0.91629080
0	26.00000000	3.69000010	1	0	3	1.25276290
0	0.99999990	1.72000000	1	0	2	0.91629080
0	25.00000000	2.57999990	1	1	5	1.70474800
0	3.00000000	1.52000000	0	0	3	1.25276290
0	47.00000760	1.86000000	1	1	4	1.50407740
0	3.99999900	2.50000000	1	0	5	1.70474800
0	0.99999990	4.61999990	1	0	1	0.40546510
0	6.99999950	1.40000000	1	2	0	-0.69314720
0	4.99999810	4.54000000	1	0	3	1.25276290
0	26.99999810	1.67999990	1	1	0	-0.69314720
0	0.99999990	2.82999990	1	0	2	0.91629080
0	4.99999810	3.35999990	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	1.97000000	1	1	7	2.01490310
0	12.00000000	3.40000010	0	0	1	0.40546510
0	3.99999900	1.74000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.96000000	0	0	0	-0.69314720
0	25.00000000	2.57999990	1	1	4	1.50407740
0	3.00000000	4.54000000	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	3.15000010	1	1	0	-0.69314720
0	12.00000000	2.96000000	1	2	0	-0.69314720
0	15.99999810	3.54000000	1	2	2	0.91629080
0	4.99999810	2.96000000	1	1	3	1.25276290
0	12.00000000	4.25000000	1	0	1	0.40546510
0	4.99999810	2.55999990	1	1	2	0.91629080
0	4.99999810	1.86000000	1	0	1	0.40546510
0	3.00000000	4.61999990	1	1	1	0.40546510
0	3.99999900	2.85999990	0	0	2	0.91629080
0	4.99999810	3.15000010	1	1	5	1.70474800
0	0.00000000	2.51000000	1	0	2	0.91629080
0	26.99999810	3.15000010	1	1	5	1.70474800
0	4.99999810	2.51000000	1	0	2	0.91629080
0	0.00000000	1.52000000	1	1	0	-0.69314720
0	17.99999810	4.29000000	0	0	6	1.87180220
0	4.99999810	4.29000000	1	1	4	1.50407740
0	7.99999860	4.29000000	1	2	2	0.91629080
0	3.99999900	2.09999990	1	0	2	0.91629080
0	35.00000760	4.29000000	1	1	12	2.52572870
0	4.99999810	4.29000000	0	0	2	0.91629080
0	9.00000000	3.58999990	1	1	1	0.40546510
0	6.00000050	4.29000000	1	0	1	0.40546510

392 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	24.00000190	4.29000000	1	0	2	0.91629080
0	0.00000000	2.09999990	1	1	0	-0.69314720
0	4.99999810	1.80999990	1	1	0	-0.69314720
0	19.00000190	4.29000000	0	0	7	2.01490310
0	3.00000000	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	1.99999990	4.29000000	1	1	1	0.40546510
0	3.99999900	1.25000000	1	0	3	1.25276290
0	9.99999900	3.58999990	1	0	1	0.40546510
0	7.99999860	2.09999990	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	4.29000000	1	0	4	1.50407740
0	19.00000190	4.29000000	1	1	3	1.25276290
0	0.99999990	3.47000000	1	1	1	0.40546510
0	3.00000000	3.19000010	1	0	1	0.40546510
0	4.99999810	3.19000010	1	2	1	0.40546510
0	0.00000000	2.09999990	1	0	1	0.40546510
0	21.00000000	3.58999990	1	1	5	1.70474800
0	13.99999710	4.29000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.09999990	1	0	0	-0.69314720
0	6.99999950	2.76000000	1	1	1	0.40546510
0	4.99999810	2.60999990	1	0	3	1.25276290
0	22.00000000	4.29000000	1	0	4	1.50407740
0	19.99999620	3.41000010	0	0	7	2.01490310
0	38.00000380	4.29000000	1	0	3	1.25276290
0	19.00000190	4.29000000	0	0	4	1.50407740
0	3.00000000	2.26000000	0	0	2	0.91629080
0	15.99999810	3.58999990	0	0	3	1.25276290
0	1.99999990	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
0	3.00000000	2.05000000	0	0	1	0.40546510
0	12.00000000	4.29000000	1	2	1	0.40546510
0	35.00000760	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	19.00000190	4.29000000	1	0	0	-0.69314720
0	1.99999990	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	6.99999950	2.76000000	0	0	1	0.40546510
0	3.99999990	2.09999990	1	2	3	1.25276290
0	13.99999710	2.35999990	0	0	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	3.58999990	0	0	0	-0.69314720
0	12.00000000	4.29000000	1	1	2	0.91629080
0	3.00000000	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.99999990	4.29000000	1	0	1	0.40546510
0	9.99999900	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	21.00000000	3.41000010	0	0	4	1.50407740
0	13.00000000	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
0	17.00000000	4.29000000	1	0	2	0.91629080
0	4.99999810	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	1.99999990	2.14000010	0	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	4.29000000	1	0	0	-0.69314720

0	1.99999990	2.50000000	1	1	2	0.91629080
0	4.99999810	2.60999990	1	1	3	1.25276290
0	0.99999990	1.80999990	1	2	0	-0.69314720
0	1.99999990	2.26000000	1	1	0	-0.69314720
0	3.99999900	3.61999990	1	2	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	1	2	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
0	17.00000000	4.29000000	0	0	2	0.91629080
0	24.00000190	4.29000000	1	2	0	-0.69314720
0	3.99999900	3.47000000	1	0	4	1.50407740
0	13.99999710	4.29000000	1	1	2	0.91629080
0	4.99999810	3.58999990	1	1	1	0.40546510
0	9.99999900	1.80999990	0	0	1	0.40546510
0	17.99999810	4.29000000	1	1	3	1.25276290
0	0.99999990	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.09999990	1	0	1	0.40546510
0	3.99999900	2.15000010	1	2	0	-0.69314720
0	7.99999860	4.29000000	1	0	0	-0.69314720
0	0.99999990	2.26000000	1	0	1	0.40546510
0	7.99999860	4.29000000	1	0	0	-0.69314720
0	13.00000000	4.29000000	1	2	0	-0.69314720
0	4.99999810	3.58999990	1	2	0	-0.69314720
0	6.99999950	3.41000010	1	2	0	-0.69314720
0	6.99999950	3.58999990	0	0	3	1.25276290
0	4.99999810	3.61999990	1	1	3	1.25276290
0	0.00000000	2.09999990	1	3	1	0.40546510
0	13.99999710	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	6.00000050	4.29000000	1	0	0	-0.69314720
0	4.99999810	2.26000000	1	1	1	0.40546510
0	7.99999860	2.76000000	1	0	3	1.25276290
0	3.99999900	2.60999990	1	1	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	0	0	2	0.91629080
0	3.00000000	2.09999990	1	1	2	0.91629080
0	1.99999990	3.47000000	1	1	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
0	10.99999710	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	9.00000000	4.29000000	0	0	1	0.40546510
0	7.99999860	2.96000000	1	0	1	0.40546510
0	1.99999990	2.96000000	1	0	2	0.91629080
0	17.99999810	4.61999990	1	0	3	1.25276290
0	3.00000000	1.42000000	1	0	3	1.25276290
0	1.99999990	4.54000000	1	0	1	0.40546510
0	6.99999950	2.52000000	1	0	0	-0.69314720
0	9.99999900	4.54000000	1	1	2	0.91629080
0	15.99999810	2.00000000	1	1	1	0.40546510
0	4.99999810	2.54000000	1	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.50000000	1	0	2	0.91629080

394 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	7.99999860	4.54000000	0	0	0	-0.69314720
0	9.99999900	3.35999990	0	0	1	0.40546510
0	17.99999810	3.40000010	1	1	0	-0.69314720
0	12.00000000	1.67999990	1	1	1	0.40546510
0	9.00000000	2.00000000	0	0	1	0.40546510
0	39.00000000	2.85999990	1	0	1	0.40546510
0	17.99999810	4.61999990	1	0	1	0.40546510
0	15.00000100	4.13999990	1	0	1	0.40546510
0	15.99999810	4.13999990	1	0	2	0.91629080
0	1.99999990	2.96000000	0	0	0	-0.69314720
0	6.99999950	2.82999990	1	2	3	1.25276290
0	24.00000190	2.55000000	1	0	2	0.91629080
0	7.99999860	1.67999990	1	0	1	0.40546510
0	6.99999950	2.00000000	0	0	1	0.40546510
0	10.99999710	2.00000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.96000000	1	1	4	1.50407740
0	3.99999900	1.50500000	1	0	4	1.50407740
0	21.00000000	3.54000000	1	0	2	0.91629080
0	6.00000050	3.40000010	0	0	1	0.40546510
0	6.00000050	4.61999990	0	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	2.82999990	0	0	3	1.25276290
0	3.99999900	2.54000000	1	0	1	0.40546510
0	12.00000000	2.86999990	0	0	1	0.40546510
0	15.00000100	1.86000000	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	3.92000010	1	1	1	0.40546510
0	4.99999810	3.69000010	1	1	1	0.40546510
0	15.00000100	2.85999990	1	2	4	1.50407740
0	4.99999810	4.54000000	0	0	0	-0.69314720
0	7.99999860	4.61999990	0	0	0	-0.69314720
0	13.00000000	2.85999990	1	1	0	-0.69314720
0	1.99999990	3.40000010	0	0	1	0.40546510
0	6.00000050	2.57999990	1	2	4	1.50407740
0	19.99999620	4.25000000	1	0	3	1.25276290
0	6.99999950	1.76000000	1	1	2	0.91629080
0	6.99999950	2.85999990	1	3	0	-0.69314720
0	15.99999810	3.69000010	1	2	4	1.50407740
0	13.00000000	3.40000010	1	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	3.40000010	1	2	0	-0.69314720
0	0.99999990	4.54000000	1	2	0	-0.69314720
0	12.00000000	2.86999990	0	0	3	1.25276290
0	6.99999950	1.76000000	1	0	4	1.50407740
0	3.99999900	4.25000000	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	3.92000010	0	0	3	1.25276290
0	3.99999900	3.35999990	1	0	2	0.91629080
0	3.99999900	2.31999990	1	0	1	0.40546510
0	36.99999240	4.54000000	0	0	2	0.91629080
0	22.99999620	3.35999990	1	1	0	-0.69314720

0	7.99999860	2.00000000	1	3	2	0.91629080
0	7.99999860	3.92000010	1	1	1	0.40546510
0	1.99999990	3.92000010	0	0	1	0.40546510
0	0.00000000	3.35999990	0	0	1	0.40546510
0	0.99999990	1.78000000	1	0	1	0.40546510
0	21.00000000	3.54000000	1	1	1	0.40546510
0	9.99999900	3.92000010	0	0	2	0.91629080
0	7.99999860	2.31999990	0	0	3	1.25276290
0	33.99999240	1.67999990	1	0	1	0.40546510
0	13.99999710	3.08999990	0	0	2	0.91629080
0	6.00000050	2.57999990	1	1	0	-0.69314720
0	13.99999710	3.40000010	0	0	6	1.87180220
0	12.00000000	2.86999990	0	0	3	1.25276290
0	17.99999810	4.61999990	0	0	4	1.50407740
0	3.00000000	2.96000000	1	3	0	-0.69314720
0	6.00000050	1.86000000	1	2	2	0.91629080
0	1.99999990	1.22000000	1	1	0	-0.69314720
0	10.99999710	2.51000000	1	2	6	1.87180220
0	10.99999710	2.51000000	1	0	8	2.14006610
0	4.99999810	3.69000010	1	0	2	0.91629080
0	7.99999860	2.96000000	1	0	3	1.25276290
0	3.99999900	1.78000000	1	0	1	0.40546510
0	0.99999990	1.22000000	1	1	1	0.40546510
0	7.99999860	2.85999990	1	0	0	-0.69314720
0	19.00000190	3.69000010	0	0	7	2.01490310
0	1.99999990	2.11999990	0	0	0	-0.69314720
0	9.99999900	2.52000000	1	1	2	0.91629080
0	3.99999900	2.31999990	1	0	1	0.40546510
0	3.00000000	4.61999990	1	0	2	0.91629080
0	1.99999990	3.54000000	1	2	4	1.50407740
0	0.99999990	2.50000000	1	0	0	-0.69314720
0	4.99999810	1.67999990	0	0	0	-0.69314720
0	1.99999990	3.40000010	1	1	1	0.40546510
0	4.99999810	3.92000010	0	0	0	-0.69314720
0	52.99998090	4.54000000	1	1	5	1.70474800
0	54.99998860	4.54000000	0	0	2	0.91629080
0	0.00000000	2.50000000	0	0	0	-0.69314720
0	10.99999710	4.54000000	1	0	2	0.91629080
0	25.00000000	3.54000000	0	0	3	1.25276290
0	4.99999810	1.52000000	1	0	2	0.91629080
0	1.99999990	3.92000010	1	2	0	-0.69314720
0	7.99999860	4.61999990	1	0	2	0.91629080
0	0.00000000	3.92000010	1	0	3	1.25276290
0	4.99999810	2.31999990	1	2	0	-0.69314720
0	7.99999860	2.96000000	1	2	2	0.91629080
0	6.99999950	2.85999990	1	2	1	0.40546510
0	13.99999710	1.95000000	1	1	3	1.25276290

396 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	1.99999990	3.92000010	1	2	1	0.40546510
0	4.99999810	2.86999990	0	0	1	0.40546510
0	24.00000190	3.69000010	1	0	3	1.25276290
0	3.00000000	3.69000010	1	0	0	-0.69314720
0	3.99999900	2.39000010	0	0	2	0.91629080
0	3.00000000	1.95000000	1	2	3	1.25276290
0	10.99999710	3.35999990	0	0	5	1.70474800
0	3.99999900	2.39000010	1	1	2	0.91629080
0	26.00000000	3.69000010	0	0	2	0.91629080
0	3.99999900	2.96000000	1	1	5	1.70474800
0	1.99999990	3.21000000	1	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.11999990	1	2	0	-0.69314720
0	52.99998090	4.54000000	1	1	2	0.91629080
0	3.99999900	2.31999990	1	0	3	1.25276290
0	6.00000050	2.54000000	1	1	3	1.25276290
0	1.99999990	2.85999990	1	1	1	0.40546510
0	13.99999710	3.47000000	1	0	3	1.25276290
0	15.00000100	2.86999990	0	0	4	1.50407740
0	3.99999900	2.31999990	1	0	0	-0.69314720
0	15.00000100	1.86000000	1	2	4	1.50407740
0	3.99999900	1.95000000	1	0	2	0.91629080
0	1.99999990	2.31999990	1	2	0	-0.69314720
0	19.99999620	4.25000000	1	2	1	0.40546510
0	3.99999900	1.97000000	0	0	6	1.87180220
0	41.99999620	1.86000000	1	0	19	2.97041440
0	7.99999860	3.69000010	1	1	0	-0.69314720
0	3.00000000	4.54000000	1	1	0	-0.69314720
0	9.00000000	3.54000000	1	0	4	1.50407740
0	9.99999900	4.54000000	1	1	1	0.40546510
0	6.99999950	2.85999990	1	2	11	2.44234700
0	25.00000000	3.35999990	1	0	0	-0.69314720
0	3.00000000	2.85999990	0	0	0	-0.69314720
0	3.99999900	2.96000000	1	2	0	-0.69314720
0	22.00000000	2.55999990	1	2	1	0.40546510
0	7.99999860	1.63000000	1	0	2	0.91629080
0	13.99999710	2.96000000	0	0	0	-0.69314720
0	0.00000000	2.96000000	1	0	1	0.40546510
0	7.99999860	1.63000000	1	1	1	0.40546510
0	0.00000000	2.96000000	0	0	0	-0.69314720
0	21.00000000	2.96000000	1	2	2	0.91629080
0	6.99999950	2.96000000	1	0	1	0.40546510
0	30.99998860	4.54000000	1	2	3	1.25276290
0	1.99999990	4.54000000	1	2	2	0.91629080
0	9.99999900	2.15000010	0	0	1	0.40546510
0	6.00000050	4.54000000	1	1	2	0.91629080
0	12.00000000	2.21000000	1	2	2	0.91629080
0	0.99999990	2.21000000	1	1	0	-0.69314720

0	29.00000000	4.54000000	0	0	2	0.91629080
0	9.99999900	2.21000000	1	1	3	1.25276290
0	6.00000050	2.21000000	1	0	0	-0.69314720
0	36.99999240	4.54000000	1	0	3	1.25276290
0	4.99999810	4.54000000	0	0	4	1.50407740
1	9.00000000	2.11999990	0	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.11999990	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.11999990	1	0	2	0.91629080
1	3.00000000	2.11999990	1	0	3	1.25276290
1	9.00000000	2.11999990	1	1	1	0.40546510
1	10.99999710	2.39000010	0	0	3	1.25276290
1	4.99999810	2.57999990	0	0	2	0.91629080
1	6.99999950	3.19000010	1	0	4	1.50407740
1	4.99999810	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	3.58999990	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	2.57999990	0	0	2	0.91629080
1	0.00000000	3.75000000	0	0	3	1.25276290
1	4.99999810	3.75000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.99999990	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	1.22000000	1	2	2	0.91629080
1	13.99999710	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	3.75000000	1	0	0	-0.69314720
1	26.00000000	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.75000000	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.75000000	0	0	4	1.50407740
1	6.00000050	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	21.00000000	3.75000000	0	0	1	0.40546510
1	7.99999860	3.75000000	1	0	2	0.91629080
1	3.99999900	3.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	3.75000000	1	1	1	0.40546510
1	0.00000000	3.75000000	1	0	2	0.91629080
1	0.00000000	2.54000000	1	1	0	-0.69314720
1	0.99999990	2.54000000	1	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	2.76000000	0	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	4.13999990	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	0.92000000	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	1.00500000	0	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	3.08999990	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.08999990	1	1	2	0.91629080
1	0.00000000	1.79000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	1.40000000	0	0	1	0.40546510
1	3.00000000	1.40000000	0	0	4	1.50407740
1	0.00000000	1.40000000	1	0	2	0.91629080
1	0.00000000	1.40000000	0	0	2	0.91629080
1	13.99999710	1.40000000	0	0	0	-0.69314720
1	12.00000000	1.40000000	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	1.40000000	0	0	1	0.40546510

398 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	6.00000050	2.00000000	0	0	1	0.40546510
1	10.99999710	4.34000020	1	0	2	0.91629080
1	6.00000050	4.34000020	1	0	4	1.50407740
1	0.00000000	1.75000000	0	0	0	-0.69314720
1	36.00000000	2.09999990	1	0	6	1.87180220
1	7.99999860	2.09999990	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
1	10.99999710	3.58999990	1	0	2	0.91629080
1	10.99999710	3.58999990	1	2	2	0.91629080
1	17.99999810	3.58999990	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	3.58999990	0	0	0	-0.69314720
1	17.99999810	3.58999990	1	0	10	2.35137530
1	7.99999860	3.58999990	0	0	1	0.40546510
1	19.00000190	3.41000010	1	0	3	1.25276290
1	3.99999900	3.41000010	1	0	4	1.50407740
1	4.99999810	3.41000010	1	2	0	-0.69314720
1	6.99999950	3.40000010	0	0	1	0.40546510
1	3.99999900	3.40000010	1	1	2	0.91629080
1	4.99999810	3.40000010	1	0	4	1.50407740
1	13.99999710	3.40000010	1	0	1	0.40546510
1	3.99999900	3.40000010	1	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	2.52000000	0	0	3	1.25276290
1	0.00000000	2.52000000	0	0	1	0.40546510
1	15.00000100	3.69000010	1	1	2	0.91629080
1	0.99999990	3.69000010	1	0	1	0.40546510
1	3.00000000	3.69000010	1	1	0	-0.69314720
1	17.99999810	3.69000010	0	0	1	0.40546510
1	15.00000100	2.86999990	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	2.86999990	1	0	1	0.40546510
1	17.99999810	2.86999990	1	0	1	0.40546510
1	9.00000000	2.86999990	0	0	2	0.91629080
1	6.00000050	2.86999990	0	0	4	1.50407740
1	15.00000100	2.86999990	1	0	1	0.40546510
1	3.99999900	3.35999990	0	0	2	0.91629080
1	1.99999990	3.35999990	1	2	0	-0.69314720
1	3.00000000	3.35999990	0	0	2	0.91629080
1	6.99999950	3.35999990	0	0	0	-0.69314720
1	15.99999810	4.54000000	1	0	4	1.50407740
1	48.00000000	4.54000000	1	2	2	0.91629080
1	15.00000100	4.54000000	1	0	5	1.70474800
1	36.99999240	4.54000000	0	0	1	0.40546510
1	9.99999900	4.54000000	1	0	2	0.91629080
1	13.00000000	4.54000000	0	0	2	0.91629080
1	6.00000050	4.54000000	1	2	0	-0.69314720
1	13.00000000	0.75500000	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	4.54000000	1	1	2	0.91629080
1	9.00000000	4.54000000	1	0	2	0.91629080

1	4.99999810	4.54000000	0	0	2	0.91629080
1	15.00000100	4.54000000	0	0	6	1.87180220
1	3.00000000	4.54000000	0	0	3	1.25276290
1	13.99999710	4.54000000	0	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	1.28000000	1	0	1	0.40546510
1	3.99999900	1.28000000	1	0	4	1.50407740
1	3.99999900	1.28000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	2.50000000	1	1	0	-0.69314720
1	47.00000760	3.84999990	1	2	2	0.91629080
1	29.00000000	3.84999990	1	0	1	0.40546510
1	0.99999990	3.84999990	1	1	5	1.70474800
1	17.99999810	3.84999990	0	0	1	0.40546510
1	13.00000000	2.05000000	0	0	1	0.40546510
1	17.00000000	2.05000000	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	2.05000000	0	0	2	0.91629080
1	3.99999900	1.78000000	1	0	4	1.50407740
1	0.99999990	1.17999990	1	0	1	0.40546510
1	3.00000000	1.52000000	1	0	0	-0.69314720
1	9.00000000	1.48000000	1	0	2	0.91629080
1	12.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	17.00000000	4.29000000	0	0	1	0.40546510
1	4.99999810	4.29000000	0	0	3	1.25276290
1	1.99999990	3.08999990	1	0	2	0.91629080
1	0.00000000	3.08999990	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.61999990	0	0	5	1.70474800
1	6.99999950	3.61999990	0	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.61999990	0	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	2.60999990	1	1	1	0.40546510
1	6.99999950	2.60999990	1	0	1	0.40546510
1	9.00000000	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	2.96000000	1	0	2	0.91629080
1	9.99999900	2.39000010	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	1.95000000	1	0	1	0.40546510
1	13.99999710	3.41000010	0	0	2	0.91629080
1	0.99999990	4.29000000	0	0	2	0.91629080
1	10.99999710	3.58999990	0	0	2	0.91629080
1	9.99999900	4.61999990	0	0	1	0.40546510
1	6.00000050	2.14000010	0	0	1	0.40546510
1	10.99999710	2.85999990	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	3.47000000	0	0	2	0.91629080
1	13.99999710	4.61999990	1	1	3	1.25276290
1	9.00000000	3.19000010	1	3	1	0.40546510
1	0.99999990	2.51000000	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	2.11999990	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	3.19000010	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	1.74000000	1	1	2	0.91629080

400 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	0.00000000	1.25000000	1	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	3.69000010	1	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	3.21000000	0	0	0	-0.69314720
1	15.00000100	4.61999990	1	1	0	-0.69314720
1	24.00000190	2.85999990	1	0	5	1.70474800
1	9.00000000	2.39000010	1	1	1	0.40546510
1	0.00000000	1.17999990	1	0	3	1.25276290
1	6.99999950	3.35999990	0	0	2	0.91629080
1	7.99999860	1.97000000	0	0	2	0.91629080
1	22.00000000	1.64000000	1	0	1	0.40546510
1	6.99999950	3.92000010	1	0	2	0.91629080
1	6.00000050	3.31999990	0	0	6	1.87180220
1	6.00000050	2.57999990	0	0	5	1.70474800
1	22.99999620	4.54000000	0	0	2	0.91629080
1	1.99999990	2.39000010	1	0	0	-0.69314720
1	9.00000000	3.58999990	0	0	4	1.50407740
1	6.99999950	3.69000010	0	0	2	0.91629080
1	9.99999900	3.19000010	0	0	2	0.91629080
1	3.99999900	2.31999990	0	0	2	0.91629080
1	10.99999710	3.47000000	1	1	2	0.91629080
1	3.99999900	3.69000010	0	0	2	0.91629080
1	4.99999810	2.31999990	1	1	3	1.25276290
1	10.99999710	3.19000010	0	0	1	0.40546510
1	19.00000190	4.54000000	0	0	1	0.40546510
1	3.00000000	3.35999990	1	1	0	-0.69314720
1	4.99999810	2.57999990	1	0	2	0.91629080
1	6.99999950	3.21000000	1	1	2	0.91629080
1	3.00000000	1.40000000	0	0	1	0.40546510
1	9.99999900	2.50000000	0	0	4	1.50407740
1	0.00000000	3.19000010	1	2	0	-0.69314720
1	3.00000000	3.35999990	0	0	0	-0.69314720
1	9.00000000	3.15000010	0	0	6	1.87180220
1	6.99999950	1.45000000	1	0	2	0.91629080
1	6.99999950	2.85999990	1	2	1	0.40546510
1	48.99999240	4.61999990	1	1	3	1.25276290
1	1.99999990	3.69000010	1	0	0	-0.69314720
1	19.00000190	2.96000000	1	0	1	0.40546510
1	12.00000000	3.08999990	1	1	1	0.40546510
1	0.99999990	3.08999990	0	0	0	-0.69314720
1	12.00000000	4.61999990	0	0	2	0.91629080
1	13.00000000	2.85999990	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	3.21000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	2.82999990	1	0	2	0.91629080
1	22.00000000	4.29000000	0	0	1	0.40546510
1	35.00000760	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	0.99999990	3.08999990	1	0	2	0.91629080
1	3.99999900	3.69000010	0	0	0	-0.69314720

1	0.99999990	1.79000000	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	3.35999990	1	1	0	-0.69314720
1	13.99999710	2.57999990	1	0	4	1.50407740
1	24.00000190	3.75000000	0	0	1	0.40546510
1	4.99999810	3.19000010	0	0	2	0.91629080
1	0.99999990	2.09999990	0	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.58999990	1	1	0	-0.69314720
1	0.99999990	3.92000010	0	0	0	-0.69314720
1	24.00000190	3.31999990	1	1	1	0.40546510
1	1.99999990	2.00000000	0	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	3.47000000	1	0	0	-0.69314720
1	13.99999710	3.21000000	1	0	4	1.50407740
1	4.99999810	2.05000000	0	0	3	1.25276290
1	0.99999990	2.52000000	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	3.15000010	1	0	0	-0.69314720
1	38.00000380	1.86000000	1	2	6	1.87180220
1	3.00000000	2.85999990	0	0	2	0.91629080
1	3.99999900	4.29000000	1	1	4	1.50407740
1	0.00000000	1.25500000	1	2	0	-0.69314720
1	19.00000190	3.21000000	1	0	5	1.70474800
1	4.99999810	2.31999990	1	1	1	0.40546510
1	3.00000000	3.19000010	0	0	4	1.50407740
1	1.99999990	3.19000010	1	0	1	0.40546510
1	10.99999710	3.35999990	1	0	3	1.25276290
1	13.99999710	3.54000000	1	1	1	0.40546510
1	6.00000050	1.86000000	1	0	0	-0.69314720
1	13.00000000	1.50500000	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	2.39000010	1	0	1	0.40546510
1	10.99999710	4.29000000	1	1	2	0.91629080
1	9.00000000	2.00000000	1	1	0	-0.69314720
1	3.99999900	3.92000010	0	0	1	0.40546510
1	6.00000050	4.29000000	1	0	2	0.91629080
1	6.00000050	3.35999990	0	0	1	0.40546510
1	13.99999710	4.61999990	1	0	3	1.25276290
1	6.00000050	2.00000000	0	0	1	0.40546510
1	4.99999810	3.58999990	1	0	2	0.91629080
1	6.00000050	2.86999990	0	0	1	0.40546510
1	3.99999900	2.96000000	0	0	0	-0.69314720
1	10.99999710	3.47000000	1	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.19000010	1	0	4	1.50407740
1	3.00000000	2.85999990	1	1	0	-0.69314720
1	15.99999810	2.52000000	1	0	2	0.91629080
1	6.00000050	4.29000000	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	1.25500000	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	1.83000000	1	0	0	-0.69314720
1	12.00000000	4.29000000	0	0	3	1.25276290
1	7.99999860	2.96000000	1	0	0	-0.69314720

402 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	0.99999990	2.31999990	1	0	1	0.40546510
1	10.99999710	1.22000000	1	1	0	-0.69314720
1	10.99999710	4.29000000	1	0	1	0.40546510
1	1.99999990	4.25000000	0	0	1	0.40546510
1	36.00000000	2.55000000	0	0	2	0.91629080
1	10.99999710	1.95000000	1	0	1	0.40546510
1	1.99999990	3.69000010	0	0	0	-0.69314720
1	25.00000000	4.29000000	0	0	1	0.40546510
1	4.99999810	3.19000010	1	0	2	0.91629080
1	12.00000000	3.54000000	1	1	4	1.50407740
1	4.99999810	3.54000000	1	0	4	1.50407740
1	7.99999860	3.54000000	1	1	0	-0.69314720
1	0.99999990	1.86000000	1	1	3	1.25276290
1	3.00000000	4.61999990	0	0	4	1.50407740
1	15.99999810	4.61999990	1	0	1	0.40546510
1	9.99999900	4.61999990	1	0	3	1.25276290
1	13.00000000	4.54000000	1	0	1	0.40546510
1	0.99999990	3.47000000	1	0	0	-0.69314720
1	15.99999810	2.85999990	0	0	0	-0.69314720
1	6.99999950	2.00000000	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.00000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	2.60999990	1	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	2.05000000	0	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	2.05000000	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	3.54000000	0	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	0.92000000	1	0	2	0.91629080
1	0.00000000	1.79000000	1	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	2.00000000	1	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.15000010	0	0	4	1.50407740
1	15.99999810	2.26000000	1	0	5	1.70474800
1	3.99999900	2.26000000	0	0	1	0.40546510
1	0.99999990	4.29000000	1	0	6	1.87180220
1	21.00000000	4.29000000	1	0	1	0.40546510
1	9.00000000	4.54000000	0	0	1	0.40546510
1	3.00000000	3.35999990	1	1	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.52000000	0	0	0	-0.69314720
1	9.99999900	4.29000000	0	0	3	1.25276290
1	9.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	12.00000000	4.54000000	0	0	2	0.91629080
1	0.00000000	2.50000000	0	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.76000000	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	2.55000000	1	1	0	-0.69314720
1	0.00000000	4.61999990	1	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	1.63000000	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.47000000	1	0	1	0.40546510
1	30.99998860	3.41000010	1	0	2	0.91629080
1	0.99999990	4.29000000	0	0	0	-0.69314720

1	6.99999950	2.96000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	4.61999990	1	0	5	1.70474800
1	12.00000000	3.58999990	1	0	0	-0.69314720
1	12.00000000	3.69000010	1	0	3	1.25276290
1	1.99999990	4.54000000	1	0	1	0.40546510
1	10.99999710	3.33999990	0	0	4	1.50407740
1	1.99999990	2.51000000	1	1	4	1.50407740
1	3.99999990	3.15000010	1	0	3	1.25276290
1	3.00000000	3.19000010	1	0	1	0.40546510
1	17.99999810	3.19000010	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	3.84999990	0	0	1	0.40546510
1	3.99999990	3.33999990	1	1	2	0.91629080
1	15.00000100	4.29000000	0	0	2	0.91629080
1	3.99999990	4.29000000	0	0	2	0.91629080
1	21.00000000	4.29000000	0	0	2	0.91629080
1	3.99999990	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
1	0.00000000	2.96000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.99999990	1.78000000	1	0	0	-0.69314720
1	17.00000000	3.54000000	1	2	1	0.40546510
1	3.00000000	3.69000010	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	3.35999990	0	0	3	1.25276290
1	1.99999990	3.54000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.99999990	3.54000000	1	1	0	-0.69314720
1	3.00000000	1.22000000	1	1	3	1.25276290
1	3.99999990	3.35999990	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	2.21000000	0	0	1	0.40546510
1	3.99999990	2.25000000	0	0	1	0.40546510
1	17.00000000	4.61999990	1	1	2	0.91629080
1	4.99999810	3.58999990	1	0	1	0.40546510
1	0.99999990	4.29000000	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	2.11999990	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	2.26000000	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	2.26000000	1	0	4	1.50407740
1	4.99999810	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	3.58999990	1	1	3	1.25276290
1	13.00000000	4.29000000	1	2	1	0.40546510
1	1.99999990	2.00000000	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	1.97000000	1	2	0	-0.69314720
1	7.99999860	3.92000010	1	0	0	-0.69314720
1	39.00000000	2.85999990	0	0	4	1.50407740
1	26.00000000	2.82999990	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.35999990	1	1	3	1.25276290
1	22.99999620	2.55999990	0	0	4	1.50407740
1	7.99999860	1.63000000	0	0	1	0.40546510
1	22.00000000	4.61999990	0	0	3	1.25276290
1	4.99999810	4.61999990	0	0	1	0.40546510
1	21.00000000	4.29000000	1	0	3	1.25276290

404 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	6.00000050	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
1	3.99999900	4.29000000	1	1	2	0.91629080
1	24.00000190	4.29000000	1	0	6	1.87180220
1	6.00000050	4.29000000	1	0	1	0.40546510
1	33.99999240	3.35999990	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	3.21000000	0	0	2	0.91629080
1	9.99999900	2.00000000	0	0	1	0.40546510
1	1.99999990	3.21000000	1	2	2	0.91629080
1	3.00000000	2.57999990	1	2	2	0.91629080
1	3.00000000	2.57999990	1	0	0	-0.69314720
1	0.99999990	2.82999990	0	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	3.19000010	0	0	1	0.40546510
1	3.00000000	3.47000000	0	0	1	0.40546510
1	22.99999620	4.61999990	1	0	2	0.91629080
1	13.00000000	4.25000000	1	0	4	1.50407740
1	4.99999810	1.86000000	1	0	2	0.91629080
1	9.00000000	4.29000000	1	1	0	-0.69314720
1	9.00000000	3.35999990	0	0	0	-0.69314720
1	9.99999900	1.80000000	1	0	2	0.91629080
1	0.00000000	1.65500000	0	0	1	0.40546510
1	6.00000050	2.85999990	0	0	0	-0.69314720
1	13.99999710	4.61999990	0	0	2	0.91629080
1	3.00000000	4.29000000	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	2.35999990	1	0	4	1.50407740
1	10.99999710	1.80999990	1	0	1	0.40546510
1	32.00001140	3.58999990	1	0	1	0.40546510
1	9.99999900	1.76000000	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	2.00000000	1	0	1	0.40546510
1	13.99999710	3.58999990	0	0	5	1.70474800
1	6.00000050	2.26000000	1	0	3	1.25276290
1	3.99999900	2.26000000	0	0	1	0.40546510
1	3.99999900	1.76000000	1	1	1	0.40546510
1	0.99999990	3.58999990	1	0	1	0.40546510
1	0.99999990	3.58999990	1	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	2.82999990	1	1	1	0.40546510
1	1.99999990	2.57999990	0	0	1	0.40546510
1	17.99999810	4.61999990	1	0	1	0.40546510
1	15.00000100	2.31999990	0	0	1	0.40546510
1	0.00000000	2.39000010	1	0	0	-0.69314720
1	22.00000000	2.96000000	1	0	3	1.25276290
1	10.99999710	2.11999990	0	0	0	-0.69314720
1	17.99999810	4.61999990	1	0	1	0.40546510
1	3.00000000	2.25000000	1	0	1	0.40546510
1	7.99999860	1.76000000	1	0	1	0.40546510
1	12.00000000	4.54000000	0	0	6	1.87180220
1	9.99999900	3.69000010	1	1	2	0.91629080
1	1.99999990	1.25000000	0	0	0	-0.69314720

1	4.99999810	1.25000000	1	0	1	0.40546510
1	3.99999900	3.19000010	1	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	2.57999990	1	2	0	-0.69314720
1	6.99999950	2.00000000	1	1	2	0.91629080
1	0.99999990	2.76000000	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	2.54000000	0	0	2	0.91629080
1	0.00000000	3.19000010	0	0	0	-0.69314720
1	9.00000000	3.08999990	1	2	1	0.40546510
1	3.99999900	3.19000010	0	0	2	0.91629080
1	0.00000000	3.08999990	0	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	2.26000000	0	0	2	0.91629080
1	9.00000000	2.26000000	1	1	1	0.40546510
1	7.99999860	3.35999990	1	0	2	0.91629080
1	9.00000000	3.15000010	1	0	1	0.40546510
1	3.99999900	4.54000000	1	0	0	-0.69314720
1	0.00000000	3.58999990	1	0	2	0.91629080
1	3.00000000	3.47000000	1	0	1	0.40546510
1	1.99999990	2.85999990	1	1	1	0.40546510
1	6.00000050	2.26000000	1	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	3.47000000	1	1	2	0.91629080
1	0.00000000	2.76000000	1	0	0	-0.69314720
1	1.99999990	3.58999990	1	2	0	-0.69314720
1	13.00000000	3.75000000	0	0	5	1.70474800
1	1.99999990	2.57999990	1	2	1	0.40546510
1	1.99999990	3.58999990	1	1	2	0.91629080
1	15.99999810	1.89000000	1	2	3	1.25276290
1	9.00000000	3.15000010	0	0	7	2.01490310
1	12.00000000	2.86999990	0	0	5	1.70474800
1	0.99999990	2.11999990	1	2	0	-0.69314720
1	3.99999900	4.61999990	1	0	1	0.40546510
1	0.00000000	2.39000010	0	0	0	-0.69314720
1	10.99999710	2.11999990	0	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	1.80999990	1	0	0	-0.69314720
1	7.99999860	2.31999990	0	0	4	1.50407740
1	15.00000100	2.39000010	0	0	0	-0.69314720
1	6.00000050	3.75000000	1	0	3	1.25276290
1	0.00000000	2.00000000	0	0	0	-0.69314720
1	13.99999710	3.58999990	1	1	0	-0.69314720
1	4.99999810	4.29000000	0	0	2	0.91629080
1	0.00000000	2.57999990	1	0	0	-0.69314720
1	4.99999810	4.61999990	1	0	0	-0.69314720
1	3.00000000	1.50500000	0	0	0	-0.69314720
1	3.99999900	3.75000000	1	0	2	0.91629080
1	3.99999900	3.75000000	1	2	0	-0.69314720
1	0.00000000	1.75000000	1	0	1	0.40546510
1	0.00000000	2.11999990	1	0	1	0.40546510
1	4.99999810	3.75000000	0	0	2	0.91629080

406 付録1 / タスク用入力データセットの例

```
1 0.00000000 0.75500000 0 0 0 -0.69314720
1 6.99999950 2.25000000 0 0 1 0.40546510
1 3.00000000 3.19000010 0 0 1 0.40546510
;
```

MROZ データセット

MROZ データセットを作成するには、プログラムタブに次のコードを入力します。

```
data mroz;
   input inlf nwifeinc educ exper expersq age kidslt6 kidsge6 lwage;
datalines;
1 10.91006 12 14 196 32 1 0 1.210154
1 19.49998 12 5 25 30 0 2 0.3285121
1 12.03991 12 15 225 35 1 3 1.514138
1 6.799996 12 6 36 34 0 3 0.0921233
1 20.10006 14 7 49 31 1 2 1.524272
1 9.859054 12 33 1089 54 0 0 1.55648
1 9.152048 16 11 121 37 0 2 2.12026
1 10.90004 12 35 1225 54 0 0 2.059634
1 17.305 12 24 576 48 0 2 0.7543364
1 12.925 12 21 441 39 0 2 1.544899
1 24.29995 12 15 225 33 0 1 1.401922
1 19.70007 11 14 196 42 0 1 1.524272
1 15.00001 12 0 0 30 1 2 0.7339532
1 14.6 12 14 196 43 0 2 0.8183691
1 24.63091 10 6 36 43 0 1 1.302831
1 17.53103 11 9 81 35 0 3 0.2980284
1 14.09998 12 20 400 43 0 2 1.16761
1 15.839 12 6 36 39 0 5 1.643839
1 14.1 12 23 529 45 0 0 0.6931472
1 10.29996 12 9 81 35 0 4 2.021932
1 22.65498 16 5 25 42 0 2 1.254248
1 8.090048 12 11 121 30 0 0 1.272958
1 17.479 13 18 324 48 0 0 1.178655
1 9.56 12 15 225 45 0 0 1.178655
1 8.274953 12 4 16 31 1 1 0.7675587
1 27.34999 17 21 441 43 0 2 1.331812
1 16 12 31 961 59 0 0 1.386294
1 16.99998 12 9 81 32 0 3 1.55327
1 15.10006 17 7 49 31 1 0 1.981815
1 15.69998 12 7 49 42 0 0 1.76936
1 5.11896 11 32 1024 50 0 0 0.4308079
```

1	16.75001	16	11	121	59	0	0	0.8997548
1	13.59993	13	16	256	36	0	2	1.76663
1	17.10005	12	14	196	51	0	1	1.272958
1	16.73405	16	27	729	45	0	3	1.336789
1	14.19698	11	0	0	42	0	1	0.9017048
1	10.31999	12	17	289	46	0	0	0.8651237
1	11.3841	10	28	784	46	0	1	1.511847
1	14.59408	14	24	576	51	0	0	1.726029
1	17.50044	17	11	121	30	0	0	2.683142
1	15.51	12	1	1	30	1	2	0.9852943
1	21.99998	12	14	196	57	0	0	1.365939
1	22.5	16	6	36	31	1	2	0.9450337
1	19.994	12	10	100	48	0	2	1.512376
1	14.13	12	6	36	30	0	3	0.6931472
1	5.000013	12	4	16	34	0	2	1.244788
1	21.1549	16	10	100	48	0	2	0.7011649
1	7.141946	12	22	484	45	0	0	1.519863
1	16.65007	12	16	256	51	0	0	0.8209686
1	6.352	12	6	36	30	0	2	0.9698315
1	27.31395	12	12	144	46	0	1	0.8285082
1	14.5	12	32	1024	58	0	0	0.0943096
1	16.25799	12	15	225	37	0	8	0.1625439
1	9.5	8	17	289	52	0	0	0.4700036
1	7.999956	10	34	1156	52	0	0	0.6292484
1	12.50003	16	9	81	31	0	0	1.39716
1	14.00003	14	37	1369	55	0	0	2.265444
1	20.80007	17	10	100	34	0	0	2.084541
1	19.38511	14	35	1225	55	0	0	1.525839
1	12.38699	12	6	36	39	0	2	0.7621601
1	28.5	14	19	361	40	0	3	1.481605
1	15.04991	12	10	100	43	0	4	1.262826
1	10.49998	8	11	121	48	0	0	0.9996756
1	11.81	12	15	225	47	0	0	1.832582
1	6.950073	12	12	144	41	0	4	2.479308
1	12.41997	8	12	144	36	0	0	1.279015
1	17.4	17	14	196	46	0	2	1.937936
1	15.5	12	11	121	34	0	0	1.070453
1	21.21704	12	9	81	41	0	3	1.123923
1	18	12	24	576	51	0	1	1.321756
1	11.89992	12	12	144	33	0	0	1.745
1	26.75196	12	13	169	52	0	0	1.301744
1	12.14996	9	29	841	58	0	0	1.641866
1	10.19999	10	11	121	34	2	4	2.10702
1	8.120015	12	13	169	31	0	1	1.467068
1	10.65996	12	19	361	48	0	1	1.605811
1	18.10001	12	2	4	32	0	2	-1.029739
1	8.599986	17	24	576	49	0	0	1.087686

408 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	13.665	15	9	81	32	2	2	0
1	32.34996	12	6	36	58	0	0	0.9382087
1	12.08501	6	22	484	50	0	0	-0.1505904
1	12.15	14	30	900	60	0	0	0
1	17.69502	12	10	100	50	0	1	1.073671
1	24.7	14	6	36	56	0	0	1.265848
1	2.133992	9	29	841	51	0	0	0.486369
1	20.95005	17	29	841	54	0	1	2.12026
1	10.50008	13	36	1296	59	0	0	1.129853
1	10.55	9	19	361	46	0	2	0.9932518
1	45.75	15	8	64	46	0	1	1.658628
1	13.63204	12	13	169	39	1	3	0.3474122
1	18.23894	12	16	256	44	0	2	1.568324
1	17.09	12	11	121	33	2	0	0.5108456
1	30.2349	12	15	225	33	1	2	0.1148454
1	28.7	12	6	36	48	0	2	-0.6931472
1	19.63	12	13	169	31	0	4	-0.3364523
1	12.82494	12	22	484	45	0	1	1.028226
1	23.8	12	24	576	45	0	1	1.580689
1	26.30003	13	2	4	32	0	2	0.5558946
1	20.69991	12	6	36	47	0	0	0.9014207
1	26	13	2	4	34	0	2	0.8843046
1	10.87702	12	2	4	37	0	1	0.4282046
1	25.61206	12	14	196	36	0	1	1.058415
1	20.98899	12	9	81	47	1	2	0.8783396
1	70.74993	16	11	121	48	0	1	1.654908
1	17.05	12	9	81	42	0	2	1.321756
1	21	13	6	36	33	0	3	0.3285121
1	8.12	11	19	361	46	0	0	1.386294
1	20.88599	12	26	676	47	0	3	1.172885
1	17.66892	12	19	361	44	0	1	1.224187
1	25.20003	12	3	9	36	0	4	0.2876571
1	14.24501	17	7	49	31	2	0	2.230262
1	14.3	14	28	784	55	0	0	1.504077
1	23.70001	16	13	169	45	0	1	1.531152
1	46	17	9	81	47	0	0	1.375158
1	42.9999	12	15	225	46	0	3	1.760269
1	14.749	11	20	400	49	0	0	-0.6931472
1	16.15005	12	29	841	49	0	0	1.406489
1	17.774	12	9	81	45	0	2	1.791759
1	91	17	1	1	38	1	3	1.299292
1	22.29993	10	8	64	47	0	0	1.351004
1	34.60001	13	19	361	54	0	3	1.016281
1	9.620002	11	23	529	41	0	0	1.075344
1	10.89995	12	3	9	43	0	2	1.478965
1	14.49994	16	13	169	31	1	1	1.689487
1	22.00002	17	8	64	47	0	0	2.288598

1	17.90008	12	17	289	35	0	2	-1.822631
1	23.67506	16	4	16	45	0	3	-0.9607652
1	11.79996	12	15	225	33	1	0	1.290994
1	16.14195	16	11	121	54	0	1	0.8648711
1	18.39997	8	7	49	35	0	4	1.540452
1	15.49995	12	0	0	31	1	2	0.6162121
1	17.324	12	0	0	55	0	0	1.648659
1	19.205	12	10	100	34	0	2	1.193498
1	21.30006	13	8	64	38	0	1	2.143976
1	23.56	11	2	4	45	0	1	0.7244036
1	20.85	12	4	16	47	0	1	0.9416075
1	26.15	12	6	36	39	0	2	0.7827594
1	17	14	18	324	36	1	0	1.832582
1	20.72	12	3	9	33	1	2	1.203963
1	17.00009	12	22	484	50	0	0	1.491645
1	16	12	33	1089	58	0	0	1.892133
1	19.50005	17	28	784	49	0	0	2.130895
1	12	14	23	529	41	0	2	1.480604
1	13.73191	12	27	729	51	0	1	0.8943313
1	27.19999	9	11	121	53	0	0	0.2025325
1	5.315	12	6	36	36	1	2	0.4855078
1	16	12	11	121	46	0	2	1.098612
1	27.87198	12	14	196	36	0	2	1.55327
1	40.00001	14	17	289	53	0	1	0.121598
1	15.90003	16	17	289	40	0	3	2.001804
1	27.49997	17	14	196	42	0	2	1.495037
1	17.02005	15	11	121	33	1	1	0.9052298
1	22.39494	12	7	49	43	0	3	0.6325476
1	11.1	16	8	64	31	1	0	1.386294
1	32.70001	17	6	36	47	0	0	2.102914
1	27.79996	17	8	64	54	0	0	1.959644
1	2.199994	12	4	16	33	1	3	0.5108456
1	19.72095	16	25	625	43	0	0	1.236924
1	9.999988	13	24	576	46	0	1	1.443313
1	13.19997	12	11	121	35	0	3	1.021659
1	12.70897	11	19	361	37	0	3	0.6361535
1	27.30005	16	9	81	37	0	2	1.616453
1	21.2	14	19	361	34	0	3	0.2231435
1	14.4	16	14	196	43	1	0	1.049807
1	20.57596	12	22	484	46	0	0	1.415052
1	12.49999	9	6	36	35	0	3	0.5753766
1	17.50022	17	23	529	46	0	0	2.606682
1	44.00004	14	15	225	46	0	0	1.517915
1	13.11895	12	6	36	43	0	2	0.7550416
1	14.00006	12	11	121	30	0	0	1.094972
1	9.645086	11	2	4	41	0	2	0.9421144
1	17.39705	12	22	484	54	0	1	1.724943

410 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	7.799889	12	10	100	31	0	1	1.031546
1	13.13398	10	14	196	44	0	0	0.4743691
1	25.6	12	12	144	32	0	1	0.8109302
1	13.90003	5	9	81	47	0	0	0.7092666
1	19.29794	17	13	169	46	0	1	1.710549
1	9.200016	11	18	324	37	0	0	0.4602689
1	37.99999	12	8	64	51	0	2	1.331812
1	44	12	11	121	49	0	1	1.098612
1	21.37202	14	9	81	36	0	4	2.157999
1	23.66802	11	9	81	39	0	1	1.437581
1	9	12	14	196	48	0	2	1.544899
1	25.19995	14	9	81	38	0	2	1.410597
1	21.22	12	2	4	40	0	2	3.218876
1	33.96991	10	12	144	39	1	5	0.9681619
1	17.07	16	15	225	37	0	0	1.791759
1	6.016024	13	11	121	49	0	1	1.68873
1	17.10001	12	7	49	33	0	3	-0.409172
1	8.237	12	9	81	30	0	0	0.2231435
1	13.30008	12	19	361	54	0	0	0.8221558
1	16.00002	11	11	121	39	0	4	1.241702
1	12.53999	12	8	64	43	0	3	1.427124
1	18.00004	9	13	169	31	0	3	1.497097
1	31.2	13	4	16	33	0	3	0.5596158
1	20.74991	12	7	49	40	0	3	1.300028
1	11.09992	12	19	361	36	0	1	1.88443
1	20.68	12	14	196	51	0	0	0.9555114
1	18.00001	13	14	196	44	0	1	1.582087
1	32.43007	16	3	9	42	0	3	1.755614
1	32.90003	12	9	81	40	0	1	1.513103
1	24.10001	16	7	49	34	1	1	2.251892
1	17.80039	17	7	49	30	0	0	2.364432
1	20.50002	12	14	196	54	0	0	0.1053505
1	10.4999	12	29	841	51	0	0	1.399729
1	10.43703	9	19	361	44	0	2	0.9884625
1	18.19499	12	14	196	43	0	1	1.090647
1	12.84508	12	16	256	34	0	1	1.154614
1	13.8	13	10	100	45	0	0	1.266948
1	22.2	12	12	144	39	0	0	2.885192
1	6.699941	12	24	576	50	0	0	1.22888
1	6.250016	12	6	36	52	0	0	1.203963
1	15.60001	12	9	81	41	0	2	1.35738
1	3.30001	10	14	196	59	0	0	0.8377236
1	3.670978	12	26	676	52	0	0	0.5369611
1	7.789997	16	7	49	46	0	0	0.7487238
1	18.27199	12	4	16	41	1	5	2.295873
1	10.95398	11	15	225	33	0	2	1.107803
1	13.49999	12	23	529	45	0	0	0.6208453

1	11.20001	10	1	1	36	1	2	-2.054164
1	20.99991	12	29	841	48	0	1	1.892012
1	25.7	12	9	81	47	0	1	1.729725
1	8.932994	12	6	36	45	0	0	0.4693784
1	19.15998	12	11	121	37	0	2	0.9808417
1	26.58999	16	17	289	46	0	4	2.069492
1	22.40001	17	6	36	43	0	3	1.675188
1	20.633	12	7	49	42	0	2	1.386294
1	28.20001	17	2	4	34	1	2	1.799215
1	28.8	12	24	576	52	0	0	1.832582
1	8.999997	12	4	16	37	0	3	1.090647
1	11.39994	12	11	121	37	0	1	1.443124
1	10.40001	8	25	625	52	0	0	1.25036
1	19.08006	12	11	121	30	1	0	1.602313
1	9.46604	13	2	4	31	0	1	1.018559
1	6.50006	12	19	361	38	0	1	1.297053
1	29.11701	12	7	49	43	0	3	1.685194
1	19.10302	8	2	4	49	0	1	-0.4209849
1	16.34997	12	20	400	55	0	0	1.562095
1	32.02502	17	10	100	38	0	2	2.146528
1	16.70006	17	19	361	52	0	0	2.347463
1	4.811038	12	17	289	48	0	0	0.9698315
1	24.62601	13	12	144	32	0	2	1.924146
1	17.40001	12	11	121	32	0	1	1.626728
1	13.02504	12	6	36	38	0	2	-0.0392607
1	19.00698	12	10	100	46	0	3	1.460149
1	14.03	12	4	16	40	0	3	1.955394
1	14.89991	9	2	4	31	0	4	0.9263599
1	25.00006	10	13	169	43	0	1	2.066192
1	10.70007	12	21	441	51	0	0	1.422843
1	24.25	16	9	81	30	1	0	2.101032
1	39.13997	13	4	16	52	0	0	2.261461
1	7.199973	8	2	4	30	1	5	0.7013138
1	31.811	16	19	361	51	0	0	2.031013
1	10.00005	13	4	16	31	0	2	1.162369
1	20.66	12	9	81	34	0	4	0.4700036
1	13.49998	11	14	196	49	0	0	1.410597
1	25.38	13	6	36	35	1	3	0.3930551
1	18.27498	12	24	576	53	1	0	1.290994
1	39.213	12	1	1	32	0	3	0
1	10.49994	10	13	169	38	0	3	0.9571255
1	34.857	12	3	9	54	0	0	0.5596158
1	28.502	17	10	100	47	0	1	1.568616
1	12.99996	15	16	256	45	0	1	1.710188
1	41.39991	16	9	81	47	0	1	1.410597
1	14.78	10	19	361	59	0	0	0.2231435
1	15.05	11	4	16	32	0	1	0.5108456

412 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	29.69998	12	10	100	45	0	1	1.332392
1	16.16502	12	5	25	40	0	4	0.8601859
1	25.20516	14	7	49	47	0	2	2.32278
1	14.2	16	3	9	36	1	2	1.919595
1	18.15897	14	38	1444	56	0	0	1.976107
1	28.98106	8	16	256	41	0	1	0.8954347
1	13.392	7	13	169	48	0	3	0.1812376
1	9.17502	12	1	1	36	1	2	0.4953058
1	27.03985	12	7	49	41	0	0	0.5777924
1	13.14995	14	15	225	41	0	0	1.078818
1	16.40007	12	10	100	36	0	3	1.603199
1	21.29999	12	2	4	37	0	3	0.6208453
1	17.20102	12	19	361	38	0	0	2.083894
1	8.560026	14	25	625	43	0	2	1.379169
1	6.49084	16	25	625	54	0	0	1.112384
1	12.49997	12	7	49	38	0	1	1.067122
1	27.00002	12	15	225	30	1	0	1.118807
1	53.50005	12	11	121	49	0	0	1.588541
1	52.49995	13	25	625	45	0	1	1.390311
1	38.39998	13	19	361	51	0	0	1.714806
1	13.89194	10	4	16	34	0	0	0.2010615
1	3.899993	12	14	196	34	0	2	0.987271
1	34.2	12	19	361	41	0	1	0.9835007
1	19.70008	12	18	324	49	0	1	2.233171
1	18.49995	12	14	196	32	0	0	1.143618
1	10.99998	14	11	121	32	0	0	-0.6113829
1	43.30001	17	4	16	32	0	2	2.153052
1	18.76001	10	29	841	47	0	0	1.299837
1	4.800096	9	21	441	39	0	1	0.8409204
1	21.5	12	24	576	49	0	0	1.058484
1	28.03994	12	19	361	37	0	3	1.152658
1	26	16	31	961	59	0	0	1.293576
1	27	12	28	784	50	0	0	1.832582
1	17.79969	17	15	225	32	0	1	2.32718
1	17.40195	12	27	729	46	0	0	1.166146
1	19.30999	17	13	169	43	0	2	2.034993
1	9.99998	11	4	16	37	0	3	0.6792511
1	11.17998	16	10	100	32	0	2	1.547137
1	18.85696	11	8	64	39	0	1	0.7530186
1	12.30002	13	4	16	34	0	2	0.8472836
1	13.67712	11	18	324	39	0	1	0.871126
1	9.559997	8	3	9	45	0	3	0.2282505
1	24.49998	11	11	121	50	0	0	0.0896578
1	23.15	12	8	64	40	0	1	1.321756
1	15.59088	10	10	100	30	0	1	1.196102
1	14.42092	17	33	1089	57	0	0	1.636119
1	17.45491	12	19	361	39	0	1	1.892012

1	9.800019	12	35	1225	53	0	0	1.518309
1	17.57446	17	21	441	48	0	1	2.472159
1	16.555	14	7	49	46	0	1	1.321756
1	13.29497	12	18	324	47	0	0	1.473641
1	11.844	12	4	16	43	0	1	1.369479
1	46.64506	12	12	144	47	0	0	1.203963
1	14.69999	12	16	256	47	0	1	1.198729
1	26.09008	12	14	196	47	0	0	1.27021
1	9.9	12	3	9	46	0	0	0.4700036
1	9.048026	9	1	1	34	0	4	0.7999817
1	30.75006	10	27	729	48	0	0	1.565946
1	8.49994	12	12	144	30	0	1	1.758978
1	22.24999	12	6	36	51	0	1	0.8580258
1	42.91	12	9	81	52	0	5	0.6931472
1	33.3	12	2	4	37	0	2	0.6418539
1	13.8199	12	6	36	32	0	2	1.63374
1	23.60001	17	9	81	36	0	2	1.703748
1	13.00007	12	16	256	35	0	2	1.844004
1	20.74994	17	22	484	45	0	0	1.966119
1	6.3	12	26	676	56	0	0	0.8649974
1	7.788925	10	11	121	40	0	2	0.9333052
1	10.47004	12	11	121	45	1	2	0.7792332
1	12	12	15	225	32	0	2	0.9555114
1	16.97992	12	13	169	45	0	0	1.316247
1	17.9	12	6	36	40	0	2	1.475906
1	15.53994	12	20	400	38	0	1	1.491397
1	9.883986	12	17	289	49	0	4	1.45575
1	28.59995	16	8	64	47	0	1	0.5108456
1	17.66001	13	13	169	52	0	0	1.180438
1	25.99992	13	15	225	34	0	1	1.688489
1	13.60201	12	14	196	44	0	2	0.7907275
1	15.8	16	14	196	36	0	3	1.401799
1	41.09999	17	6	36	50	0	0	-0.433556
1	10.77504	12	24	576	45	0	0	1.683172
1	9.000047	14	10	100	44	0	2	-1.766677
1	24.39899	12	2	4	57	0	2	3.155595
1	37.30009	17	9	81	35	0	0	2.259521
1	27.99995	12	23	529	46	0	0	1.306926
1	13.7	14	12	144	30	2	1	0.7984977
1	17.20994	12	8	64	42	0	3	0.5590442
1	14.00001	12	16	256	34	0	1	0.1479026
1	35.75502	17	10	100	45	0	2	1.944495
1	23.5	16	7	49	35	1	2	1.378338
1	31.99993	16	19	361	40	0	0	3.064745
1	17.15	12	2	4	32	0	1	-0.7419173
1	20.25002	9	9	81	54	0	0	0.7657004
1	5.485985	12	14	196	38	0	3	0.619393

4.14 付録1 / タスク用入力データセットの例

1	25.07504	12	9	81	43	0	3	1.465452
1	18.21995	16	16	256	54	0	0	2.18926
1	26	14	7	49	39	0	3	1.021659
1	34.50007	12	6	36	37	0	1	0.9770095
1	12.4	12	22	484	46	0	2	0.9162908
1	10.78685	11	9	81	56	0	0	2.905096
1	16.32301	12	9	81	41	0	3	-0.1996712
1	30.5	16	14	196	45	0	1	0.6931472
1	51.29963	17	17	289	44	0	1	2.733393
1	33.04997	17	12	144	50	0	1	1.868335
1	34.75001	14	13	169	37	0	5	2.12026
1	16.40004	12	8	64	44	0	1	1.515193
1	19.70007	14	10	100	32	0	2	0.9146093
1	6.600003	12	16	256	34	1	1	1.499556
1	9.020008	10	1	1	32	0	2	0.8030772
1	10.40001	12	6	36	37	0	3	0.7280316
1	14.51999	13	4	16	44	0	1	0.51641
1	17.2	16	8	64	34	0	2	1.226448
1	43	12	4	16	33	1	3	0.9162908
1	13.87196	7	15	225	43	0	3	1.376471
1	-0.0290575	16	7	49	35	0	2	1.828975
1	16.76994	14	14	196	43	0	1	1.368283
1	7.8	12	16	256	34	0	0	1.064711
1	14.50006	10	15	225	36	0	3	1.406489
1	7.9	12	23	529	41	0	2	1.047319
1	79.80001	16	19	361	41	0	0	1.948093
1	7.17597	10	4	16	35	0	3	1.078001
1	17.50698	12	12	144	32	1	3	0.6539385
1	20.6	14	12	144	30	0	0	1.927892
1	18.55992	12	25	625	43	0	0	1.361028
1	9.3	6	14	196	54	0	0	0.6931472
1	5.120008	15	14	196	35	0	2	1.604687
1	14.50004	12	11	121	50	0	0	0.1839036
1	19.8	17	7	49	34	1	1	3.113515
1	18.29995	14	18	324	52	0	0	1.926829
1	33.99994	13	4	16	35	0	3	1.270126
1	11.62794	6	37	1369	55	0	0	0.6826927
1	11.80005	16	13	169	35	0	0	1.68107
1	39.09998	14	14	196	49	0	1	0.556296
1	18.43007	15	17	289	38	2	2	1.62822
1	21	14	5	25	42	0	2	0.9162908
1	59	8	2	4	48	0	1	1.341558
1	25.3	14	0	0	51	0	0	0
1	23.24899	12	3	9	43	0	2	1.122231
1	24.92809	12	21	441	43	0	1	0.5401708
1	14.78199	12	20	400	38	0	1	1.391506
1	18.90003	12	19	361	44	0	1	1.697174

1	21	12	4	16	36	1	3	3.218876
1	10.00001	12	19	361	38	0	0	0.8711678
1	29.30997	8	11	121	47	0	0	1.16733
1	13.14003	12	14	196	34	0	2	1.216988
1	25.08999	17	8	64	40	1	2	0.5753766
1	14.59993	12	13	169	31	0	1	1.151616
1	1.200001	12	24	576	46	0	0	0.9942513
1	32	14	1	1	36	0	3	0.5263249
1	16.11997	13	1	1	39	1	2	-1.543182
1	26.50002	17	3	9	36	0	2	1.912043
1	12.75006	8	4	16	37	0	4	0.5542873
1	12.9	12	21	441	39	0	4	0.9162908
1	10.69998	11	10	100	36	1	3	1.500939
1	14.43403	12	13	169	49	0	2	0.9446838
1	23.709	12	9	81	45	1	1	1.241269
1	15.1	17	14	196	32	2	0	1.564984
1	18.19998	10	2	4	36	0	5	0.8380265
1	22.64106	12	21	441	40	0	1	1.668857
1	21.64008	13	22	484	43	0	2	1.769429
1	23.99998	12	14	196	33	0	1	1.226448
1	16.00002	12	7	49	30	0	1	1.406489
0	21.025	12	2	4	49	0	1	.
0	23.6	16	5	25	30	2	0	.
0	22.8	12	12	144	30	1	0	.
0	35.91	12	1	1	41	0	4	.
0	21.7	12	12	144	45	0	1	.
0	21.823	12	4	16	43	0	5	.
0	31	13	9	81	42	0	1	.
0	15.3	12	9	81	60	0	0	.
0	12.925	12	6	36	57	0	0	.
0	15.83	10	5	25	38	0	2	.
0	30.2	12	5	25	56	0	0	.
0	16.6	12	8	64	32	0	3	.
0	11	7	2	4	49	0	1	.
0	15	12	6	36	55	0	0	.
0	20.528	9	0	0	36	1	1	.
0	13.126	12	3	9	44	0	3	.
0	15.55	10	7	49	44	0	1	.
0	18.01	14	3	9	35	1	2	.
0	18.874	14	10	100	44	2	3	.
0	24.8	12	3	9	45	0	1	.
0	17.5	12	2	4	34	1	0	.
0	16.15	17	12	144	30	2	0	.
0	15.189	8	15	225	39	0	1	.
0	6	12	5	25	36	0	2	.
0	37.25	17	4	16	38	0	2	.
0	27.76	12	10	100	53	0	0	.

416 付録1 / タスク用入力データセットの例

0 9.09	12 1	1	36	0	2	.
0 14.5	12 8	64	32	1	1	.
0 19.7	9 20	400	51	0	3	.
0 16.788	11 4	16	38	0	0	.
0 18.52	12 7	49	33	2	0	.
0 20.95	12 10	100	54	0	0	.
0 7.574	9 3	9	38	0	3	.
0 10.027	11 5	25	30	2	2	.
0 5	12 10	100	34	2	3	.
0 7.04	9 0	0	34	0	1	.
0 40.8	12 3	9	50	0	2	.
0 16.05	17 10	100	30	2	0	.
0 33.1	12 2	4	38	0	2	.
0 33.856	14 10	100	54	0	0	.
0 20.5	12 4	16	30	1	2	.
0 28.6	12 0	0	55	0	0	.
0 18.75	10 10	100	51	0	1	.
0 20.3	12 5	25	44	0	1	.
0 13.42	12 0	0	53	0	0	.
0 18.4	10 0	0	42	0	2	.
0 16.682	12 19	361	38	0	2	.
0 32.685	13 2	4	38	1	3	.
0 7.05	12 12	144	41	1	4	.
0 10.867	8 5	25	35	0	3	.
0 18.22	12 5	25	33	1	2	.
0 26.613	13 5	25	48	0	0	.
0 25	12 10	100	47	0	0	.
0 15.7	12 0	0	34	0	5	.
0 40.25	13 4	16	33	2	1	.
0 73.6	13 3	9	31	3	1	.
0 10.592	8 2	4	58	0	0	.
0 8	12 1	1	49	0	0	.
0 13.4	8 0	0	55	0	1	.
0 23.7	14 1	1	44	0	0	.
0 18.9	9 1	1	44	0	0	.
0 48.3	16 6	36	36	0	3	.
0 24.47	12 12	144	38	0	3	.
0 28.63	16 6	36	37	0	3	.
0 25.32	12 9	81	47	0	0	.
0 13.53	12 14	196	47	0	3	.
0 14.8	12 13	169	32	1	1	.
0 17.4	12 8	64	43	1	2	.
0 15.98	11 0	0	42	1	4	.
0 16.576	12 1	1	56	0	0	.
0 21.85	13 3	9	38	0	5	.
0 14.6	12 13	169	52	0	2	.
0 21.6	12 3	9	50	0	0	.

0 24	16 8	64	33	0	0	.
0 20.883	16 8	64	44	0	2	.
0 19.5	12 18	324	41	0	1	.
0 42.8	12 2	4	45	0	1	.
0 41.5	14 3	9	53	0	0	.
0 18.965	14 5	25	53	0	0	.
0 16.1	12 2	4	42	0	1	.
0 14.7	13 10	100	32	2	0	.
0 18.8	12 30	900	56	0	0	.
0 14.75	11 1	1	37	1	3	.
0 21	12 5	25	40	1	2	.
0 35.4	15 8	64	54	0	3	.
0 10.7	7 0	0	53	0	0	.
0 24.5	12 4	16	48	0	1	.
0 17.045	12 2	4	36	1	2	.
0 18.8	12 30	900	57	0	0	.
0 14	12 25	625	51	0	0	.
0 18.214	13 3	9	33	0	4	.
0 20.177	12 20	400	52	0	0	.
0 8.3	10 20	400	56	0	0	.
0 14.2	12 0	0	36	1	2	.
0 21.768	14 15	225	36	1	0	.
0 29.553	12 10	100	46	0	1	.
0 4.35	10 4	16	31	0	3	.
0 24	11 3	9	52	0	0	.
0 18.3	12 10	100	46	0	2	.
0 17.2	12 9	81	35	2	0	.
0 16.476	12 7	49	59	0	0	.
0 13.4	8 12	144	36	0	1	.
0 44.988	7 0	0	51	1	3	.
0 18.2	16 16	256	31	1	0	.
0 28	14 4	16	31	0	2	.
0 11.55	12 7	49	32	1	1	.
0 28.45	16 7	49	35	1	2	.
0 15.096	12 14	196	40	0	3	.
0 8.009	10 2	4	33	1	2	.
0 10.04	7 20	400	54	0	0	.
0 16.7	12 5	25	36	1	1	.
0 8.4	10 10	100	50	0	1	.
0 13	8 20	400	54	0	0	.
0 17.97	11 10	100	48	0	1	.
0 18.45	15 8	64	41	0	4	.
0 31	12 11	121	50	0	4	.
0 24.135	12 3	9	46	0	2	.
0 31.7	13 6	36	42	0	1	.
0 10.19	9 4	16	31	1	2	.
0 21.574	12 4	16	53	0	0	.

418 付録1 / タスク用入力データセットの例

0 26.68	12 9	81	51	0	1	.
0 17.7	12 10	100	47	0	1	.
0 29.4	12 3	9	50	0	1	.
0 22.159	6 2	4	37	0	1	.
0 35	12 2	4	30	2	2	.
0 8.63	12 0	0	49	0	0	.
0 17.08	12 8	64	52	0	2	.
0 32.5	12 6	36	47	0	2	.
0 16	12 15	225	49	0	0	.
0 18.85	12 15	225	44	0	4	.
0 17.5	8 9	81	53	0	0	.
0 19.392	12 8	64	30	1	0	.
0 14.45	12 18	324	54	0	2	.
0 21.8	7 3	9	47	1	1	.
0 7.7	15 10	100	56	0	0	.
0 31.8	12 6	36	49	0	1	.
0 17.258	6 20	400	48	0	0	.
0 13.399	12 8	64	49	0	1	.
0 16.073	12 3	9	56	0	1	.
0 23.26	12 4	16	46	0	0	.
0 37.3	12 13	169	45	0	2	.
0 11	12 4	16	32	0	2	.
0 13.075	12 17	289	43	1	1	.
0 13.7	12 4	16	34	1	1	.
0 25.1	12 0	0	30	1	1	.
0 18.6	17 15	225	38	2	0	.
0 29	16 11	121	33	1	1	.
0 19.237	12 23	529	52	0	0	.
0 19.855	11 1	1	43	0	3	.
0 9.45	12 5	25	33	1	1	.
0 30	10 1	1	45	0	0	.
0 15	10 5	25	36	2	1	.
0 24.701	12 3	9	34	1	1	.
0 15.9	14 3	9	37	0	2	.
0 16.24	10 19	361	46	0	1	.
0 21.1	12 20	400	47	0	0	.
0 23	16 5	25	31	2	1	.
0 6.34	5 0	0	57	0	0	.
0 42.25	12 3	9	30	1	1	.
0 14.694	12 3	9	30	0	0	.
0 21.417	12 7	49	44	0	3	.
0 20.2	13 7	49	53	0	0	.
0 12.09	8 1	1	51	0	0	.
0 24.76	12 13	169	39	1	3	.
0 23	8 0	0	52	0	0	.
0 19.365	8 0	0	46	0	4	.
0 5.55	12 12	144	47	0	5	.

0 68.035	8 0	0	52	0	2	.
0 29.3	12 5	25	45	0	2	.
0 18.5	11 45	2025	60	0	0	.
0 22.582	13 10	100	41	0	2	.
0 21.5	8 2	4	39	0	3	.
0 28.07	12 3	9	49	0	1	.
0 50.3	15 1	1	32	1	1	.
0 23.5	12 5	25	33	1	3	.
0 15.5	10 10	100	36	0	4	.
0 13.44	13 4	16	37	3	3	.
0 8.1	12 7	49	30	1	2	.
0 9.8	11 9	81	44	1	1	.
0 20.3	12 5	25	48	0	1	.
0 15	11 4	16	40	0	4	.
0 56.1	13 11	121	47	0	0	.
0 22.846	12 9	81	36	0	2	.
0 22.225	11 4	16	40	0	2	.
0 17.635	12 2	4	46	0	1	.
0 18.5	12 23	529	52	0	0	.
0 13.39	12 3	9	44	0	1	.
0 15.15	10 15	225	45	0	1	.
0 16.2	7 8	64	30	2	1	.
0 33.92	12 3	9	40	1	3	.
0 14	12 25	625	43	0	1	.
0 16.736	12 2	4	49	0	2	.
0 30.65	12 0	0	46	1	4	.
0 12.4	11 19	361	52	0	0	.
0 19.022	12 3	9	31	1	1	.
0 11.203	10 7	49	42	1	1	.
0 19.876	11 1	1	33	0	3	.
0 57	16 9	81	57	0	0	.
0 18.29	10 3	9	49	0	0	.
0 20.22	14 8	64	45	0	1	.
0 22.15	11 0	0	56	0	0	.
0 30.623	12 5	25	41	1	3	.
0 9.38	5 20	400	56	0	0	.
0 22	10 3	9	48	0	1	.
0 23.675	16 12	144	52	0	2	.
0 33.671	12 5	25	51	0	0	.
0 12.367	11 1	1	35	0	3	.
0 21.95	12 0	0	45	0	0	.
0 32	12 7	49	54	0	0	.
0 22.61	12 13	169	54	0	2	.
0 12.092	12 3	9	31	1	0	.
0 3.777	6 0	0	53	0	3	.
0 36	14 2	4	35	2	2	.
0 26.9	12 0	0	36	1	3	.

420 付録1 / タスク用入力データセットの例

0 32.242	12 2	4	59	0	0	.
0 35.02	16 1	1	54	0	0	.
0 37.6	12 10	100	37	1	1	.
0 1.5	12 10	100	44	0	0	.
0 96	17 1	1	34	1	2	.
0 18.15	12 3	9	49	0	0	.
0 15.5	12 32	1024	49	0	0	.
0 14	9 0	0	60	0	0	.
0 14.756	12 7	49	51	0	0	.
0 22	12 5	25	30	1	1	.
0 24.466	12 2	4	47	0	2	.
0 24.4	12 5	25	36	0	4	.
0 24	12 3	9	35	1	3	.
0 15.5	12 25	625	58	0	0	.
0 30.8	14 0	0	41	1	3	.
0 10.66	10 3	9	51	0	1	.
0 13.35	12 10	100	47	0	0	.
0 10.09	9 10	100	45	1	2	.
0 55.6	14 7	49	60	0	0	.
0 25.7	16 5	25	30	1	1	.
0 29	11 15	225	55	0	0	.
0 7.286	12 1	1	32	1	2	.
0 37.752	12 5	25	36	0	2	.
0 13.072	12 9	81	55	0	0	.
0 7.044	12 18	324	47	0	0	.
0 18.2	12 1	1	47	0	1	.
0 27	11 0	0	37	0	1	.
0 30.3	12 6	36	50	0	2	.
0 12	12 1	1	30	0	3	.
0 31.5	17 2	4	48	0	1	.
0 27.092	10 15	225	43	0	2	.
0 20.968	11 25	625	48	1	0	.
0 27	14 1	1	41	1	2	.
0 11.225	12 0	0	50	0	0	.
0 37.7	8 0	0	58	0	0	.
0 28.2	13 0	0	38	0	5	.
0 34	12 8	64	37	0	1	.
0 63.2	16 22	484	50	0	0	.
0 7.5	8 5	25	42	0	4	.
0 17.41	9 10	100	37	1	3	.
0 51	16 1	1	41	0	2	.
0 12.916	12 1	1	31	0	2	.
0 21.9	12 6	36	51	0	0	.
0 17.64	12 4	16	36	1	2	.
0 20	15 6	36	54	0	0	.
0 15	12 0	0	49	0	0	.
0 14.06	9 1	1	48	1	1	.

0 15.825	9 3	9	42	0	2	.
0 16.51	12 15	225	41	1	2	.
0 13	16 33	1089	55	0	0	.
0 10	9 2	4	42	0	0	.
0 22	15 1	1	32	0	1	.
0 29.8	12 10	100	43	0	2	.
0 15	12 0	0	33	1	3	.
0 22.3	15 14	196	48	0	1	.
0 14.55	12 15	225	43	0	2	.
0 19.73	17 15	225	47	1	3	.
0 35	12 10	100	54	0	0	.
0 21.014	12 6	36	51	0	1	.
0 10.876	10 18	324	51	0	1	.
0 27.85	13 15	225	43	1	1	.
0 9.56	12 30	900	53	0	0	.
0 30.3	11 15	225	34	1	1	.
0 7.72	8 10	100	31	1	1	.
0 10.55	12 0	0	56	0	0	.
0 24.106	16 0	0	42	0	1	.
0 22.995	12 4	16	32	0	2	.
0 6	12 0	0	35	1	3	.
0 24.35	12 3	9	30	1	1	.
0 7.608	10 20	400	51	0	0	.
0 28.2	12 3	9	47	0	3	.
0 16.15	12 1	1	54	0	1	.
0 51.2	15 5	25	31	3	0	.
0 12.646	10 7	49	47	0	0	.
0 19	14 6	36	47	0	3	.
0 19	12 2	4	40	0	3	.
0 14.4	8 0	0	48	0	0	.
0 7.232	8 10	100	34	0	7	.
0 21.943	12 6	36	38	0	3	.
0 47.5	12 4	16	32	1	3	.
0 28.9	16 8	64	48	0	1	.
0 12.4	12 18	324	41	0	2	.
0 6.531	5 7	49	49	0	2	.
0 22.422	8 15	225	59	0	0	.
0 22.2	13 7	49	58	0	0	.
0 77	12 8	64	41	0	3	.
0 88	12 8	64	45	0	2	.
0 26.04	14 3	9	30	1	1	.
0 63.5	12 10	100	41	0	1	.
0 12.1	12 9	81	30	2	0	.
0 17.505	12 24	576	53	0	1	.
0 18	12 12	144	31	0	0	.
0 28.069	14 2	4	43	0	2	.
0 14	12 6	36	31	1	1	.

422 付録1 / タスク用入力データセットの例

0	8.117	12	18	324	51	0	0	.
0	11.895	9	17	289	43	0	0	.
0	45.25	14	7	49	31	1	2	.
0	31.106	11	6	36	48	0	0	.
0	4	12	10	100	31	1	1	.
0	40.5	12	5	25	44	0	1	.
0	21.62	11	7	49	48	0	1	.
0	23.426	12	11	121	53	0	1	.
0	26	10	14	196	42	0	3	.
0	7.84	12	5	25	39	2	6	.
0	6.8	10	2	4	32	1	2	.
0	5.33	12	4	16	36	0	2	.
0	28.2	13	5	25	40	0	2	.
0	10	12	14	196	31	2	3	.
0	9.952	12	4	16	43	0	0	.
0	24.984	12	15	225	60	0	0	.
0	28.363	9	12	144	39	0	3	.

;

付録 2

参照資料

- Cochran, W. G., and G. M. Cox. 1950. *Experimental Designs*. New York, : Wiley.
- Hilbe, J. M. 2009. *Logistic Regression Models*. London, England: Chapman & Hall/CRC.
- Hosmer, D. W. Jr., and S. Lemeshow. 2000. *Applied Logistic Regression*. 2 版 New York, NY: John Wiley & Sons.
- Lawless, J. F., and K. Singhal. 1978. "Efficient Screening of Nonnormal Regression Models." *Biometrics* (34): 318–327.
- Pregibon, D. 1981. "Logistic Regression Diagnostics." *Annals of Statistics* (9): 705-724.

推奨資料

- SAS Studio プログラミング入門ガイド
- *The Little SAS Book:A Primer* ([購入](#))
- *Learning SAS by Example:A Programmer's Guide* ([購入](#))
- *SAS Statistics by Example* ([購入](#))
- *Elementary Statistics Using SAS* ([購入](#))

SAS 刊行物の総一覧については、sas.com/store/books にてご確認ください。必要な書籍についてのご質問は、下記までお寄せください。

SAS Books

SAS Campus Drive

Cary, NC 27513-2414

電話: 1-800-727-0025

ファクシミリ: 1-919-677-4444

メール: sasbook@sas.com

Web アドレス: sas.com/store/books

キーワード

H

Heckman 選択モデル 158

N

N 元配置分散分析 319

T

t 検定

1 標本 293

2 標本 303

T 検定

対応のある 297

X

XML テンプレート 110

あ

一元度数表 278

一元配置分散分析 308

ノンパラメトリック 314

円グラフ 207

折れ線グラフ 202

か

回帰

線形 166

カウントパネルデータ回帰分析タスク 152, 162

カスタムタスク 110

共分散の分析 323

グラフ

円 207

折れ線 202

箱 191

ヒストグラム 199

棒 181

棒-折れ線 186

欠損値 242

コード

コメントの追加 112

フォーマット 112

さ

散布図 210

時系列プロット 215

線形回帰分析 166, 328

線形モデル
一般化 232, 370
相関 229, 282

た

タスク
1 標本 t 検定 293
2 標本 t 検定 303
Heckman 選択モデル 158
N 元配置分散分析 319
一元度数表 278
一元配置分散分析 308
一般化線形モデル 232, 370
円グラフ 207
折れ線グラフ 202
概要 105
カウントパネルデータ回帰分析
152, 162
共分散の分析 323
計算 121
欠損値の置き換え 242
コイン 250
サイコロ転がしシミュレーション
252
作成 110
散布図 210
時系列プロット 215
実行 106
順列 128
線形回帰分析 328
線形パネルデータ回帰分析
166
相関 229, 282

対応のある t 検定 297
誕生日 247
データ探索 260
データの特性分析 116
データの並べ替え 142
データの bin 化 224
データのランク付け 130
データの転置 148
テーブル属性 145
ノンパラメトリックな一元配置分
散分析 314
バイナリロジスティック回帰分析
342
箱ひげ図タスク 191
バブルプロット 195
ヒストグラム 199
プロビット/ロジット回帰分析 172
分割表分析 287
分布分析 271
編集 109
ポーカーの持ち札の確率 254
棒-折れ線グラフ 186
棒グラフ 181
要約統計量 265
横棒グラフ 218
予測回帰モデリング 357
ランダムサンプル 137, 243
リスト 123
データ
概要 116
計算 121
欠損値の置き換え 242
順列 128
探索 260
並べ替え 142

ランク付け 130
 ランダムサンプル 243
 転置 148
 データ探索 260
 データの特性 116
 データの bin 化 224
 データの転置 148
 テーブル
 属性 145
 度数表 278

な

ノンパラメトリックな一元配置分散分析 314

は

ハイパフォーマンスタスク
 一般化線形モデル 232
 箱ひげ図 191
 パネルデータ
 カウントパネルデータ回帰分析
 タスク 152, 162
 バブルプロット 195
 ヒストグラム 199
 プロセスフロー
 SAS プログラムの追加 71
 概要 66
 クエリの追加 77
 結果 69
 作成 67
 サブフロー 81

実行 85
 実行の優先順位 70
 スニペットの追加 73
 制御ポート 67, 84
 タスクの追加 79
 データポート 67
 ノードの色 70
 ノードのステータス 69
 ノードのリンク 84
 配置 70
 プロパティ 70
 保存 86
 プロット
 バブル 195
 プロビット回帰分析 172
 分割表分析 287
 分布分析 271
 棒-折れ線グラフ 186
 棒グラフ 181
 横 218

ま

マイタスクフォルダ 109

や

要約統計量 265
 予測回帰
 モデリング 357

430 キーワード

ら

ランダムサンプル [137](#), [243](#)

リストタスク [123](#)
ロジスティック回帰分析 [342](#)
ロジット回帰分析 [172](#)